

# 目次

氏名に「★」が付された教員は、「実務経験のある教員」です。実務経験内容、担当科目名および単位数等について、本学ホームページの下記 URL に詳細を掲載しています。

[http://jonan.jp/soho/about/about\\_04.html](http://jonan.jp/soho/about/about_04.html)

## 児童保育学科 1年次

教育学概論	1
情報処理演習Ⅰ	1
情報処理演習Ⅱ	2
日本国憲法	2
英語	3
体育（講義）	3
体育（実技）	4
社会福祉	4
子ども家庭福祉	5
保育原理	5
保育者論	6
保育の心理学	6
幼児と健康	7
幼児と環境	7
幼児と表現	8
環境領域指導法Ⅰ	8
環境領域指導法Ⅱ	9
社会的養護Ⅰ	9
保育実践学習Ⅰ	10
保育実践学習Ⅱ	10
教職論	11
国語	11
算数	12
音楽（器楽）	12
基礎造形	13
健康教育	13
体育科指導法	14
総合基礎演習Ⅰ	14
特別支援教育総合演習	15

## 児童保育学科 2年次

人間論	19
フランス語	19
韓国語	20
子育て支援	20
子どもの保健	21
子どもの食と栄養	21
保育の計画と評価	22
幼児と人間関係	22
幼児と言葉	23
健康領域指導法Ⅰ	23
人間関係領域指導法Ⅰ	24
言葉領域指導法Ⅰ	24
表現領域指導法Ⅰ	25
表現領域指導法Ⅱ	25
乳児保育Ⅰ	26
乳児保育Ⅱ	26
社会的養護Ⅱ	27
子ども家庭支援の心理学	27
保育実習Ⅰ	28
保育実習指導Ⅰ	28
保育実践学習Ⅲ	29
保育実践学習Ⅳ	29
特別支援教育総論	30
国語科指導法	30
社会	31
社会科指導法	31
算数科指導法	32
理科	32
理科指導法	33
生活	33
音楽演習Ⅰ	34
総合基礎演習Ⅱ	34

## 児童保育学科 3年次

倫理学	37
子どもの理解と援助	37
子どもの健康と安全	38
健康領域指導法Ⅱ	38
人間関係領域指導法Ⅱ	39
言葉領域指導法Ⅱ	39
障害児保育	40
保育実習Ⅱ	40
保育実習指導Ⅱ	41
保育実習Ⅲ	41
保育実習指導Ⅲ	42
教育相談	42
教育方法・技術論	43
教育心理学	43
教育課程論	44
教育制度	44
生活科指導法	45
音楽演習Ⅱ	45
音楽科指導法	46
図画工作科指導法	46
家庭	47
家庭科指導法	47
小学校英語	48
英語指導法	48
総合的な学習の時間の指導法	49
特別活動指導法	49
生徒指導	50
進路指導論	50
教育実習（幼）	51
教育実習（小）	51
介護等体験	52
卒業論文Ⅰ	52
知的障害者の心理・生理・病理	53
肢体不自由者の心理・生理・病理	53
病弱者の心理・生理・病理	54
知的障害教育論Ⅰ	54
肢体不自由教育論Ⅰ	55
病弱教育論	55
視覚障害者の心理・生理・病理	56
聴覚障害者の心理・生理・病理	56
視覚障害教育論	57
聴覚障害教育論	57

## 児童保育学科 4年次

社会学	61
子どもの人権	61
生活環境論	62
総合保育論	62
子ども家庭支援論	63
保育内容総論	63
在宅保育	64
道徳教育の理論と実践	64
幼児理解	65
教職実践演習（幼・小）	65
教育実習（幼）	66
教育実習（小）	66
卒業論文Ⅱ	67
知的障害教育論Ⅱ	67
肢体不自由教育論Ⅱ	68
重複障害者等の心理・生理・病理	68
重複障害者教育論	69
教育実習（特支）	69

# 乳児保育学科 1年次

教育学概論	73
情報処理演習 I	73
情報処理演習 II	74
日本国憲法	74
英語	75
体育 (講義)	75
体育 (実技)	76
社会福祉	76
子ども家庭福祉	77
保育原理	77
保育者論	78
保育の心理学	78
幼児と健康	79
幼児と環境	79
幼児と表現	80
環境領域指導法 I	80
環境領域指導法 II	81
社会的養護 I	81
保育実践学習 I	82
保育実践学習 II	82
教職論	83
国語	83
算数	84
音楽 (器楽)	84
基礎造形	85
健康教育	85
総合基礎演習 I	86
乳児保育研究法 I	86
赤ちゃんの生活と保育	87
赤ちゃんの生活とデザイン	87

# 乳児保育学科 2年次

人間論	91
フランス語	91
韓国語	92
子育て支援	92
子どもの保健	93
子どもの食と栄養	93
保育の計画と評価	94
幼児と人間関係	94
幼児と言葉	95
健康領域指導法 I	95
人間関係領域指導法 I	96
言葉領域指導法 I	96
表現領域指導法 I	97
表現領域指導法 II	97
乳児保育 I	98
乳児保育 II	98
社会的養護 II	99
子ども家庭支援の心理学	99
保育実習 I	100
保育実習指導 I	100
保育実践学習 III	101
保育実践学習 IV	101
特別支援教育総論	102
音楽演習 I	102
総合基礎演習 II	103
赤ちゃんの生理学	103
赤ちゃんの発達心理学	104
赤ちゃん学基礎理論	104
前期乳児の発達心理学	105
後期乳児の発達心理学	105
日本の乳児保育	106
乳児保育研究法 II	106
乳児保育の計画	107
乳児の環境とデザイン	107

# 乳児保育学科 3年次

倫理学	111
子どもの理解と援助	111
子どもの健康と安全	112
健康領域指導法 II	112

人間関係領域指導法 II	113
言葉領域指導法 II	113
障害児保育	114
保育実習 II	114
保育実習指導 II	115
保育実習 III	115
保育実習指導 III	116
教育相談	116
教育方法・技術論	117
教育心理学	117
教育課程論	118
教育制度	118
音楽演習 II	119
保育実習 (幼)	119
卒業論文 I	120
赤ちゃんの人体としくみ	120
赤ちゃんの看護	121
乳児の身体と生理学	121
乳児の情動と生理学	122
乳児の脳生理学	122
世界の乳児保育	123
前期乳児の生活と保育	123
後期乳児の生活と保育	124
前期乳児の保育実践	124
後期乳児の保育実践	125

# 大学院 博士前期課程 1年次

教育学特論	129
保育学特論	129
幼児教育学特論	130
発達心理学特論	130
小児医学特論 I	131
子ども心身医療特論 I	131
保育研究調査法 I	132
保育研究調査法 II	132
国語科教育特論	133
社会科教育特論	133
音楽科教育特論	134
教育方法学特殊講義 I	134
こども学特殊講義	135
教育内容研究	135
教育実践研究 I	136
教育実践研究 II	136
子どもと表現研究	137
生涯教育学研究	137
教育心理学特論	138
教育心理学特殊講義	138
臨床発達心理学	139
小児医学特論 II	139
研究指導	140

# 大学院 博士前期課程 2年次

国語科教育特論	143
社会科教育特論	143
音楽科教育特論	144
教育方法特論	144
教育方法学特殊講義 I	145
こども学特殊講義	145
幼児教育思想史研究	146
保育内容研究	146
保育実践研究 I	147
保育実践研究 II	147
教育心理学特殊講義	148
幼児心理学特論	148
子どもと健康特殊講義	149
子ども心身医療特論 II	149
臨床心理学研究 I	150
臨床心理学研究 II	150
研究指導	151

## 大学院 博士後期課程 1年次

教育学特講	155
幼児教育学特講	155
保育学特講	156
小児医学特講	156
子ども心身医療特講	157
発達心理学特講	157
教育学演習	158
教育方法学演習	158
幼児教育学演習	159
保育実践研究演習	159
保育内容研究演習	160
小児医学演習	160
子ども心身医療演習	161
発達心理学演習 I (発達支援)	161
発達心理学演習 II (発達臨床)	162
臨床心理学演習	162
研究指導	163

---

## 大学院 博士後期課程 2年次

教育学演習	167
教育方法学演習	167
幼児教育学演習	168
保育実践研究演習	168
保育内容研究演習	169
小児医学演習	169
子ども心身医療演習	170
発達心理学演習 I (発達支援)	170
発達心理学演習 II (発達臨床)	171
臨床心理学演習	171
研究指導	172

---

## 大学院 博士後期課程 3年次

教育学演習	175
教育方法学演習	175
幼児教育学演習	176
保育実践研究演習	176
保育内容研究演習	177
小児医学演習	177
子ども心身医療演習	178
発達心理学演習 I (発達支援)	178
発達心理学演習 II (発達臨床)	179
臨床心理学演習	179
研究指導	180

---

巻末 乳児保育学科 乳児保育士関連科目 概要

---

※資格取得のための必修科目または選択必修科目に、資格名称を記載しています。

保○：保育士必修または選択必修科目

幼○：幼稚園教諭一種必修または選択必修科目

小○：小学校教諭一種必修または選択必修科目



# 児童保育学科 1年次



# 教育学概論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

現代教育を理解するためには、教育の意味について絶えず根底から問い直そうとする思考力や教育の思想及び歴史についての豊かな教養が必要である。本講義では、教育を支える基本的理念や思想、教育という営みの歴史的展開などについて幅広く検討していく。具体的には、西洋近代における代表的な教育思想・実践の歩み、日本における学校教育や家庭教育の歴史とその背景にある子ども観の変遷について学ぶ。このことを通して、現代の教育問題を考えるための深い洞察力を培うことを目指す。

## 《学生の到達目標》

教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。  
①教育の基本的概念について理解する。  
②教育の思想や歴史についての基礎的な知識を身につける。  
③教育の今日的課題について学問的視野から考察する力を養う。

## 《授業計画》

1. 授業の概要と進め方について
2. 教育の基本的概念①—教育の意義と目的
3. 教育の基本的概念②—乳幼児期の教育の特性
4. 子どもと教育の思想・歴史①—「子ども」とは何か、子ども観の変遷
5. 子どもと教育の思想・歴史②—幼児教育思想の系譜
6. 子どもと教育の思想・歴史③—子ども家庭福祉の関連
7. 学校教育の思想・歴史①—「学校」とは何か
8. 学校教育の思想・歴史②—公教育の成立と展開
9. 学校教育の実践①—教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）
10. 学校教育の実践②—教育実践の多様な取り組み
11. 子育てと家庭教育の歴史—近代家族の子育て
12. 子育てと家庭教育の歴史—母性愛規範の形成
13. 現代教育の課題を考える①—ジェンダーと教育
14. 現代教育の課題を考える②—いじめ問題
15. 現代教育の課題を考える③—子どもの貧困と教育格差

## 《成績評価の基準・方法》

課題及びグループディスカッションの内容（50%） レポート（50%）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説」・文部科学省「幼稚園教育要領解説」・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」・厚生労働省「保育所保育指針解説」

## 《事前・事後学習》

事前学習：日頃から新聞やテレビで報道される教育に関するニュースに関心を持っておくこと  
事後学習：毎授業の内容をよく復習し、知識の定着に努めること。授業内で適宜読書案内を行うので、レポート課題の取り組みの中で積極的に読み、教育に対する理解を深めること。

# 情報処理演習 I

1 年次  
1 単位（演習）  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 ★藤田 朋己

## 《授業の概要》

保育・教育現場においては、ICT 機器の活用が不可欠となっている。特に小学校現場においては、子どもたち1人ひとりがタブレット端末をはじめとする情報端末を活用する教育が推進されている。また、仕事や授業を進める上で、効率よく時間を使い、効果的な活用を実現するスキルも求められている。本授業では、筆記用具と同じくICT機器を扱うスキルと効率的に業務をおこなうスキルの向上を目指す。ICT機器はあくまで道具である。特に表現する道具として利用する場合は、個の感性やものごとの捉え方が問われるとともに、第三者に対して伝えたい内容が、正確かつわかりやすく表現できるかが重要である。個の感性を磨くとともに、多方向からのことを見る広い視野の育成もおこなう。そのため、他者と成果物を相互評価する場面を設け交流を図る。新型コロナウイルス感染拡大によって、オンライン授業が一般的になった状況を踏まえ、その活用についても取り上げる。

## 《学生の到達目標》

ICT機器を道具としての確に操作するスキルを身につけるとともに、ICT機器を効率よく正確に操作できるスキルの獲得を目標とする。また、何かしら作成物を作成する際には、それを手にする第三者の視点に立ち、デザイン・構成等を考えなければならない。自身の感性を磨き、広い視野でものを多方向から見ようとする姿勢を身につけることも目標とする。実施にあたっては、学生同士で成果物を評価し合う場面を設ける。他者の成果物から学びを得るとともに、他者に感想を伝え、アドバイス等をおこなうことで、評価者としての視点を育むことも目標とする。

## 《授業計画》

1. 授業計画・学内環境の理解
2. 自己紹介カード作成演習
3. 自己紹介カードを用いた交流（ワーク）
4. オンラインの活用（manaba・Teams）に向けての理解
5. 印刷素材提供サイトの活用
6. Wordの基本操作・既存ファイルの利用・折り紙サイトの活用
7. 段組み・段落線を用いた作成演習（童謡歌詞カード作成）・手遊びサイトの活用
8. 歌詞カード作成演習1（冊子印刷・作成を中心に）
9. 歌詞カード作成演習2（冊子印刷・印刷を中心に）・相互評価（ワーク）
10. 絵文字レター作成演習・イラスト提供サイトの活用
11. おたより作成演習1
12. おたより作成演習2（既存ファイルに変更を加える）
13. らくがきをしてみると・・・1（シチュエーション演習・相互評価）
14. らくがきをしてみると・・・2（シチュエーション演習・相互評価）
15. らくがきをしてみると・・・3（シチュエーション演習・相互評価）・総括

## 《成績評価の基準・方法》

本授業は演習授業である。授業時の説明を聞いた上で課題に取り組み、その課題を提出することが最も重要である。提出された課題については、修正点等のコメントをつけた上で返却する。指摘された点に注意して、以後の課題に反映して欲しい。  
評価方法としては、演習への取り組み姿勢や課題への向き合い方に対する評価（30%）・課題評価（60%）・最終レポート（10%）とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

伝えたいことをわかりやすく、正確に伝えるためのスキルを身につけるためには、普段の生活の中で自らするものに意識を持って接して欲しい。また、常に自身の感性を磨き、ものごとに対する視野を広げる努力も重要である。事前学習として、これらのことを意識することを願う。提出課題については、評価とコメントをつけて返却する。事後学習として、指摘された内容を理解し、今後の演習に活かす努力を願う。

# 情報処理演習 II

1 年次  
1 単位 (演習)  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 ★藤田 朋己

## 《授業の概要》

保育・教育現場においては、ICT 機器の活用が不可欠となっている。本授業では、筆記用具と同じく ICT 機器を活用するスキルと効率的に業務をおこなうスキルの向上を目指す。中でも特に情報発信スキルの向上をはかる。保育・教育現場においては、ただ単に情報を読み取り、情報を発信すればよいという場面はない。そこには必ず思考・判断・表現が必要となる。したがって、思考力・判断力・表現力の育成をおこなう。ただし、これらの力は、すぐに身につくものではない。日常生活の中で常に意識することが重要であり、その積み重ねの中で養われるものである。本授業では、さまざまなテーマをもとに、そのきっかけを作り出す。また、他者から学ぶことは非常に多い。したがって、学生同士の交流や相互評価の実施を対面や manaba・Teams 上でおこなう。

## 《学生の到達目標》

ICT 機器を効率よく、正確に操作できるスキルを身につけるとともに、情報を効果的に発信するスキルの獲得を目標とする。また、何かしらの情報を発信する際には、その情報を受け取る相手の視点に立ち、内容・デザイン・構成等を考えなければならない。これらの力は、すぐに身につくものではない。したがって、授業を通じて常に自身の感性を磨き、広い視野でものを多方向から見ようとする姿勢を身につけることも目標とする。実施にあたっては、学生同士で成果物を評価し合う場面を設ける。他者の成果物から学びを得るとともに、他者に感想を伝え、アドバイス等をおこなうことで、評価者としての視点を育むことも目標とする。

## 《授業計画》

1. 情報発信についての理解
2. Web からの情報収集・整理・発信 (すくすく子育て)
3. ドキュメンテーション
4. 作成ドキュメンテーションを用いた交流と相互評価
5. 絵本情報発信 (作表機能の活用)
6. 絵本情報を元にした交流と相互評価
7. ○○○カード (作成演習・交流・相互評価)
8. Excel の基本操作
9. 月間スケジュール (おやつ) 作成演習
10. 計算式入力方法・グラフ作成方法の理解
11. 成績表作成演習
12. 映像作成演習1 (作成の準備)
13. 映像作成演習2 (作成)
14. 映像作成演習3 (自己評価と修正)
15. 制作映像鑑賞と相互評価

## 《成績評価の基準・方法》

本授業は演習授業である。授業における説明を聞いた上で課題に取り組み、その課題を提出することが重要である。提出された課題については、修正点等のコメントをつけた上で返却する。指摘された点に注意して、以後の課題に反映して欲しい。評価方法としては、演習への取り組み姿勢や課題への向き合い方に対する評価 (30%)・課題評価 (60%)・最終レポート (10%) とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

伝えたいことをわかりやすく、正確に伝えるためのスキルを身につけるためには、普段の生活の中で意識を持って、目にするものに接して欲しい。また、常に自身の感性を磨き、ものごとに対する視野を広げる努力も重要である。事前学習として、これらのことを意識することを願う。提出課題については、評価とコメントをつけて返却する。事後学習として、指摘された内容を理解し、今後の演習に活かす努力を願う。

# 日本国憲法

1 年次  
2 単位 (講義)  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 石川 愛世

## 《授業の概要》

本講義は、国民の基本的人権と国家の統治機能の二体系で構成される日本国憲法の基本的知識を習得することを目的とする。憲法の意味、成立、基本原理から順を追って解説を行う。講義の際にはできるだけ具体的な事例、判例に言及しつつ理解を深める。

## 《学生の到達目標》

憲法の基本的知識を学び、基本的人権の内容及び国家の統治機能を理解する。日常生活と憲法との関わりを意識できるようにする。

## 《授業計画》

1. ガイダンス (授業の進行方法、日本の法と憲法の関係を解説する)
2. 憲法の意味・成立・歴史について学ぶ
3. 憲法の基本原理について学ぶ
4. 包括的基本権・平等権について学ぶ
5. 精神的自由権①-内心の自由について学ぶ
6. 精神的自由権②-表現の自由について学ぶ
7. 経済的自由権について学ぶ
8. 人身の自由について学ぶ
9. 国務請求権・参政権について学ぶ
10. 社会権について学ぶ
11. 国会・内閣について学ぶ
12. 裁判所について学ぶ
13. 財政・地方自治について学ぶ
14. 改正・最高法規について学ぶ
15. 総括 (まとめ)

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組みや提出物 (小テスト・課題等) (40%)、学期末のテスト (60%) を総合して評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・中村睦男・佐々木雅寿・寺島壽一 編著「はじめての憲法学 (第4版)」三省堂  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

平日頃から、日常生活における出来事がどのように憲法と関わるか問題意識をもち、ニュース・新聞等を見ることが望ましい。事前学習として、次回講義のテキスト該当範囲を読むことを求める。授業の進行具合等により、授業計画に変更の可能性がある為、該当範囲は各回終了毎に指示する。

# 英語

1 年次  
2 単位 (演習)  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 中西 千佳子

## 《授業の概要》

インターネットの普及や様々な分野のグローバル化がすすむ現代社会においては、世界共通語としての「英語」の運用能力がますます要求されている。この授業では、日常生活を題材にしたテキストを使用し、コミュニケーションに必要な文法力を養成し、語彙力を強化する。

## 《学生の到達目標》

聞く、読む、話す、書く、といった 4 技能を鍛えるための様々な演習を行い、総合的な英語力向上を目指す。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション (授業の進行方法と学習課題について)
2. 英語の基本構造
3. 一般動詞 (1) 現在形の肯定文・否定文・疑問文
4. WH-疑問文の作り方
5. 一般動詞 (2) 過去形の肯定文・否定文・疑問文
6. be動詞 (1) 現在形の肯定文・否定文・疑問文
7. 復習① (2～6 回の内容を中心に)
8. 形容詞 (感情や状態を表す)
9. be動詞 (2) WH-疑問文、命令文
10. 人称代名詞 (所有格、所有代名詞)
11. 場所を示す表現
12. 時を示す表現
13. 未来形 (肯定文、否定文、疑問文)
14. 復習② (8～13 回の内容を中心に)
15. 前期のまとめ
16. 進行形 (現在進行形、単純過去形 vs 過去進行形)
17. 方向・動作を示す前置詞
18. 助動詞
19. 依頼・申し出・許可の表現
20. 疑問詞を使った疑問文
21. 数字の表現
22. 復習③ (16～21 回分)、基本動詞 (get, have, など)
23. 病気に関する表現
24. 基本動詞と前置詞 (慣用表現)
25. 形容詞と前置詞 (慣用表現)
26. 伝えたい内容を整理する
27. 文をつなぐ
28. 入国審査で問われる質問および返答
29. 復習④ (22 から 28 回の内容を中心に)
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組みを重視し、発表や課題提出も勘案して、総合的に評価する。学期試験 (50%)、小テスト (40%)、授業への取り組み (10%)

## 《授業で使用する教科書》

・森田和子・北本洋子・高橋順子「発信型 シンプル・イングリッシュ」三修社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

各回の予習、復習をおこなう。わからない単語があれば辞書等で調べておくこと。

# 体育 (講義)

1 年次  
1 単位 (講義)  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 ★仲山 正志

## 《授業の概要》

文部科学省は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施している。その結果、運動実施時間と体力との関係が明らかになった。体力・運動能力の向上のためには、子どもたちの運動時間の確保が重要であるといえる。さらに、子どもの遊びにとって大切な「空間」(遊び場)、「仲間」(遊び友達)が重要であることも明らかである。この講義では、体力・運動能力の向上のための学校や自治体、スポーツ団体の取り組みに触れ、遊びの意味や運動の楽しさ、体力・運動能力について考えることとする。

## 《学生の到達目標》

体力・運動能力の向上には運動の楽しさを味わうことが基礎にある。それを理解した上で、遊びの意味や運動の楽しさ、体力・運動能力についての理解を深める。(知識・理解)  
授業で得た知識に基づき、遊びの意味や運動の楽しさ、体力・運動能力についての動向について考える。(関心・意欲)  
授業で学んだ内容について教育現場で活かせるように心がける。(関心・意欲)  
遊びや体力・運動能力の在り方について、積極的に取り組み、実践的スキルについて考え、その考えを伝えることができる。(技能・表現)

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 運動の楽しさについて
3. 体力とは (行動体力・防衛体力)
4. 運動能力とは (運動能力・運動神経)
5. 健康状態・栄養摂取状況および体力・運動能力に関する調査について
6. 運動に関わる文部科学省・スポーツ庁の取り組み
7. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について
8. 運動に関わる幼児教育・学校教育現場での取り組み
9. 運動に関わる地方自治体の取り組み
10. スポーツ団体の取り組み
11. 運動に関わる民間企業の取り組み
12. 子ども・青少年の運動・スポーツ実施状況
13. 部活動の動向について
14. 子どもの運動・スポーツへの参加に向けて
15. まとめ (子どもの体力・運動能力向上の本質)

## 《成績評価の基準・方法》

毎時の授業内容確認レポート (60%)、課題レポート (40%) を総合的に評価します。両者ともに、体育講義における基礎的事項についての理解、そしてそれを論述できるかを評価の観点とします。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

運動の楽しさや体力・運動能力について自分の体験やこれまでの経験を通じて課題を持つこと。その課題について講義からの学びや自分自身の積極的な取り組みを通じて課題解決につなげていくこと。

# 体育（実技）

1年次  
1単位（実技）  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 足立 博子

## 《授業の概要》

現代社会におけるオートメーション化やモータリゼーションおよび現在の社会情勢に伴う身体活動量の減少は、心身の健康水準や体力を低下させている。本授業では、運動が健康および体力の維持増進にもたらす効果を理解するとともに、様々な状況下において身体を動かし、健康と体力を維持増進させる具体的方法について実践的な学びを深めたい。また、将来において体育や教育に携わる人材として、他者とともに身体を動かすことの楽しさを自ら体感すること、多様な運動の展開方法を知ることが極めて有用であると考えられる。授業では、履修者自身が成長過程において経験した運動あそびを振り返り、運動が発育発達にもたらす効果や発育発達段階に応じた展開方法についても考察を促したい。

## 《学生の到達目標》

現代生活においては、日常生活の利便化や交通手段の発達などに伴って身体活動量が減少しがちである。また、現在の社会情勢は更なる身体不活動を生じさせ、心身の健康水準や体力の低下が懸念される。本授業における第1の目標は、様々な状況下において実施可能な各種運動を体験し、自身の健康管理のための運動を立案・実践・継続する能力を獲得することである。また、将来において保育や教育に携わる人材として、他者とともに身体を動かすことの楽しさを自ら体感することや多様な運動の展開方法を知ることが極めて有用である。本授業における第2の目標は、自身が成長過程において経験した運動あそびをはじめとする多種多様な運動を実践する中で、各種の運動が発育発達段階にもたらす効果について理解することである。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション 本授業の概要・目的の紹介および受講に際する注意事項の説明
2. からだほぐし運動 ストレッチや軽い体操で自己のコンディションを把握する。
3. 室内で行うレクリエーションゲーム 他者との関わりの中で楽しみながら身体を動かす。
4. 屋外で行うレクリエーションゲーム 他者との関わりの中で楽しみながら身体を動かす。
5. 静的/動的ストレッチ 柔軟性を高め、筋コンディショニングの方法を知る。
6. ウェイトトレーニング 自体重を用いて筋力・筋持久力を向上させる方法を知る。
7. サークリットトレーニング 無酸素および有酸素運動能力を向上させる方法を知る。
8. コーディネーショントレーニング ゲーム感覚で身体コントロール能力を鍛える。
9. かけっこ・リレー・鬼ごっこをベースとする運動
10. 新聞紙、フープ、縄などを使った運動と伝承遊び
11. ボールゲーム-1 ドッジボールおよび各種アレンジゲーム
12. ボールゲーム-2 サッカーおよび各種アレンジゲーム
13. ボールゲーム-3 バレーボールおよび各種アレンジゲーム
14. ペットボトルエクササイズ ペットボトル2本を用いた軽負荷ウエイトトレーニング
15. リズムダンス 音楽を用いた有酸素運動で全身持久力と認知機能を鍛える。

## 《成績評価の基準・方法》

- ・授業への積極的な取り組み姿勢(60%)
- ・各運動種目への理解(20%)
- ・各運動種目の実践能力(20%)

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

食事バランスや睡眠の質、生活リズムなどに意識を向け、普段から自身の健康管理に努めてください。また、授業で実践した運動の中から、各自の生活環境で実施可能なものや自身の体調や身体特性に応じて必要なものを選んで継続的に実施し、運動を習慣化するように心がけてください。

# 社会福祉

1年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 高木 さひろ

## 《授業の概要》

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。また、社会福祉の制度や実施体系について学ぶとともに、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、社会福祉の動向と課題について理解する。

## 《学生の到達目標》

①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。②社会福祉の制度や実施体系について理解する。③社会福祉における相談援助について理解する。④社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。⑤社会福祉の動向と課題について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス、社会福祉の理念と概要
2. 子どもと家族の福祉①
3. 子どもと家族の福祉②（児童家庭福祉にかかわる施設、行政機関）
4. 子どもと家族の福祉③（子どもの権利と社会的養護の仕組み）
5. 社会保障及び関連制度の概要（年金制度・医療保険）
6. 障がい児・者福祉①（障がい児・者福祉の考え方）
7. 障がい児・者福祉②（障がいの種類、障がい児・者福祉の法律・制度）
8. 前半の振り返り
9. 地域福祉
10. ソーシャルワーク
11. 低所得者の福祉①（生活保護の仕組み）
12. 低所得者の福祉②（その他の低所得者福祉）
13. 高齢者福祉①（介護保険制度）
14. 高齢者福祉②（利用者保護）
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

定期試験70%、授業内課題（リアクションペーパーなど）15%、授業への取り組み（積極的な授業への参加、予習・復習、発表など）15%で総合評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・直島正樹・原田旬哉「図解で学ぶ保育 社会福祉」萌文書林  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

【1単位につき、45時間の学修が必要】本教科科目は2単位であるので、講義、事前・事後学習合計90時間の学習時間が必要である。  
①毎回の授業で示すテーマについて、新聞記事、参考文献やWeb検索などを参照して理解を深めること。  
②次回授業への予習として、テキストの該当箇所を読み、自分自身の経験や知識を深めること。  
③①②について、manabaを活用して課題管理をおこなうことがある。

# 子ども家庭福祉

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○  
担当 立花 直樹

## 《授業の概要》

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について学ぶとともに、子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。また、講義や演習（セルフワーク、グループワーク、ディスカッション等）を通じて、児童福祉の制度や実施体系、現状や課題を学び、子ども家庭福祉の動向と課題について理解を深める。

## 《学生の到達目標》

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子ども家庭福祉及び児童の人権を理解し、保育者としての具体的な支援に結びつける。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について知識を習得し、理解を深める。
4. 子ども家庭福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みを調べ、理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解・考察し、説明できる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、子ども家庭福祉の理念と概念
2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷
3. 現代社会と子ども家庭福祉と諸外国の動向
4. 児童の人権擁護と子ども家庭福祉
5. 子ども家庭福祉の制度と法体系
6. 子ども家庭福祉の行財政と実施機関
7. 児童福祉施設と専門職の役割
8. 児童福祉施設（アドミニストレーション、コンフリクト）
9. 次世代育成支援（少子化と子育て支援事業）
10. 家庭養育と社会的養護①：貧困家庭と外国籍の児童・家庭への対応
11. 家庭養育と社会的養護②：児童虐待とドメスティック・バイオレンスへの対応
12. 家庭養育と社会的養護③：非行問題、不登校（園）への対応
13. 家庭養育と社会的養護④：障害ある児童への対応
14. 児童の人権と生命倫理
15. 総括（児童家庭福祉の課題と展望）

## 《成績評価の基準・方法》

1. 各種演習シートの提出等：50%
2. 小テスト（3回実施予定）：50%  
1) 加点：提出物の内容（記入量・整理力・丁寧さ）、授業運営の協力など、2) 減点：欠席・遅刻・早退、忘れ物・居眠り、おしゃべり、関係のない作業・携帯操作、記入漏れなど  
\*グループ演習時の居眠りや無発言・非協力的態度については厳しく減点する  
※演習シートは採点し後日返却する、小テストは授業内で解答・解説する

## 《授業で使用する教科書》

・立花直樹・渡邊慶一・鈴木靖子・中村明美「最新はじめて学ぶ社会福祉：児童・家庭福祉」ミネルブア書房

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：宿題として、事例を読み演習シートに意見を記入してくる  
事後学習：小テストに向けた学習（教科書、資料、シートなどの復習）

# 保育原理

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

この授業では、保育にかかわる基礎的な知識や理論を学ぶとともに、「望ましい保育のあり方とは何か」を考えたり、自らの保育実践を省察するための枠組みや手がかりを習得したりする。具体的には、まず「保育」を知るために保育の意味や保育を取り巻く歴史的・社会的背景を理解する。次いで「保育の基本」として、発達理論や保育の内容・方法・形態・評価の仕方等について学習する。その上で、子育て支援や保幼小連携、課題を抱えた家庭への支援の仕方について理解を深める。

## 《学生の到達目標》

- 保育の意義及び目的について理解するとともに、保育に関する法令及び制度や保育所保育指針における保育の基本について学んでいく。また、保育の思想と歴史の変遷について学びつつ、これを踏まえて保育の現状と課題について考察する。
- ①保育についての基礎的知識・理論を習得すること。
  - ②保育に関する知識や理論を、自らの保育経験に引きつけて捉え直す視点や態度を形成すること。

## 《授業計画》

1. 授業の概要と進め方について
2. 保育とは一子どもや保育を取り巻く現状と課題
3. 子どもの発達と子ども理解
4. 保育の思想
5. 保育の歴史
6. 保育の場—保育制度と子育て支援計画
7. 保育の目標と内容①—教育要領、教育・保育要領
8. 保育の目標と内容②—保育指針
9. 保育の方法①—環境による教育
10. 保育の方法②—乳児期から幼児期へ
11. 保育の計画と評価
12. 保育者の役割と専門性
13. 子どもの安全と虐待、障がいへの対応
14. 子育て支援と家庭との連携
15. 諸外国の保育

## 《成績評価の基準・方法》

ミニレポート等の提出課題60%、授業内でのコメントシート40%によって総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」、文部科学省「幼稚園教育要領解説」、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：事前にプリント等を配布した場合は、それを熟読し、疑問点等を明らかにした上で授業に臨むこと。また、日頃から新聞やテレビで報じられる保育に関するニュースに関心をもっておくこと。  
事後学習：毎授業の内容をよく理解し、知識の定着に努めること。

# 保育者論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★東城 大輔

## 《授業の概要》

この授業では「保育者とは何か」についていろいろな側面から理解を深める。また保育者の専門性について考察することや、具体的な仕事の内容、社会における役割、倫理、制度などについて学習する。さらに地域社会や専門機関との連携・協働、保育者の資質向上とキャリア形成などの視点から総合的に理解を深める。

## 《学生の到達目標》

現在の保育所や幼稚園の実情、変遷などを概観しながら、保育者としての役割を理解できるようになる。  
また、生涯にわたる人格形成の基礎となる人との関係を作る大切な時期である乳幼児期の保育・教育課程の役割を学び、保育者としての在り方について考える力を身につける。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（授業説明および意見交換会にて保育観について考える機会をもつ）
2. 幼稚園、保育所、認定こども園についてのそれぞれの特徴（役割等）
3. 幼稚園、保育所、認定こども園についてのそれぞれの特徴（制度的位置づけ・保育展開）
4. 保育士・幼稚園教諭について（倫理・資格・要件）
5. 子ども理解や重要性と養護及び教育の一体的展開について
6. 具体的な保育実践（知識・技術及び判断、省察の重要性）について
7. 保育士および幼稚園教諭の1日の働き方と責務
8. 保育者にとって大切な保育観（養護及び教育の一体的展開と保育の質の向上）
9. 保育の実践（絵本や紙芝居の読み聞かせを通じた計画・省察・評価について）
10. 保育者の連携・協働（各機関や専門職間、地域との連携・協働のあり方）
11. 家庭との連携と保護者に対する支援
12. 保育者にとっての専門性（保育士や幼稚園教諭における資質・能力）について
13. 保育者の資質向上とキャリア形成（1） 組織的取り組みや専門性向上の意義
14. 保育者の資質向上とキャリア形成（2） 組織とリーダーシップ
15. 授業の振り返り、総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート課題（60%）  
毎時間ごとの小レポート（20%）  
授業内での実践発表（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・名須川知子・大方美香監修  
山下文一編著「MINERVAはじめて学ぶ保育「保育者論」」ミネルヴァ書房

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前：授業内で示した実践における保育者の視点を参考に、日頃から"保育者"を意識して過ごすこと。  
事後：保育者にとって何が大切か、保育者はどうあるべきか、学習内容を振り返り学びを深めること。

# 保育の心理学

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○  
担当 要 正子

## 《授業の概要》

生涯発達心理学の観点から乳幼児期からの心身の発達について学び、こどもへの理解を深める。保育・教育現場で必要とされる基礎的知識の習得、発達課題、乳幼児期の初期経験の重要性などについて、適宜グループワークを交えながら学んでいく。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知見をふまえ、発達を捉える視点について理解する。
2. 子ども発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3. 乳幼児期の子ども発達の過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

## 《授業計画》

1. 保育の心理学で学ぶことを理解する（オリエンテーション）
2. 発達とは（人間の発達を学ぶことの重要性を理解する）
3. 発達の理論を学ぶ（1）
4. 発達の理論を学ぶ（2）
5. こどもの発達過程（1）身体的機能と運動機能の発達
6. こどもの発達過程（2）認知の発達
7. こどもの発達過程（3）言語の発達
8. こどもの発達過程（4）社会情動的発達
9. 乳幼児期の学びに関わる理論
10. 乳幼児期の学びの過程と特性
11. 乳幼児期の学びを支える保育
12. コミュニケーションの力を育む（乳幼児期の親子の関わり的重要性について学ぶ）
13. コミュニケーションの力を育む（遊びと概念獲得について学ぶ）
14. 子育て支援の必要性と重要性について学ぶ
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験（60%）と授業への取り組み（40%）によって評価する。  
なお、授業への取り組みには、グループワークの成果等提出物も含む。

## 《授業で使用する教科書》

・青木紀久代編「保育の心理学【シリーズ知のゆりかご】」みらい

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ実習等で、こどもに興味をもち、周囲の大人の関わり方にも関心を寄せて観察する。

事後学習：授業と観察したことや体験したことを連動させ、学びを深める。

# 幼児と健康

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★大脇 万起子

## 《授業の概要》

平成29年に告示された「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および「保育所保育指針」において示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭にいた授業を行う。具体的には、乳幼児について、身体・運動・精神の各機能発達、生活習慣の形成、発達障害、疾病予防、安全管理および日常生活における身体活動に関する授業を行う。

## 《学生の到達目標》

乳幼児の健康に関する支援・指導のために必要な基礎知識を習得する。具体的には、乳幼児について、身体・運動・精神の各機能発達、生活習慣の形成、発達障害、疾病予防、安全管理および日常生活における身体活動に関する基礎知識を習得する。

## 《授業計画》

1. 乳幼児の健康
2. 乳幼児の身体機能の発達①
3. 乳幼児の身体機能の発達②
4. 乳幼児の生活習慣の形成①
5. 乳幼児の生活習慣の形成②
6. 乳幼児期の発達障害①
7. 乳幼児期の発達障害②
8. 乳幼児期の疾病と予防①
9. 乳幼児期の疾病と予防②
10. 乳幼児期の疾病と予防③
11. 乳幼児期の疾病と予防④
12. 乳幼児期の安全管理①
13. 乳幼児期の安全管理②
14. 乳幼児期の運動発達
15. 乳幼児の日常生活における身体活動

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の小テスト解答（45%）、授業への取り組み姿勢（15%）、定期テスト（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・小野次朗・榎原洋一編著「幼児と健康 日常生活・運動発達・こころからの基礎知識」ジアス教育新社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：教科書の当該範囲の予習  
事後学習：配布資料および小テストの復習

# 幼児と環境

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★大嶋 健吾

## 《授業の概要》

本授業では、領域「環境」の指導の前提に関する「幼児を取り巻く環境」「幼児と環境とのかかわり」についての専門的事項についての感性・知識・理解・技能について学ぶ。具体的には環境領域指導法Ⅰ・Ⅱにおいては、領域「環境」の指導のための指導方法・保育の展開等について学ぶが、この「幼児と環境」においては、その指導や保育の展開を支える「そもそも環境とは何か」「環境に関わる中で子どもはどのように発達していくのか」等についての理解を深めるとともに、飼育・栽培の知識・技能等についても学ぶ。

## 《学生の到達目標》

1. 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する 2. 幼児の思考・科学的概念の発達を理解する 3. 幼児期の標識・文字等、情報・施設とのかかわりの発達を理解する

## 《授業計画》

1. 環境とは何か？－広い意味での“環境”を考える
2. 幼児の生活と身の回りの“環境”－子どもの生活圏としての環境を考える
3. 園生活と“環境”－園の中の環境（保育環境）を考える
4. 子どもにとっての自然環境にはどのようなものがあるか？
5. 子どもにとっての社会や文化に関する環境（情報・施設、地域文化等）について
6. 子どもの発達と環境－主体的・能動的に環境に働きかけるとは？
7. 子どもの興味・関心・好奇心・探究心の発達
8. 子どもの認知・理解、問題解決的・創造的思考力の発達
9. 子どもと生き物・動植物のかかわり①（成長・命の尊さについての感性を育む）
10. 子どもと生き物・動植物のかかわり②（飼育栽培の基本的事項）
11. 子どもともののかかわり（物の性質の理解、試行錯誤・工夫の視点）
12. 子どもと数量・図形、標識、文字とのかかわり
13. 子どもと様々な自然・自然現象とのかかわり
14. 現在社会と ESD の視点から幼児期の環境を考える
15. 授業内容を振り返り、他の領域と関連づけながら保育の構想を考える

## 《成績評価の基準・方法》

① 毎回の授業の最後に提出する小レポート 40% ② 中間課題 30% ③ 振り返りのまとめ 30%

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《参考書》

・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前・事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 幼児と表現

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★有福 淑子

## 《授業の概要》

幼児の表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する発想・構想力を身につける。

## 《学生の到達目標》

- ・幼児の素朴な表現の姿やその発達、特徴を理解する。
- ・音楽、造形、身体、劇などの様々な表現媒体に関する基礎的な知識、技能を身につける
- ・幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する発想力、構想力を身につける
- ・幼児の表現を支えるための自己の感性を豊かにする。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（授業の概要と進め方について）
2. 幼児の表現とは何かを考える① 領域「表現」とのつながり
3. 幼児の表現とは何かを考える② 保育・教育現場における幼児の表現
4. 幼児の表現の手段 言葉だけではない感情の表現
5. 幼児の表現活動① 感性を豊かにする自然との対話
6. 幼児の表現活動② 自然との対話 見る・触れる・感じる
7. 幼児の表現活動③ 経験からの造形表現活動
8. 幼児の表現活動④ 経験からの身体（身ぶり）表現活動
9. 幼児の表現活動⑤ 他者との対話—コミュニケーションとしての表現
10. 幼児の表現活動⑥ 表現活動の発達過程
11. 幼児の表現活動⑦ 保育者の受けとめ・共感・促し
12. 幼児の表現活動⑧ ごっこあそび・劇あそび（おはなしから読み取る感情、情景）
13. 身ぶり表現によるグループでの劇づくり
14. 身ぶり表現によるグループでの劇づくり（発表）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

○授業への取り組み及び毎回の授業後に提出するレポート（40%） ○劇による発表と振り返り（30%） ○振り返りのまとめ（30%）

## 《授業で使用する教科書》

- ・「文部科学省「幼稚園教育要領解説」」フレーベル館

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前・事後学習としては授業内で学んだことから視野を広げ、経験したこと、興味・関心の持ったこと、わからなかったことについて自ら調べ知識、見識を深める。

# 環境領域指導法 I

1 年次  
1 単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★大嶋 健吾, 古茂田 貴子

## 《授業の概要》

子どもは生まれてから自分自身を取り巻く環境の中で、経験を重ねながら心身を発達させていきます。その環境について、具体的な内容や、環境とどのように関わっているのかということや、その学びを通して保育の中でどのような環境を整えていけばよいのかについて、法令や実際の保育活動を学ぶことを通じて考えます。

## 《学生の到達目標》

まず、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「環境」領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。次に、子どもにとっての重要な学びの場である「遊び」と「生活」についてその大切さと環境の必要性を学ぶ。最後に、保育者として保育現場でどのような工夫が必要かという視点を意識づける。

## 《授業計画》

1. イントロダクション
2. 幼児教育における環境について
3. 保育所保育指針の根拠となる憲法・法律について
4. 幼保育所保育指針 領域環境について（目標・ねらい）
5. 保育所保育指針 領域環境について（内容・内容の取扱い）
6. 子どもの学びとしての「遊び」とは
7. 子どもを取り巻く環境の変化について考える
8. 子どもの主体的な活動としての遊び（情報機器とその活用を含む）
9. 遊び環境におけるリスク管理について
10. 集団での遊びの大切さについて
11. 身の回りの自然特性を理解した保育—実践事例から—
12. 季節の移り変わりとの関係
13. 日本や地域の伝統的な遊びを取り入れた保育を考える
14. 子どもにとって身近な植物・動物と関わる保育—実践事例から—
15. 食育について考える

## 《成績評価の基準・方法》

① 毎回の授業の最後に提出する小レポート 40% ② 中間課題 30% ③ 振り返りのまとめ 30%

## 《授業で使用する教科書》

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《参考書》

・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前・事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 環境領域指導法Ⅱ

1年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 瀧川 光治

## 《授業の概要》

前期に学んだ「環境領域指導法Ⅰ」を踏まえて、さらに領域「環境」の理解を実践的に深めていく。領域「環境」は（周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていくとする力を養う）ための領域であり、好奇心・探究心の育成が重要である。そのため、子どもの発達に応じて、そのためのねらい・内容の理解を深めるとともに、指導・援助、教材研究の方法を実践的に学ぶ。

## 《学生の到達目標》

1. 領域「環境」のねらい・内容、10の姿、資質・能力のつながりを理解する  
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、資質・能力および10の姿を育むための保育内容や指導・援助を理解する  
3. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した教材研究や環境構成を構想する方法を身につける。

## 《授業計画》

1. 領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いと資質・能力の育成
2. 子どもの発達の視点を踏まえた領域「環境」と10の姿のつながり
3. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（1）－実践事例から
4. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（2）－保育者の援助やかかわり
5. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（3）－情報機器・教材の工夫と活用
6. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（4）－指導計画の立案と模擬保育
7. 保育環境の様々な工夫と、ICT機器の活用
8. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（1）－実践事例から
9. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（2）－保育者の援助やかかわり
10. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（3）－情報機器・教材の工夫と活用
11. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（4）－指導計画の立案と模擬保育
12. 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚の育む保育環境（1）－実践事例から
13. 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚の育む保育環境（2）－教材の工夫
14. 幼児期と小学校教育の連続性－育ちのバトンをつなぐために－
15. 授業内容を振り返り、他の領域と関連づけながら保育の構想を考える

## 《成績評価の基準・方法》

- ① 毎回の授業の最後に提出する小レポート 56%（4点×14回）
- ② 中間課題 20%
- ③ 振り返りのまとめ 24%

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《参考書》

・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前にテキストを読み、学習内容を把握する。  
事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 社会的養護Ⅰ

1年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

児童を取り巻く環境は時代とともに大きく変化し、様々な課題が浮かび上がっている。その中で家庭養育だけでは困難な状況においては、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要な役割を果たす。社会的養護の果たす役割や必要性と、社会的養護の理念となる人権及び歴史の変遷を学び、児童の権利擁護について学びを深める。児童にとって生活の場となる入所型施設の養護のあり方について、その基本的原理と施設養護の実態を学び、また必要とされるソーシャルワークの内容を理解する。家庭養護（里親・ファミリーホーム）や、養子（特別養子・普通養子）縁組制度について理解し、施設養護、家庭的養護との違いを理解する。施設の運営管理や施設内虐待の防止及び学校、地域等との連携など施設養護の現状と課題について学びを深める。

## 《学生の到達目標》

①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護（社会的養育含む）の基本について理解する。③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。⑤社会的養護の現状と課題について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス、子どもの社会的養護トピックス
2. 私たちが生きる社会
3. 社会的養護の体系
4. 施設への入所に至る経過
5. 施設における生活①
6. 施設における生活②
7. 施設における生活③
8. 施設における生活④
9. 施設における支援－ライフストーリーワーカー
10. 施設の利用方式
11. 利用・契約制度を基本とする施設
12. 社会的養護の歴史
13. 施設における支援内容
14. 里親制度
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験40%、授業内課題（小テストの実施、リアクションペーパーなど）20%、授業への取り組み（受講態度、積極的な授業への参加、予習・復習、発表など）20%、事前・事後課題への取り組み20%として評価を行う。レポートは、授業内容の理解度や、受講生自身が問題意識をもち考えを示すものを評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・原田句哉・杉山宗尚「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ」萌文書林

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

【1単位につき、45時間の学修が必要】本教科科目は2単位であるので、講義、事前・事後学習合計90時間の学習時間が必要である。  
①毎回の授業で示すテーマについて、新聞記事、参考文献やWeb検索などを参照して理解を深めること。  
②次回授業への予習として、テキストの該当箇所を読み、自分自身の経験や知識を深めること。  
①②について、manabaを活用して課題管理をおこなうことがある。

# 保育実践学習Ⅰ

1年次  
1単位（演習）  
資格 保○

担当 ★東城 大輔, ★宮崎 大樹, ★有福 淑子, 小西 由紀子,  
★小西 眞弓, 中根 佳江, ★宮前 桂子, ★阿部 丘之亮

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅰは、保育所や幼稚園、こども園、小学校等でのインターンシップ現場における実習体験を基盤とする。現場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務についての基礎的な理解を深めることを目指す。また、保育実践学習Ⅱへのつながりを意識し、実践を通して学ぶということを通して、実習日誌を書くことによりその体験をより確かなものにする力を養う。この授業は、アクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育士やこども園・幼稚園・小学校教諭の職務への理解を深める。また子どもと関わる職としての保育・教育者をしっかり観察し、自身の将来と照らし合わせる。また、保育・教育現場の諸課題について体感し、考える機会とする。

## 《授業計画》

1. インターンシップ実習に関する心得について
2. インターンシップ実習に関する諸手続き
3. 保育所・幼稚園・こども園についての基礎的知識
4. 小学校についての基礎的知識
5. 子ども理解について
6. 発達障害の子どもへの対応について
7. 実習日誌の書き方について
8. 現場における対応事例について
9. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（1）
10. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（2）
11. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
12. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
13. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
14. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
15. 自己の課題の明確化および目標設定

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加および事前・事後授業への参加（60%）  
「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・無藤隆監修／大方美香編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 3～5歳児編」中央法規出版

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前：インターンシップ実習先での当日の課題や実践への心構えを形成して行くこと。  
事後：当日のインターンシップ実習における自己の反省点などを実習日誌に書き記し、次回のインターンシップへの目標を設定すること。

# 保育実践学習Ⅱ

1年次  
1単位（演習）  
資格 保○

担当 ★東城 大輔, ★宮崎 大樹, ★有福 淑子, 小西 由紀子,  
★小西 眞弓, 中根 佳江, ★宮前 桂子, ★阿部 丘之亮

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅱは、保育所や幼稚園、こども園、小学校等でのインターンシップ現場における実習体験を基盤とする。現場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務についての基礎的な理解を深めることを目指す。また、保育実践学習Ⅰでの学びの経験を活かし、引き続き、実践を通して学ぶということを通して、実習日誌を書くことによりその体験をより確かなものにする力を養う。この授業は、アクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育士やこども園・幼稚園・小学校教諭の職務への理解を深める。また子どもと関わる職としての保育・教育者をしっかり観察し、自身の将来と照らし合わせる。また、保育・教育現場の諸課題について体感し、考える機会とする。

## 《授業計画》

1. 前期の振り返りと自己分析
2. インターンシップ実習に向けての目標設定
3. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（1）
4. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（2）
5. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（3）
6. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（4）
7. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（5）
8. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（6）
9. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（7）
10. インターンシップ現場においての実践、および観察や記録を基にした交流（8）
11. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
12. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
13. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
14. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
15. 実習の振り返りと自己の課題の明確化

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加および事前・事後授業への参加（60%）  
「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・無藤隆監修／大方美香編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 3～5歳児編」中央法規出版

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前：インターンシップ実習先での当日の課題や実践への心構えを形成して行くこと。  
事後：当日のインターンシップ実習における自己の反省点などを実習日誌に書き記し、次回のインターンシップへの目標を設定すること。

# 教職論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 佐伯 知子

## 《授業の概要》

この授業では、教職をめざす上で理解しておくべき事項（教員の資質能力・職務内容など）について、さまざまな事例・資料をふまえて講義する。また、現代の教育をめぐる諸課題についての意見交流など、受講生の教育観を磨くための演習も積極的に行う。

## 《学生の到達目標》

- ・現代社会における教員の位置や役割について理解する。
- ・教員の専門性や倫理について理解する。
- ・教職をめざすことの自覚と責任を持つ。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 教職とは何か
3. 教員の職務（1）教科指導①
4. 教員の職務（2）教科指導②
5. 教員の職務（3）幼児・児童への指導
6. 教員の職務（4）学級経営
7. チームとしての学校
8. 教員の服務
9. 小括
10. 現代の教育課題について考える（1）
11. 現代の教育課題について考える（2）
12. 現代の教育課題について考える（3）
13. 現代の教育課題について考える（4）
14. 諸外国の事例
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業に取り組む姿勢（50%）、レポート等の提出物（50%）。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

- ・授業で取り上げていくテーマを意識しながらインターンシップ実習に臨むこと。
- ・日ごろから新聞を読むなどして世の中の動きを意識すること。

# 国語

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★宮崎 大樹

## 《授業の概要》

小学校における国語科の教材分析や授業実践に必要な「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する言語運用力及び言語感覚を身に付け、また、教材分析や授業実践に必要な「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」に関する背景知識や技能を、授業場面で意識しながら身に付けることが重要である。「言葉の特徴や使い方」とは文法、語彙、表記、音読等で、「情報の扱い方」とは情報と情報の関係、情報の整理等で、「我が国の言語文化」とは、伝統的な言語文化、読書、書写等である。

## 《学生の到達目標》

- ・教材分析や授業実践に必要な「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する言語運用力及び言語感覚を身に付けている。
- ・教材分析や授業実践に必要な、言葉の働き、文法、語彙、表記、音読等に関する知識及び技能を身に付けている。
- ・教材分析や授業実践に必要な、情報と情報の関係、情報の整理などに関する知識及び技能を身に付けている。
- ・教材分析や授業実践に必要な、伝統的な言語文化、読書、書写等に関する知識及び技能を身に付けている。

## 《授業計画》

1. 「全国学力・学習状況調査」からみる知識
2. 「全国学力・学習状況調査」からみる技能・言語運用力
3. 教材分析や授業実践に必要な音読に関する知識
4. 教材分析や授業実践に必要な音読に関する技能
5. 教材分析や授業実践に必要な書写に関する知識
6. 教材分析や授業実践に必要な書写に関する技能
7. 教材分析や授業実践に必要な「書くこと」に関する知識
8. 教材分析や授業実践に必要な「書くこと」に関する技能
9. 教材分析や授業実践に必要な「読むこと」に関する知識
10. 教材分析や授業実践に必要な「読むこと」に関する技能
11. 教材分析や授業実践に必要な「話す・聞く」に関する知識
12. 教材分析や授業実践に必要な「話す・聞く」に関する技能
13. 教材分析や授業実践に必要な読書に関する知識や技能
14. 教材分析や授業実践に必要な言語文化に関する知識
15. 教材分析や授業実践に必要な言語文化に関する技能

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験（50%）、授業への取り組み・レポート・ビブリオバトル等（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習では、ビブリオバトル・ブックトーク・読み聞かせ用の本を選び、発表内容を考える。また、日常的に様々な文種に触れ、読んだり、聴いたりしたことをもとに人と交流する。事後学習では、書写の「平仮名」「片仮名」について正しく、美しく書く練習をする。

# 算数

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★赤井 利行

## 《授業の概要》

小学校における算数科の授業を担当するために必要な（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の実践的な数理運用力を、授業場面を意識しながら身に付ける。また、幼稚園、小学校、中学校の関連性を踏まえながら、小学校における算数科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付けている。

## 《学生の到達目標》

数とその表現や計算の意味と方法、図形の性質や図形の計量、量に着目して物事の特徴を的確に表現する、伴って変わる二つの数量の関係、目的に応じて統計的な問題解決するなどの力を身に付ける。また、小学校における算数科の学習内容に関わる数学に関する基本的な知識を身に付けている。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 数と計算に関する基本的な数理運用力の基礎
3. 数と計算に関する基本的な数理運用力低学年
4. 数と計算に関する基本的な数理運用力中学年
5. 数と計算に関する基本的な数理運用力高学年
6. 図形に関する基本的な数理運用力下学年
7. 図形に関する基本的な数理運用力上学年
8. 変化と対応に関する基本的な数理運用力下学年
9. 変化と対応に関する基本的な数理運用力上学年
10. データの活用に関する基本的な数理運用力下学年
11. データの活用に関する基本的な数理運用力上学年
12. 現実の世界の数学的探究
13. 数学の世界の数学的探究
14. 問題発見・解決・発展の過程としての数学
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

最終課題（60%）、2回の研究レポート（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・文科省「学習指導要領解説算数編（最新版）」・赤井利行「わかる算数科指導法改訂版」東洋館出版社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習は、授業で学習する場面に対応する教科書を読んでおき、授業に向かう。事後学習は、取り上げられたテーマについて、教科書に示されている課題を図書館で調べる。

# 音楽（器楽）

1年次  
2単位（演習）  
資格 幼○ 小○  
担当 川村 尚子,大槻 知世,炭谷 恭子,竹田 景子,本村 陽子,  
山口 雅敏,山本 恭仁子

## 《授業の概要》

各自の能力に応じて、個人指導を行う。幼稚園・保育園や小学校の現場において生活や諸行事に対応でき、また社会において音楽と豊かに関わることができるようなピアノ演奏技術の習得を目指す。

## 《学生の到達目標》

基礎技術を身につけることを重点に置き、音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語を理解し、演奏する曲に合った豊かな音楽的表現ができることをねらいとする。

## 《授業計画》

1. 全体及び個人別オリエンテーション
2. 楽譜の読み方及び個人レッスン①
3. 楽譜の読み方及び個人レッスン②
4. 楽譜の読み方及び個人レッスン③
5. 楽譜の読み方及び個人レッスン④
6. 楽譜の読み方及び個人レッスン⑤
7. 練習曲・リズム曲の個人レッスン①
8. 練習曲・リズム曲の個人レッスン②
9. 練習曲・リズム曲の個人レッスン③
10. 練習曲・リズム曲の個人レッスン④
11. 試験曲の指導①
12. 試験曲の指導②
13. 試験曲の指導③
14. 試験曲の指導④
15. 総括（前期到達度試験）
16. 弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン①
17. 弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン②
18. 弾き歌い曲（発表）
19. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン①
20. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン②
21. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン③
22. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン④
23. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン⑤
24. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン⑥
25. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン⑦
26. 試験曲の指導①
27. 試験曲の指導②
28. 試験曲の指導③
29. 試験曲の指導④
30. 総括（後期到達度試験）

## 《成績評価の基準・方法》

定期試験（80%）授業への取り組み（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・小林 美実「こどものうた100」チャイルド本社・茂田 すずむ「保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集」全音楽譜出版社・「ハイエル・ブルグミュラー・ソナチネ他」能力に応じて選択

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

毎週、授業までの十分な練習が必要である。

# 基礎造形

1年次  
1単位（演習）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★松岡 宏明, 和田 健一

## 《授業の概要》

領域「表現」の中の「造形表現」及び「図画工作科」の指導実践に必要な造形的な思考力・判断力・表現力を高め、背景にある知識や技能を身につけるとともに、自己の中に美術（造形、図画工作）を愛好する心情を養う。

## 《学生の到達目標》

造形活動（「造形遊び」と「造形表現」〈絵や立体、工作〉及びそれらと一体的に並行する「鑑賞活動」）について実際に取り組むことを通して（様々な材料や用具、技法を使って、創造的に発想したり、構想を練ったり、表現・鑑賞したり）、指導実践に必要な造形的思考力、知識・技能を身に付ける。また、グループにおける表現・鑑賞活動を通して、造形表現・図画工作科指導において必要な、他者の表現を受容、共感し、それに対する豊かな反応力を身につけるとともに、美術することの喜びを味わい合う。

## 《授業計画》

1. 造形的思考力及び知識・技能
2. 造形的思考力・知識・技能の習得と指導（材料からの造形遊びと立体）〈粘土〉
3. 造形的思考力・知識・技能の習得と評価（材料からの造形遊びと立体）〈粘土〉
4. 造形的思考力・知識・技能の習得と指導（材料からの造形遊びと立体）〈木〉
5. 造形的思考力・知識・技能の習得と評価（材料からの造形遊びと立体）〈木〉
6. 造形的思考力・知識・技能の習得と指導（材料からの造形遊びと工作）〈紙〉
7. 造形的思考力・知識・技能の習得と評価（材料からの造形遊びと工作）〈紙〉
8. 造形的思考力・知識・技能の習得と指導・評価（行為からの造形遊びと絵）〈パス等〉
9. 造形的思考力・知識・技能の習得と指導（行為からの造形遊びと絵）〈絵の具等〉
10. 造形的思考力・知識・技能の習得と評価（行為からの造形遊びと絵）〈絵の具等〉
11. 造形的思考力・知識・技能の習得の指導・評価（行為からの造形遊びと絵）〈ローラー〉
12. 造形的思考力・知識・技能の習得と指導（行為からの造形遊びと絵）〈版画〉
13. 造形的思考力・知識・技能の習得と評価（行為からの造形遊びと絵）〈版画〉
14. 造形的思考力・知識・技能の習得と指導（鑑賞）
15. 造形的思考力・知識・技能の習得と評価（鑑賞）

## 《成績評価の基準・方法》

評価・評定については、次の4項目を基に総合的に行う。振り返りノート（30%）、制作・発表・鑑賞（30%）、レポート（20%）、授業ノート（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・松岡宏明「子供の世界 子供の造形」三元社

## 《参考書》

・厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館・内閣府「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館・文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」日本文教出版

## 《事前・事後学習》

事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ノートの整理を毎回行うこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、執筆すること。レポートは、返却された後、修正を行い、今後の学びに生かすこと。授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次回までに完成させること。

# 健康教育

1年次  
2単位（講義）  
資格 保○ 幼○ 小○  
担当 ★仲山 正志

## 《授業の概要》

少子時代である現代において、子どもを取り巻く様々な要因が子どもを守ることにつながっていない状況があります。子どもの健全な成長のためにどのような生活環境が必要かについて考えます。また、ライフスキル教育（意思決定や対人関係に関わる課題対処能力の育成）について修学します。

## 《学生の到達目標》

子どもの健康、発育発達に関する基礎的な知識を身に付け、実践に結びつけることができること。  
子どもの健全な発育成長における要因について理解できること。

## 《授業計画》

1. 本講義の目的と意義、授業の進め方
2. 現代の子どもの健康について
3. 子どもの生活リズム
4. 子どもの食育
5. 子どもの体力・運動能力の現状
6. 子どもを取り巻く諸問題（グループワーク）
7. ヘルスプロモーションについて
8. 健康行動理論
9. ライフスキル教育とは
10. ライフスキル教育 自他の自尊心の育成
11. ヘルスリテラシーについて
12. ヘルスリテラシーの活用
13. 健康教育のまとめ（発表）
14. 生涯教育の課題（グループワーク）
15. 授業全体のまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

毎時の授業内容確認レポート（60%）、課題レポート（40%）を総合的に評価します。両者ともに、体育講義における基礎的事項についての理解、そしてそれを論述できるかを評価の観点とします。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

日常的に子どもの諸問題について情報を得るように努めてください。その課題についてどう対応すればよいのかという問題意識をもって授業に臨んでください。

# 体育科指導法

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★依谷 好一

## 《授業の概要》

学習指導要領改訂の背景および改訂された学習指導要領のポイントについて講義し、小学校体育科の目標・内容の系統性や発展性についての理解を図る。また、学習指導内容論や方法論(教材づくり・ICTの活用・学習指導過程・学習指導形態等)を講義を通して学び、体育授業への取り上げ方を身に付ける。さらに、個別運動領域の中から、学習指導案を作成し、教材内容、教材づくり、指導計画、学習評価のあり方を実践的に学ぶ。

## 《学生の到達目標》

小学校体育科の目標および内容を理解するとともに、体育授業の内容論や方法論(教材づくり・ICTの活用・学習指導過程・学習指導形態等)についての基本的な考え方を学び、児童の学習の実際や様々な学習指導方法に基づいた授業づくりと学習評価ができる実践的な学びを深める。

## 《授業計画》

1. 学習指導要領改訂の背景
2. 学習指導要領に示されている体育科の目標とその内容Ⅰ
3. 学習指導要領に示されている体育科の目標とその内容Ⅱ
4. 体育科の学習指導方法論
5. 教材・教具の開発、ICT等の活用Ⅰ
6. 教材・教具の開発、ICT等の活用Ⅱ
7. 授業映像の視聴Ⅰ
8. 授業映像の視聴Ⅱ
9. 体育科学習指導案Ⅰ（低学年）
10. 体育科学習指導案Ⅱ（中学年）
11. 体育科学習指導案Ⅲ（高学年）
12. 授業発表Ⅰ
13. 授業発表Ⅱ（振り返り）
14. 授業発表Ⅲ(授業改善)
15. 小・中・高等学校の連携と小学校の役割およびまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の授業の最後に提出する授業ノート（60％）講義まとめの総括レポート(40%)

## 《授業で使用する教科書》

・「小学校学習指導要領体育編(平成29年告示)」東洋館出版社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習は、小学校学習指導要領体育編(平成29年告示)の改訂の経緯および体育科改訂の趣旨、体育科改訂の要旨を読んでおくこと。事後学習は、各学年の体育科の内容をふまえ、例示の教材を使って学習指導案の作成に取り組むこと。

# 総合基礎演習Ⅰ

1 年次  
2 単位（演習）  
資格 なし  
担当 深田 直子,★宮崎 大樹,稲垣 由香里

## 《授業の概要》

初年次教育という位置づけで、スタディスキルやアカデミックスキルの獲得を意識した展開を行う。また、保育士養成および教員養成として1700時間プログラムを実施している本学の学びの体制の全体像を把握することや、コミュニケーション能力を培う協働的な学びや思考方法を、遊びの実践を通して学ぶことを中心として行う。また、読書に対する興味関心が広がるよう、特に「読む」活動を意識し、継続的な読書活動を展開する。

## 《学生の到達目標》

大学で学ぶということについての基礎的な学習から、基本的な学習姿勢や態度を培い、保育士や幼稚園教諭・小学校教諭の職務について必要となる知識や技能を包括的に獲得する。遊びの実践を通して、社会人基礎力や協働性などを身につける。また、読書活動を通して、多方面から物事を考える視点や力を養う。

## 《授業計画》

1. 大学での「学び」について
2. 大学生活、倫理感について
3. 実習の意義（保育士・教員養成校として）
4. 文献検索の方法や図書館の活用・利用方法（1）
5. 文献検索の方法や図書館の活用・利用方法（2）
6. 文献検索の方法や図書館の活用・利用方法（3）
7. 小論文およびレポート作成の方法（1）
8. 小論文およびレポート作成の方法（2）
9. 小論文およびレポート作成の方法（3）
10. 読書活動に関わる取組み（1）
11. 読書活動に関わる取組み（2）
12. 読書活動に関わる取組み（3）
13. 情報処理や通信における基礎技術
14. 音楽鑑賞を通じた感情や情緒の育み
15. 防犯教育に関する基礎知識
16. 遊びの提供と保育実践の計画（1）
17. 遊びの提供と保育実践の計画（2）
18. 遊びの提供と保育実践の計画（3）
19. 遊びの提供と保育実践の観察（1）
20. 遊びの提供と保育実践の観察（2）
21. 遊びの提供と保育実践の観察（3）
22. 遊びの提供と保育実践の振り返り（1）
23. 遊びの提供と保育実践の振り返り（2）
24. 遊びの提供と保育実践の振り返り（3）
25. 遊びの提供と保育実践の評価（1）
26. 遊びの提供と保育実践の評価（2）
27. 遊びの提供と保育実践の評価（3）
28. 読書活動に関わる取組みの成果報告
29. 読書活動に関わる取組みの発表会
30. 全体総括

## 《成績評価の基準・方法》

遊びの実践にかかわる取組み（40％）、遊びの実践にかかわるレポート（20％）、文献検索の方法にかかわるレポートなど授業で課された提出物（40％）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：前時の学習の振り返りや、予習を行うこと。事後学習：授業で示された課題に向き合うことや、問題・レポートについて積極的に取り組むこと。

# 特別支援教育総合演習

1年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★高田 昭夫

## 《授業の概要》

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できることを目指す。その上で、特別支援教育の現状・理念と教育制度を知り、障がい児・者の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育の本質及び目標と今日的課題について紹介する。また、障がいのある子どもの発達の基本原則、発達過程、教育課程、指導の原理と方法、早期発見の取り組み等について、自我発達の観点を踏まえ概説する。

## 《学生の到達目標》

障がいのある幼児の保育や児童・生徒の教育に携わる人材として必要となる基礎的・基本的な知識・理解を身につけ、特別支援教育に意欲的に取り組もうとする態度を養う。

## 《授業計画》

1. 障害の概念と特別支援教育の対象となる子ども
2. 特別支援教育制度の変遷
3. 特別支援教育の理念と現状
4. 人間の尊厳性と特別支援教育
5. こどもの発達の捉え方
6. 発達障害を起こす要因、及び発達障害のある子どもの対応
7. 障害の早期発見・早期対応の取り組み
8. 障害のある子どもの発達の基本原理
9. 子どもの発達過程
10. 子どもの自我発達
11. 障害の受容の問題
12. 特別支援教育における教育課程の特徴
13. ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
14. 特別支援教育における合理的配慮
15. 総括・まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み・討議への参加状況40%、レポート提出60%によって総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

アクティブラーニングを多くに取り入れた講義形態による学び合いで実施する。より学びを深めるために事前準備、授業時の他者との交流、授業後の振り返り、自己評価が重要である。



# 児童保育学科 2年次



# 人間論

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★野嶋 敏一

## 《授業の概要》

「人間とは何か？」という問いかけは、古来より繰り返し考えられてきた命題である。とりわけ、価値観が多様化し、人間を取り巻く事象が複雑化する現代社会では、その「答え」を見出すことは容易ではない。こうした問題を基盤に人間としての「生き方」「心」「人との関係」を通して教育・保育の側面から探る。教育や保育の分野で、先人たちが残した業績、人となりや言葉を通して教育・保育者としての魅力や面白さの一端に触れ、教職で働くことへの期待を醸成するとともに、自らを内省し「自分探し」を行う。

## 《学生の到達目標》

○受講者一人一人が「人間とは何か？」という命題に対して各自の「答え」を見出し、実践に移す方法を提示することができるようになる。  
○先人たちの業績などから教育・保育者としての「在り方」を学び、教職で働くことへの期待を持つことができるようになる。  
○各自の内省と照らし合わせ、教育・保育者としての「在り方」を自分自身のこととして考えることができるようになる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 影響を受けた人
3. 「優しさ」を考える①
4. 「優しさ」を考える②
5. 先人に学ぶ①
6. 先人に学ぶ②
7. 先人に学ぶ③
8. 先人に学ぶ④
9. 教育・保育者としての「在り方」
10. 心に残る言葉①
11. 心に残る言葉②
12. 「利他」を考える
13. ワーク①
14. ワーク②
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

各授業内での課題提出状況40%、各授業内での課題の内容及び理解度60%。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：授業で提示した課題に取り組む。事後学習：各授業のリフレクション及び、全体を通した学びから本科自履修以降の「各実習」での実践につなげる。

# フランス語

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 永井 道子, 杉本 里栄

## 《授業の概要》

EUの中核をなすフランス共和国の言語を学び、言葉を通じてフランスの文化、日常生活、社会事情を考察することにより異文化への理解を深める。フランスという国の多様性を知り、視野を広げること、近い将来フランス語話者7億人という時代に対応すべく、基礎日常会話の習得を目指す。

## 《学生の到達目標》

学生が語彙や知識を豊かにし、発音強化により、日常のコミュニケーション力をつけることを目指す。課題をこなすだけでなく、各自が興味を持ったテーマを絞り考察したことをまとめる。

## 《授業計画》

1. ヨーロッパの中のフランス共和国
2. フランス語とは；英語との比較を交えて
3. 基礎発音
4. 挨拶、自己紹介
5. 身分、職業、国籍の表現
6. 数字を学び、年齢を言う
7. カフェで注文
8. 家族を紹介する
9. マルシェで買い物
10. 時刻の表現
11. 季節、天候の表現
12. フランスの世界遺産
13. パリ散策；旅会話
14. 地方への旅；旅会話
15. 総括
16. 前期の復習
17. 日常会話、基本表現の質疑応答
18. フランスの子どもの歌を覚えて、振り付ける
19. モード用語とファッション
20. フランス映画にみる表現
21. 食文化；ワイン、チーズ
22. 食文化；フランス料理
23. 食文化；フランス菓子
24. バカンス；海へ、山へ
25. 伝統行事に関連する表現
26. 感情表現；ジェスチャーを交えて
27. フランスの人気スポーツ、ラグビー？サッカー？
28. ホームパーティーを楽しむ；日本紹介
29. 総復習
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

学期末試験、レポート、課題提出80%、小テスト20%

## 《授業で使用する教科書》

・小谷奈津子、藤井宏尚「キーフレーズで学ぶフランス語」三修社

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：普段からフランスに関するニュースや言葉に注目し、興味をひかれた言葉は調べてみる。  
事後学習：授業で習った表現は、音声ダウンロードを聴きながら繰り返し声にだしてみる。

# 韓国語

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 韓 寧爛

## 《授業の概要》

今日、日本と韓国との交流は、政治・経済だけでなくとどまらず、多方面にわたって多様化している。また、交流の多様化に伴って、様々な方面から韓国語学習に対するニーズが高まっている。本得講義では、多様化した韓国語のニーズにこたえるべく、しっかりとした韓国語基礎の習得を目指す。単語の習得、文の組み立て能力に重点を置いて講義を進めていく。さらに挨拶表現の異同等を通して、隣国のコミュニケーションスタイル、発想方法等にも触れ、異言語を学ぶ楽しさとその言語学習を通じて異文化を理解できるグローバルな感覚を味わってほしいと願っている。

## 《学生の到達目標》

1. 簡単な文の「読み・書き」が出来る。
2. 初級（5級）レベルの限られた単語を使い簡単なコミュニケーションと自己紹介が出来るようになる。
3. 初級レベルの単語と表現や韓国文化紹介をもとにして、多様な韓国コンテンツの基本的な内容が理解できるようになる。

## 《授業計画》

1. ハングルの歴史と組み合わせと韓国語について/母音字 1
2. 子音字 1ー平音 1（初声） / 平音 1（終声）
3. 母音字 2 / 母音字 3
4. 子音字 2ー平音 2（初声） / 激音（初声）
5. 子音字 3ー濃音（初声） / 濃音（終声）
6. パッチム（終声）
7. 発音規則
8. 日本語のハングル表記 / 分かち書き
9. 教室でよく使う表現 / 挨拶
10. 文字と発音のおさらい
11. 第1課ー丁寧語尾 「-이에요/-예요（一です）」
12. 第1課ー助詞 「-은/-는（一は）」
13. 第2課ーこれは何ですか？ー指示詞 「이, 그, 저」
14. 第2課ー助詞 「-이/-가（一が）」 / 助詞 「-만（だけ、のみ）」
15. おさらい①ーブチ会話
16. 韓国文化①ーハングルの日について
17. 第3課①ー存在詞 「있어요, 없어요」
18. 第3課②ー 「습니다/-습니다（一です/一ます）」ー합니다体
19. 第4課ーいくらですかー漢数詞
20. 第5課①ーモツアレラチーズドッグを2つくださいー固有数詞
21. 第5課②ー助数詞 / 助詞 「-을/-를（を）」
22. 第6課①ー私たち今日はどこに行きますかー 「-아요/-어요」
23. 第6課②ー順序、並列 「-고（一して、一くて、一で）」
24. おさらい②ー自己紹介をしてみましょう。
25. 第7課①ー木曜日はスジさんに会いませんー用言の否定形①②
26. 第7課②ー年、月、曜日 / 「-네요（一ますね、一ですね）」
27. 第8課①ーどこで韓国語を学びましたかー過去形
28. 第8課②ー原因、理由 「-아서/-어서」 / 「으」不規則活用
29. 第9課ー梨泰院に行きたいですー願望 「-고 싶어요（一したいです）」
30. おさらい③ーしたいことについて話してみましょう。

## 《成績評価の基準・方法》

以下の項目により判断します。  
(1)小テスト (50%)  
(2)課題 (20%)  
(3)授業への取り組み (30%)

## 《授業で使用する教科書》

・朴 恩珠、森 類臣、権 世美「꼭꼭 자라네(ぐんぐん伸びる)韓国語 初級」白帝社

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

外国語習得という側面からすると、日頃韓国語と接しているということが望ましい。楽しい学習の観点から考えても、少なくともその日の学習項目や単語を自分のものにするという学習後の作業は求められる。

# 子育て支援

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 丸目 満弓

## 《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎を学びつつ、保育の専門性を背景とし、保護者に対する子育て支援の理論・意義・機能について理解する。それらをふまえた上で、保育士が行う子育て支援について、さまざまな場面や対象に即した行動見本の提示、相談助言、情報の提供など、保育相談支援の内容及び方法、技術を中心に実践事例等を通して具体的に理解する。さらに事例分析を通して子育て支援に関する相談援助や個別支援計画についての理解を深める。

## 《学生の到達目標》

1. 保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）を行う際の基本的視点や姿勢を身につける
2. 保育相談支援を行う際に必要となる方法を身につける
3. 保育相談支援の具体的な支援がイメージできる
4. 保育士の専門性を活かした相談支援のあり方を考えることができる

## 《授業計画》

1. オリエンテーション ー子どもの保育とともに行う保護者の支援とはー
2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
4. 子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握
6. 支援の計画と環境の構成
7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8. 職員間の連携・協働および社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
9. 保育所等における支援
10. 地域の子育て家庭に対する支援
11. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
12. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
13. 子ども虐待の予防と対応・要保護児童等の家庭に対する支援
14. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

試験(40%)と小レポートなど授業への取り組み(60%)を総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・立花直樹・安田誠人監修、渡邊慶一・河野清志・丸目満弓・明柴聡史編「子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」」晃洋書房

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

予習：次回の授業に向けたキーワードやテーマを伝えるので、事前に調べたり考えをまとめてくること。  
復習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめてくる。

# 子どもの保健

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 阿川 勇太

## 《授業の概要》

子どもの健全な育成には、単に子どもの身体と心の発達のみならず、子どもを取り巻く環境を理解することも求められる。本講義では、これらの理解のために、身体の構造および諸機能の発達だけでなく、現代社会における子どもの健康への影響要因についても学習する。そのうえで、子どもの心身の健康状態とその把握や対応についての知識を身に付ける。また適宜、事例に基づくグループワークやICTを活用した双方向のやり取り、ディベートを実施し、理論と実践を融合させより深い学びを目指す。  
\*この授業では携帯もしくはタブレットを使用しますので、どちらかを持参してください。

## 《学生の到達目標》

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション—子どもの心身の健康と保健の意義
2. 健康の概念と健康指標
3. 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
4. 地域における保健活動と子ども虐待防止—事例に基づくグループワーク含む—
5. 子どもの身体発育や運動機能の発達と保健—事例に基づくグループワーク含む—
6. 子どもの生理機能の発達と保健—事例に基づくグループワーク含む—
7. 子どもの生理機能の発達と保健—事例に基づくグループワーク—
8. 子どもの心身の健康状態とその把握（1）健康状態の観察と心身の不調等の早期発見
9. 子どもの心身の健康状態とその把握（2）発育・発達の把握と健康診断
10. 子どもの心身の健康状態とその把握（3）保護者との情報共有—ロールプレイング—
11. 子どもの疾病の予防及び適切な対応（1）主な疾病の特徴
12. 子どもの疾病の予防及び適切な対応（2）子どもの疾病の予防と適切な対応
13. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
14. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題—ディベート—
15. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題—発表—、授業総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業内の取り組み（ディスカッション、ディベートへの参加）（20%）、ディベートにおけるピア評価（20%）、ディベートの成果物（40%）、最終レポート（20%）によって総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：次回授業の内容について事前提示するので、各自用語等を調べておくこと。ディベートについては自分達か相手に対峙する際に必要となる資料を集めて考えを深めておくこと。事後学習：毎回の授業内で配布された資料を参考にしてその復習を行い、知識の定着を図ること。

# 子どもの食と栄養

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 大杉 加菜子

## 《授業の概要》

近年、子どもを取り巻く食環境は大きく変化し、肥満や偏食など食生活に関する問題も多い。子どもが健やかに育つために、正しい生活習慣と成長過程に合った栄養について理解し、関連する基礎知識、食育の意義、食を通して子どもの発育・発達支援を学ぶ。さらに、家庭や児童福祉施設の食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学ぶ。

## 《学生の到達目標》

子どもの発達と食生活の特徴、栄養と代謝、食品、食の安全性についての基礎を理解する。保育現場で子どもの健康と食生活を支援し、食育を通して子どもに食の意義を伝える知識を身につける。  
授業を通して保育者としての自分自身の食生活習慣を見つめ、より良い食生活へのレベルアップを図る。  
また多様化する食生活における食物アレルギーや、新しい食材・調理法などの知識を身に付けることで保育のプロとして子どもたちの安心・安全を守る。

## 《授業計画》

1. 子どもの健康と食生活の意義
2. 子どもの発達・発育と食生活 ①身体発育と栄養
3. 子どもの発達・発育と食生活 ②食べる機能と栄養
4. 栄養に関する基礎知識 ①栄養の働きと重要性 1
5. 栄養に関する基礎知識 ②栄養の働きと重要性 2
6. 栄養に関する基礎知識 ③食事摂取基準の意義と活用
7. 献立作成・調理の基本 ①食品の基礎知識 1
8. 献立作成・調理の基本 ②食品の基礎知識 2
9. 食品の安全性 ①食中毒
10. 食品の安全性 ②食品添加物
11. 食品の安全性 ③食品表示
12. 演習課題
13. 妊娠授乳期の食生活 ①妊娠経過と栄養と食生活
14. 妊娠授乳期の食生活 ②妊娠のトラブルと母乳分泌
15. 前期まとめ
16. 乳児期の食生活 ①乳児期の心身の特徴と食生活
17. 乳児期の食生活 ②乳児栄養と調乳
18. 乳児期の食生活 ③離乳の意義
19. 乳児期の食生活 ④栄養の問題点と健康への対応
20. 演習課題
21. 幼児期の食生活 ①幼児期の心身の特徴と食生活
22. 幼児期の食生活 ②幼児期の食生活の特徴と食生活
23. 幼児期の食生活 ③幼児期の間食の意義について考える
24. 演習課題
25. 子どもの発育・発達と食生活（学童期・思春期）
26. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
27. 食物アレルギーのある子どもへの対応
28. 食育の基本と内容
29. 演習課題
30. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験 60% 提出課題 40%

## 《授業で使用する教科書》

・堤ちはる、土井正子「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」萌文書林

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前：テキストをよく読み、積極的に学習し、問題点などをまとめておこう。

事後：学習した内容をもとに、日常の食生活を見直し、消費者として食に対する意識を高め、子どもたちにどう伝えるのが工夫しよう。

# 保育の計画と評価

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★青木 一永

## 《授業の概要》

保育における計画の意義と必要性を理解し、保育カリキュラムの構造や保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。また、保育の計画の編成、子ども理解の方法等について、具体的資料や事例等を通して理解する。

## 《学生の到達目標》

この講義では、子どもに即した保育の計画を立案するため、下記の3点について理解し、スキルを身につけることを目的とする。

- ①保育の計画の意義や作成方法についての基礎理解
- ②子ども理解や発達過程を踏まえた保育の計画作成の実践的理解
- ③計画・実践・評価・改善の過程の全体構造の理解と見直し

## 《授業計画》

1. オリエンテーション 保育の計画と評価の全体像
2. 保育所保育指針等の理解とカリキュラムの意義①
3. 保育所保育指針等の理解とカリキュラムの意義② アクティブラーニングを通して
4. 保育理念・方針・全体的な計画等の作成① アクティブラーニングを通して
5. 保育理念・方針・全体的な計画等の作成② アクティブラーニングを通して
6. 保育の実際に基づく保育の計画の総合的な理解
7. 保育の計画づくりのポイントと実践①
8. 保育の計画づくりのポイントと実践② アクティブラーニングを通して
9. 保育の計画づくりにつながる子ども理解 アクティブラーニングを通して
10. 保育現場における指導計画の実際
11. 保育実習に向けた指導計画の作成①
12. 保育実習に向けた指導計画の作成② アクティブラーニングを通して
13. さまざまな指導計画やの種類と実際（保育所児童保育要録含む）
14. 保育の評価とカリキュラムマネジメント
15. 振り返りとまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業毎のリアクションペーパーでの学びの参加状況（30%）  
授業を通じて作成する指導計画（40%）  
課題レポートにおける理解度（30%）を総合して評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針（平成29年告示）」 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

授業前、1時間程度前回の授業内での復習と授業で提示した箇所の予習。  
毎授業後、1時間程度学習内容や資料を見直しをしてまとめておくこと。  
また、指定のあった際に、指導計画を作成すること。

# 幼児と人間関係

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 谷口 康祐

## 《授業の概要》

現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

## 《学生の到達目標》

- ①幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
- ②幼児期の人間関係の発達について理解する。
- ③保育現場における関係発達論的視点について理解する。

## 《授業計画》

1. 現代社会と幼児の人間関係
2. 人とのかかわりを培う保育の基本
3. 自立心を育む保育
4. 自他の気持ちに気づく援助のあり方
5. 自分の気持ちを自己調整する力を育む援助のあり方
6. きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助
7. ルールのある遊びと援助
8. 個と集団の育ちを考える
9. 共同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える
10. 保育者との関係づくりと地域との連携（1）課題を抱えた子供とその保護者の理解と援助
11. 保育者との関係づくりと地域との連携（2）課題を抱えた保護者とその子どもの理解と援助
12. 保育者同士の人間関係
13. 多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり（1）幼少の交流活動を考える
14. 多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり（2）小学校以降の生活や学習で生かされ
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業内での課題：50%  
期末試験またはレポート：50%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「保育所保育指針（解説）」・「幼稚園教育要領（解説）」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（解説）」

## 《事前・事後学習》

事前学習：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をよく読んでおくこと。  
事後学習：毎週のインターンシップ等において、子どもの年齢・発達段階、家庭環境、生活経験など人とのかかわり方の違いや特徴についてよく観察すること。集団保育の方法についてもよく観察し、不明点があれば、現場の保育者に質問してみる。

# 幼児と言葉

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 古茂田 貴子

## 《授業の概要》

領域「言葉」の指導の基礎となる、幼児が豊かなことばや表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎知識を身につける。  
幼児のことばを育て、ことばに対する感興を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。

## 《学生の到達目標》

- ①子ども達が自分なりのことばで積極的に話すことを促すための保育者としての役割を理解し、保育内で活かす視点を持つ
- ②保育者は子ども達の使うことばのお手本となることを自覚し、日々使うことばについて精査する視点を持つ
- ③子ども達の語彙を豊かにし、ことばの感性を磨く保育活動についての意義や方法について、知識を増やし、深める

## 《授業計画》

1. イントロダクション
2. 子どもに話すことを促す保育者の役割Ⅰ（聞くということ）
3. 子どもに話すこと促す保育者の役割Ⅱ（ことばがけ）
4. 美しいことばについて
5. 子どものことばを促す遊びについて（わらべうた遊び）
6. ことば遊びⅠ（しりとり）
7. ことば遊びⅡ（なぞなぞ・ことばのかくれんぼ）
8. ことば遊びⅢ（回文・倒語・変身ことば）
9. ことば遊びⅣ（数え歌・絵描きうた・早口ことば）
10. 短いことばに宿る力Ⅰ（オノマトペ）
11. 短いことばに宿る力Ⅱ（魔法のことば・おまじない）
12. 短いことばに宿る力Ⅲ（ことわざ）
13. 詩の魅力Ⅰ 幼心を知る①
14. 詩の魅力Ⅱ 幼心を知る②
15. 詩の魅力Ⅲ 童謡の世界

## 《成績評価の基準・方法》

授業内での課題や授業での発表（60%）、レポートや自作教材等提出物（40%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

子ども達のことばを豊かにするための保育教材について意識を深め、体験を積んで頂きたいと思っております。そのために、授業内での課題や発表に真摯に取り組んで頂きたいと思っております。また、レポートや自作教材等の課題に対しても意欲的に取り組んでください。

# 健康領域指導法Ⅰ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 清田 岳臣

## 《授業の概要》

本演習では、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導方法について、グループワークおよび模擬保育等を通じて身に付けることを目的とする。以下の2点について理解し、身に付けることを目指す：（1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいおよび内容を理解する。（2）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を模擬授業等を通じて身に付けさせる。

## 《学生の到達目標》

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導方法について身に付ける。以下の2点について理解し、身に付けることを目標とする：（1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいおよび内容を理解する。（2）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

## 《授業計画》

1. 健康観と保育における健康①（グループワーク）
2. 健康観と保育における健康②（発表および相互評価）
3. 乳幼児の生活習慣の問題点（食事）①（グループワーク・課題設定）
4. 乳幼児の生活習慣の問題点（食事）②（模擬保育および相互評価）
5. 乳幼児の生活習慣の問題点（睡眠）①（グループワーク・課題設定）
6. 乳幼児の生活習慣の問題点（睡眠）②（模擬保育および相互評価）
7. 乳幼児の生活習慣の問題点（運動）①（グループワーク・課題設定）
8. 乳幼児の生活習慣の問題点（運動）②（模擬保育および相互評価）
9. 乳幼児への安全指導①（グループワーク・課題設定）
10. 乳幼児への安全指導②（模擬保育および相互評価）
11. 運動遊び指導の要点
12. 運動遊びの指導（実践：個人遊び・グループワーク）
13. 運動遊びの指導（実践：集団遊び・グループワーク）
14. 運動遊びの指導（評価法・グループワーク）
15. 運動遊びの指導（模擬保育および相互評価）

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み状況(30%)、グループワーク、模擬保育後のレポートによる評価(40%)、最終レポート(30%)とする。

## 《授業で使用する教科書》

・「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）」

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

【事前学習】本講義の内容を深く理解するために上記の書籍を読むこと。【事後学習】議題について毎時間配布するプリントを参考に各自調べたり、考えたりして確認すること。

# 人間関係領域指導法 I

2 年次  
1 単位 (演習)  
資格 保○ 幼○  
担当 末次 有加

## 《授業の概要》

この授業では、領域「人間関係」についての理解を実践的に深めていきます。領域「人間関係」は、「①自分の力で行動し達成することの充実感を味わうこと、②人と関わることの楽しさや大切さを感じたり、あるいは協同的に人と関わることを通じてより豊かな経験に繋がることを実感すること、③ルールや決まりを守ろうとする態度を培うこと」を養う領域です。これらを日々の生活や遊びを通して育成することが重要です。授業内では、事例の検討や映像の視聴、実際の遊びの活動を通して、子どもの発達に応じたねらい・内容の理解を深めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための保育について具体的に構想し、実践する方法について考えます。

## 《学生の到達目標》

- ①領域「人間関係」のねらい・内容、内容の取扱いについて理解する。
- ②自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な幼児が経験し身に付けていくべき活動内容と指導上の留意点、評価の考え方について理解する。
- ③具体的な保育を想定した指導案を立案する。
- ④模擬保育の実践と相互評価、振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。

## 《授業計画》

1. 現代社会と子どもを取り巻く今日的課題
2. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」(ねらい・内容・内容の取扱いと資質・能力の育成)
3. 遊びを通じた子どもの育ち(グループワーク)
4. 遊びの中の仲間との関わり(グループワーク)
5. 遊びの中で仲間と楽しさやイメージを共有する(グループワーク)
6. 子どもの主体性を育む仲間づくり・集団づくり(1) 実践事例から(ディスカッション)
7. 子どもの主体性を育む仲間づくり・集団づくり(2) 保育者の援助やかわりについて
8. 遊びの指導と援助について(指導案の立案・作成)(グループワーク)
9. 仲間との遊びにおける指導と援助(1) 模擬保育の実践(乳児の遊び)
10. 仲間との遊びの指導と援助(2) 模擬保育の実践(1歳以上3歳未満児の遊び)
11. 集団遊びの指導と援助(1) 模擬保育の実践(3歳以上児の遊び)
12. 集団遊びの指導と援助(2) 模擬保育の実践(異年齢児の遊び)
13. 多様性を認め合う保育・幼児教育(1) 多文化保育について(ICTを活用した実践)
14. 多様性を認め合う保育・幼児教育(2) 性別・多様性について
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

各種課題(80%) + 最終レポート(20%) = 100%

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説〈平成30年3月〉」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉」フレーベル館

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習: 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をよく読んでおくこと。事後学習: 毎週のインターンシップ等において、子どもの年齢・発達段階、家庭環境、生活経験など人とのかわり方の違いや特徴についてよく観察すること。集団保育の方法についてもよく観察し、不明点があれば、現場の保育者に質問していただくこと。

# 言葉領域指導法 I

2 年次  
1 単位 (演習)  
資格 保○ 幼○  
担当 古茂田 貴子

## 《授業の概要》

ことばは最も優れたコミュニケーションの道具の一つである。この講義では、ことばの大切さやことばの発達過程を学び、子どもたちが豊かな言葉を獲得するために保育者としてどのような援助や環境構成が必要かについて考える。

## 《学生の到達目標》

- ①幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「言葉」領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。
- ②子どものことばの発達過程を学び、ことばの面白さや大切さ、コミュニケーションの道具としての重要性に気づくことを通じて、子どものことばの発達をうながす環境構成や保育活動について考える力を養う。
- ③幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

## 《授業計画》

1. イントロダクション
2. 幼稚園教育要領 領域言葉について
3. 幼稚園教育要領 領域言葉(目標・ねらい)
4. 幼稚園教育要領 領域言葉(内容・内容の取扱い)
5. ことばの発達(0歳)
6. ことばの発達(1~2歳)
7. ことばの発達(3~4歳)
8. ことばの発達(5~6歳)
9. 幼児語・幼児音、文化としてのことば
10. 一次のことば・二次のことば
11. 文字教育及びその教材について・言語相対性理論
12. 聞くということについて
13. ことばげについて
14. 児童文化財と教材としての活用について(情報機器とその活用を含む)
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業の中で適宜提出する小レポート(40%)及び、授業内で行う学び確認テスト(60%)

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「保育所保育指針」

## 《事前・事後学習》

講義の学びを通して、ことばの豊かな発達を支える保育環境作りについて様々な興味や関心を高めて頂きたいと思います。そのために、前回の復習を必ず行った上で講義に臨むようにしてください。

# 表現領域指導法 I

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 深田 直子

## 《授業の概要》

乳幼児の発達の特徴を理解し、子どもにとって表現とは何か、保育の中ではどのような意味を持つのか、表現力を育てるとはどういうことなのかを基本に置き、実際の現場で行われている活動内容を実践しながら考察していく。それぞれのテーマで実践した内容は、ドキュメンテーションの形式でレポートとしてまとめていく。また、このドキュメンテーションを振り返ることで自己課題を見つけ実践力を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

- ・乳幼児の表現について総合的な理解を深める。
- ・乳幼児の発達過程を理解し指導計画を組み立てる力を身につける。
- ・実践に必要な基礎知識と技術および指導方法を身につける。

## 《授業計画》

1. 領域「表現」のねらいと内容：乳幼児の生活をイメージしながら遊びを通して理解する
2. 幼児の表現の発達の理解：描画活動を通して幼児の発達過程を学ぶ
3. 素材との対話① 素材の特性を生かして表現することを楽しみ、その指導方法を学ぶ
4. 素材との対話② 素材の特性を生かして表現することを楽しみ、その指導方法を学ぶ
5. 自然物との対話：自然物に対する理解を深め、その素材から表現遊びや表現方法を考える
6. 教材研究：視覚的教材の研究
7. 総合的な表現活動：指導案の作成
8. 総合的な表現活動① 音を聞いて、言葉を聞いて表現する
9. 総合的な表現活動② 言葉のイメージをもとに音を使い、造形遊びへとつなげていく
10. 総合的な表現活動③ 身近な楽器を使って総合的な表現遊びへとつなげていく
11. 総合的な表現活動④ 児童文化を題材として総合的な表現活動に取り組む
12. 研究発表：グループワークで制作したものを発表し、お互いの表現について学びあう
13. 活動の振り返りと指導方法の見直し
14. 現場での表現活動の事例研究から、表現活動における情報機器及び活用法についても触れる
15. 総括：保育の場における表現活動について考える

## 《成績評価の基準・方法》

全授業を通して学びの過程のドキュメンテーションを作成する。評価は全学びをまとめたドキュメンテーション（50%）、授業の最後に提出する小レポート（10%）、作品や発表内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

- ・「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前学習教科書を読んでおくこと。事後学習実践内容をレポートにしてまとめる。

# 表現領域指導法 II

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 深田 直子

## 《授業の概要》

幼児の表現活動について保育者としての視点を持ちながら実践に取り組んでいく。インターンシップなどの経験を活かしながら、演習課題に取り組む中で、現場での表現の指導方法についても理解を深めていく。また、遊びを通して行われていく側面を理解し、領域表現と他の領域の関係にも気づき、学びを深めながら幼児期の表現活動を支援するための知識や技能、表現力を総合的に身に付ける。

## 《学生の到達目標》

- ・保育内容「表現」について、乳幼児の発達過程を踏まえながら活動の内容や目的を理解する。
- ・乳幼児の表現活動について、基礎的な実技を繰り返すことで実践力を身につける。
- ・保育現場で行われている実践事例に取り組み、グループワークや模擬授業などで発表する中で自己の表現力や保育技術を身につける。

## 《授業計画》

1. 幼児教育の基本及び領域「表現」について、乳幼児の遊びと関連付けながら理解していく
2. 見立て遊びと表現：見立て遊びの意味を理解しながら実際に表現遊びを体験し理解する
3. ごっこ遊びと表現活動① 身体を使って表現する
4. ごっこ遊びと表現活動② 身体を使っての総合的な表現活動
5. ごっこ遊びと表現活動③ 身体表現と造形表現
6. 発表と振り返り
7. ごっこ遊びと造形活動① 身近な素材を使って表現する
8. ごっこ遊びと造形活動② 様々な道具を使って表現する
9. ごっこ遊びと造形活動③ 園行事とのつながりを考える
10. 作品の展示と鑑賞
11. 領域「環境」と表現活動：自然環境を利用した表現活動を考える
12. 模擬保育の計画：指導案の作成および準備
13. 模擬保育の準備：模擬保育に必要な環境の準備
14. 模擬保育の実践および振り返り
15. 全体の総括および振り返りと今後の展望：小学校の様々な教科との学びの連続性を考える

## 《成績評価の基準・方法》

全授業を通して学びの過程のドキュメンテーションを作成する。評価は全学びをまとめたドキュメンテーション（50%）、作品や発表内容（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

- ・「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前学習教科書を読んでおくこと。事後学習実践内容をレポートにしてまとめる。

# 乳児保育Ⅰ

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★高根 栄美

## 《授業の概要》

乳児保育（0歳児、1歳児、2歳児の保育）は、発達が進んでくる時期の子どもにとって、どのような環境を通して、どのような生活や遊びを豊かにしながら適切な援助をしていけばよいかについての理論的な学びを行う。  
また、その時期の子どもの保育の営みを支える子ども理解に基づく計画とその評価などについて理解を深める中で、乳児保育の専門性について考える。

## 《学生の到達目標》

- (1) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。
- (2) 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
- (3) 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
- (4) 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス、乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
2. 乳児保育の役割と機能、乳児保育における養護及び教育
3. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
4. 保育所における乳児保育
5. 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
6. 家庭的保育等における乳児保育
7. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
8. 3歳未満児の生活と環境の実際
9. 3歳未満児の遊びと環境の実際
10. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
11. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
12. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育における配慮
13. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
14. 乳児保育における連携・協働一職員間、保護者、自治体や地域の関係機関等
15. 総括 乳児保育の諸課題と実践

## 《成績評価の基準・方法》

指定の課題・ワークの取り組み状況と提出物(50%)、レポート(50%)とする。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館・志村聡子編著「はじめて学ぶ乳児保育 第三版」同文書院

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

- (1) 履修に際し、1年次で学んだ乳幼児の発達の諸相を確認しておくことが望ましい。
- (2) 指定の課題や学習内容の整理・まとめに時間外の取り組みが必要となる。
- (3) 日頃から積極的に3歳未満児を観察したり、授業で得た知識や保育技術をもって関わるようにする。

# 乳児保育Ⅱ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★高根 栄美

## 《授業の概要》

「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。3歳未満児の保育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解し、養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実際について具体的に学ぶ。また、乳児保育における計画の作成について理解する。  
乳児保育Ⅰで学んだことを、さらに具体的に実践的に学ぶために演習形式で授業を実施する。とくに、援助や配慮といった子どもへのかかわりの面、乳児期の遊びや体験を通して学ぶことの意味、発達を保障するための保育の計画などの実際をグループワークやアクティブラーニングで学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- (1) 3歳未満児の保育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。
- (2) 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
- (3) 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
- (4) 上記(1)から(3)をふまえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。

## 《授業計画》

1. 乳児保育の基本 (1) 子どもと保育士等との関係の重要性
2. 乳児保育の基本 (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
3. 乳児保育の基本 (3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち
4. 乳児保育の基本 (4) 子どもの体験と学びの芽生え
5. 乳児保育における子どもの保育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
6. 子どもの1日の生活の流れと保育の環境
7. 子どもの生活や遊びを支える環境の構成
8. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた生活と援助の実際
9. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
10. 子ども同士の関わりとその援助の実際
11. 乳児保育における配慮 (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
12. 乳児保育における配慮 (2) 集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮
13. 乳児保育における計画の実際 (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画
14. 乳児保育における計画の実際 (2) 個別的な指導計画と集団の指導計画
15. 総括 子ども主体である融合の保育

## 《成績評価の基準・方法》

指定の課題・ワークの取り組み状況と提出物(50%)、レポート(50%)とする。

## 《授業で使用する教科書》

・志村聡子 編著「はじめて学ぶ乳児保育 第三版」同文書院

## 《参考書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館・茶々保育園グループあすみ福祉会編「見る・考える・創りだす乳児保育 1・2 一養成校と保育室をつなぐ理論と実践」萌文書院

## 《事前・事後学習》

乳児保育に必要な知識や技術として、教材研究・作成、保育の計画・評価という流れを経験することで、実践的に理解する内容の科目である。よって、授業時間以外の学習（事前・事後学習）は、教材選定や実際の製作、練習、発表の準備などに時間を要する。個別の課題の詳細は授業内で示す。

# 社会的養護Ⅱ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 中條 薫

## 《授業の概要》

現代社会においては家族・親族関係の変化、都市化や核家族化、少子化が定着する中で、子どもへの養育力が低下している。その結果、子どもをとりまく環境が著しく悪化し、虐待等のさまざまな問題が起り社会的養護を必要とする児童が増加している。本講義では児童福祉施設で生活している要保護児童の現状からその背景を理解するとともに、保育士の役割と使命、養育の内容について具体的な事例を通して考察し、児童の権利擁護・専門的支援に必要な知識や技術の習得につなげる。

## 《学生の到達目標》

1. 社会的養護を必要とする子どもの理解、社会的養護施設の理解、事例を通して子どものさまざまな表出を理解する。
2. 家庭や保護者に代わって子どもの養育を実践する保育士に必要な知識や技術を習得する。

## 《授業計画》

1. 現代社会における子どもの状況
2. 社会的養護の必要性
3. 児童相談所の業務内容
4. 児童養護施設で生活する子ども達
5. 児童福祉施設の生活Ⅰ
6. 児童福祉施設の生活Ⅱ
7. 虐待を受けた心の傷（トラウマ）
8. 社会的養護における施設養護の理念と役割
9. 子どもの発達支援と心のケアについて
10. 子どものケース理解とアセスメントⅠ
11. 子どものケース理解とアセスメントⅡ
12. 生活における支援Ⅰ（アドミッションケア）
13. 生活における支援Ⅱ（子どもの成育歴の理解）
14. 生活における支援Ⅲ（基本的生活習慣）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への積極的な取り組み（出席状況、発言・発表、授業態度）等総合的に評価して行う。授業態度（20%）、演習課題への取り組み（20%）、授業総括（60%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

子どもの養育・教育に携わるためには、まず自分自身の生活の質を高めていかなければなりません。子ども達が憧れる保育士・教師になれるよう、今から日々の生活を見つめ直していきましょう。地域でどのような子育てが行われているか、子どもに関するさまざまなニュース等に関心を持ちましょう。

# 子ども家庭支援の心理学

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 要 正子

## 《授業の概要》

この授業は、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見を踏まえて家族・家庭についての学びを深めるものである。また、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。現代社会における保育者の役割は多様化し、家庭支援をめぐっても高度な専門性が求められている。そのため、この授業ではグループワークを通して人の生涯発達、家族・家庭の理解、子育て家庭の理解などを深める。

## 《学生の到達目標》

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 生涯発達（1）乳幼児期から学童期前期にかけての発達
3. 生涯発達（2）学童期後期から青年期にかけての発達
4. 生涯発達（3）成人期・老年期における発達
5. 家族・家庭の理解（1）家族・家庭の意義と機能
6. 家族・家庭の理解（2）親子関係・家族関係の理解
7. 家族・家庭の理解（3）子育ての経験と親としての育ち
8. 子育て家庭に関する現状と課題（1）子育てを取り巻く社会的状況
9. 子育て家庭に関する現状と課題（2）ライフコースと仕事・子育て
10. 子育て家庭に関する現状と課題（3）多様な家庭とその理解
11. 子育て家庭に関する現状と課題（4）特別な配慮を要する家庭
12. 子どもの精神保健とその課題（1）子どもの生活・生育環境とその影響
13. 子どもの精神保健とその課題（2）子どもの心の健康に関わる問題
14. 保育者として子どもと家庭を支援することの意義
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（50%）、グループワークの成果、レポート等提出物（50%）によって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・立花直樹 津田尚子監修「子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」」 晃洋書房

## 《参考書》

・「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」

## 《事前・事後学習》

事前学習：保育や教育を中心とした社会の動きなど時事問題に関心をもつこと。  
事後学習：授業での学びと実践との繋がり意識し、自らが果たす役割について考えること。

# 保育実習Ⅰ

2年次  
4単位（実習）  
資格 保○  
担当 末次 有加, 中條 薫, ★大方 美香, 井岡 瑞日, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

これまでの全ての教科の学びを基礎として、保育所（または、幼保連携型及び保育所型認定こども園）やその他の児童福祉施設の保育現場で、学外実習を行う。乳幼児・保育士（保育者）保育環境のことなどについて一人ひとりが体験を通して具体的に学ぶ。保育所やその他の児童福祉施設における養護と教育の一体性及び養護の実態である生活と遊びに参加し、乳幼児の実際を理解し、保育士（保育者）の責務や倫理を学び、求められる役割や機能を知る。

## 《学生の到達目標》

1. 保育所、児童福祉施設等の乳幼児と保育士（保育者）の一日の生活を理解することができる。  
2. 観察や乳幼児との関わりを通して子どもの発達や心情などの内面理解を深める。  
3. 保護者への支援や地域子育て支援など保育所、児童福祉施設等に求められている役割や機能について理解する。  
4. 保育の計画・実践・振り返り及び自己評価等について具体的に理解する。  
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

## 《授業計画》

1. 実習施設について理解する（施設）
2. 施設における支援の実態（1）受容し共感する養護的支援（子どもの生活と一日の流れ）
3. 施設における支援の実態（2）施設の役割と機能
4. 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録
5. 子どもの理解（2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解①
6. 子どもの理解（3）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解②
7. 施設における子どもの生活と環境（1）個別支援計画に基づく活動や援助
8. 施設における子どもの生活と環境（2）子どもの心身の状態に応じた生活と対応
9. 施設における子どもの生活と環境（3）子どもの健康と安全
10. 計画と記録（1）個別支援計画の理解と活用
11. 計画と記録（2）記録に基づく省察・自己評価
12. 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容
13. 専門職としての保育士の役割と倫理（2）職員間の役割分担や連携
14. 保育士の役割と職業倫理
15. 保育士としての自己課題の明確化
16. 実習施設について理解する（保育所または幼保連携型及び保育所型認定こども園）
17. 保育所の役割と機能（1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
18. 保育所の役割と機能（2）保育所保育指針に基づく保育の展開
19. 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録による理解
20. 子どもの理解（2）子どもの発達過程の理解
21. 子どもの理解（3）子どもへの援助や関わり
22. 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容
23. 保育内容・保育環境（2）子どもの発達過程に応じた保育内容
24. 保育内容・保育環境（3）子どもの生活や遊びと保育環境
25. 保育内容・保育環境（4）子どもの健康と安全
26. 保育の計画・観察・記録（1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解
27. 保育の計画・観察・記録（2）記録に基づく省察・自己評価
28. 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容
29. 専門職としての保育士の役割と職業倫理（2）職員間の役割分担や連携・協働
30. 専門職としての保育士の役割と職業倫理（3）保育士の役割と職業倫理

## 《成績評価の基準・方法》

児童福祉施設等(保育所以外)における実習の評価50%、および保育所実習の評価50%による総合評価。各実習の評価は、実習施設による実習評価60%、諸提出物（日誌等）20%、実習評価面談20%とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・大阪府社会福祉協議会児童施設部会「新版・児童福祉施設援助指針」・社会福祉法人全国社会福祉協議会全国乳児福祉協議会「改訂新版乳児院養育指針」・厚生労働省「保育所保育指針保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

授業前に事前学習課題として（保育教材の作成や研究、実習課題の設定、保育記録、環境図や環境構成について、指導案立案等）に取り組む。その課題は授業時に発表または使用し提出する。また、必要に応じてテキストの確認や資料等を配布し、学習の指示を行う。事後学習として学びを振り返る報告会を実施する。報告会では必ず参加学生への質問や学びを投げかけることにより、実習で得た学びや課題を学年全体で共有し合い多角的な視野を持つ学びとして理解できるように積極的に授業に参加する。

# 保育実習指導Ⅰ

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 末次 有加, 小西 由紀子, ★樋口 幸, 中條 薫, ★大方 美香, 井岡 瑞日, 稲垣 由香里, ★佐々本 清恵

## 《授業の概要》

本教科は保育所及びその他の児童福祉施設において行われる学外実習「保育実習Ⅰ」に向けた実習指導である。乳幼児・保育士（保育者）保育環境のことなどについて一人ひとりが体験を通して具体的に学ぶ。「保育所やその他の児童福祉施設における養護と教育の一体性及び養護の実際である生活と遊びに参加し、乳幼児の実際を理解し、保育士（保育者）の責務や倫理を学び、求められる役割や機能を知る」などの保育実習Ⅰの事前事後指導である。前期は、施設実習（児童福祉施設等(保育所以外)における実習)について、後期は主に、保育所実習（または幼保連携型認定こども園での実習）についての指導を行う。本授業を通して保育実習の事前準備、実習の成果、事後課題や今後の学習を明確にする。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実習の意義、目的を理解する。  
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。  
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。  
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。  
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

## 《授業計画》

1. 前期授業ガイダンスー保育実習全体の目的と概要、施設実習の事前・事後指導
2. 施設実習における提出資料の作成
3. 実習の内容と課題の明確化（1）ゲスト講師による講話 児童養護施設
4. 実習の内容と課題の明確化（2）ゲスト講師による講話 乳児院
5. 実習の内容と課題の明確化（3）ゲスト講師による講話 障害福祉施設
6. 実習の内容と課題の明確化（3）実習先について調べよう
7. 実習の内容と課題の明確化（4）実習課題を立てよう
8. 実習に際しての留意事項（1）子どもの人権と最善の利益の考慮
9. 実習に際しての留意事項（2）プライバシーの保護と守秘義務（倫理綱領）
10. 実習に際しての留意事項（3）実習生としての心構え、事前オリエンテーション
11. 実習の計画と記録（1）実習における計画と実践
12. 実習の計画と記録（2）実習における観察、記録及び評価
13. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（1）実習の総括と自己評価（評価面談）
14. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（2）実習の総括と実習報告（報告会）
15. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（3）課題の明確化（レポート作成）
16. 後期授業ガイダンスー保育所実習の事前・事後指導の流れについて
17. 保育所実習の目的と概要
18. 実習の計画と記録（1）実習における観察、記録、及び評価
19. 実習の計画と記録（2）実習における計画と実践
20. 実習の計画と記録（3）指導案の立案（教材研究）
21. 実習の計画と記録（4）指導案の作成
22. 模擬保育の実演（1）発表と相互評価
23. 模擬保育の実演（2）発表と相互評価
24. 模擬保育の実演（3）発表と相互評価
25. 保育所実習における提出資料の作成
26. 保育実習直前指導（1）実習の内容と自己課題の設定、実習生としての心構え
27. 保育実習直前指導（2）子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務
28. 保育実習直前指導（3）実習における子どもの発達、観察記録について
29. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（1）実習の総括と自己評価
30. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（2）課題の明確化（レポート作成）

## 《成績評価の基準・方法》

前期評価50%、および後期評価50%の総合評価とする。全ての回の出席を求める。学期毎の評価は、授業課題（60%）、および指定課題等の提出・達成状況（40%）により評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・大阪府社会福祉協議会児童施設部会「新版・児童福祉施設援助指針」・社会福祉法人全国社会福祉協議会全国乳児福祉協議会「改訂新版乳児院養育指針」・厚生労働省「保育所保育指針保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

授業前に事前学習課題として（保育教材の作成や研究、実習課題の設定、保育記録、環境図や環境構成について、指導案立案等）に取り組む。その課題は授業時に発表または使用し提出する。また、必要に応じてテキストの確認や資料等を配布し、学習の指示を行う。事後学習として学びを振り返る報告会を実施する。報告会では必ず参加学生への質問や学びを投げかけることにより、実習で得た学びや課題を学年全体で共有し合い多角的な視野を持つ学びとして理解できるように積極的に授業に参加する。

# 保育実践学習Ⅲ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○

担当 ★野嶋 敏一, ★木村 憲太郎, ★有福 淑子, 小西 由紀子,  
中根 佳江, ★宮前 桂子, ★大悟法 平, ★阿部 丘之亮

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅲは、保育所や幼稚園、こども園、小学校等でのインターンシップ現場における実習体験を基礎とする。実習を通して、現場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務に関する基礎的な理解を深めることを目指す。また昨年度の保育実践学習Ⅰ・Ⅱをふまえ、実習日誌等の記録や自ら問題意識をもつことの重要性を認識し、実践を通して学ぶ力を養う。なお、この授業はアクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育士やこども園、幼稚園、小学校教諭の職務への理解を深める。また保育・教育現場の諸課題について体感し考えることにより、こどもに関わる職の重要性や必要性を認識するとともに、保育・教育者としての基盤を構築する。

## 《授業計画》

1. 2年次におけるインターンシップ実習に関する心得について
2. インターンシップ実習に関する諸手続き
3. 保育所・幼稚園・こども園についての基礎知識
4. 小学校についての基礎知識
5. こども理解
6. 現場における対応事例①
7. 現場における対応事例②
8. インターンシップ現場においての実践、観察、記録（1）
9. インターンシップ現場においての実践、観察、記録（2）
10. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
11. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
12. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
13. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
14. 自己の課題の明確化および目標設定
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加および事前・事後授業への参加（60%）、「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ実習先での当日の課題や実践への心構えを形成していくこと。事後学習：当日のインターンシップ実習における自己の反省点などを実習日誌に書き記し、次回のインターンシップへの目標を設定すること。

# 保育実践学習Ⅳ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○

担当 ★野嶋 敏一, ★木村 憲太郎, ★有福 淑子, 小西 由紀子,  
中根 佳江, ★宮前 桂子, ★大悟法 平, ★阿部 丘之亮

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅳは、保育所や幼稚園、こども園、小学校等でのインターンシップ現場における実習体験を基礎とする。実習を通して、現場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務に関する基礎的な理解を深めることを目指す。また保育実践学習Ⅲでの学びの経験を引き継ぎ、引き続き実践を通して学ぶことを特に意識しながら、実習日誌の記録等を通じてその体験をより確かなものにする力を養う。なお、この授業はアクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育士やこども園、幼稚園、小学校教諭の職務への理解を深める。また保育・教育現場の諸課題について体感し考えることにより、こどもに関わる職の重要性や必要性を認識するとともに、保育・教育者としての基盤を構築する。

## 《授業計画》

1. 前期の振り返りと自己分析
2. インターンシップ実習に向けての目標設定
3. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（1）
4. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（2）
5. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（3）
6. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（4）
7. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（5）
8. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（6）
9. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（7）
10. インターンシップ実習においての実践、観察、記録（8）
11. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
12. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
13. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
14. アクティブラーニング（フィールドワーク）にて視察・調査し、成果報告書を作成する
15. 実習の振り返りと自己の課題の明確化

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加および事前・事後授業への参加（60%）、「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ実習先での当日の課題や実践への心構えを形成していくこと。事後学習：当日のインターンシップ実習における自己の反省点などを実習日誌に書き記し、次回のインターンシップへの目標を設定すること。

# 特別支援教育総論

2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★高田 昭夫

## 《授業の概要》

保育現場や学校現場では、特別なニーズを有する幼児児童生徒への適切な支援や配慮が欠かせないものとなっている。この授業では、特別支援教育の基本的な考え方を理解するとともに、障害種別の特性や支援方法について基礎的な知識・スキルの習得をめざす。また、映像・テキスト資料等を通して、障害のある人々が、健康者中心の社会の中でどのような生活を経験しているのかを知るとともに、自らの「障害」観を問い直すきっかけになればと思う。

## 《学生の到達目標》

① 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性および心身の発達を理解する。② 特別な支援を必要とする幼児児童生徒に対する教育課程や支援方法を理解する。③ 障害はないが、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上または生活上の困難とその対応について理解する。

## 《授業計画》

1. 日本における障害児教育の歴史①戦前期
2. 日本における障害児教育の歴史②戦後～1970年代
3. 日本における障害児教育の歴史③1980年代～2000年代
4. 特別支援教育の現状と課題—インクルーシブ教育の実現に向けて
5. 障害の理解と支援—発達障害①自閉症スペクトラム
6. 障害の理解と支援—発達障害②LD・ADHD
7. 障害の理解と支援—知的障害、「ちょっと気になる子」
8. 障害の理解と支援—視覚障害
9. 障害の理解と支援—聴覚障害、言語障害
10. 障害の理解と支援—肢体不自由
11. 障害の理解と支援—病弱、情緒障害
12. 障害の理解と支援—重度・重複障害
13. 教室における個別ニーズのある子どもへの対応①合理的配慮概念
14. 教室における個別ニーズのある子どもへの対応②外国ルーツの子どもの課題
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

各種レポート課題（60%）＋ミニテスト（40%）＝100%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成30年）」海文堂出版・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年）」開隆堂出版・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年）」開隆堂出版・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年）」開隆堂出版  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：今回の授業で扱う事柄を確認し、テキストの該当箇所を読み、演習課題に取り組んでおくこと。事後学習：講義で紹介された概念や事例などをインターンシップや実習先、自身の日常生活の中で確認・実践して次の講義に臨んでほしい。

# 国語科指導法

2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★宮崎 大樹

## 《授業の概要》

小学校学習指導要領に示された小学校国語科の教育目標や指導内容を理解し、また、小学校国語科における児童の学習の実態や特徴について理解するとともに学習評価の在り方について理解する。さらに、授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けたり、基本的な指導方法を理解しながら授業づくりの方法を身に付けたりすることが重要である。

## 《学生の到達目標》

・小学校国語科の意義、学習指導要領の目標・内容・全体構造・育もうとする資質・能力・指導内容等を理解している。  
・児童の学習の実態や特徴、評価の在り方、児童理解に基づく適切な対応の仕方等について理解している。  
・授業実践において、ICTを適切に活用しながら、言語活用や手立ての運用、学習集団の組織化、学習活動の構成ができる。  
・各分野・領域（知識・技能、理解力・判断力・表現力等）の教材研究ができ、学習指導案を作成し模擬授業の実施を通して授業改善の視点を身に付けている。

## 《授業計画》

1. 小学校国語科教育についての基本的な知識・理解1「学習指導要領」
2. 小学校国語科教育についての基本的な知識・理解2「国語科教材・教科書」
3. 「知識及び技能」に関する基本的な知識・理解1「言葉の特徴や使い方」
4. 「知識及び技能」に関する基本的な知識・理解2「情報の扱い方」
5. 「知識及び技能」に関する基本的な知識・理解3「我が国の言語文化」（書写を含む）
6. 「思考力・判断力・表現力等」に関する基本的な知識・理解1「話すこと・聞くこと」
7. 「思考力・判断力・表現力等」に関する基本的な知識・理解2「書くこと」
8. 「思考力・判断力・表現力等」に関する基本的な知識・理解3「読むこと」説明的文章
9. 「思考力・判断力・表現力等」に関する基本的な知識・理解4「読むこと」文学的文章
10. 授業実践1 国語科授業づくりのための指導技術（ICTの活用）に関する知識・理解
11. 授業実践2 授業づくり 単元構想
12. 授業実践3 授業づくり 一時間の授業
13. 模擬授業1 「話すこと・聞くこと」の授業
14. 模擬授業2 「書くこと」の授業
15. 模擬授業3 「読むこと」の授業

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験（50%）、授業への取り組み、学習指導案及び模擬授業、小レポート等（50%）

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」東洋館出版社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」など学んだことを日常生活に活かすようにする。指導案づくりや模擬授業をとおして、「教育実習」へつなげるようにする。

# 社会

2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★武部 浩和

## 《授業の概要》

「地域教材開発論」の講義・演習である。社会認識・社会参画の基礎を育成する小学校社会科の授業をデザインには、コミュニティの強みや特色(経済・歴史・文化など)をとらえるセンスや、それらを教材化するスキルを磨いていく必要がある。「地域と共にある授業者」になることをめざして、フィールドマイニングやカリキュラム・マネジメントなどのスキルを高めていく。社会科地域学習や体験学習などを子どもも教員も楽しむ実践について相互に検討・開発していきたい。自らの社会科等の教育実践を紹介したり、全国の小学校の地域学習実践を学びあったりして、子どもが地域と楽しく出会う授業づくりや地域教材の開発について講義・演習を展開していく。

## 《学生の到達目標》

○現行の学習指導要領にある「見方・考え方」を働かせコミュニティを「深く理解する」ための教材開発のセンスやスキルの基礎・基本を身につけている。  
○「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」を意識して、それらの背景にある学問領域の知識や技能を獲得し、教材研究・教材開発に活用することができる。  
○実践事例から、子どもがコミュニティと「出会い」「追究し」「ネットワークを広げ」「社会に参画していく」パフォーマンスをとらえることができる。  
○地域教材の開発やカリキュラム・マネジメントなどを学びながら、授業者に必要な一般教養としての地理・歴史・法や経済などの学問領域の知識を獲得する。  
○社会科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

## 《授業計画》

1. 社会科地域学習とフィールドマイニング
2. 社会科地域学習とカリキュラム・マネジメント
3. 見方・考え方を働かせて概念に関する知識を獲得するとは？
4. 地理的な見方・考え方と地理学
5. 実践事例「あへのハルカスで地図学習(小3)」から
6. 経済的な見方・考え方と経済学
7. 実践事例「地域のものづくりの仕事(小3)」
8. 実践事例「スーパーマーケットの仕事(小3)」
9. 歴史的な見方・考え方と歴史学
10. 実践事例「くらしのうつかりかわり(小3)」
11. 実践事例「大和川のつけかえと河内木綿(小4)」
12. フィールドワーク「古地図・地名」
13. 生活科体験学習と社会科地域学習の接続
14. 社会科地域学習と総合的な学習の時間との関連
15. 総括「自分の地域教材の開発とカリキュラム・マネジメント」

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み(30%) 提出物(30%) 期末試験(40%)  
○授業への取り組みは、授業内において実施するミニテスト3回の結果などを考慮する。  
○提出物では、演習やフィールドワーク後のレポート作成提出を求める。  
○期末テストは授業内で配布された資料、授業ノートやメモなどの持ち込み可で実施。

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会」東洋館出版社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

自分が生活しているコミュニティや通学路などで、出会う人・もの・こと・情報などに敏感であり、いつでも社会認識・参画学習などで活用できるようにしておくこと。事前・事後の学習の要点や進め方については各講義の終末時に提案する。

# 社会科指導法

2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★武部 浩和, 大畑 健夫

## 《授業の概要》

小学校社会科教育の現状と課題、可能性などを踏まえて「社会科学習を実現する授業デザイン」の基礎・基本について講義・演習などを展開していく。主な目標は次の2点である。  
○学習指導要領に示された社会科の目標や内容を理解できるようにする。  
○基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけるようにする。

## 《学生の到達目標》

○学習指導要領における社会科の目標・内容・全体構造を理解している。  
○個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。  
○社会科の学習評価の考え方を理解している。  
○子どもの認識・実態・思考等を理解し、授業設計を行う方法を保身に身につけている。  
○情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。  
○学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。  
○模擬授業の実施とその省察を通して、授業改善の視点を身につけている。

## 《授業計画》

1. 小学校社会科とは何か？
2. シティズンシップ教育としての社会科教育
3. 教育DXとデジタルシティズンシップ
4. 問題解決学習の基礎・基本
5. 学習指導要領の読み方・使い方
6. 逆向き設計とパフォーマンス評価
7. 指導と評価の一体化
8. 第5学年「産業学習」の指導と評価1(地図学習として)
9. 第5学年「産業学習」の指導と評価2(経済学習として)
10. 第6学年「政治先習学習」の指導と評価
11. 第6学年「歴史学習」の指導と評価
12. 教材研究演習
13. 指導案作成演習
14. 模擬授業、発問・板書演習
15. 総括「これからの小学校社会科の授業デザイン」

## 《成績評価の基準・方法》

小テスト3回(30%)  
期末テスト(70%)

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」東洋館出版社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

○事前・事後学習の要点については、授業中に紹介・提案する。  
○自分の小学校時代の社会科学習を想起し、いざい楽しかった授業や社会見学などをまとめておくこと。

# 算数科指導法

2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★木村 憲太郎

## 《授業の概要》

小学校学習指導要領に示された算数科の教育目標や指導内容を理解する。また、小学校算数科における児童の学習の実際や特徴について理解するとともに、学習評価のあり方について理解する。そして、小学校算数科の実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。さらに、小学校算数科における基本的な指導方法を理解し、授業づくりの方法を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

小学校算数科の意義と教材観の変遷を理解する。また、小学校算数科における児童の学習の実際や特徴について理解する。そして、小学校算数科の学習の特徴に応じた適切な学習活動を構成することができる。そして、小学校算数科の目的に応じた教材研究ができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、小学校算数科の意義、小学校算数科観の変遷
2. 小学校学習指導要領における算数科の目標、内容、全体構造
3. 小学校算数科と中学校数学科との連携
4. 模擬授業を基に小学校算数科における数学的活動
5. 模擬授業を基に児童の実態への対応
6. 小学校算数科における学習評価と個への対応
7. 小学校算数科におけるICTの活用
8. 小学校算数科における数学的表現
9. 学習活動の構成と学習集団の組織化
10. 教材研究
11. 学習指導案の作成
12. 数と計算の模擬授業
13. 図形の模擬授業
14. 算数科経営案の作成
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

- ・作成した学習指導案(50%)
- ・レポート、ふり返し、課題等(40%)
- ・授業等への取り組み(10%)

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習は、模擬授業を観察する単元の小学校学習指導要領の解説編を読み、児童用教科書ではどのように展開されているか調べておく。事後学習では、模擬授業によって児童に身に付けさせるべきこと、つまづきやすいこと等を見直し、理解を深める。

# 理科

2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★浅野 孝平

## 《授業の概要》

小学校・理科は、「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する」ことを目標に、エネルギー・粒子・生命・地球の4つを柱とした内容で成り立っている。各領域の内容についての基礎・基本となる知識・概念を、中学・高校での学習内容と関連つけて、グループワーク等を通してアクティブラーニング形式で学ぶ。さらに、科学的思考・SDGsについても視野を広げて学ぶ。

## 《学生の到達目標》

1. 小学校「理科」の授業展開を行うため、教師として必要となる基礎・基本的な科学概念・知識について学ぶ。
2. 科学的思考について、自分なりの考えを持てるようにする。
3. SDGsを達成することが求められている現在の、理科教育の在り方について学ぶ。

## 《授業計画》

1. 理科とはどんな教科なのか
2. 学習指導要領 一資質と能力、理科の見方・考え方
3. エネルギー① 一小学校の理科における学習内容
4. エネルギー② 一小中の理科における内容構成
5. エネルギー③ 一SDGsとの関連
6. 粒子① 一小学校の理科における学習内容
7. 粒子② 一小中の理科における内容構成
8. 粒子③ 一SDGsとの関連
9. 生命① 一小学校の理科における学習
10. 生命② 一小中の理科における内容構成
11. 生命③ 一SDGsとの関連
12. 地球① 一小学校の理科における学習内容
13. 地球② 一小中の理科における内容構成
14. 地球③ 一SDGsとの関連
15. 授業内容の振り返り、小学校理科の学習内容の全体の構造化

## 《成績評価の基準・方法》

成績評価は、以下の3つの方法と配分で行う。

- ① 授業への取り組み・出席 30%
- ② 各授業内容に関する小レポート 30%
- ③ 15回目の振り返りレポート 40%

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説【理科編】」東洋館出版社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、授業前に教科書の指定範囲や配布資料を読み、受講内容を把握する。事後学習としては、学んだ内容を振り返り、自己の疑問や課題を追究し、視野を広げたり深めたりする。

# 理科指導法

2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★浅野 孝平

## 《授業の概要》

小学校理科は「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力」の育成を目標としている。エネルギー・粒子・生命・地球の4つを柱とした領域の内容で成り立っている。各領域の内容を踏まえ理科指導法では、理科の見方・考え方を学ぶとともに、小学校理科の教育内容や指導方法について学習指導案作成を通して理解し、さらにSDGsを実現するための実践的な理科教育について学ぶ。

## 《学生の到達目標》

1. 学習指導要領に示された小学校理科の目標や内容等の全体構造を理解する。
2. 小学校理科の授業において、基礎的な学習指導の理論を踏まえて子どもの知的好奇心や探究心を引き出せる教材や指導方法について説明できる。
3. 小学校理科の学習指導案立案とその実践を通して、改善点を見出すことができる。
4. 理科教材研究を通して、自分の自然観や教材観を豊かにする。

## 《授業計画》

1. 理科の授業の特徴は何か
2. 理科の見方・考え方と方法（1）一理科教育の「目標」
3. 理科の見方・考え方と方法（2）一学年ごとの「目標」との関連
4. 「エネルギー」領域の授業作りと教材研究ー指導方法・実験方法の理解
5. 「粒子」領域の授業作りと教材研究ー指導方法・実験方法の理解
6. 「エネルギー」「粒子」領域の学習指導案作りー指導方法の構想と教材の工夫
7. 「エネルギー」「粒子」領域の学習指導案作りと模擬授業のリハーサル
8. 「エネルギー」・「粒子」領域の模擬授業の実施と振り返り
9. 「生命」を柱とする領域の授業作りと教材研究ー指導方法・実験方法の理解
10. 「地球」を柱とする領域の授業作りと教材研究ー指導方法・実験方法の理解
11. 「生命」・「地球」領域の学習指導案作りー指導方法の構想と教材の工夫
12. 「生命」・「地球」領域の学習指導案作りと模擬授業のリハーサル
13. 「生命」・「地球」領域の模擬授業の実施と振り返り
14. SDGsを実現するための理科教育
15. 授業内容を振り返り、理科の科目特性に応じた授業の構想を考える

## 《成績評価の基準・方法》

以下の項目を総合的に評価する  
① 授業内ワークシートおよび最終振り返りワークシート 40%  
② 指導案作成と模擬授業 40%  
③ 小テスト 20%

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説【理科編】」東洋館出版社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前事後に「小学校学習指導要領解説 理科編」を読む習慣をつけること。  
必要に応じて配付された資料を基に、学習指導案作成や授業づくりのための基礎的な考え方を把握する。

# 生活

2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★武部 浩和, ★山下 豊

## 《授業の概要》

生活科は、「具体的な活動や体験を通して「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かし、「自立し生活を豊かに」していく教科である。本講義・演習では、生活科の誕生の背景や経緯、趣意などについて、学習指導要領解説等により概説する。さらに、現行学習指導要領の改善の具体的な方針や教科目標ならびに学年目標、内容（1）～（9）教材や活動、評価について具体的な実践をもとに理解を深めるようにする。また、保育・幼児教育と「接続・往還」する生活科におけるカリキュラム・マネジメントについて、事例をもとに理解できるようにする。

## 《学生の到達目標》

- 保育・幼児教育と小学校教育の「接続・往還」の意味について理解している。
- 生活科の目標や学年目標、内容、具体的な体験や活動等について理解している。
- 生活科の（1）～（9）の内容の指導上の留意点を理解し、教材研究ができる。
- 生活科の核としたカリキュラム・マネジメントについて理解している。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、「生活科教育とは?」
2. 体験学習と問題解決学習の基礎
3. スタートカリキュラムとは?
4. 内容(1)「学校と生活」の活動と教材について考える
5. 内容(2)「家庭と生活」の活動と教材について考える
6. 内容(3)「地域と生活」の活動と教材について考える
7. 内容(4)「公共物や公共施設の利用」の活動と教材について考える
8. 内容(5)「季節の変化と生活」の活動と教材について考える
9. 内容(6)「自然や物を使った遊び」の活動と教材について考える
10. 内容(7)「動植物の飼育・栽培」の活動と教材について考える
11. 内容(8)「生活や出来事の伝え合い」の活動と教材について考える
12. 内容(9)「自分の成長」の活動と教材について考える
13. カリキュラム・マネジメント①（自校や地域の強み）
14. カリキュラム・マネジメント②（他教科等との関連）
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

出席30%・提出物30%・テスト40%

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」東洋館出版社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

- 予告されたテーマについて事前に学修すること。
- 学習後は資料等を再度読み、復習すること。
- 教職をめざして、生活科についていつでも使えるように整理しておくこと。

# 音楽演習Ⅰ

2年次

2単位（演習）

資格 幼○ 小○

担当 川村 尚子, 鈴木 和代, 炭谷 恭子, 竹田 景子, 早川 藍香,  
本村 陽子, 山本 恭仁子

## 《授業の概要》

各自の能力に応じて、個人指導で行う。演奏技術の向上に加えて、子どもを自然な音楽活動に導くための簡単な即興や、必要に応じた移調や編曲についても学習する。

## 《学生の到達目標》

ピアノ演奏の技術を習得し、保育・教育者としての表現力・音楽性を養うことを目的とする。コードによる弾き歌いや簡易伴奏で演奏するなど、自ら応用できる能力を養うことを目指す。

## 《授業計画》

1. 全体及び個人別オリエンテーション
2. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（楽譜の読み方復習）
3. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（読譜）
4. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（基礎）
5. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（応用）
6. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（仕上げ・完成）
7. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（読譜）
8. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（基礎課題）
9. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（応用課題）
10. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（仕上げ・完成）
11. 試験曲の指導（読譜）
12. 試験曲の指導（基礎）
13. 試験曲の指導（応用）
14. 試験曲の指導（仕上げ・完成）
15. 総括（発表）

## 《成績評価の基準・方法》

定期試験（80%）授業への取り組み（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・小林 美実「こどものうた100」チャイルド本社・茂田 すずむ「保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集」全音楽譜出版社・「バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ他」能力に応じて選択

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

毎週、授業までの十分な練習が必要である。

# 総合基礎演習Ⅱ

2年次

2単位（演習）

資格 なし

担当 杉本 孝美, ★木村 憲太郎, ★新井 明子

## 《授業の概要》

大学生の学びやキャリア形成の基礎となる力を培うことを意識した展開を行う。1年次の「読む」活動を継続し、さらに「書く」活動に発展させ、大学生としての学習・研究活動につなげる。自ら課題を発見し、自分の意見をまとめ、他者の意見と比較することや伝えることを意識し、「卒業研究」につなげる「個人研究」の準備をする。

## 《学生の到達目標》

総合基礎演習Ⅰでの学習をふまえ、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭すなわち社会人に求められるコミュニケーション能力をはじめとする基礎力をグループ活動を通して獲得する。また「個人研究」の発表を通して、大学生の学習・研究活動の視点を身につける。

## 《授業計画》

1. 前期授業展開についての説明（オリエンテーション）
2. 大学生としての学びと研究活動
3. 大学生としてのキャリア形成
4. 全体交流会（1）
5. 保育・教育に関する課題について各分野の視点から課題を見つける（1）
6. 保育・教育に関する課題について各分野の視点から課題を見つける（2）
7. 自分の意見の整理・グループ内発表（1）
8. 自分の意見の整理・グループ内発表（2）
9. 全体交流会（2）
10. 保育実践における学び／グループ活動（1）
11. 保育実践における学び・グループ活動（2）
12. 保育実践における学び・グループ活動（3）
13. 保育実践における学び・グループ活動（4）
14. 保育実践における学び・グループ活動（5）
15. 前期総括
16. 後期授業展開についての説明（オリエンテーション）
17. 全体交流会 特別講演会
18. 保育実践における学び・グループ活動（6）
19. 保育実践における学び・グループ活動（7）
20. 保育実践における学び・グループ活動（8）
21. 全体交流会・グループ発表（1）
22. 全体交流会・グループ発表（2）
23. 「卒業研究」に向けた個人研究について
24. 個人研究（1）
25. 個人研究（2）
26. 個人研究（3）
27. 個人研究発表（1）
28. 個人研究発表（2）
29. 全体交流会（3）
30. 全体総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（30%）、グループ活動（40%）、個人研究（30%）によって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

前時の学習の振り返りや予習を行う。前年度以上に読書に取り組む。事後学習：授業で示された課題に向き合う。グループ活動、個人研究に積極的に取り組む。

# 児童保育学科 3年次



# 倫理学

3年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 樋口 善郎

## 《授業の概要》

めまぐるしく変貌しつつある現代社会に対応するために倫理学も近年大きく変わりつつある。従来の倫理学に加えて応用倫理学という新分野が登場してきた。しかし、従来の倫理学も軽視されはならないだろう。この授業では、従来の倫理学の重要な部分と現代の新しい倫理学の内容とを学生諸君に紹介する。学生諸君が、主体的かつ自律的にこの社会を生き抜くためには、こうした倫理的知識・知見を身につけることが不可欠であろう。グループワークを取り入れながら授業はおこなっていく。

## 《学生の到達目標》

学生は現代社会において将来、さまざまな場面に遭遇し、そこで倫理的態度決定を迫られることになるであろう。本講義の到達目標は、学生がそうした場面において、人間として成熟した倫理的判断を下せるような思想的な知識を身につけることにある。授業の中では、倫理的判断が試されるような問題を取り上げる。それを通して色々な倫理思想を実際にツールとして生かせるような技能（スキル）を身につけよう。

## 《授業計画》

1. 導入：倫理とは何かについて学ぶ
2. 宗教の倫理：キリスト教の倫理や黄金律について学ぶ
3. 徳の倫理1：ソクラテスについて学ぶ
4. 徳の倫理2：アリストテレスについて学ぶ
5. 徳の倫理3：徳の倫理の特徴について学ぶ
6. 義務論：カントの義務論について学ぶ
7. 禁欲主義と快楽主義：ストア派他について学ぶ
8. 功利主義：功利主義の問題点について学ぶ
9. 相対主義：ニーチェ他について学ぶ
10. 現代の倫理学1：他者危害の原則について学ぶ
11. 現代の倫理学2：医療の倫理について学ぶ
12. 現代の倫理学3：人の始期に関する倫理について学ぶ
13. 現代の倫理学4：人の終期に関する倫理について学ぶ
14. 現代の倫理学5：環境の倫理について学ぶ
15. 現代の倫理学6：正義論について学ぶ

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の授業における受講カードの提出10%。授業内で実施する小テスト（4回目・8回目・12回目の授業後半に実施予定）30%。学期末試験60%。これらを加算して評価とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前：授業内で必要に応じて資料を配付する。その資料の「家庭学習」に挙げられている課題に取り組んでおく。事後：小テスト及び学期末試験に向けて授業内で学んだことをしっかり復習しておく。また、学んだ倫理思想を受講カードや実際の場面で生かす試みをして、実際にツールとして生かせるように習熟しよう。

# 子どもの理解と援助

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★東城 大輔

## 《授業の概要》

子ども理解は保育・幼児教育におけるあらゆる営みの基本となるものである。子どもの生活及び遊びの実態に即して、子どもの発達及び学び並びにその過程で生じるさまざまな要因を把握するための原理及び対応、そして援助に関わる方法等について、学生相互の学びに結び付くようグループワークやディスカッションを行いながら展開する。主に、保育・幼児教育現場における具体的事例を取り扱いながら、より実践的に子ども理解と援助を考えていく機会とする。

## 《学生の到達目標》

子ども理解の意義を理解し、子ども理解から発達及び学びを捉える原理を把握し理解する。また、子ども理解からその援助に関わっての保育者のあり方や、基本的な態度、および指導に關しての理解を深めて考える。またその方法において、観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察方法などの基礎的な事柄を例示することや、個と集団の関係を捉える視点について理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 保育における子ども理解の考え方
3. 保育実践から考える子どもの理解と援助
4. 発達と学習の視点から考える子どもを取り巻く環境
5. 子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド
6. 子ども理解における発達の観点
7. 保育における観察と記録の実際
8. 保育カンファレンスについての基礎的知識
9. 保育の指導に関わる考え方（生活の視点から）
10. 保育の指導に関わる考え方（遊びの視点から）
11. 保育の指導に関わる考え方（関係の視点から）
12. 個と集団の育ちの理解
13. 特別なニーズのある子どもの理解と援助
14. 保育の専門性を活かした子育て支援
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業内での実践およびポートフォリオ（60%）  
レポート等の授業内提出物（40%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレール館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレール館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレール館

## 《事前・事後学習》

事前：実習やボランティアで経験することもや保育者・教育者および保護者との関わりを日常的に意識する。  
事後：事前学習で得たものと授業での学びを関連づけ、自分なりの活かし方を考える。

# 子どもの健康と安全

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 中津 功一郎

## 《授業の概要》

本講義では、子どもの保健に関する科目で習得した知識をもとに、保育現場での「子供の健康支援」「安全管理」「事故防止」「災害への備え」に必要な知識を解説する。合わせて、子どもの体調不良や事故に対する適切な対応を学び、組織的取り組みや保健活動の計画等について具体的に学ぶ。その際、種々のガイドラインを参照しつつ、アクティブラーニングで具体的・実地的に対応できるように学ぶ。

## 《学生の到達目標》

子どもの健康と安全を考える際には、個人による様々な知識獲得や意識だけでなく、組織で守るという意識も必要である。本講義では、上述したことを意識した上で、以下の能力を獲得する事を目標とする。①保育現場における環境整備、衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理・災害対策を具体的に理解する。②子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。③子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画評価について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス
2. 子どもの健康と保育の環境
3. 保育における「リスク」と「ハザード」
4. 保育における事故防止および安全対策①
5. 保育における事故防止および安全対策②事例研究
6. 保育における事故防止および安全対策③事例研究
7. 保育におけるリスクマネジメント
8. 健康及び安全の管理の実施体制①組織的取り組みについて
9. 健康及び安全の管理の実施体制②保健活動の計画および評価
10. 健康及び安全の管理の実施体制③自治体、家庭、専門機関との連携
11. 健康及び安全の管理の実施体制④マニュアルの意義について
12. 子どもの体調不良等に対する適切な対応①
13. 感染症対策：感染症の集団発生の予防と対応
14. 地震発生時の保育現場での行動（シミュレーション）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

グループワークによる評価（50%）、最終レポート（50%）とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：配布された資料を読み、理解しづらいところなどのチェックを行う。事後学習：毎回課される課題を個人、グループで取り組むこと、また、振り返り学習を行い、知識定着を目指す。

# 健康領域指導法Ⅱ

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★仲山 正志

## 《授業の概要》

健康領域指導法Ⅰでは、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康領域」の指導方法について身に付けることを目標として授業を実施した。Ⅱの授業では、健康領域指導法Ⅰで学習した内容を基礎として、指導場を想定してより実践的な能力を身に付ける。また、現在の乳幼児における健康課題について検討し、考察できるようにする。

## 《学生の到達目標》

本演習では、健康領域指導法Ⅰで学習した内容を基礎として、指導場を想定した演習を行う。特に、運動遊び指導能力の向上に力点を置き、運動指導の要点を踏まえた指導ができるようになることを目指す。新聞記事や研究書籍等から、現在の乳幼児における健康課題を知り、その問題について調査・検討し、課題解決のための方法について考察できるようにすることを旨とする。

## 《授業計画》

1. 運動遊びの実践（基本運動・グループワーク・相互評価）
2. 運動遊びの実践（ボール運動サッカー・グループワーク・相互評価）
3. 運動遊びの実践（なわ遊び・グループワーク・相互評価）
4. 運動遊びの実践（マット運動・グループワーク・相互評価）
5. 運動遊びの実践（走運動・グループワーク・相互評価）
6. 運動遊びの実践（ボール運動フリスビー・グループワーク・相互評価）
7. 運動遊びの実践（鬼あそび・グループワーク・相互評価）
8. 運動遊びの実践（サーキット・グループワーク・相互評価）
9. 運動遊びの実践（実技の総合評価）
10. 運動遊びの指導法の考案①（絵コンテ作成・グループワーク）
11. 運動遊びの指導法の考案②（動画撮影・グループワーク）
12. 運動遊びの指導法の考案③（発表・相互評価）
13. 現在の乳幼児における健康課題①（課題設定：グループワーク）
14. 現在の乳幼児における健康課題②（調査検討・グループワーク）
15. 現在の乳幼児における健康課題③（発表・相互評価）

## 《成績評価の基準・方法》

グループワークでの取り組み（50%）、最終レポート（50%）とする。

## 《授業で使用する教科書》

・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「保育所保育指針」

## 《参考書》

・平井タカネ・河本洋子「子どもの健康」三晃書房・吉田伊津美「保育と幼児期の運動遊び」萌文書林・前橋明「0-5歳児の運動遊び指導百科」ひかりのくに

## 《事前・事後学習》

事前学習として、前回の授業で指定された、授業内容のキーワードについて小レポートの提出を求めます。事後学習として、授業内のディスカッションやグループワーク内容に基づくレポートを課します。

# 人間関係領域指導法 II

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★三輪 よし子

## 《授業の概要》

現代社会の様々な状況を踏まえ、領域「人間関係」において子どもたちにどのような力や視点を身に付けさせることが望ましいのかを、具体的な事例の検討や映像視聴等を通して考える。また、幼児の発達にふさわしい「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。子どもたちの人間関係づくりをすすめるにあたって、子ども理解や保育場面での関わり方等、様々な実践事例から学ぶ機会をもち、グループでのディスカッションなどを通して、違った考え方や様々な価値観に出会い、学ぶ。

## 《学生の到達目標》

この授業では、指針・要領に示された領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容」の全体構造を理解するとともに、幼児教育・保育において育みたい資質・能力について理解を深める。そして、幼児の発達に即した主体的で対話的深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。

【到達目標】  
①指針・要領における領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容」並びに全体構造について理解する。②領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容」を踏まえて、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点、評価の考え方を理解する。③具体的な保育を想定した指導案を作成する。④模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。

## 《授業計画》

1. 乳幼児期の育ちと領域「人間関係」
2. 幼児教育の効果と社会情動的スキルの指導の検討
3. 自己調整力を育む保育実践 (1) 挑戦・試行する姿 (3歳児～4歳児前半)
4. 自己調整力を育む保育実践 (2) 自発性・主体性・能動性の育成 (3歳児後半～5歳児前半)
5. 自己調整力を育む保育実践 (3) 葛藤・共有・挑戦・目的・粘り強さ (5歳児後半)
6. 育ち合う人間関係 (1) 子ども同士の関係
7. 育ち合う人間関係 (2) 子どもと保育者の関係
8. 育ち合う人間関係 (3) 保育者と保護者の関係
9. 小学校との連携・接続 (1) 幼小の交流活動
10. 小学校との連携・接続 (2) 生活科における共同的な学習活動
11. 地域における子育て支援の取り組み (1) 多文化共生保育・教育
12. 地域における子育て支援の取り組み (2) 地域の人とのかわり
13. 幼児教育の現代的課題 (1) 少子化、核家族、待機児童、多様な保育ニーズ
14. 幼児教育の現代的課題 (2) 社会情動的スキルの重要性、格差、求められる保育者の専門性
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業時に行う課題・レポート等提出物 (80%) + 最終レポート (20%) = 100%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省・内閣府・厚生労働省「幼稚園教育要領解説、幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前学習：「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」をよく読んでおくこと  
事後学習：インタビュー、実習等において、子どもの年齢・発達段階、家庭環境、生活経験などのちがいがよる人とのかわり方の違いや特徴についてよく観察すること。また、一人一人を大切に保育の状況や集団保育の方法についてよく観察し、不明点があれば、現場の保育者に質問していただくこと。

# 言葉領域指導法 II

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 古茂田 貴子

## 《授業の概要》

「言葉領域指導法 I」で得た知識を基礎にして、保育現場を想定しながら、子ども達のことばを豊かにし、感性を磨いていく具体的な保育について学ぶ。

## 《学生の到達目標》

①子ども達のことばが豊かになる環境として、保育者がどのようなことばがけを行うのが有効なのかを考える習慣をつくる。  
②児童文化財として絵本やお話や紙芝居、わらべうた遊びについて幅広い知識をつけ、保育素材を選択する力を養い、実際の保育に活用していく力を身につける。

## 《授業計画》

1. イントロダクション
2. 子どもが話すことについて
3. 子どもに話すことを促す保育者の役割 (ことばがけを中心に)
4. 保育者の声・言葉遣いについて
5. 絵本について (役割・読み方)
6. 絵本について (事物絵本・生活絵本)
7. 絵本について (科学絵本・物語絵本)
8. 絵本を介した言葉領域指導の指導案作成と模擬保育
9. 物語・昔話へのアプローチとしてのお話・昔話について
10. お話の方法 (選び方・覚え方・話し方)
11. お話をつくってみる
12. わらべうた遊びの重要性
13. わらべうた遊びの実際
14. お話やわらべうた遊びを介した言葉領域指導の指導案作成と模擬保育
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業内での課題や授業での発表 (60%)、レポートや自作教材等提出物 (40%)

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

子ども達のことばを豊かにするための保育教材について意識を深め、体験を積んで頂きたいと思えます。そのために、授業内での実習体験や発表に真摯に取り組んで頂きたいと思えます。また、レポートや自作教材等の課題に対しても意欲的に取り組んでください。  
事前学習は特にありませんが、復習は必ず行ってください。  
そして復習に伴う発展的な学習も意欲的に取り組んでください。

# 障害児保育

3年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★後藤 浩子

## 《授業の概要》

障害児保育とは何か、そのかわりと内容について考察し、指導の方法について考える。障害児保育は、家庭や保育所・幼稚園など、関係諸機関の連携のもとに、子ども一人一人を理解する姿勢を大切に、保育を展開させることが大切である。本授業では、様々な障害について学ぶことによって、障害児保育を行う基礎を培っていく。授業の中では、調べたことをプレゼンテーションしたり、グループでディスカッションしたりする時間もとり入れて、すすめていく。

## 《学生の到達目標》

乳幼児期に起こりうる障害や問題について一つ一つ学ぶ。障害や症状の理解を深める。その上で、子ども一人一人に合った接し方を学ぶ。また、症状ごとに対応の仕方をしっかり学ぶ。そして、障害児保育の中で、障害がある子どもだけでなく、障害がない子どもについても配慮することを学ぶ。さらに、家庭や相談機関との連携などについても理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（障害児保育とは）
2. 障害をどのように捉えるか「障害」ということばについて
3. 障害について（ドラマやアニメから学ぶ）
4. 発達について ※この回から記事の発表を行う
5. 障害児保育の理念
6. 障害児保育の歴史
7. 障害児保育の現状と制度について
8. 子どもの理解と発達の援助①知的障害のある子ども
9. 子どもの理解と発達の援助②肢体不自由のある子ども
10. 子どもの理解と発達の援助③言語障害（コミュニケーション）
11. 子どもの理解と発達の援助④視覚・聴覚障害のある子ども
12. 子どもの理解と発達の援助⑤発達障害のある子ども～自閉スペクトラム症～
13. 子どもの理解と発達の援助⑥発達障害のある子ども～注意欠如・多動症、学習障害～
14. 子どもの理解と発達の援助 まとめ
15. 前期最終課題
16. 後期のオリエンテーション・前期の復習
17. 実習で出会った子どもについて話し合う
18. 障害児保育の実際1（ビデオの場面から学ぶ）※この回から絵本や遊びを発表
19. 障害児保育の実際2（ビデオの場面から学ぶ）
20. 一日の保育の流れ
21. 指導計画の作成・発達検査の利用
22. 記録及び評価について
23. 集団生活・生活習慣の援助～個に応じた保育支援～
24. 遊び・音楽・絵本・ことばについて（1）
25. 遊び・音楽・絵本・ことばについて（2）
26. 保護者・家庭への支援
27. 保育者としての倫理・ヒヤリハットについて
28. 関係機関との連携～専門機関とのよりよい連携～
29. 障害のある子どもの保育にかかわる今後の課題
30. 後期最終課題

## 《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み（20%）  
授業内レポート（60%）  
最終課題（20%）などを総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

新聞やニュースなどの障害についての記事を常にチェックしておくこと。  
インターンシップや実習で出会った子どもたちの記録を見直し、振り返ること。  
障害児保育に関する本を読むこと。  
自分の住む地域での子ども支援事業に興味をもって調べていくこと。

# 保育実習Ⅱ

3年次  
2単位（実習）  
資格 保○  
担当 井岡 瑞日, ★大嶋 健吾, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

保育士資格必修科目。保育所実習を10日から12日間実施する。実習施設は原則として大学が施設と調整のうえ配当する。

## 《学生の到達目標》

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、保育の理解を深める。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

## 《授業計画》

1. 保育所の役割や機能の具体的展開（1）養護と教育が一体となって行われる保育
2. 保育所の役割や機能の具体的展開（2）保育所の社会的役割と責任
3. 観察に基づく保育の理解（1）子どもの心身の状態や活動の観察
4. 観察に基づく保育の理解（2）保育士等の援助や関わり
5. 観察に基づく保育の理解（3）保育所の生活の流れや展開の把握
6. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
7. 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
8. 関係機関や地域社会との連携・協働
9. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
10. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
11. 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
12. 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価（指導実習）
13. 保育士の業務と職業倫理（1）多様な保育の展開と保育士の業務
14. 保育士の業務と職業倫理（2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理
15. 自己の課題の明確化

## 《成績評価の基準・方法》

実習施設による実習評価60%、諸提出物（日誌等）20%、実習評価面談20%とする。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ実習、保育実習Ⅰの経験からの自己課題を明確にする。  
事後学習：実習自己評価を行い、保育実習Ⅱあるいは教育実習に向けた自己課題を明確にする。  
実習中には、学科専任教員による訪問指導を受け、実習内容や実習課題の達成状況を報告する。

# 保育実習指導Ⅱ

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 井岡 瑞日, ★樋口 幸, ★久保 真奈, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

保育実習Ⅱの事前事後指導である。保育所実習（または幼保連携型認定こども園での実習）についての指導を行う。保育実習Ⅱと強く連動しており、事前指導の到達状況つまり事前準備は実習の成果に影響することを心得て履修することが望ましい。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

## 《授業計画》

1. 授業ガイダンス、実習にかかる提出資料の作成
2. 保育実習Ⅰ（保育所実習）の事後指導（1）実習の総括と自己評価（評価面談）
3. 保育実習Ⅰ（保育所実習）の事後指導（2）実習の総括と実習報告（グループ討議）
4. 保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
5. 保育実習による総合的な学び（2）子どもの保育と保護者支援
6. 保育の実践力の育成（1）子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
7. 保育の実践力の育成（2）保育の知識・技術を活かした保育実践
8. 計画と観察、記録、自己評価（1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
9. 計画と観察、記録、自己評価（2）保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
10. 実習内容と実習計画（1）指導実習に向けて（教材研究、遊びと活動）
11. 実習内容と実習計画（2）指導実習に向けて（指導案の作成）
12. 実習内容と実習計画（3）指導実習に向けて（模擬保育）
13. 保育士の専門性と職業倫理
14. 事後指導における実習の総括と評価（1）実習の総括と自己評価（評価面談）
15. 事後指導における実習の総括と評価（2）課題の明確化（レポート作成）

## 《成績評価の基準・方法》

授業課題（60%）、および指定課題等の提出・達成状況（40%）により評価する。課題内容の詳細は授業時に提示する。原則として全ての回の出席を求める。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

[学生の到達目標を参照。実習園での事前オリエンテーションを受ける（本授業時間外、日程等は別途指定）。

# 保育実習Ⅲ

3年次  
2単位（実習）  
資格 保○  
担当 末次 有加, 中條 薫, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

保育士資格・選択科目である。児童福祉施設等(保育所以外)における実習を10日から12日間実施する。実習施設は原則として、本人の希望を考慮したうえで、大学が各施設と調整して配出する。保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱの内容を深め、より専門的な支援と援助の実践を学ぶこと、施設保育士についての理解を深めることが目的である。実習時期を心得て履修すること。

## 《学生の到達目標》

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について、実践を通して、理解する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障がい児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 入所児童（利用者）への自立支援の実際と、自立支援計画に触れ、理解する。
5. 実習における自己の課題を理解する。

## 《授業計画》

1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能（1）（実習施設の状況）
2. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能（2）（実習施設の事業）
3. 施設における支援の実際（1）受容する
4. 施設における支援の実際（2）共感する態度
5. 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解（1）
6. 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解（2）
7. 個別支援計画の作成と実践（1）
8. 個別支援計画の作成と実践（2）
9. 子ども（利用者）の家族への支援と対応
10. 各施設における多様な専門職との連携・協働
11. 地域社会との連携・協働
12. 実習中間報告
13. 保育士の多様な業務と職業倫理（1）施設保育士の役割
14. 保育士の多様な業務と職業倫理（2）業務理解と専門性
15. 保育士としての自己課題の明確化

## 《成績評価の基準・方法》

実習施設による実習評価60%、諸提出物（日誌等）20%、実習評価面談20%とする。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前：インターンシップ実習、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱなどの経験から導き出された自己課題を明確にする。事後：実習自己評価を行い、次の実習に向けて、または、保育士資格取得までの自己課題を明確にする。実習中には、学科専任教員による訪問指導を受け、実習内容や実習課題の達成状況を報告する。

# 保育実習指導Ⅲ

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 末次 有加, 中條 薫, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

保育実習Ⅲの事前事後指導であり、集中講義として開講する予定である。社会福祉施設での実習（保育所以外の社会福祉施設）についての指導を行う。保育実習Ⅲと連動していること、また、保育実習Ⅰにおける施設実習の内容を深め、より高度な支援や援助の実際を学ぶ実習のための授業内容となることを心得て、履修することが望ましい。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

## 《授業計画》

1. 授業ガイダンス、実習に必要な提出資料の作成
2. 保育実習Ⅰ（社会福祉施設）の振り返り（1）自己評価（評価面談）
3. 保育実習Ⅰ（社会福祉施設）の振り返り（2）実習の総括と実習報告（グループ討議）
4. 保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
5. 保育実習による総合的な学び（2）子ども（利用者）への支援と保護者支援
6. 保育の実践力の育成（1）子ども（利用者）の状態に応じた適切ななかかわり方
7. 保育の実践力の育成（2）保育の知識・技術を活かした保育実践
8. 計画と観察、記録、自己評価（1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
9. 計画と観察、記録、自己評価（2）保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
10. 実習内容と実習計画（1）自立支援の実際
11. 実習内容と実習計画（2）自立支援の実際
12. 保育士の専門性と職業倫理（1）
13. 保育士の専門性と職業倫理（2）
14. 事後指導における実習の総括と評価（1）実習の総括と自己評価（評価面談）
15. 事後指導における実習の総括と評価（2）自己課題の明確化（レポート作成）

## 《成績評価の基準・方法》

授業課題（60%）、および指定課題等の提出・達成状況（40%）により評価する。課題内容の詳細は授業時に提示する。授業日程は、履修者と調整のうえ決定する。原則として全ての回の出席を求める。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

学生の到達目標を参照。実習施設での事前オリエンテーションを受ける（本授業時間外、日程等は別途指定）。

# 教育相談

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 要 正子

## 《授業の概要》

近年、子どもを取り巻く状況は急激に変化しており、保育・教育現場における教育相談の重要性は高まっている。教育相談の基本的な考え方やカウンセリングの理論や方法の概説を加えながら、保育・教育現場における教育相談の役割とその実際について概説し、グループワークを適宜実施しながら様々な問題に対する理解と対応を検討する。

## 《学生の到達目標》

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。

## 《授業計画》

1. 教育相談とは（学校園における教育相談の概要を理解する）
2. 教育相談の基礎①（教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する）
3. 教育相談の基礎②（カウンセリングに関する基礎的な事柄を理解する）
4. カウンセリングマインドの必要性を理解する
5. こどものSOSに気づく方法を学ぶ
6. こどもの不適応や問題行動の意味を理解する
7. こどもの気になる行動への対応を理解する
8. こども・親子関係の見立ての重要性を理解する
9. 保護者対応のポイントを理解する
10. チーム支援（学校園内外の支援体制）の必要性を理解する
11. 関係機関との連携の意義や必要性を理解する
12. 予防教育の重要性を理解する（集団に適応する力を育む）
13. 対人援助におけるコミュニケーション力の重要性を理解する（1）
14. 対人援助におけるコミュニケーション力の重要性を理解する（2）
15. まとめ・総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（50%）、授業後のふりかえり（20%）、総括ふりかえり（30%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「生徒指導提要（最新版）」

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ等、実習での経験をふりかえり、今日の教育現場における課題に関心をもち、こと。  
事後学習：教育相談の役割を認識し、自らが果たす役割について考えること。

# 教育方法・技術論

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★藤田 朋己

## 《授業の概要》

自ら学び、考える子どもを育てるためには、未来を担う子どもたちに求められる資質や能力をどのように育成するかを、常に念頭に置き授業デザインをおこなわなければならない。授業をデザインする上で必要不可欠な「主体的・対話的で深い学び」につながる教育方法・教育技術・ICT活用技術について、LMS (Learning Management System) を活用したアクティブラーニング型授業を通じて学びを深める。事前に現場実習等での自身の経験を振り返り、考え等をまとめることが、授業時の学びあいの質を高めることに繋がる。また、学びあいを通じて「ティーチングスキル」「コーチングスキル」「ファシリテーションスキル」「コミュニケーションスキル」「思考スキル」の向上をはかりながら、説明技術や発問技術を磨くことに繋げる。他者の異なる考えや価値観に触れる中で、自身の新たな気づきや価値観を創出し、自らの学びを深める学び方を学び続ける自己学習調整者を育成する。

## 《学生の到達目標》

未来を担う子どもたちに求められる資質や能力を育成するための教育方法・教育技術・ICT活用技術に関する基礎知識や技能を獲得する。到達目標は以下のとおりである。

- (1) 他者との学びあいを通じて学びを深める。
- (2) 教育方法・教育技術についての理解を深める中で、実践力の向上に繋げる。
- (3) 従来の教員とともに、有効なICT活用による授業をデザインする能力の向上をはかる。
- (4) 説明技術、発問技術の向上をはかる。
- (5) 思考スキルの向上をはかる。
- (6) 教育・学習評価に対する考えを深める。
- (7) 情報モラル指導を含む情報活用能力育成を、各教科指導の中で実施するための基礎的な知識・技術獲得をはかる。

## 《授業計画》

1. 授業計画ならびに授業の進め方についての説明
2. 教室での学び・ICT活用教育とは
3. 今日の教育課題と学習指導要領
4. 先生に求められる「話す」「聴く」「伝える」「寄り添う」スキル
5. 主体的・対話的で深い学びとは
6. 教育における評価（ポートフォリオを含む）
7. 実物投影機を活用した教育
8. デジタル教材を活用した教育
9. タブレット端末を活用した教育
10. 情報活用能力を育てる
11. 情報モラル教育の重要性
12. 学習指導案作成ならびにその検討1
13. 学習指導案作成ならびにその検討2
14. 子どもたちの言語発達を支える
15. 自己学習調整者を育てる・自ら学び続ける先生を目指して

## 《成績評価の基準・方法》

LMS (manaba) を利用した事前回答をもとに、アクティブラーニング型授業を実施する。そのため、評価方法は次のとおりである。事前回答をはじめとする授業に向けての準備やグループワーク後の振り返り (55%)、授業時のグループワークへの参加姿勢や取り組み (25%)、演習課題評価 (20%) で評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「幼稚園教育要領解説」・「小学校学習指導要領解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 《事前・事後学習》

授業日までmanabaを利用して、与えたテーマに対する回答を課す。回答内容は、現場実習で得た経験したことを元に回答できるものである。今までの現場実践をしっかりと振り返って、回答を必ずおこなって欲しい。授業時には、学びを深めるための資料等を配布する。授業時に活用する資料もあるが、多くは事後学習のためのものである。授業で得た学びを元に資料を読み込み、自身の深い学びに繋げて欲しい。授業後はmanabaを利用して、自己評価ならびに振り返りをおこなう。

# 教育心理学

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 渡辺 俊太郎

## 《授業の概要》

保育・教育現場では、心理学的視点をもって子どもと関わることで、的確な子ども理解や適切な指導・支援につながる。心理学的視点をもった保育者・教育者になるために求められる、子どもの心身の発達および学習の過程に関する基礎的な知識について、テキストや資料によって学ぶとともに、講義中のワークを通して体験的に理解を深める。

## 《学生の到達目標》

乳幼児期から青年期の各時期における心身の発達の過程および特徴に関する代表的理論を学び、発達概念および教育における発達理解の意義を理解する。学習に関する基礎的な知識として様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的理論、動機づけ・集団づくり・学習評価のあり方について学び、発達の特徴と関連づけた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

## 《授業計画》

1. 教育心理学の概要について理解する
2. 親子関係の重要性を学ぶ
3. 幼児期の認知的発達理論について学ぶ
4. 思春期の子ども理解を深める
5. 道徳性の発達理論について学ぶ
6. 発達障害児の心理を考える
7. 発達障害児の事例から理解を深める
8. 発達障害児の支援について学ぶ
9. 学級経営に関する心理学理論を学ぶ
10. 学力と知能に関する知識を習得する
11. 知能の測定と結果の活用について学ぶ
12. 学習のメカニズムを理解する
13. 記憶のメカニズムを理解する
14. 動機づけのメカニズムを理解する
15. 教育評価の方法について学ぶ

## 《成績評価の基準・方法》

定期試験 (60%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート (40%)

## 《授業で使用する教科書》

・古川聡「教育心理学をきわめる10のチカラ (改訂版)」福村出版

## 《参考書》

・「幼稚園教育要領 (最新版)」・「小学校学習指導要領 (最新版)」  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習として、教科書の「キーワード」「キーパーソン」を中心に予習を行う。また、配布された課題ワークシートに取り組み、事後学習として、教科書のうち授業で触れられなかった部分を読み、理解を深める。また、教科書の「考えてみよう話し合ってみよう」の課題に取り組み、自分なりの考えを受講生同士で共有しよう。

# 教育課程論

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★ト田 真一郎

## 《授業の概要》

教育課程の意義や編成の方法を理解し、保育・教育現場における指導計画の実際に触れることを通じて、カリキュラムマネジメントのために必要な基礎的な能力を獲得する。また、ナショナルカリキュラムの変遷や各現場における計画の多様性の理解を通して、教育方法の多様性や社会的背景の理解を深める。さらに、教育課程における現代的な課題である、幼小接続の在り方やカリキュラムマネジメントについても理解を深める。

## 《学生の到達目標》

本科目においては、就学前教育及び就学後教育における教育課程の役割を理解し、子どもの心身の発達に応じた学習指導が行えるように教育課程の意義や類型、それを編成するときの理論的背景について学ぶとともに、自ら編成する基礎的な力を身に付けることを目標とする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解することを目標とする。

## 《授業計画》

1. 教育の計画についての基本を学ぶ
2. 要領・指針の改定と教育の計画の意義について
3. 就学前教育と就学後教育の連続性と相違点について～目標と内容の観点から～
4. 実践の背景にある子ども観が教育課程編成に与える影響について
5. カリキュラムの理論的立場について～児童中心主義と系統主義～
6. 学習指導要領・幼稚園教育要領の歴史の変遷について
7. 学習指導要領・幼稚園教育要領の歴史の変遷と現在の要領・指針について
8. カリキュラム・マネジメントの基本について
9. 子ども理解と目標のマネジメントについて①～実践記録から学ぶ～
10. 子ども理解と目標のマネジメントについて②～映像を通して考える～
11. 教育内容と方法のマネジメントについて①
12. 教育内容と方法のマネジメントについて②～教材研究を通して考える～
13. 教育評価とカリキュラムの改善について
14. アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて
15. 授業のまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の小レポート 30% 授業内で指定する課題レポート (2回) 70%。小レポートについては、次の授業時に評価を行ったうえで返却する。課題レポートについても、授業終了後に返却し、適宜、個別指導を行う。

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領」・文部科学省「小学校学習指導要領」

## 《参考書》

・厚生労働省「保育所保育指針」

## 《事前・事後学習》

事前学習としてインターンシップや実習での経験を授業に応じて整理すること。また、自身が経験してきた保育・幼児教育・学校教育での経験を整理しておくこと。事後学習として授業で学んだ内容を実習等での指導計画作成や実習先で使用している指導計画の理解につなげること。

# 教育制度

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 佐伯 知子

## 《授業の概要》

この授業では、受講生が日本の教育制度について身近な事象と結びつけて理解できるよう、さまざまな事例・資料をふまえて講義する。また、制度の意義や課題について理解を深められるよう、受講生同士の意見交流の機会も積極的に設ける。

## 《学生の到達目標》

・教育制度の成り立ちや仕組みについて基礎的な知識を身に付ける。  
・教育制度への理解をふまえ、今日の教育が抱える諸問題やその解決の方途について、自分の考えを述べる事ができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 教育に関する社会的事項 (1) 子どもの生活の変化
3. 教育に関する社会的事項 (2) 学校をめぐる状況の変化
4. 教育に関する社会的事項 (3) 教育政策の動向
5. 教育に関する制度的事項 (1) 教育関係法規①
6. 教育に関する制度的事項 (2) 教育関係法規②
7. 教育に関する制度的事項 (3) 教育関係法規③
8. 小括 小テスト
9. 教育に関する制度的事項 (4) 教育行政①
10. 教育に関する制度的事項 (5) 教育行政②
11. 学校安全への対応 (1) 生活安全・交通安全
12. 学校安全への対応 (2) 災害安全
13. 学校と地域との連携・協働
14. 諸外国の事例
15. 総括 小テスト

## 《成績評価の基準・方法》

授業に取り組む姿勢 (50%)、レポート等の提出物 (30%)、小テスト (20%)。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・日ごろから新聞を読むなどして世の中の動きを意識すること。  
・授業内容をその都度復習すること。興味をもったテーマについては積極的に本を読んだり調べたりすることで、学びを深めること。

# 生活科指導法

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 香田 健治, ★武部 浩和

## 《授業の概要》

学習指導要領に示される目標・内容・方法・評価など、生活科の基本的な考え方について、グループワークによる実践事例の分析を通して理解を深める。生活科の意義と特質に基づく授業構想と単元指導計画、学習指導案の作成や学習指導の基礎的な考え方について理解を深める。模擬授業と授業交流、振り返りなどを通して、生活科の授業改善の視点を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

- 生活科の目標や学年目標・内容・方法・評価などを理解するとともに、全体構造を説明できる。
- 実践事例の分析を通して、子供の実態を理解することの重要性を理解し、生活科の特性を生かした情報機器及び教材の効果的な活用の仕方を理解し、授業設計に応用できる。
- 生活科の意義に基づく、単元指導計画及び学習指導案の構成を理解し、単元指導計画や学習指導案の作成方法を身に付けることができる。
- 模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けるとともに、考察することができる。

## 《授業計画》

- オリエンテーション
- 生活科創設の背景と経緯、現状と課題
- 生活科の目標と内容の構造
- 生活科の単元と授業づくりにおける指導上の留意点
- 栽培を中心とした実践事例の分析
- 地域探検を中心とした実践事例の分析
- ものを使った遊びの実践事例の分析
- 季節の変化生活を中心とした実践事例の分析
- 生活科の単元指導計画及び学習指導案の作成の留意点
- 生活科の授業構想・指導案作成(学校と生活)
- 生活科の授業構想・指導案作成(家庭と生活)
- 生活科の授業構想・指導案作成(地域と生活)
- 発表(模擬授業「学校と生活」「家庭と生活」)と討論
- 発表(模擬授業「地域と生活」)と討論及びまとめ
- 生活科における環境構成と学習評価

## 《成績評価の基準・方法》

模擬授業後のリフレクションシート（20%）、作成した年間指導計画及び指導計画（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説  
総則編（最新版）」東洋館出版社・文部科学省「小学校学習指導要領解説  
生活編（最新版）」東洋館出版社・「わくわくせいかつ上」啓林館・「いきいきせいかつ下」啓林館・生野金三・香田健治・高木史人・湯川雅紀編著「幼稚園・小学校教育の理論と指導法」鼎書房

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

指定した教科書、参考書、資料等を通読しまとめること（1時間）。  
配布した資料を参考にして、指導案等の作成をすること（1時間）。  
授業後の振り返りをリフレクションシートに記述する（15分）。

# 音楽演習 II

3年次  
1単位（演習）  
資格 小○  
担当 早川 藍香

## 《授業の概要》

幼稚園・保育園または小学校で歌われる曲や、リズム表現活動に使用する曲を数多く習得する。毎週一人ずつ演奏することで、正確なメロディー・リズム・ハーモニーで伴奏し、美しい声でよく聴こえるように弾き歌いすることを学習する。また、楽譜に記載されているコードネームから、自分で伴奏付けができる技術を身につける。

## 《学生の到達目標》

保育・教育現場において、子どもたちと歌ったり、子どもたちが楽しく歌えるような伴奏ができることを目指す。

## 《授業計画》

- オリエンテーション コードネームの説明
- 園生活のうた
- 春のうた
- 春のうた
- あそびのうた・リズム表現活動の曲（マーチ）
- 夏のうた
- 夏のうた
- 秋のうた
- 秋のうた
- 行事のうた・リズム表現活動の曲（ラン）
- いろいろなうた・リズム表現活動の曲（スキップ・ギャロップ）
- 冬のうた
- 冬のうた
- 新しいうた・リズム表現活動の曲（ワルツ・いろいろな表現）
- 振り返り・まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

毎週授業時に、一人ずつの伴奏付けや弾き歌いを行い毎週評価するため、定期試験及び再試験は行わない。

## 《授業で使用する教科書》

・小林 美実「こどものうた100」チャイルド本社・茂田  
すすむ「保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集」全音楽譜出版社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

保育には弾き歌いが不可欠であるため、毎週授業までの十分な練習が必要である。

# 音楽科指導法

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 中根 佳江、峯 恭子

## 《授業の概要》

- 1) 音楽科における教育目標、育成を目指す音楽的資質・能力を理解し、学習指導要領に示された音楽科の学習内容について理解を深める。
- 2) 様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
- 3) 音楽科を担当する教員に必要な音楽的な基礎的知識や技能を習得し、児童に内在する音楽能力を引き出し育むために必要な知識や技能等を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

- (1) 学習指導要領における音楽科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
- (2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
- (3) 音楽科の学習評価の考え方を理解している。
- (4) 音楽科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- (5) 子供の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
- (6) 音楽科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- (7) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業設計と学習指導案を作成することができる。
- (8) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

## 《授業計画》

1. 音楽科の今日的課題① 音楽科の実態の把握と現在の課題の理解
2. 音楽科の今日的課題② 「小学校学習指導要領」の変遷と音楽科の今日的課題
3. 領域「表現」の指導① 「歌唱」の指導方法の視点と指導上の留意点について
4. 領域「表現」の指導② 「器楽」の指導方法の視点と指導上の留意点について
5. 領域「表現」の指導③ 「音楽づくり」の指導方法の視点と指導上の留意点について
6. 領域「鑑賞」の指導 「鑑賞」の指導方法の視点と指導上の留意点について
7. 教材研究① 低学年から中学年における音楽的特性の視点を踏まえた教材研究の方法
8. 教材研究② 高学年における音楽的特性の視点を踏まえた教材研究の方法
9. 音楽科の授業設計と評価① 音楽科の学習評価の考え方について
10. 音楽科の授業設計と評価② 児童の認識・思考、学力等の実態を踏まえた授業設計と評価
11. 学習指導案の作成① 情報機器及び教材の効果的な活用と授業設計
12. 学習指導案の作成② 具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成
13. 模擬授業の実施とその振り返り① 作成した指導案を元にした模擬授業の実施
14. 模擬授業の実施とその振り返り② 実施した模擬授業の改善点等の検討
15. 本講義の全体を振り返り音楽科の教育目標、育成を目指す音楽的資質・能力の整理

## 《成績評価の基準・方法》

提出物（ワークシート、授業ノート等）20%、小テスト20%、実技課題20%、指導案の作成および模擬授業の実施40%、を目安に総合評価を実施する。

## 《授業で使用する教科書》

・「文部科学省『小学校学習指導要領』（最新版）」・文部科学省「『小学校学習指導要領解説音楽編』（最新版）」・初等科音楽教育研究会編「改訂版最新初等科音楽教育法2017年告示『小学校学習指導要領』準拠小学校教員養成課程用」音楽之友社他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

ソプラノ・リコーダー等の楽器が必要な場合には事前に連絡をします。使用する授業日までには必ず準備をしてください（忘れた場合、授業への参加が難しいなど不利益が発生します）。

# 図画工作科指導法

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★松岡 宏明

## 《授業の概要》

小学校図画工作科の意義、教育目標と内容及び教科構成を理解し、本教科の特徴や児童の発達段階を踏まえた上で、実践に必要な基本的な知識と指導・評価技術、考え方を身につける。

## 《学生の到達目標》

授業のテーマ：小学校図画工作科の理解と基本的指導力の育成

到達目標：

- ・学習指導要領に示された小学校図画工作科の意義、教育目標と内容及び教科構成を理解する。
- ・造形面における児童の発達段階を理解するとともに、児童理解に基づく学習指導のあり方を理解する。
- ・実践に必要な基本的な知識と指導・評価技術を身につける。

## 《授業計画》

1. 図画工作科の意義と教科性
2. 「私が受けた図画工作科の授業」、「安心と没頭を保障する図画工作の授業」
3. 図画工作科の位置づけと教科目標、育成を目指す資質・能力との関係
4. 図画工作科の内容構成①（領域「表現」〈造形遊び〉）
5. 図画工作科の内容構成②（領域「表現」〈絵や立体、工作〉）
6. 図画工作科の内容構成③（領域「鑑賞」）
7. 図画工作科の「共通事項」
8. 図画工作科の評価のあり方
9. 図画工作科教科書の分析
10. 図画工作科の教材研究の方法
11. 図画工作科の指導案作成の方法と留意点
12. 模擬授業①（領域「表現」〈造形遊び〉）に関する授業
13. 模擬授業②（領域「表現」〈絵や立体、工作〉）に関する授業
14. 模擬授業③（領域「鑑賞」）に関する授業
15. 図画工作科の課題と今後の「私」の展望

## 《成績評価の基準・方法》

評価・評定については、下記5項目を基に総合的に行う。  
振り返りノート〈20%〉、制作・鑑賞〈20%〉、模擬授業〈20%〉、レポート〈20%〉、授業ノート〈20%〉

## 《授業で使用する教科書》

・松岡宏明他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文芸出版・文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」日本文芸出版

## 《参考書》

・松岡宏明「子供の世界 子供の造形」三元社

## 《事前・事後学習》

事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ノートの整理を毎回行うこと。模擬授業では、課外時間にチームでの事前準備や展開構想づくりを行うこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、執筆すること。レポートは、返却された後、修正を行い、今後の学びに生かすこと。授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次回までに完成させること。

# 家庭

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★大野 節子, ★横山 和子

## 《授業の概要》

1. 学習指導要領における家庭科の目標及び内容についての解説を通して、目標や内容区分の変遷や特徴を理解する。  
2. 内容を題材レベルで捉え、各内容の意義や特徴、それぞれの題材の目標を調べ、その題材の学習内容を理解する。  
3. 家庭科指導に関連して、他教科との関連や食育、持続可能な社会を目指す家庭科について理解を深める。

## 《学生の到達目標》

(1) 小学校学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。  
1) 内容ごとに題材レベルで、目標や学習内容、留意点等を理解できる。  
2) 学習内容を実践的に体験することにより、指導についても考えることができる。(2)  
家庭科に関連する学習内容について、調べたり考察したりできる。  
1) 家庭科と他教科との連携や関連について理解し、家庭科の生かし方を考察できる  
2) 食育や持続可能な社会に向けた教育における家庭科の役割が分かる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション・家庭科の目標、内容
2. 内容A「家族・家庭生活」の学習内容①
3. 内容A「家族・家庭生活」の学習内容②
4. 内容B「衣食住の生活」の学習内容①
5. 内容B「衣食住の生活」の学習内容②
6. 内容C「消費生活・環境」の学習内容①
7. 内容C「消費生活・環境」の学習内容②
8. 製作活動（小物作り）
9. 持続可能な社会と家庭科
10. 家庭科と他教科との関連
11. 家庭科と防災・減災
12. 家庭科と日本の食文化
13. 食育について
14. 家庭科とプログラミング
15. まとめ・これからの家庭科

## 《成績評価の基準・方法》

試験40%、提出物（レポート、ワークシート 等）40%、授業への積極的参加度20%

## 《授業で使用する教科書》

・「わたしたちの家庭科」開隆堂 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭科』」

## 《事前・事後学習》

今回の課題について自分の考えをまとめておき、授業へ積極的に参加する。  
事後学習として、生活の見直しや実践に結び付けて考える。

# 家庭科指導法

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★大野 節子, ★横山 和子

## 《授業の概要》

1. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目標や内容区分の変遷や特徴を理解させる。  
2. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を理解させ、目標達成のための指導方法について考えさせる。  
3. 学習評価を含めて、教材研究を通して学習指導案を作成し、それを具現化した模擬授業を通して授業評価、授業改善を考えさせる。

## 《学生の到達目標》

(1) 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容、家庭科の学習評価の考え方、並びに全体構造を理解している。個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。  
(2) 家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、活用できる。  
(3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点身に付けている。

## 《授業計画》

1. 小学校家庭科の目標及び内容
2. 学習指導要領の内容A「家族・家庭生活」の指導
3. 学習指導要領の内容B「衣食住の生活」の指導①
4. 学習指導要領の内容B「衣食住の生活」の指導②
5. 学習指導要領の内容C「消費生活・環境」の指導①
6. 学習指導要領の内容C「消費生活・環境」の指導②
7. 学習指導要領の内容B 製作活動の指導
8. 教材研究の仕方
9. 学習指導案の書き方
10. 模擬授業の学習指導案作り
11. 模擬授業の準備
12. 模擬授業（1）内容Aの模擬授業と授業等議会
13. 模擬授業（2）内容Bの模擬授業と授業等議会
14. 模擬授業（3）内容Cの模擬授業と授業等議会
15. まとめ・これからの家庭科教育

## 《成績評価の基準・方法》

模擬授業・試験40%、レポートや提出物40%、授業への積極的参加度20%

## 《授業で使用する教科書》

・「わたしたちの家庭科」開隆堂

## 《参考書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説家庭科」

## 《事前・事後学習》

・事前にテキストを読み、課題意識をもって授業に参加する。  
・模擬授業では主体的に取り組み、グループワークでは協力的に参加する。  
・事後学習として、授業の参考になるところや改善点を考える。

# 小学校英語

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 竹田 里香

## 《授業の概要》

英語指導に必要な第二言語習得理論、英語学、音声学の基礎を学ぶとともに、絵本やチャンツ・ナーサリーライムなどの歌を含む教材に触れ、異文化理解教育やCLILを学ぶ。評価を見据えた指導案を立て、模擬授業をグループで行い、フィードバックを通し、小学校外国語活動・外国語科の授業で必要な事を学ぶ。また、J-POSTLエッセンシャルを使用し、言語教師の資質・能力について考える機会を持ち、自己省察を行う。

## 《学生の到達目標》

小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な背景的な知識を身につける。小・中学校の連携も踏まえながら、小学校外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な知識、技能を身につける。以下が到達目標である。①小学校外国語教育の歴史を知り、外国語教育の意義を考える②外国語教授法について知る③絵本・チャンツ・ナーサリーライムなどについて学ぶ④異文化理解とCLIL（教科横断型学習）について学ぶ⑤教材・教具について学ぶ⑥評価について理解し、指導案作成ができる⑦模擬授業を通して学びを自分のものにする。

## 《授業計画》

1. 本授業のガイダンス、小学校外国語教育の歴史、小学校外国語活動・外国語科のめざすも
2. 第二言語習得理論、発達心理学
3. 外国語教授法① 教材研究 Let's Try! 1
4. 外国語教授法② 教材研究 Let's Try! 2
5. ティームティ칭の意義・クラスルームイングリッシュの役割
6. 絵本指導
7. 英語の歌、チャンツ、ナーサリーライム、マザーグース
8. 教材・教具
9. 評価
10. 指導案の作成方法と授業観察の観点
11. 異文化理解教育とCLIL
12. 模擬授業と振り返り①
13. 模擬授業と振り返り②
14. 模擬授業と振り返り③
15. 模擬授業と振り返り④

## 《成績評価の基準・方法》

学内での定期試験は実施しません。  
毎時ミニッツペーパー（授業参加度）20%  
、模擬授業（グループ）30%、指導案20%、小テスト15%、レポート15%

## 《授業で使用する教科書》

・樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子「新編小学校英語教育入門（ISBN978-4-327-4109808）」研究社・文部科学省「Let's try! 1,2」

## 《参考書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語編 外国語活動編」  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

集中講義で授業を行います。

理論を学んだあとでテキスト見て理解を深めるようにしてください。事後学習として、前週の学んだものを、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。また最終の模擬授業にグループで協力して発表できるようにしておくこと。

# 英語指導法

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 高橋 美由紀

## 《授業の概要》

グローバル化に対応した小学校外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識・理解として「学習指導要領」「教材研究」「小・中・高等学校の連携と小学校の役割」「児童や学校への多様性への対応」について学ぶとともに、「子どもの第二言語習得についての知識とその活用」の視点から「発達段階に適した指導法＝教授法」「理解するプロセス＝視聴覚教材を活用し、気付き音声によるインプットからアウトプットへ」「コミュニケーションの場面・状況を重視した活動」「音声から文字への学習のプロセス」「国語教育との連携による言語活動」について学ぶ。また、授業実践における指導技術・授業づくりの視点から、「Classroom English/ Small Talk」「読むこと・書くことの指導」「題材の選定、教材研究」「学習到達目標と評価」「指導計画・指導案作成」の実践的な理解を深める。ICT等を活用しながら模擬授業を通して授業実践に必要な知識や指導技術を身につける。

## 《学生の到達目標》

小学校における外国語活動・外国語科の学習・指導・評価に関する基本的な知識と指導技術を身に付ける。以下が到達目標である。  
①小学校外国語活動・外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境等について理解している。  
②小学校外国語活動・外国語科の授業実践に必要な知識や基本的指導技術を身に付けている。  
③実際の授業づくり及び評価に必要な知識・技術を身に付けている。

## 《授業計画》

1. ガイダンス グローバル化に対応した小学校外国語教育について
2. 2020年度から導入された学習指導要領について 児童や学校の多様化の中の外国語教育
3. 言語習得論及び児童期の外国語学習について
4. 児童の発達段階に適した外国語教授法について
5. 英語指導力育成（Classroom English/ Small Talk等）
6. スピーキング指導とリスニング指導の実際
7. リーディング指導とライティング指導の実際
8. 視聴覚教材（ICT機器）を活用した指導の実際
9. 指導計画・指導案作成と評価の在り方
10. 外国語活動の教材研究（Let's Try! 1・2）
11. 外国語活動の模擬授業（Let's Try! 1・2）
12. 外国語科の教材研究（文部科学省検定済み教科書5・6年生）
13. 外国語科の模擬授業（文部科学省検定済み教科書5・6年生）
14. 外国語科の模擬授業（文部科学省検定済み教科書5・6年生）
15. 授業のまとめと振り返り

## 《成績評価の基準・方法》

- ①小テスト 20%
- ②レポート 20%
- ③教材作成 10%
- ④指導案 10%
- ⑤模擬授業 20%
- ⑥振り返りカード 20%

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「Let's Try! 1」東京書籍・文部科学省「Let's Try! 2」東京書籍・「Here We Go5」光村図書出版・「Here We Go6」光村図書出版

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

（事前学習）  
『学習指導要領』と『研修のガイドブック』については、ダウンロードして、事前に読んでおくこと。  
（事後学習）  
模擬授業の発表後、自身の課題を認識し、さらに実践技能を磨くためにも教科書からレッスンを選んで、何度も練習をすることが望ましいと思います。

# 総合的な学習の時間の指導法

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★武部 浩和, ★仲山 正志

## 《授業の概要》

総合的な学習の時間(以下「総合」と略称)は、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習活動等を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成」をめざす探究の時間である。  
授業者は、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および現実的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につけておかなければならない。  
「総合」の意義と原理・指導計画の作成・指導と評価について具体的な実践事例を通して講義・演習を展開していく。

## 《学生の到達目標》

- 「総合」の意義と教職課程において果たす役割について、教科等を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。
- 「総合」の目標、各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。
- 各教科等の関連性を図りながら「総合」の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。
- 主体的・対話的で深い学びを実現するような「総合」の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。
- 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。
- 「総合」における児童の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

## 《授業計画》

1. 総合的な学習の時間とは?
2. 総合的な学習の時間の目標・内容・探究課題
3. 総合的な学習の時間と道徳・特別活動との関連
4. 総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント
5. 自校の総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成
6. 自校の総合的な学習の時間の単元・授業デザイン
7. 「考えるための技法」(思考スキル)の活用について
8. 総合的な学習の時間の学習評価
9. デジタルシティズンシップと総合的な学習の時間
10. キャリア教育と総合的な学習の時間
11. STEAM教育と総合的な学習の時間
12. SDGsと総合的な学習の時間
13. 「大学周辺」をテーマにした模擬授業(単元デザイン)
14. 「大学周辺」をテーマにした模擬授業(指導と評価)
15. 総括「自校と地域の強みを活かす総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント」

## 《成績評価の基準・方法》

授業中に小テストを3回実施する。(評価比率30%)  
期末試験を実施する。(評価比率70%)

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編」東洋館出版社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

- 事前・事後学習の要点や参考図書の紹介などは授業中に提案する。
- 自分の小学校時代を想起し、いちばん思い出に残っている総合的な学習の時間の探究学習をまとめておくこと。

# 特別活動指導法

3年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★依谷 好一

## 《授業の概要》

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の二つの視点や「チームとしての学校」の視点をもち、学年の違による活動の変化の視点や「子どもを取り巻く課題について、事例を通じて原因を考察することができる。」  
各教科等との関連・地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身につける。さらに、集団や人間関係に関する課題に対応できる実践力の基礎を身につける。

## 《学生の到達目標》

- ①学習指導要領を考察し、その特質と意義、目標、内容について理解することができる。
- ②子どもを取り巻く課題について、事例を通じて原因を考察することができる。
- ③授業実践のための、指導目標、指導内容、評価について理解し、学習指導案を作成することができる。
- ④模擬授業を通じて、特別活動における実践力の基礎を培う。

## 《授業計画》

1. 特別活動を学ぶにあたって
2. 特別活動の意義と教育活動の中での特別活動の位置について
3. 学級活動について(話し合い活動・当番活動を中心に、その指導について)
4. 学級活動について(教科やその他の活動との関連について)
5. いじめ・不登校の問題(防止と対応、家庭、地域、関連諸機関との連携について)
6. キャリア教育と学級活動(指導の観点と事例、家庭、地域、関連諸機関との連携について)
7. 児童会活動について(組織や活動内容について)
8. 児童会活動について(学校における実際の取り組みとその指導について)
9. 学校行事について(目標・内容・年間計画の作成について)
10. 学校行事について(学校における実際の取り組みとその指導について)
11. クラブ活動について(目標・内容・年間計画の作成について)
12. クラブ活動について(学校における実際の取り組みとその指導について)
13. 特別活動の評価と指導要領
14. 指導計画・特別活動の指導案作成
15. 模擬授業と振り返り

## 《成績評価の基準・方法》

毎時間後に授業ノートを提出する。期末にレポートの提出を求め総合的に評価する。  
評価の比率は授業ノート(60%)、期末レポート(40%)とする。

## 《授業で使用する教科書》

・「小学校学習指導要領特別活動編(平成29年告示)」東洋館出版社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

これまで学んできた小学校特別活動を振り返ることから、子どもが楽しむ学校生活は何かと考えること。  
素晴らしい集団活動を通して、よりよい集団づくり・子ども達一人ひとりの居場所のある学級集団づくりとはも追究すること。

# 生徒指導

3年次  
1単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★野嶋 敏一

## 《授業の概要》

生徒指導は、一人一人の児童および生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通して行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。「生徒指導の基本的な進め方」や「個別の課題に対する児童生徒への対応」等、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

○生徒指導の意義と原理および基本的な実践的方法を理解することができるようになる。  
○生徒指導が、問題行動等に対する対応にとどまるのではなく、学校教育活動全体を通じて、全ての児童・生徒を援助・指導していくものであることを理解することができるようになる。  
○今日的な課題を把握し、生徒指導上、教員に求められる役割を理解するとともに、より深く学ぼうとする姿勢を持つことができるようになる。

## 《授業計画》

1. 生徒指導の意義と原理
2. 教育課程と生徒指導 教科における生徒指導
3. 教育課程と生徒指導 総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導
4. 児童生徒の心理と児童生徒理解 児童期の心理と発達
5. 児童生徒の心理と児童生徒理解 児童生徒理解の資料とその収集
6. 学校における生徒指導体制 生徒指導の組織と生徒指導主事の役割
7. 学校における生徒指導体制 全校指導体制の確立
8. 教育相談 教育相談体制
9. 教育相談 教育相談の進め方と連携
10. 生徒指導の進め方 児童生徒全体への指導
11. 生徒指導の進め方 個別の課題を抱える児童生徒への指導
12. 生徒指導に関する法制度等 校則・懲戒と体罰
13. 生徒指導に関する法制度等 青少年の保護育成に関する法令等
14. 学校と家庭・地域・関係機関との連携 学校を中心とした連携活動
15. 学校と家庭・地域・関係機関との連携 地域ぐるみで進める健全育成

## 《成績評価の基準・方法》

各授業内での課題提出状況40%、各授業内での課題の内容および理解度60%。

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「生徒指導提要(最新版)」 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「小学校学習指導要領」

## 《事前・事後学習》

教育関連のニュースについて、内容をよく知り、教育課題に関する知識を豊かにしておく。文部科学省や各都道府県の教育委員会、国立教育政策研究所のHPなどで「生徒指導」について調べておく。上記のHPなどを定期的にチェックし、特に興味関心のあること、重要であると考えたことについては、刊行物等を読むなどしてより深く知っておく。

# 進路指導論

3年次  
1単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★木村 憲太郎

## 《授業の概要》

進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。また、すべての児童を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を学び、さらに児童が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方・進め方を学修する。なお、授業においては、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れることによって具体的な理解が進むように留意する。

## 《学生の到達目標》

学生の到達目標は次のとおりである。  
（1）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけと、それらにおける組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。（2）学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。（3）職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。（4）主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。（5）生涯を通じたキャリア形成に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオ活用等の在り方を例示することができる。（6）キャリア・カウンセリングの基本的な考え方と実践方法を説明することができる。

## 《授業計画》

1. 進路指導・キャリア教育の原理
2. キャリア教育の必要性と意義
3. 小学校におけるキャリア教育の実際
4. キャリア教育推進のための校内組織について
5. キャリア教育の全体計画の作成（グループワーク）
6. キャリア教育の年間計画の作成（グループワーク）
7. キャリア教育における家庭や関係諸機関との連携
8. キャリア教育の評価
9. 教育課程におけるキャリア教育の位置づけ
10. キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメント
11. 小学校低学年の発達課題と実践の在り方（ディスカッション）
12. 小学校中学年の発達課題（グループワーク）
13. 小学校中学年における実践の在り方（ロールプレイ）
14. 小学校高学年の発達課題（グループワーク）
15. 小学校高学年における実践の在り方（ロールプレイ）

## 《成績評価の基準・方法》

- ・最終課題（50%）
- ・レポート、ふり返り、課題等(40%)
- ・授業等への取り組み(10%)

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校 キャリア教育の手引き」教育出版 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・藤田晃之「キャリア教育」ミネルヴァ書房・村上 龍「新13歳のハローワーク」幻冬舎・経済産業省「キャリア教育ガイドブック」学事出版 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、授業が授業資料に沿って進められるため、事前に配布された授業レジュメをよく読んでおく。同時に教科書の該当ページにも目を通しておく。また、基礎的な知識としてキートンについて調べておく。事後学習としては、授業で使った授業資料に教科書、参考書や各種資料を加えて整理する。事後学習のまとめとしての課題等の提出物を作成するだけでなく、各自で振り返りを行う。

# 教育実習（幼）

3年次  
5単位（実習）  
資格 幼○  
担当 ★東城 大輔, ★三輪 よし子

## 《授業の概要》

幼児教育者としての心構えを養い、愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として、幼稚園における学外実習を行う。具体的には、幼稚園現場にて園児や教職員と直に接し、子どもを指導するための心構えや学級担任の役割および職務内容について、実地体験を通して理解する。今まで大学で学んだ理論や技術に加え、様々な活動場面で適切に幼児と関わる体験を模索しながら自身の子どもの顔や教育観を深めていく。実習前の事前指導においては指導案作成などを行い、実習後の事後指導においては、実習の反省として成果と課題を意識して振り返りを行う。この授業は、アクティブラーニング（保育現場における実習、グループディスカッション、模擬保育など）を含めて実施する。なお実習は幼稚園において原則20日間行う。

## 《学生の到達目標》

幼稚園の教育実習に参画するにあたって、実習生として遵守すべき義務等の理解、心構えや姿勢、準備など基本的なことを理解している。また教育実習に臨む際、その目的や内容、方法などを、幼稚園教育の特質を実際的に理解することができ、幼児の実態等を踏まえた適切な指導案についてグループディスカッションなどを通して作成し、保育実践へとつなげていくことができる。実習の振り返りにおいては、得られた成果と課題等を省察するとともに、自己の保育・教育観の形成に役立たせる力を確認する。なお事後学習における振り返りに際してはICTを活用した資料作成を行い、その発表を通してプレゼンテーション技能等を磨くことや、他者の実習に関する情報を得ることで、今後の自身に必要な基本的技術の確認や保育観の再構成などを意識することができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 実習指導についての概要の理解と実習生の態度
3. 実習の目的（内容の理解や実習への自覚と責任について）
4. 実習の方法（子どもの姿の予想や事前準備等について）
5. 幼稚園の理解（幼稚園教育要領の基本的理解）
6. 幼稚園の理解（子どもの発達と保育内容について）
7. 実習目標の明確化と模擬保育に向けた指導案の作成
8. 模擬保育の実施1（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
9. 模擬保育の実施2（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
10. 模擬保育の実施3（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
11. 模擬保育の実施4（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
12. 模擬保育の実施5（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
13. 実習園における具体的な計画と見通しと指導案の再作成
14. 実習園に対する理解（実習園の一日の流れ等について）
15. 実習への心構え（課題を深めることや目標の共有等について）
16. 実習先へのお礼状作成方法
17. 実習の振り返りと他学生との実習交流
18. 幼稚園実習報告会1（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
19. 幼稚園実習報告会2（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
20. 幼稚園実習報告会3（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
21. 幼稚園実習報告会4（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
22. 幼稚園実習報告会5（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
23. 幼稚園実習報告会6（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
24. 幼稚園実習報告会7（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
25. 幼稚園実習報告会8（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
26. 幼稚園実習報告会9（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
27. 幼稚園実習報告会10（情報機器活用したプレゼンテーションおよび個人面談）
28. 幼稚園実習における自己評価と他者評価（実習や発表を振り返って）
29. 幼稚園実習についてのまとめ（成果と課題について）
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

実習先からの評価および実習日誌（60%）  
指導案やお礼状等の事前・事後授業における提出物（40%）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前：実習園について調べておくなど、実習における課題や目標などを明確にしておく。  
事後：授業での学習の振り返りや、他学生と反省・課題などの情報交換を行い、自身の学びを深める。

# 教育実習（小）

3年次  
5単位（実習）  
資格 小○  
担当 ★野嶋 敏一, ★藤田 善正, ★木村 憲太郎

## 《授業の概要》

小学校の教育者をを目指すための授業である。この授業は、アクティブラーニング(実習、グループワーク)を含め実施する。まず、教育実習に向けて各自が実習課題を設定して、子ども顔や授業への考え方を深める準備をする。続いて、小学校における20日間、160時間の教育実習に臨み、子どもの学習や生活、また、指導者の指導方法の実態を観察しながら担当指導者の下、教育のあり方、各教科の指導方法について学ぶ。最後に評価表をもとに実習生活を振り返り、教師としての姿を見つめる機会とする。

## 《学生の到達目標》

小学校教育実習で「先生」として子どもにかかわり、指導者の学級経営、教科等の指導の実際を学びながら、小学校教育の現状や、子どもの実態、指導方法等を把握するとともに、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。さらに、将来教員になるうえで自らの資質を磨き、指導力を高めるためにはどうすればよいかを考えることができることを目標とする。

## 《授業計画》

1. 小学校教育実習のオリエンテーション
2. 小学校実習対象児童理解Ⅰ（低学年）
3. 小学校実習対象児童理解Ⅱ（中学年）
4. 小学校実習対象児童理解Ⅲ（高学年）
5. 学習指導要領についてⅠ
6. 学習指導要領についてⅡ
7. 実習課題の明確化と実習計画の作成
8. 学習指導の内容と方法Ⅰ
9. 学習指導の内容と方法Ⅱ
10. 実習にむけてのグループワークⅠ（指導案作成・模擬授業発表等）
11. 実習にむけてのグループワークⅡ
12. 実習にむけてのグループワークⅢ
13. 実習にむけてのグループワークⅣ
14. 実習にむけてのグループワークⅤ
15. 事前指導の総括
16. 小学校実習総括Ⅰ（フィールドワークの視察・調査の課題設定）
17. 小学校実習総括Ⅱ
18. 小学校フィールドワークⅠ（視察・調査に基づく成果報告書の作成）
19. 小学校フィールドワークⅡ
20. 小学校フィールドワークⅢ
21. 小学校フィールドワークⅣ
22. 小学校教育の現状と課題Ⅰ（ICTの活用・外国語・プログラミング学習等）
23. 小学校教育の現状と課題Ⅱ
24. 小学校教育の現状と課題Ⅲ
25. 学習指導の教科等の内容と方法Ⅰ（実習評価開示）
26. 学習指導の教科等の内容と方法Ⅱ
27. 小学校教育と教師の在り方Ⅰ（グループワーク）
28. 小学校教育と教師の在り方Ⅱ
29. 小学校教育と教師の在り方Ⅲ
30. 全体総括

## 《成績評価の基準・方法》

実習先の評価・日誌等（60%）、授業での取り組みや記録・提出物等(40%)

## 《授業で使用する教科書》

・「小学校学習指導要領(平成29年告示)」東洋館出版社

## 《参考書》

・「小学校教育実習ハンドブック(改訂版)」大阪総合保育大学

## 《事前・事後学習》

事前学習：実習校での本実習を有意義なものにするために、実習の意義や心構えを学ぶ。事後学習：実習を振り返り、教職の魅力を感じ取る。さらに「教職実践演習」の講義へつないでいく。

# 介護等体験

3年次  
1単位（実習）  
資格 小○  
担当 ★高田 昭夫

## 《授業の概要》

社会福祉施設や特別支援学校で安全で効果的な介護等体験の実習を行うにあたり、この目的や意義、実習の留意点を学び、社会福祉施設や特別支援学校における介護について事前に理解を深めておく。また、実習では、社会福祉や特別支援に関する知識、障がい者や高齢者に対する理解を深めるとともに、介護について学ぶ。実習後は、自分の体験をふり返り、実習に対する自己評価を行う。

## 《学生の到達目標》

- ・介護等体験の目的と意義が理解できる。
- ・実習における留意点を理解し、体験に臨む準備が整う。
- ・社会福祉や特別支援教育、障がい者や高齢者に対する理解が深まる。
- ・社会福祉施設や特別支援学校の概要について理解できる。
- ・保育士・教員を目指す者が、個人の尊敬及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としてふさわしい資質が養われる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 介護等体験の意義
3. 介護等体験で何を学ぶかー教師としての資質向上に向けて
4. 特別支援学校と特別支援教育について（1）一障がいに対する理解
5. 特別支援学校と特別支援教育について（2）一特別支援学校の実際
6. 高齢者福祉と社会福祉施設について（1）一高齢者に関わるといこと
7. 高齢者福祉と社会福祉施設について（2）一高齢者福祉の現状
8. 介護等体験に取り組み留意点と心構え（1）一社会福祉施設
9. 介護等体験に取り組み留意点と心構え（2）一特別支援学校
10. 介護等体験の実際（1）一社会福祉施設職員の方を招いて
11. 介護等体験の実際（2）一特別支援学校教員の方を招いて
12. 介護等体験で学んだこと一体験の振り返り（1）一社会福祉施設
13. 介護等体験で学んだこと一体験の振り返り（2）一特別支援学校
14. 介護等体験で学んだこと一体験を教育実習にどう活かすか
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

課題、事前・事後指導への取り組み（レポートや課題提出：20%）、実習施設における評価（50%）、成果発表（レポートやプレゼンテーション：30%）などをもとにして総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

学外施設での指導をはじめ時間外・学外の学修が含まれている。必ずオリエンテーションにて詳細を確認すること。準備事項を含む予習復習については、毎回指示する。基本的には体験先の情報を収集し事前の理解を深めること、および体験終了後の振り返りなどである。

# 卒業論文 I

3年次  
2単位（演習）  
資格 なし  
担当 佐伯 知子、★藤田 朋己、★松岡 宏明、渡辺 俊太郎、要正子、★東城 大輔、★高田 昭夫、深田 直子、★武部 浩和、★野嶋 敏一、末次 有加、井岡 瑞日、杉本 孝美

## 《授業の概要》

この授業では、受講生が多様な関心の中から自分にとって最も関心のあるものを卒業論文のテーマとして設定し、それを探究するにふさわしい方法論を身に付けることをめざす。

## 《学生の到達目標》

- ・自分にとって最も意味のある関心に絞り込み、卒業論文のテーマを決めることができる。
- ・自分の卒業論文のテーマを探究するのにふさわしい方法論を見つけることができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 卒業論文を書くということ
3. 発表・討議の仕方について概説（1）
4. 発表・討議の仕方について概説（2）
5. 受講生の関心を出し合い、討議のテーマを選ぶ
6. 発表と討議（1）
7. 発表と討議（2）
8. 発表と討議（3）
9. 発表と討議（4）
10. 発表と討議（5）
11. 発表と討議（6）
12. 発表と討議（7）
13. 発表と討議（8）
14. 発表と討議（9）
15. 総括
16. 卒業論文を書くということ一再説
17. 卒業論文のテーマの発表と討議（1）
18. 卒業論文のテーマの発表と討議（2）
19. 卒業論文のテーマの発表と討議（3）
20. 卒業論文のテーマの発表と討議（4）
21. 卒業論文のテーマの発表と討議（5）
22. 卒業論文のテーマの発表と討議（6）
23. 卒業論文のテーマの発表と討議（7）
24. 卒業論文のテーマの発表と討議（8）
25. 卒業論文のテーマの発表と討議（9）
26. 卒業論文のテーマの発表と討議（10）
27. 卒業論文構想発表の準備（1）
28. 卒業論文構想発表の準備（2）
29. 卒業論文構想発表の準備（3）
30. 総括・構想発表会

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（授業内発表含む）（40%）、構想の内容（40%）、構想発表会（20%）。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

ゼミ内での発表・討議を繰り返す中で、自己の卒業論文のテーマについて考察を深めていくこと。

# 知的障害者の心理・生理・病理

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★高田 昭夫

## 《授業の概要》

基本的な医学的知識と知的障害の疾患の代表的なものについて深め、また合併する肢体不自由、病弱領域も一部含めて述べる。特に、知的障害児の中枢神経系の発達と病理について触れ、知的障害の定義や原因と分類、知的障害児の心理学的特徴について学ぶと同時に、知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害の心理的特徴についても学ぶ。

## 《学生の到達目標》

大脳の解剖・生理の基礎的知識を学ぶ。知的障害の原因となる代表的な疾患を、合併する肢体不自由、病弱領域も一部含めて理解する。知的障害者の心理について理解を深める。

## 《授業計画》

1. 人体の遺伝学と発生学
2. 大脳の解剖・生理（1）表面
3. 大脳の解剖・生理（2）中心部
4. 知的障害をきたす疾患（遺伝性疾患）
5. 知的障害をきたす疾患（染色体異常）
6. 知的障害をきたす疾患（胎芽病、胎児病、周産期疾患）
7. 知的障害をきたす疾患（難治てんかん）
8. 知的障害をきたす疾患（精神遅滞を伴う自閉症）
9. 知的障害者の知能の評価と特徴
10. 知的障害者の概念・思考の特徴
11. 知的障害者の学習能力の特徴
12. 知的障害者の性格・行動の特徴
13. 知的障害者の職業
14. 知的障害者の家族の心理
15. 総括・まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%）、課題・小テスト（40%）として評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前に、各回のテーマと関連した情報に関心を持ち、調べる。事後は授業内容と関連する書籍などを読み、学びを深める事。

# 肢体不自由者の心理・生理・病理

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 羽多野 わか

## 《授業の概要》

肢体不自由者の病態理解に必要な医学的基礎知識だけでなく、合併する知的障害や発達障害、最近増加している医療的ケア児について講義する。肢体不自由者の心理を概説し、当事者や家族の支援の在り方をアクティブ・ラーニングを通して考える。また、脆弱ゆえに死を意図して生きていくことか、死から生をみつめることを通して学ぶ。また、障がい無縁にかかわらず、子供たちと接する上で役立つモンテッソーリ教育の視点や、人生をより良く生きるためのアドバンスケアプランニング（ACP）についても紹介する。

## 《学生の到達目標》

病態理解に必要な医学的基礎知識、合併する知的障害や発達障害、医療的ケア児について理解を深める。参考図書や講義、ディスカッションから当事者や家族の思い・考えを知る。死から生をみつめることで、良く生きるとはどういうことかを自分なりに考えるとともに、どれが正しいという正解を求めるのではなく多様な考えがあることを知る。

## 《授業計画》

1. 肢体不自由者をきたす神経疾患（脳性麻痺）
2. 肢体不自由者に多い合併症（てんかん）
3. 肢体不自由者、重症心身障がい児者の生活の実際
4. 肢体不自由者の心理（当事者としての歩み）
5. 肢体不自由者と家族の心理的支援
6. 「きょうだい」支援について
7. 正常発達の見方、正常からの逸脱について①
8. 正常発達の見方、正常からの逸脱について②
9. 児童発達支援について①（モンテッソーリ教育の哲学・理論）
10. 児童発達支援について②（モンテッソーリ教育の実践と障がい児への応用）
11. 児童発達支援について③（ホスピタルプレイスペシャリストの活動）
12. 医療的ケア児について
13. アドバンスケアプランニング①（ACP）
14. アドバンスケアプランニング②
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%）、グループワークやディスカッションを含む授業への取組み姿勢（40%）として評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・東野圭吾「人魚の眠る家」幻冬舎文庫・渡辺一史「こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち」文春文庫・澤田智洋「マイノリティデザイン」ライツ社・伊藤亜紗「目の見えない人は世界をどう見ているか」光文社新書・R・J・パラシオ「Wonder(ワンダー)」ほるぷ出版

## 《事前・事後学習》

参考図書などから当事者や家族の思いを知り学習に臨むのが好ましい。

# 病弱者の心理・生理・病理

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 村上 佳津美

## 《授業の概要》

病弱者と言われる子どもが患っている病気の代表的なものについて、幼保育・学校の場で必要な医学的知識について勉強する。同時に医療者との連携の仕方、園や学校でどのように見ていくのか、彼らの心理状態、親の園・学校への要望などにどのように応えていくかを学ぶ。

## 《学生の到達目標》

基本的な医学的知識を習得する。合併して出現する二次的障害、病児の心理、級友の反応などを適切に受け止める能力を育てる。

## 《授業計画》

1. 感染症
2. 先天性疾患（1）
3. 先天性疾患（2）
4. 重症の慢性疾患
5. 軽度～中等度の慢性疾患
6. 致命的疾患
7. 病児の教室での言動
8. 発達障害
9. 発達障害の親への対応
10. 病児の自尊感情
11. 病児の将来を考える
12. 病児の家族（同胞も含め）との関わり
13. 発達障害を扱った映画鑑賞（レポート提出）
14. 身体的疾患を扱った映画鑑賞（レポート提出）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%）授業への取り組み（40%）で評価する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

高校までの授業や本学での一般授業で習った身体や病気の知識を復習しておく。授業で習った内容を思い出して、周囲や実習をする園・学校でできるだけ活用する。

# 知的障害教育論 I

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★高田 昭夫

## 《授業の概要》

知的障害教育への素養を育む契機となるように、知的障害教育の歴史・制度、現状や特色と今日的な課題、教育課程、個別的教育支援計画について講述する。

## 《学生の到達目標》

知的障害教育の歴史と現状と課題を知る。知的障害教育における教育課程と個別的教育支援計画の実際を理解する。

## 《授業計画》

1. 知的障害教育の歴史
2. 知的障害教育の現状と課題（1）現状
3. 知的障害教育の現状と課題（2）課題
4. 知的障害教育の現状と課題（3）まとめ
5. 知的障害教育の教育課程（1）背景
6. 知的障害教育の教育課程（2）実際と展開①学習指導要領と教育課程
7. 知的障害教育の教育課程（3）実際と展開②自立活動
8. 知的障害教育の教育課程（4）課題
9. 知的障害教育の教育課程（5）まとめ
10. 知的障害教育における個別的教育支援計画（1）歴史的背景
11. 知的障害教育における個別的教育支援計画（2）実際と課題①個別的教育支援計画と教育
12. 知的障害教育における個別的教育支援計画（3）実際と課題②実態把握の方法
13. 知的障害教育における個別的教育支援計画（4）実際と課題③関係機関等との連携
14. 知的障害教育における個別的教育支援計画（5）個別的教育支援計画の作成演習
15. 総括、知的障害教育論IIに向けて

## 《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み・討議への参加状況40%、レポート提出60%によって総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

アクティブラーニングを多く取り入れた講義形態による学び合いで実施するため、より学びを深めるために事前準備、授業時の他者との交流、授業後の振り返り、自己評価が重要である。

# 肢体不自由教育論 I

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★高田 昭夫

## 《授業の概要》

肢体不自由教育への素養を育む契機となるように、肢体不自由教育の歴史、現状と課題、教育課程について概説する。その上で、障害の状態を身体・知的側面などから多角的に把握し、適切な指導と必要な支援を行うことを具体的な指導例と個別の指導計画の作成を取り上げて講述する。

## 《学生の到達目標》

肢体不自由教育の歴史と現状について総合的に学び、教育課程と指導の実際について基本的事項を理解する。肢体不自由児の障害の状態と対応について理解し、説明することができる。

## 《授業計画》

1. 学校教育における肢体不自由児の実態
2. 肢体不自由教育の歴史と現状
3. 肢体不自由教育の実態－特別支援学校における教育の実態－
4. 肢体不自由教育の教育課程
5. 自立活動の指導
6. 個別の教育支援計画と個別の指導計画
7. 肢体不自由児の指導法 (1) 身体の動きの指導
8. 肢体不自由児の指導法 (2) コミュニケーションの指導
9. 肢体不自由児の指導法 (3) 認知特性に対応した指導
10. 肢体不自由児の指導法 (4) 各教科の指導
11. 肢体不自由児のキャリア教育と移行支援
12. 個別の指導計画の作成 (1) 実態の把握と課題の整理
13. 個別の指導計画の作成 (2) 目標と指導内容の設定
14. 個別の指導計画の活用－学習指導案の作成とその評価－
15. 総括－授業の振り返りと肢体不自由児教育における重要事項の再確認

## 《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み・討議への参加状況40%、レポート提出60%によって総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

アクティブラーニングを多くに取り入れた講義形態による学び合いで実施する。より学びを深めるために事前準備、授業時の他者との交流、授業後の振り返り、自己評価が重要である。

# 病弱教育論

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★丹羽 登, 平賀 健太郎

## 《授業の概要》

病弱教育への素養を育む契機となるように、病弱教育の歴史、現状と課題、教育課程、個別の教育支援計画および指導の実際について講述する。

## 《学生の到達目標》

病弱教育の歴史と現状と課題を知る。病弱教育の教育課程について理解を深める。個別の教育支援計画と指導計画の実際を理解する。

## 《授業計画》

1. 病弱教育の歴史
2. 病弱教育の現状と課題 (1) 現状
3. 病弱教育の現状と課題 (2) 課題
4. 病弱教育の教育課程 (1) 学習指導要領と教育課程
5. 病弱教育の教育課程 (2) 自立活動
6. 病弱教育の教育課程 (3) 教育実践の具体例
7. 復学を視野に入れた教育支援
8. 病弱教育の教育課程 (4) 課題とまとめ
9. 病弱教育における個別の教育支援計画 (1) 実態把握の方法
10. 病弱教育における個別の教育支援計画 (2) 関係機関等との連携
11. 病弱教育における個別の教育支援計画 (3) 個別の教育支援計画の作成演習
12. 病弱教育における個別の指導計画の説明と作成演習
13. 病弱児の指導の在り方と指導事例
14. 職業教育と進路指導
15. 情報機器等を活用した指導

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物 (60%)、授業への取り組み (40%) として評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

・全国特別支援学校病弱教育校長会「病気の子どものための教育必携」ジアース教育新社他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

各回の内容について講義前には概要を調べ、講義終了後は復習を行い、また関連書籍等を読み学びを深めること。

# 視覚障害者の心理・生理・病理

3年次  
1単位（講義）  
資格 なし  
担当 村上 佳津美

## 《授業の概要》

視覚に関する医学的知識を学ぶ。視覚器の解剖・生理・機能など基本的知識を得た後、彼らの世界をどのように理解するのかが考える。

## 《学生の到達目標》

基本的な医学的知識を習得する。合併して出現する二次的障害、病児の心理を理解すると同時に、級友の補助などの指導を自ら考えるようにする。

## 《授業計画》

1. 視覚の意味・多様な役割
2. 視覚器の解剖・生理
3. 視覚機能の評価
4. 視覚障害を引き起こす原因
5. 視覚障害になる病気
6. 感覚としての視覚の意味
7. 視覚障害の程度による対応の違い
8. ヘレン・ケラーに学ぶ視覚障害に関わる問題（映画『奇跡の人』を使用）

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%）授業への取り組み（40%）で評価する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

自ら「盲」状態を経験してみる。視覚だけでなく他の感覚の重要性を自覚して生活していく。

# 聴覚障害者の心理・生理・病理

3年次  
1単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★安達 康貴

## 《授業の概要》

聴覚器の解剖・生理、聴力検査法、聴力障害の原因疾患について講述する。また、聴覚障害者の心理について概説する。

## 《学生の到達目標》

聴覚障害についての医学・心理学的な基本事項について理解する。聴覚障害者の心理について理解を深める。

## 《授業計画》

1. 聴覚器の解剖・生理
2. 聴力検査と診断法
3. 聴覚障害の原因疾患
4. 聴覚障害児の言語・認知発達
5. 聴覚障害児の学力と社会性の発達
6. 聴覚障害者の心理的問題
7. 聴覚障害者の自我発達と障害受容
8. 聴覚障害者の発達課題（家庭、学校、地域社会）

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%）、授業への取り組み（40%）として評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習として、聴覚情報の保障や学習環境の整備について、自らが支援者として必要だと考えられる事項を整理する。病理、生理、心理の観点から、聴覚障害について学習した後の事後学習では、支援者が環境整備について抱きやすい誤解について整理し、全体の講義を通して学習する前と後でどのように自らの認識が変化するか確かめ、聴覚障害者の適切な理解のためにどのような障害理解が必要となるのか理解を深める。

# 視覚障害教育論

3年次  
1単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★金森 裕治

## 《授業の概要》

実態把握に基づく視覚障害児の三大不自由（歩行・日常生活動作・文字処理）に対する指導内容や指導方法について論じる。そして、視覚支援学校に在籍する児童生徒の実態（障害の重度重複化・障害の多様化・少人数化等）と視覚障害教育の現状と課題にふれ、今後の視覚障害教育の在り方について検討する。

## 《学生の到達目標》

1. 視覚障害児の三大不自由に対する指導内容や指導方法（ICTの利活用・マルチメディアDAISY等）について自立活動や他の教科・領域等との連携の必要性を学ぶ。
2. 視覚障害教育の歴史から視覚障害者の職業の現状について理解する。
3. 視覚障害教育の現状と課題等に関する基礎的な知識・理解を得る。

## 《授業計画》

1. 視覚障害の定義及び原因
2. 視覚障害教育の歴史
3. 視覚障害教育の教育課程の変遷
4. 視覚障害児の実態把握と指導法（視覚管理と障害受容等）
5. 視覚障害児に対する文字の読み書き指導法（点字・拡大文字・マルチメディアDAISY）
6. 視覚障害理解教育と実践事例
7. 視覚支援学校のセンター的機能と個別の指導計画・個別の教育支援計画（合理的配慮）等
8. 視覚障害教育の現状と課題（専門性の維持・継承等）、期末レポート提出

## 《成績評価の基準・方法》

評価はコミュニケーションカード・発表の内容・参加態度(80%)とレポート（20%）に基づいて評価する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・香川邦生「五訂版 視覚障害教育に携わる方のために」慶應義塾大学出版会・「視覚障害者介護技術シリーズ1 初めての点訳 特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会

## 《事前・事後学習》

事前に点字の基礎基本を理解しておくこと。毎回の「コミュニケーションカード（授業内容と質問・疑問など）」の記載内容について事後学習を行う。

# 聴覚障害教育論

3年次  
1単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★杉田 律子

## 《授業の概要》

聴覚障害の早期発見・早期療育は医学の進歩とともに年々変化する分野であるが、聴覚障害は言語獲得に大きな影響を与え、「言語」はアイデンティティに深く関係することは変わりがない。そのため、この授業は、子どもの自己発達の観点から聴覚障害教育について考える契機と内容、方法を期待したい。そのためにも、聴覚障害教育の歴史の変遷を学んだうえで、教育課程と内容、方法について理解を深めて、聴覚障害教育の現状と課題について考える。また、聴覚障害児を取り巻く教育と社会の今日的課題について学ぶ。

## 《学生の到達目標》

聴覚障害教育の歴史、教育課程と内容、方法の概要を理解し、聴覚障害教育の現状を知り、課題について理解を深める。また、聴覚障害児を取り巻く教育と社会の今日的課題について問題意識を持ち、解決に向けた考察を深めることを目標とする。

## 《授業計画》

1. 聴覚障害の概要と子どもの発達への影響
2. 聴覚障害教育の歴史
3. 聴覚障害教育の教育課程
4. 聴覚障害教育の実際①障害の理解
5. 聴覚障害教育の実際②言語指導
6. 聴覚障害教育の実際③学習支援
7. 聴覚障害教育の実際④自立活動
8. 聴覚障害児の心理的援助と個別の指導計画

## 《成績評価の基準・方法》

授業内に実施する実施する単元ごとの課題（40%）と事前学習課題(20%)、最終授業内で実施するまとめの課題（40%）で評価を行う。  
単元ごとの課題は、既知の用語や理論や、教授した内容の理解度を問う選択肢や単語で回答、短文でまとめる。まとめの課題は、文献を活用しながら、基本的事項の理解度を、また問題提起した教育的課題については基本的な理論をもとにして自らの意見を論述する形式で行う。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・玉村公二彦ら「キーワードブック特別支援教育」クリエイツかもがわ・守屋國光「特別支援教育総論－歴史、心理、整理・病理、教育課程・指導法、検査法－」風間書房

## 《事前・事後学習》

集中講義となるため、事前にテキストの聴覚障害に関する章をよく読んでおくこと、また振り返りのレポートに真摯に取り組むこと。  
また、この分野の理解するには、子どもの発達についての理解が不可欠です。子どもの定型発達、特に言語発達、また、エリクソン、ピアジェの理論など基本的な発達理論についても復習しておいてください。



# 児童保育学科 4年次



# 社会学

4年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 佐川 宏迪

## 《授業の概要》

私たちは、教育について考える際、どのような教育実践が「望ましいのか」といった発想をしてしまいがちである。しかしながら、そうした発想から距離をとり、冷静にまた批判的に教育現象をとらえることは不可欠であり、教育現場の諸問題に対応する際にも求められる。こうした姿勢を身につけることを目指して、この講義では、私たちが経験してきた身近な教育現象のメカニズムを社会学の視点から解読していく（授業の計画や授業内容等は受講者の状況等かんがみて調整・変更することがある。またゲストを招聘することがある。）。

## 《学生の到達目標》

本科目は、これまで社会学にふれる機会がなかった学生を念頭に置いて展開する。したがって、まずは（教育）社会学的な発想・視点とはどのようなものであるのかを理解することを目標とする。そのうえで、さらに身の回りの教育現象を社会学的な視点から論じることができるようになることを目指す。

## 《授業計画》

1. 授業計画および内容、評価方法の説明、次回以降に向けての準備
2. 教育現象を社会学的な視点からとらえるとはどのようなことかを考える
3. 「能力がある」とはどういうことかについて考える
4. 能力があるから就職できるのか、学歴があるから就職できるのかを考える
5. 「コミュニケーション力」や「コネ」について考える
6. 学校に適應できることと文化との関係について考える
7. 「反学校文化」はいかにして形成されるのかを考える
8. 「ヤンチャな生徒」との関わりについて教師の実践に目を向けつつ考える
9. 教師の多忙化の問題について考える
10. いじめ問題について社会学の視点から考える
11. 学校のアジールという視点から保健室をとらえる
12. 「発達障害」のように児童・生徒の問題を医療の対象ととらえることについて考える
13. 教育や子どもの「問題」を語ることはらむ危うさについて考える
14. 不登校や高校中退を経験した生徒を受け入れる学校として定時制高校をとらえる
15. まとめと授業内試験

## 《成績評価の基準・方法》

授業内試験（100%）によって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・酒井 朗, 中村 高康, 多賀 太「よくわかる教育社会学」ミネルヴァ書房・長谷川 公一, 浜 日出夫, 藤村 正之, 町村 敬志「社会学(New Liberal Arts Selection)」有斐閣・佐川 宏迪「定時制高校の教育社会学 教育システムの境界と包摂」勁草書房

## 《事前・事後学習》

配布資料や参考文献に沿って、毎回の授業内容を復習する。また、次回の講義に関連するトピックについて、自身の関心に沿って調べておく。あわせて2時間程度を要する。

# 子どもの人権

4年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★西岡 光代, ★阪本 好美

## 《授業の概要》

子どもや家庭支援に関する国の施策が整備されてきている。特に虐待や傷害児支援については家庭や地域での支援も含めた体制整備が行われているところである。今、社会で課題となっている子どもの命や未来を守るために、子どもが初めて出会う集団である保育現場で、子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在として愛され、子ども自身にも人権尊重の芽が育つよう多様な観点からの学習が必要。いじめや差別につながるような言動がないか、保育者となる自覚のもとに現場で大切にすべきことに興味・関心を持ち、実践に結びつく学びを深めたいと考えている。

## 《学生の到達目標》

様々なことに目を向け人権感覚を高める。一人ひとりの子どもの置かれている現状を把握し、子どもや家庭の今ある強みに気づき保育を通して、成長をサポートしようとする気持ちと実践につながる方法を学ぶ。  
子どもや家族の置かれている現状を把握した上で、圖として保育者として何ができるか考えようとする意識が育つ。  
事例検討として、子ども虐待の現状を架空事例からアセスメントする方法を学ぶ。  
保護者支援についての対応のノウハウを学ぶ。  
人権の視点に立った保育の計画を作成する機会を持ち、実践につなげる指導計画書の立案を経験する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、自分自身を知る
2. 人権保育の理解① 法律と社会背景
3. 人権保育の理解② 保育の中で大切にすべきこと
4. 発達障害の理解と対応① 気になる子どもの捉え方
5. 発達障害の理解と対応② 気になる子どものクラスでの位置づけと保護者支援
6. 子ども虐待の理解と対応① 子ども虐待についての理解を深め、早期発見・対応の大切さについて
7. 子ども虐待の理解と対応② 事例を通してのアセスメント。アセスメントシートの活用
8. 人権意識の芽生え～いじめや差別を生まない保育～
9. 年間指導計画立案について
10. 年間指導計画から日々の保育につなげる
11. 観察記録の意義と方法
12. 活動の選択① 領域を意識し子どもに力をつけたいこと、つなげる保育のための活動とは
13. 活動の選択② 指導計画書の作成
14. 乳児期の保育内容
15. 学びの振り返り

## 《成績評価の基準・方法》

授業内課題 15回 80点%  
（マナバでの課題貼り付けの場合、マナバでの提出と対面授業時にコピーして紙ベースでも提出）  
授業での取り組み 20% （事前課題への学習等）

計 100点

## 《授業で使用する教科書》

・特定非営利活動法人ちやいのとネット大阪「人権力を育てる保育計画」特定非営利活動法人ちやいのとネット大阪・特定非営利活動法人ちやいのとネット大阪「子どもを守るアセスメントシート」特定非営利活動法人ちやいのとネット大阪 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

各回のテーマについて、ネットや雑誌等で調べる。  
指導書の作成については事前に内容を考えおく。  
配布資料や教科書の内容を理解し、授業内課題で確認したことを復習する。

# 生活環境論

4年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★大脇 万起子

## 《授業の概要》

生活環境を、地球環境および社会的環境という2つの視点から学ぶ。この2つの生活環境について、保育や教育の専門職者として子ども達の生命および健康を養護するとともに、子ども達が自らの生命および健康を維持・促進できる教育をできるための知識を学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- 1) 地球環境および社会的環境について、基礎的な知識を習得する。
- 2) 地球環境および社会的環境について、子どもの発達レベルに応じた教育ができる技術を習得する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション／コロナ禍の子ども達の生活について
2. 地球環境 (1) : 地球温暖化・気候変動・オゾン層の破壊・酸性雨・塩害
3. 地球環境 (2) : 砂漠化・森林破壊・海洋汚染・海洋ゴミ問題・水質汚染
4. 地球環境 (3) : 農業汚染・人口爆発・水資源の危機・食糧問題・生態系への影響
5. 地球環境 (4) : 外来種の侵入・ゴミの埋め立て・放射性廃棄物・土壌汚染・エネルギー
6. 地球環境 (5) : 採掘による有害物質・二酸化炭素の排出・大気汚染・騒音・自然災害
7. 社会的環境 (1) : 生活環境の概念と論点
8. 社会的環境 (2) : 生活と福祉の施策をめぐる動向と現状
9. 社会的環境 (3) : 地域における生活環境整備①
10. 社会的環境 (4) : 地域における生活環境整備②
11. 社会的環境 (5) : 居住環境の整備①
12. 社会的環境 (6) : 居住環境の整備②
13. 社会的環境 (7) : 福祉用具・社会生活用具等による生活支援①
14. 社会的環境 (8) : 福祉用具・社会生活用具等による生活支援②
15. 社会的環境 (9) : 福祉用具・社会生活用具等による生活支援③

## 《成績評価の基準・方法》

毎回小テスト (75% : 5×15) 、授業への取り組み姿勢 (25%)

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・木村哲彦 監「生活環境論 一生活支援の視点と方法一」医歯薬出版

## 《事前・事後学習》

事前学習：毎回の授業前に指示する  
事後学習：毎回の返却テスト・資料の見直し

# 総合保育論

4年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★久保 真奈

## 《授業の概要》

学びの総括のひとつとして総合保育の視点から整理し、乳幼児期の保育及び支援の在り方・保育者の在り方について広い視点から捉え直すことを目的とする。実践経験の振り返りから乳幼児理解を深めると共に、保育教育課程を復習し、意義目的を再認識する。また、ディスカッションやグループワークを通して乳幼児を取り巻く諸問題・保育教育の諸問題・小学校接続の問題等について考察し、「総合保育の視点」とはどのようなものかを捉えられるようにしていく。

## 《学生の到達目標》

保育教育課程を理解した上で、①現代の保育や教育の問題についての認識を深め、乳幼児保育の在り方を考察する。②乳幼児にかかわる専門職の仕事としての意義と今日的課題を明確にする。③領域や10の姿を総合的に理解し、実践経験における子どもの姿と結びつける。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 乳幼児の施設における保育
3. 現代社会における子どもを取り巻く諸問題
4. 保護者の働き方や生活と保育の問題
5. 保育課程に基づく指導計画と実際
6. 保育教育における問題と今日的課題
7. 保育内容5領域とは何か
8. 保育教育を通して育てたいもの
9. 小学校接続の問題と実際
10. 乳児保育と幼児保育
11. 乳幼児の生活と健康・心の諸問題
12. 子育て支援制度とさまざまな地域における子育て支援
13. 保育実践を創造する：全体的な保育計画・指導計画①
14. 保育実践を創造する：全体的な保育計画・指導計画②
15. 保育実践を創造する：保護者支援・子育て支援

## 《成績評価の基準・方法》

授業内における小レポート等の提出物(50%)  
ディスカッションやグループワークを含む、授業への取り組み姿勢(50%)

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・大方美香「失敗から学ぶ保護者とのコミュニケーション」保育わかばBOOKS・大方美香「独自性を活かした保育課程に基づく指導計画」ミネルヴァ書房・無藤隆「10の姿プラス5・実践解説書」ひかりのくに・「遊びの中で試行錯誤する子どもと保育者」明石書店・湯汲英史「子どもの発達とレジリエンス保育の本」Gakken

## 《事前・事後学習》

事前学習：日頃からニュースを見たり新聞を読んだりして、保育や子どもに関する自治問題に意識を向けておく。また、保育実習やインターンシップ等での経験を思い出しておく。  
事後学習：授業内容を整理すると共に、自身の考えや課題を明確にすることで実践者としての意識を高めていく。

# 子ども家庭支援論

4年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 佐伯 知子

## 《授業の概要》

この授業では、受講生が現代の家庭を取り巻く状況を具体的に理解できるよう、さまざまな事例・資料をふまえて講義を行う。同時に、ケースの多様性やそれに応じた家庭支援のあり方についても考えを深めていけるよう、受講生同士で議論を重ねる機会も積極的に設けていく。

## 《学生の到達目標》

- ・家庭に関わる歴史、社会・制度的状況について理解する。
- ・子育て家庭への支援について具体的に理解する。
- ・討議を通じて、自分自身の考えを他者に伝える力、多様な価値観を受け入れる姿勢を身につける。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 家庭支援とは何か
3. 家庭をめぐる歴史的展開（1）
4. 家庭をめぐる歴史的展開（2）
5. 家庭を取り巻く社会的状況（1）
6. 家庭を取り巻く社会的状況（2）
7. 家庭を取り巻く制度的状況（1）
8. 家庭を取り巻く制度的状況（2）
9. 小括
10. 子育て家庭への具体的支援（1）
11. 子育て家庭への具体的支援（2）
12. 子育て家庭への具体的支援（3）
13. 諸外国の事例（1）アジア
14. 諸外国の事例（2）欧米
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業に取り組む姿勢（50%）、レポート等の提出物（50%）。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

- ・日ごろから新聞を読むなどして世の中の動きを意識すること。
- ・授業内容をその都度復習すること。興味をもったテーマについては積極的に本を読んだり調べたりすることで、学びを深めること。

# 保育内容総論

4年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★武田 淳

## 《授業の概要》

子どもの生活は遊びであり、遊びながら総合的に心身が発達していく。「保育内容」とは、幼稚園や保育所において保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を意味するものである。その内容は「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5つの領域で示されているが、各領域ごとの内容がこの科目を通して総合的に関連づけられるよう示唆することも、保育への姿勢・子ども理解・保育の歴史の変遷等を学びながら、現代の保育を理解し、現場が抱える課題について考察することを目指していく。

## 《学生の到達目標》

各領域を総合的に理解し、保育の全体構造の理解に基づいて、実践に即した子どもの理解や保育方法について総合的に捉える視点を養い、また理解する。①幼児教育の基本を踏まえ、幼児教育、子ども、その指導に対する考え方を理解する。②保育の歴史的な流れを踏まえ、現在の保育内容を理解する。③子どもを取り巻く社会環境、家庭環境を理解し、幼児教育の在り方を考察できるようにする。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 保育内容を総合的にとらえる（幼児教育の基本）
3. 保育内容を総合的にとらえる（保育思想1）
4. 保育内容を総合的にとらえる（保育思想2）
5. 子どもの理解（事例考察1）
6. 保育の変遷を理解する（明治初期の幼児教育はじまり）
7. 保育の変遷を理解する（明治期、大正期）
8. 保育の変遷を理解する（昭和初期～戦後）
9. 保育の変遷を理解する（戦後～平成のはじめ）
10. 保育の変遷を理解する（現在）
11. 子ども理解（事例考察2）
12. センスオブワンダー
13. 現代保育の課題を考える（子供を取り巻く環境の変化）
14. 現代保育の課題を考える（社会環境から）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

期末試験レポート（50%）  
授業毎の課題（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

- ・民秋言・狐塚和江・佐藤直之「新保育ライブラリ保育内容総論」北大路書房・酒井幸子・守巧「演習 保育内容総論 あなたならどうしますか？」萌文書林

## 《事前・事後学習》

授業の都度資料を配布するのでそれを含め復習を行うこと。

# 在宅保育

4年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 佐伯 知子

## 《授業の概要》

家庭訪問保育は、乳幼児の生活の基盤である家庭で保育を行うという点で、保育所をはじめとする施設型の集団保育とは異なっている。この授業では、こうした家庭訪問保育の機能や役割について、さまざまな事例・資料をふまえて講義を行う。また、職務を遂行する上で必要となる知識・技能について、受講生同士で学び合う機会も積極的に設けていく。

## 《学生の到達目標》

- ・家庭訪問保育の役割や法的責任について理解する。
- ・家庭訪問保育者として必要な知識や技能を身につける。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 家庭訪問保育とは何か
3. 家庭訪問保育の実際
4. 家庭的保育の基礎（1）乳幼児の発達と心理
5. 家庭的保育の基礎（2）食事と栄養
6. 家庭的保育の基礎（3）小児保健
7. 小括
8. 安全の確保とリスクマネジメント（1）事故予防
9. 安全の確保とリスクマネジメント（2）応急手当
10. 安全の確保とリスクマネジメント（3）職業倫理
11. 子ども虐待
12. さまざまな家庭訪問保育（1）産後ケア
13. さまざまな家庭訪問保育（2）障害児保育
14. さまざまな家庭訪問保育（3）その他
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業に取り組む姿勢（50%）、ワークの成果および提出物（50%）。

## 《授業で使用する教科書》

・公益社団法人 全国保育サービス協会「家庭訪問保育の理論と実際 第2版」中央法規

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

- ・事前学習：教科書の指定された章を熟読すること。
- ・事後学習：実践に役立てられるよう、くり返し復習すること。

# 道徳教育の理論と実践

4年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★藤田 善正

## 《授業の概要》

学校だけでなく、家庭や地域を含めた教育全体において、道徳教育がなぜ必要であるのかということから掘り起こし、人間がよりよく生活しようとする上で道徳教育であることを明らかにする。その上で、(1)日本における道徳教育の歴史や最新の動向を、(2)小学生の児童に有効な「道徳科」の指導方法を発達観を踏まえて理解させる。(3)グループワークを通して学習指導案を作成し、アクティブラーニングを伴う模擬授業を通して、道徳授業の実際を知る。

## 《学生の到達目標》

道徳教育の意義や原理などを踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。  
(1)道徳教育とはどのような教育かを理解し、その歴史や現代的な課題を理解する。  
(2)子どもの道徳性の発達について理解する。学校教育全体を通して行う道徳教育と、その要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。  
(3)道徳教育と道徳科の関連を理解させ、モデル授業・教材分析などを通して、学習指導案を書けるようにする。  
(4)学習指導案をもとにして、模擬授業を行い、成果と課題を知る。

## 《授業計画》

1. 今こそ必要 道徳教育 日本の子どもと教職員の現状から
2. 日本における道徳教育の歴史
3. 道徳教育の最新の動向
4. 道徳性の発達をふまえた道徳教育
5. 道徳科の導入・展開・終末
6. 教材分析に基づいた発問研究
7. 発問作成演習（グループワーク）
8. 道徳の学習指導案・教具の作成（グループワーク）（1）
9. 道徳の学習指導案・教具の作成（グループワーク）（2）
10. 道徳の学習指導案・教具の作成（グループワーク）（3）
11. 模擬授業と考察（アクティブラーニングを伴う）（1）
12. 模擬授業と考察（アクティブラーニングを伴う）（2）
13. 模擬授業と考察（アクティブラーニングを伴う）（3）
14. 模擬授業と考察（アクティブラーニングを伴う）（4）
15. 総括（まとめ）

## 《成績評価の基準・方法》

まとめのレポート50%  
学習指導案・模擬授業・授業中の発表等を総合したもの50%を合わせて評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・藤田善正「道徳教育の理論と実践（自作教材）」なし

## 《参考書》

・藤田善正「考えることが楽しくなる道徳の授業」日本教育研究センター・藤田善正「小学校道徳科の新たな課題に挑む」日本教育研究センター

## 《事前・事後学習》

「道徳教育の理論と実践」（自作教材）を授業の最初に配布するので、事前・事後学習として読むことで、講義内容をより深く学ぶことが可能になる。また、講義の中で上記以外にも参考文献等を紹介する。

# 幼児理解

4年次  
2単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★三輪 よし子

## 《授業の概要》

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。子どもたちは一人一人違っており、発達も、考え方も、感じ方も、これまで経験してきたこともみんな違う。この授業では、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的知識を理解する。一人一人違っている子どもたち一人一人の幼児理解のための基礎となる心身の発達について学ぶとともに、幼児理解を深めるための基礎的な態度、方法を講義およびグループワークを通じて学習する。

## 《学生の到達目標》

幼児理解の意義を理解している。幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じる感じ方の違い、つまづき、困り感を把握し、理解するための原理や対応の方法について考えることができる。子どもを一人一人を受け入れ、共感し、受容する態度を理解している。観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を理解している。個と集団の関係をとらえる意義や方法を理解している。幼児のつまづきを周りの幼児との関係やその他の背景から考えることができる。保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。

## 《授業計画》

1. ヒトの進化の変遷と発達、成熟および発達
2. 身体機能・運動の発達
3. 感覚、知覚、認知の発達
4. 子どもと環境
5. 子どもと遊び（遊びの定義・集団での遊び）
6. 子どもと遊び（遊びの援助）
7. 子ども理解とカウンセリングマインド①（自己理解）
8. 子ども理解とカウンセリングマインド②（他者理解）
9. 子ども理解と記録①（観察法など）
10. 子ども理解と記録②
11. 子育ての支援と相談および保護者への対応
12. 子ども理解に基づく保育者の援助①遊び場面の事例から
13. 子ども理解に基づく保育者の援助②生活場面の事例から
14. 子ども理解に基づく保育者の援助③クラス集団作りの視点から
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業時に行う課題・レポート・グループワーク等の提出物（80%）  
最終レポート（20%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省・内閣府・厚生労働省「幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

【事前学習】：「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」をよく読んでおくこと。【事後学習】：授業内容に沿ってレポートを課します。学んだことや理解したことを整理し、子どもたちの具体的な姿と結び付けることで学びを深めるようにすること。

# 教職実践演習（幼・小）

4年次  
2単位（演習）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★東城 大輔, ★中村 天, ★野嶋 敏一

## 《授業の概要》

教員として必要な教科・教職に関する知識技能を習得するために、①使命感や社会性等の意義と児童に関する事項、②幼児・児童理解や学級経営等に関する事項、③教科・保育内容等の指導力に関する事項の取り組みを中心に、現場の視察を取り入れ、実践的な演習等を中心に展開する。この授業は、アクティブラーニング（実習、模擬授業、模擬保育、グループワーク、グループディスカッション）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情がいかに重要であるか認識し、教科指導、生徒指導等の職務を実践できる資質能力を高めるように努め、教員として必要な知識技能を習得する。

## 《授業計画》

1. 履修カルテを用いた今までの学修の振り返り
2. 教職の意義や教員の役割・職務内容等について
3. 「目指す教師像」について
4. 社会人としての教師、社会性や人間関係能力について
5. 幼児理解とクラス経営について
6. 児童理解と学級経営について
7. 教職員の服務（コンプライアンス）について
8. 学校現場を意識した授業作り1（模擬授業）
9. 学校現場を意識した授業作り2（模擬授業）
10. 幼稚園現場を意識した保育展開1（模擬保育）
11. 幼稚園現場を意識した保育展開2（模擬保育）
12. 模擬授業や模擬保育の振り返りと改善点や課題の明確化
13. 学級通信・クラスだよりの作成手順
14. 学級通信・クラスだよりの作成
15. 総括（まとめ）

## 《成績評価の基準・方法》

授業時における課題などの提出物（50%）  
模擬授業・模擬保育における実技や最終課題の評価（50%）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東洋館出版

## 《事前・事後学習》

事前：今まで自分自身が履修した教職課程の振り返りを行い、資料や教科書などを通読すること。事後：習得した知識・技能を実践の場で発揮できるように自分自身で整理しまとめ実践に活かす意識をもつこと。

# 教育実習（幼）

4年次  
5単位（実習）  
資格 幼○

担当 ★東城 大輔, ★中村 天, ★三輪 よし子

## 《授業の概要》

幼児教育者としての心構えを養い、愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として、幼稚園における学外実習を行う。具体的には、幼稚園現場にて園児や教職員と直に接し、子どもを指導するための心構えや学級担任の役割および職務内容について、実地体験を通して理解する。今まで大学で学んだ理論や技術に加え、様々な活動場面で適切に幼児と関わる体験を模索しながら自身の子ども観や教育観を深めていく。また、実習前の事前指導においては指導案作成などを行い、実習後は成果と課題を意識して振り返りを行う。この授業は、アクティブラーニング（保育現場における実習、グループディスカッション、模擬保育など）を含めて実施する。なお実習は幼稚園において原則20日間行う。

## 《学生の到達目標》

幼稚園の教育実習に参画するにあたって、実習生として遵守すべき義務等の理解、心構えや姿勢、準備など基本的なことを理解している。また教育実習に臨む際、その目的や内容、方法などを、幼稚園教育の特質を実際的に理解することができ、幼児の実態等を踏まえた適切な指導案についてグループディスカッションなどを通して作成し、保育実践へとつなげていくことができる。実習の振り返りにおいては、得られた成果と課題等を省察するとともに、自己の保育・教育観の形成に役立たせる力を確認する。さらに今後の自身に必要な基本的技術の確認や保育観の再構成などを意識することができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 実習指導についての概要の理解と実習生の態度
3. 実習の目的（内容の理解や実習への自覚と責任について）
4. 実習の方法（子どもの姿の予想や事前準備等について）
5. 幼稚園の理解（幼稚園教育要領の基本的理解）
6. 幼稚園の理解（子どもの発達のとびと保育内容について）
7. 実習目標の明確化と模擬保育に向けた指導案の作成
8. 模擬保育の実施1（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
9. 模擬保育の実施2（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
10. 模擬保育の実施3（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
11. 模擬保育の実施4（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
12. 模擬保育の実施5（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
13. 実習園における具体的な計画と見通しと指導案の再作成
14. 実習園に対する理解（実習園の一日の流れ等について）
15. 実習への心構えおよびお礼状作成について
16. 集中講義
17. 集中講義
18. 集中講義
19. 集中講義
20. 集中講義
21. 集中講義
22. 集中講義
23. 集中講義
24. 集中講義
25. 集中講義
26. 集中講義
27. 集中講義
28. 集中講義
29. 集中講義
30. 集中講義

## 《成績評価の基準・方法》

実習先からの評価や実習日誌（60%）  
指導案を含む授業内に指定する提出物（40%）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前：実習園について調べておくなど、実習における課題や目標などを明確にしておく。  
事後：授業での学習の振り返りや、他学生と反省・課題などの情報交換を行い、自身の学びを深める。

# 教育実習（小）

4年次  
5単位（実習）  
資格 小○

担当 ★野嶋 敏一, ★藤田 善正, ★木村 憲太郎

## 《授業の概要》

小学校の教育者をを目指すための授業である。この授業は、アクティブラーニング(実習、グループワーク)を含め実施する。まず、教育実習に向けて各自が実習課題を設定して、子ども観や授業への考え方を深める準備をする。続いて、小学校において20日間、160時間の実習に臨み、子どもの学習や生活、また、指導者の指導方法の実態を観察しながら担当指導者の下、教育のあり方、各教科の指導方法について学ぶ。最後に評価表をもとに実習生活を振り返り、教師としての姿を見つめる機会とする。

## 《学生の到達目標》

小学校教育実習で「先生」として子どもにかかわり、指導者の学級経営、教科等の指導の実際を学びながら、小学校教育の現状や、子どもの実態、指導方法等を把握するとともに、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。さらに、将来教員になるうえで自らの資質を磨き、指導力を高めるためにはどうすればよいかを考えることができることを目標とする。

## 《授業計画》

1. 小学校教育実習のオリエンテーション
2. 小学校実習対象児童理解Ⅰ（低学年）
3. 小学校実習対象児童理解Ⅱ（中学年）
4. 小学校実習対象児童理解Ⅲ（高学年）
5. 学習指導要領についてⅠ
6. 学習指導要領についてⅡ
7. 小学校教育の現状と課題Ⅰ（ICTの活用・ディバー実習課題の明確化と実習計画の作成）
8. 小学校教育の現状と課題Ⅱ
9. 学習指導の内容と方法Ⅰ
10. 学習指導の内容と方法Ⅱ
11. 実習に向けてのグループワークⅠ（指導案作成・模擬授業発表等）
12. 実習に向けてのグループワークⅡ
13. 実習に向けてのグループワークⅢ
14. 実習に向けてのグループワークⅣ
15. 小学校教育と教師の在り方（グループワーク）
16. 集中講義
17. 集中講義
18. 集中講義
19. 集中講義
20. 集中講義
21. 集中講義
22. 集中講義
23. 集中講義
24. 集中講義
25. 集中講義
26. 集中講義
27. 集中講義
28. 集中講義
29. 集中講義
30. 集中講義

## 《成績評価の基準・方法》

実習先の評価・日誌等（60%）、授業での取り組みや記録・提出物等（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・「小学校学習指導要領(平成29年告示)」東洋館出版社

## 《参考書》

・「小学校教育実習ハンドブック(改訂版)」大阪総合保育大学

## 《事前・事後学習》

事前学習：実習校での本実習を有意義なものにするために、実習の意義や心構えを学ぶ。事後学習：実習を振り返り、教職の魅力を感じ取る。さらに「教職実践演習」の講義へとつないでいく。

# 卒業論文Ⅱ

4年次  
4単位（演習）  
資格 なし

担当 佐伯 知子, ★藤田 朋己, ★松岡 宏明, ★高田 昭夫, 渡辺 俊太郎, 要 正子, ★東城 大輔, 深田 直子, ★武部 浩和, ★野嶋 敏一, 末次 有加, 井岡 瑞日, 杉本 孝美

## 《授業の概要》

この授業では、受講生が担当教員の指導の下、これまでの学修や経験を通して獲得した知識・技能の集大成として卒業論文を完成することをめざす。

## 《学生の到達目標》

自分にとって最も意味ある関心に絞り込み、テーマにふさわしい方法論を使って卒業論文をまとめることができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 卒業論文を書くということ
3. 発表・討議の仕方について概説（1）
4. 発表・討議の仕方について概説（2）
5. 卒業論文の構想発表（1）
6. 卒業論文の構想発表（2）
7. 卒業論文の構想発表（3）
8. 卒業論文の構想発表（4）
9. 卒業論文の構想発表（5）
10. 卒業論文の構想発表（6）
11. 卒業論文の構想発表（7）
12. 卒業論文の構想発表（8）
13. 卒業論文の構想発表（9）
14. 卒業論文の構想発表（10）
15. 総括
16. 卒業論文の書き方についての具体的な解説
17. 卒業論文の草稿の発表（1）
18. 卒業論文の草稿の発表（2）
19. 卒業論文の草稿の発表（3）
20. 卒業論文の草稿の発表（4）
21. 卒業論文の草稿の発表（5）
22. 卒業論文の草稿の発表（6）
23. 卒業論文の草稿の発表（7）
24. 卒業論文の草稿の発表（8）
25. 卒業論文の草稿の発表（9）
26. 卒業論文の草稿の発表（10）
27. 卒業論文の草稿の発表（11）
28. 卒業論文の提出の心得
29. 卒業論文発表会
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（授業内発表含む）（30%）、卒業論文・抄録の内容（50%）、卒業論文発表会（20%）。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

計画的に粘り強く卒業論文を執筆し、推敲に推敲を重ねること。

# 知的障害教育論Ⅱ

4年次  
2単位（講義）  
資格 なし

担当 ★高田 昭夫

## 《授業の概要》

知的障害者の心理学的側面に触れ、その障害のある幼児児童をどのように理解すべきかの基本を述べる。また、知的障害児に関するアセスメントについて理解を深めるとともに、アセスメントを活用した支援、知的障害児の支援において中心となっている理論と支援の方法についても理解を深める。授業は講義を中心に行うが、映像の視聴やグループでの支援計画の作成など演習を取り入れて行う。

## 《学生の到達目標》

知的障害教育の実際を知る。知的障害教育における独自性について理解を深める。今後の知的障害児への保育・教育について考える事ができるようになる。

## 《授業計画》

1. 知的障害教育における個別の指導計画の説明と作成演習
2. 知的障害児の指導法と指導事例（1）教科指導
3. 知的障害児の指導法と指導事例（2）健康の保持
4. 知的障害児の指導法と指導事例（3）心理的な安定
5. 知的障害児の指導法と指導事例（4）人間関係の形成
6. 知的障害児の指導法と指導事例（5）環境の把握
7. 知的障害児の指導法と指導事例（6）身体の動き
8. 知的障害児の指導法と指導事例（7）コミュニケーション
9. 知的障害児の指導法と指導事例（8）領域・教科を合わせた指導
10. 知的障害児の指導法と指導事例（9）職業教育と進路指導
11. 知的障害児の指導法と指導事例（10）情報機器の活用
12. 知的障害児の指導法と指導事例（11）家庭との連携
13. 知的障害児の指導法と指導事例（12）地域との連携
14. 知的障害児の指導法と指導事例（13）関係機関等との連携
15. 総括—授業の振り返りと知的障害教育における重要事項の再確認—

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%）、課題・小テスト（40%）として評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

各授業は前時までの講義内容が理解できていることを前提に行うので復習をする事を望む。

## 肢体不自由教育論Ⅱ

4年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★大脇 万起子

### 《授業の概要》

肢体不自由児の教育実践に必要と考えられる、肢体不自由児の特性理解に繋がる発達および障害特性に関する知識を踏まえ、教育的対応技術について講義を行う。また、事例を用い、教育的支援に必要な要素について、具体的な検討も行う。

### 《学生の到達目標》

- 1) 肢体不自由児の教育実践に必要と考えられる、肢体不自由児の特性理解に繋がる発達および障害特性に関する知識を習得する
- 2) 肢体不自由児への教育的対応技術を理解する

### 《授業計画》

1. オリエンテーション／肢体不自由教育の実際
2. 肢体不自由の病理と教育的対応 (1)：脳性まび
3. 肢体不自由の病理と教育的対応 (2)：脊髄の障害
4. 肢体不自由の病理と教育的対応 (3)：筋肉の疾患・障害
5. 肢体不自由の病理と教育的対応 (4)：骨・関節の疾患・障害
6. 肢体不自由児の発達と心理
7. 肢体不自由児の障害特性と心理
8. 自立活動の指導
9. 身体の動きの指導
10. コミュニケーションの指導
11. 各教科の指導
12. 重複障害児の理解
13. 重複障害児の指導
14. キャリア教育と進路指導
15. 新たな取り組みと今後の課題

### 《成績評価の基準・方法》

毎回小テスト（75%：5×15）、授業への取り組み姿勢（25%）

### 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

### 《参考書》

・川間健之介 他「肢体不自由児の教育」放送大学教育振興会

### 《事前・事後学習》

事前学習：3年次で受講した「肢体不自由教育論Ⅰ」の復習  
事後学習：毎回の返却テスト・資料の見直し

## 重複障害者等の心理・生理・病理

4年次  
1単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★高田 昭夫

### 《授業の概要》

重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の病態理解のために必要な基本的知識について述べ、医療的ケアの必要な子どもへの対応も解説する。また、重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の心理について述べる。

### 《学生の到達目標》

重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の病態理解のために必要な基本的知識について学ぶ。重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の心理について理解を深める。

### 《授業計画》

1. 重複障害児の生理・病理
2. 情緒障害児の生理・病理
3. 言語障害児の生理・病理
4. 発達障害児の生理・病理
5. 重複障害の定義と種類
6. 重複障害児の心理
7. 情緒障害の定義と種類
8. 情緒障害児の心理
9. 言語障害、発達障害と神経心理学
10. 言語障害の定義と種類
11. 言語障害児の心理
12. LDの定義とLD児の心理
13. ADHDの定義とADHD児の心理
14. 高機能自閉症等の定義とその特徴
15. 発達障害児の心理的評価とまとめ

### 《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み・討議への参加状況40%、レポート提出60%によって総合的に判断する。

### 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

### 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

### 《事前・事後学習》

アクティブラーニングを多く取り入れた講義形態による学び合いで実施するため、より学びを深めるために事前準備、授業時の他者との交流、授業後の振り返り、自己評価が重要である。

# 重複障害等教育論

4年次  
1単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★須田 正信

## 《授業の概要》

特別支援学校の教育においては、二つ以上の障害を併せ有する児童生徒の比率が多くなっている。この授業においては重複障害のある児童生徒の理解を深めると共に、学校教育における指導・支援の在り方について学ぶ。重複障害児者の教育課程や授業の工夫・ICTの活用など、学習指導案の作成や個別の指導計画について検討する。毎回の授業テーマに基づいてDVD等の映像視聴を行い、授業の振り返りシートの記載を求める。

## 《学生の到達目標》

1. 障害児者の置かれた歴史的経緯から重複障害児者の教育の意義を理解すること。2. 重複障害児者の学校教育における教育課程と指導・支援の工夫について理解すること。3. 自立活動における「6区分27項目」から指導内容や授業の展開を工夫して、実際の模擬授業に生かせることができること。4. 重複障害者が置かれている教育・福祉・医療等の課題を整理し、個別の教育支援計画から個別の指導計画の必要性を理解し、活用に向けた演習ができること。

## 《授業計画》

1. 特別支援教育の推進と重複障害教育における課題 「障害者の権利条約等」
2. 重複障害教育と障害の受容及び保護者の心情を考える 「レット症候群の子どもと母親」
3. 重複障害教育とその歴史 「重複障害者に対する学校教育の在り方」
4. 重複障害児者の実態把握の方法と教育課程の工夫 「自立活動の内容・区分」
5. 重複障害児者の教育指導について 「様々な障害を併せ有する教育指導の在り方」
6. 重複障害者のコミュニケーション支援方法「情報機器やICTの活用」
7. 重度・重複障害児者の特別支援学校における医療的ケア等における医療との連携について
8. 重度・重複障害児者への摂食指導と食育について 「実技指導」
9. 重度・重複障害児者の訪問教育の実際と健康管理について
10. 知的障害と肢体不自由を併せ有する子どもの授業の実践事例 「あさの会の演習」
11. 知的障害と自閉症(ASD)を併せ有する個別の指導計画の実践事例 「ロールプレイ」
12. 肢体不自由と学習障害(LD)を併せ有する子どもの授業の実践事例
13. 視覚障害・聴覚障害を併せ有する子どもの授業の工夫
14. 知的障害と視覚障害のある子どもの授業の実践事例
15. 重複障害児者と社会参加を考える

## 《成績評価の基準・方法》

- ①毎回の「授業振り返りシート」と授業参加50%、②課題レポート20%、③課題試験30%

## 《授業で使用する教科書》

・「文部科学省「平成30年3月特別支援学校学習指導要領「自立活動編」」文部科学省」・「須田正信編著「重複障害教育総論 2020年版改訂③」」

## 《参考書》

・須田正信編「須田正信編「基礎からはじめるインクルーシブ教育の実践」明治図書（2011）」明治図書出版

## 《事前・事後学習》

事前学習；テキスト「重複障害教育」から事前に予習すること。事後学習；毎回の「振り返りシート」の記述内容から事後を振り返ること。

# 教育実習（特支）

4年次  
3単位（実習）  
資格 なし  
担当 ★高田 昭夫, 三木 裕子

## 《授業の概要》

支援が必要な児童生徒の理解（実態把握）の方法と、具体的支援の方法を実践的に学ぶ。教育実習に向けて各自が実習課題を設定し、子ども観や題材感、授業への考え方を深める準備をする。

## 《学生の到達目標》

講義を通して学んできた特別支援教育の理念を、教育実践につなぐことを目的とする。自らの教師としての資質を磨き指導力を高めるにはどうすれば良いかを考えることができるようになる。

## 《授業計画》

1. 特別支援学校教育実習のオリエンテーション
2. 特別支援教育の現状と課題
3. 特別支援学校の経営・障害のある子どもの理解
4. 教育的ニーズに対応した指導 (1)
5. 教育的ニーズに対応した指導 (2)
6. 個別の指導計画・個別の教育支援計画について
7. 学習指導案の作成 (1)
8. 学習指導案の作成 (2)
9. 障害のある子どもの観察と記録
10. 観察のポイントと記録の方法 (1)
11. 観察のポイントと記録の方法 (2)
12. 観察のポイントと記録の方法 (3)
13. 教育実習体験報告書作成 (1)
14. 教育実習体験報告書作成 (2)
15. 教育実習の総括

## 《成績評価の基準・方法》

実習勤務態度、指導計画、指導技術、児童生徒に対する態度、集団活動の把握と指導、学級経営の理解と参加、実習記録の整理、の7項目で評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

実習校での実習をより有意義なものにするために、実習の意義や心構えを学ぶ。事後は実習を振り返り、支援教育の魅力を感じ取る。今後の実践に活かしていく。



# 乳児保育学科 1年次



# 教育学概論

1年次  
2単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

現代教育を理解するためには、教育の意味について絶えず根底から問い直そうとする思考力や教育の思想及び歴史についての豊かな教養が必要である。本講義では、教育を支える基本的理念や思想、教育という営みの歴史的展開などについて幅広く検討していく。具体的には、西洋近代における代表的な教育思想・実践の歩み、日本における学校教育や家庭教育の歴史とその背景にある子ども観の変遷について学ぶ。このことを通して、現代の教育問題を考えるための深い洞察力を培うことを目指す。

## 《学生の到達目標》

教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。  
①教育の基本的概念について理解する。  
②教育の思想や歴史についての基礎的な知識を身につける。  
③教育の今日的課題について学問的視野から考察する力を養う。

## 《授業計画》

1. 授業の概要と進め方について
2. 教育の基本的概念①—教育の意義と目的
3. 教育の基本的概念②—乳幼児期の教育の特性
4. 子どもと教育の思想・歴史①—「子ども」とは何か、子ども観の変遷
5. 子どもと教育の思想・歴史②—幼児教育思想の系譜
6. 子どもと教育の思想・歴史③—子ども家庭福祉の関連
7. 学校教育の思想・歴史①—「学校」とは何か
8. 学校教育の思想・歴史②—公教育の成立と展開
9. 学校教育の実践①—教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）
10. 学校教育の実践②—教育実践の多様な取り組み
11. 子育てと家庭教育の歴史—近代家族の子育て
12. 子育てと家庭教育の歴史—母性愛規範の形成
13. 現代教育の課題を考える①—ジェンダーと教育
14. 現代教育の課題を考える②—いじめ問題
15. 現代教育の課題を考える③—子どもの貧困と教育格差

## 《成績評価の基準・方法》

課題及びグループディスカッションの内容（50%） レポート（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「小学校学習指導要領解説」・文部科学省「幼稚園教育要領解説」・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」・厚生労働省「保育所保育指針解説」

## 《事前・事後学習》

事前学習：日頃から新聞やテレビで報道される教育に関するニュースに関心を持っておくこと  
事後学習：毎授業の内容をよく復習し、知識の定着に努めること。授業内で適宜読書案内を行うので、レポート課題の取り組みの中で積極的に読み、教育に対する理解を深めること。

# 情報処理演習Ⅰ

1年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 松山 由美子

## 《授業の概要》

現在では、パーソナルコンピュータ（PC）やスマートフォンといった情報機器は私たちの生活になくてはならないものです。様々な授業や仕事においてもこれらの情報機器を活用することが求められるようになってきました。情報機器はあくまでも作業を効率的に進めていくための道具ですので、本授業ではこれらの使い方を説明します。内容は大きく2点です。(1)大学における学習や保育現場で必要となるICTの適切な使い方と情報リテラシー（モラル・マナーを含む）を理解すること。(2)文書作成に関する基礎アプリを自分自身で扱えるようになること。内容理解と技術習得のため、PCなどを用いてさまざまな成果物を作成し、発表することを求めます。

## 《学生の到達目標》

・情報機器の基本的な使い方を理解し、目的に沿って適切に用いることができるようになる。  
・メールやSNSなどのインターネットの使い方を理解し、それらを適切に活用できるようになる。  
・大学での学修や保育などの仕事に必要な基本的なオフィスアプリケーションの基礎と特徴を理解し、それらを効率的に用いて、さまざまな印刷物の作成ができるようになる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーションとPCの使い方：本学におけるPC環境の説明とその使い方の説明
2. メールやSNSなどのインターネットの使い方とネットモラルについて
3. オンライン会議システムの使い方（基礎）、クラウドの使い方
4. 描画・画像編集アプリの活用：イラストや写真の基礎的な編集
5. 保育者として必要な情報化社会に対応した法律等の基礎知識
6. 文書作成アプリの活用：文字入力と基本的な文書レイアウト、保存
7. 文書作成アプリの活用：基本的なショートカットの使用や段落の作成
8. 文書作成アプリの活用：新規作成、文字入力から印刷まで
9. 文書作成アプリの活用：イラストや写真の挿入
10. 文書作成アプリなどの活用：カードの作成
11. 文書作成アプリなどの活用：冊子印刷
12. 文書作成アプリなどの活用：おたよりの作成（基礎）
13. 文章作成アプリの活用：おたよりの作成（応用・表組の利用など）
14. 文章作成アプリの活用：簡単な掲示物の印刷と発表
15. 文章作成アプリの活用：今までの知識を生かした賞状づくり

## 《成績評価の基準・方法》

授業の各回で指示する課題や演習への取り組み（50%）と課題の成果物（50%）によって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

授業内で説明した操作を自分自身でできるように復習すること。授業内でも課題の作業時間とるが、必要に応じて授業時間外でも作業を進めること。

# 情報処理演習 II

1 年次  
1 単位 (演習)  
資格 保○ 幼○  
担当 松山 由美子

## 《授業の概要》

情報機器を用いることの利点の1つに多くの情報を素早く正確に整理できることが挙げられます。特に近年では、数値だけでなく、画像や映像といった複雑な情報も情報機器によって容易に扱うことができるようになってきました。本授業の内容は次の3点です。(1)保育現場で扱う情報を表計算アプリを活用して適切に整理できるようになること、(2)表計算、プレゼンテーションに関する基礎アプリを自分自身で扱えるようになること、(3)オンライン会議システムを活用できるようになること。なお、この授業では、「情報処理演習 I」と同様に、内容理解と技術習得のため、PCなどを用いてさまざまな成果物を作成し、発表することを求めます。

## 《学生の到達目標》

・大学での学修や保育などの仕事に必要な基本的なオフィスアプリケーションの基礎と特徴を理解し、それらを効率的に用いて、さまざまな分析や資料の整理、発表資料やかんたん動画の作成ができるようになる。  
・オンライン会議システムを活用することができるようになる・保育現場で、保育に役立つ情報機器活用ができるようになる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション：これからのICT活用に向けて
2. 表計算アプリの活用：基本操作と自動入力
3. 表計算アプリの活用：スケジュール表作成
4. 表計算アプリの活用：簡単な関数の活用
5. 表計算アプリの活用：データの並び替え
6. 表計算アプリの活用：グラフ作成
7. 表計算アプリの活用：複合表の作成
8. 表計算アプリの活用：住所録作成
9. プレゼンテーションアプリの活用：保育現場での活用事例と活用際としての基礎知識
10. プレゼンテーションアプリの活用：スライド作成の基礎知識
11. プレゼンテーションアプリの活用：プレゼン用スライド作成
12. オンライン会議システムの活用：オンラインでつながる方法
13. オンライン会議システムによる基礎的な情報共有
14. プレゼンテーションアプリの活用：スライドの動画化
15. プレゼンテーションアプリの活用：動画の発表会

## 《成績評価の基準・方法》

授業の各回で指示する課題や演習への取り組み (50%) と課題の成果物 (50%) によって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

「情報処理演習 I」の内容を適宜復習しておくこと。授業内で説明した操作を自分自身でできるように復習すること。授業内でも課題の作業時間をとるか、必要に応じて授業時間外でも作業を進めること。

# 日本国憲法

1 年次  
2 単位 (講義)  
資格 保○ 幼○  
担当 石川 愛世

## 《授業の概要》

本講義は、国民の基本的人権と国家の統治機能の二体系で構成される日本国憲法の基本的知識を習得することを目的とする。憲法の意味、成立、基本原理から順を追って解説を行う。講義の際にはできるだけ具体的な事例、判例に言及しつつ理解を深める。

## 《学生の到達目標》

憲法の基本的知識を学び、基本的人権の内容及び国家の統治機能を理解する。日常生活と憲法との関わりを意識できるようにする。

## 《授業計画》

1. ガイダンス (授業の進行方法、日本の法と憲法の関係を解説する)
2. 憲法の意味・成立・歴史について学ぶ
3. 憲法の基本原理について学ぶ
4. 包括的基本権・平等権について学ぶ
5. 精神的自由権①-内心の自由について学ぶ
6. 精神的自由権②-表現の自由について学ぶ
7. 経済的自由権について学ぶ
8. 人身の自由について学ぶ
9. 国務請求権・参政権について学ぶ
10. 社会権について学ぶ
11. 国会・内閣について学ぶ
12. 裁判所について学ぶ
13. 財政・地方自治について学ぶ
14. 改正・最高法規について学ぶ
15. 総括 (まとめ)

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組みや提出物 (小テスト・課題等) (40%)、学期末のテスト (60%) を総合して評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・中村睦男・佐々木雅寿・寺島壽一 編著「はじめての憲法学 (第4版)」三省堂  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

平日頃から、日常生活における出来事がどのように憲法と関わるか問題意識をもち、ニュース・新聞等を見ることが望ましい。事前学習として、次回講義のテキスト該当範囲を読むことを求める。授業の進行具合等により、授業計画に変更の可能性がある為、該当範囲は各回終了毎に指示する。

# 英語

1 年次  
2 単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 杉本 孝美, 中西 千佳子

## 《授業の概要》

小学校で外国語（英語）が教科化され、保育現場でも英語を使った活動が盛んに行われるようになってきている。また、社会もグローバル化され、様々な国の人々とコミュニケーションできる力が求められている。保育現場を題材にしたテキストを使い、英語の基礎技能を高めつつ、コミュニケーション力と保育に役立つ力を養うことを目指す。

## 《学生の到達目標》

テキストを使って固まった英文を読み理解することと英作文ができるようになる。また、こどもと一緒に楽しめる英語の歌が歌えるようになる。英語の絵本の読み聞かせができるようになる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（授業の進行方法と学習課題について）
2. こども園を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本1①
3. こども園を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本1②
4. 園での実習を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本2①
5. 園での実習を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本2②
6. 園外保育を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本3①
7. 園外保育を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本3②
8. 水遊びを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本4①
9. 水遊びを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本4②
10. おやつタイムを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本5①
11. おやつタイムを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本5②
12. お話タイムを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本6①
13. お話タイムを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本6②
14. 総復習、実践発表①
15. 総復習、実践発表②
16. 前期の復習
17. 園での行事を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本7①
18. 園での行事を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本7②
19. お誕生日を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本8①
20. お誕生日を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本8②
21. 普段の遊びを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本9①
22. 普段の遊びを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本9②
23. 赤ちゃんニュースを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本10①
24. 赤ちゃんニュースを題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本10②
25. 歯科指導場面を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本11①
26. 歯科指導場面を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本11②
27. 劇遊びの場面を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本12①
28. 劇遊びの場面を題材に英語の基礎技能演習、ナーサリーライム、英語絵本12②
29. 総復習、実践発表③
30. 総復習、実践発表④

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組みを重視し、実践発表や課題提出等も勘案して、総合的に評価する。学期試験（50%）、授業への取り組み、実践発表・提出物（50%）

## 《授業で使用する教科書》

・Naoko Akamatsu（赤松直子）「Children's Garden 保育英語」成美堂

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

学習課題で示したこと以外に、授業の進め方に慣れ、自主的に予習・復習を行うこと。また、実践発表に向けての練習もを行い、自分自身の課題を見つけ、解決に取り組む。

# 体育（講義）

1 年次  
1 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★仲山 正志, 足立 博子

## 《授業の概要》

文部科学省は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施している。その結果、運動実施時間と体力との関係が明らかになった。体力・運動能力の向上のためには、子どもたちの運動時間の確保が重要であるといえる。さらに、子どもの遊びにとって大切な「空間」（遊び場）、「仲間」（遊び友達）が重要であることも明らかである。この講義では、体力・運動能力の向上のための学校や自治体、スポーツ団体の取り組みに触れ、遊びの意味や運動の楽しさ、体力・運動能力について考えることとする。

## 《学生の到達目標》

体力・運動能力の向上には運動の楽しさを味わうことが基礎にある。それを理解した上で、遊びの意味や運動の楽しさ、体力・運動能力についての理解を深める。授業で得た知識に基づき、遊びの意味や運動の楽しさ、体力・運動能力についての動向および教育的観点から、遊びや体力・運動能力の在り方について、積極的に取り組む姿勢と実践力を身につける。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 運動の楽しさについて
3. 体力とは（行動体力・防衛体力）
4. 運動能力とは（運動能力・運動神経）
5. 健康状態・栄養摂取状況および体力・運動能力に関する調査について
6. 運動に関わる文部科学省・スポーツ庁の取り組み
7. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について
8. 運動に関わる幼児教育・学校教育現場での取り組み
9. 運動に関わる地方自治体の取り組み
10. スポーツ団体の取り組み
11. 運動に関わる民間企業の取り組み
12. 子ども・青少年の運動・スポーツ実施状況
13. 部活動・スポーツ少年団の活動状況
14. 子どもの運動・スポーツへの参加に向けて
15. まとめ（子どもの体力・運動能力向上の本質）

## 《成績評価の基準・方法》

毎時の授業内容確認レポート（60%）、課題レポート（40%）を総合的に評価します。両者ともに、体育講義における基礎的事項についての理解、そしてそれを論述できるかを評価の観点とします。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

運動の楽しさや体力・運動能力について自分の体験やこれまでの経験を通じて課題を持つこと。その課題について講義からの学びや自分自身の積極的な取り組みを通じて課題解決につなげていくこと。

# 体育（実技）

1年次  
1単位（実技）  
資格 保○ 幼○  
担当 眺野 花

## 《授業の概要》

デジタル化が進み、便利になった現代社会においては、運動不足による体力低下および生活習慣病や精神的ストレスの増加など多くの健康課題が挙げられています。本授業では、自分自身の体力を知り、身近な道具を使用してどのような身体活動ができるのかを体験することにより、具体的な運動方法と自発的に運動に取り組む姿勢を身につけましょう。また、将来子どもの運動指導することを踏まえて、子どもに実践可能な運動を知り、その上で子ども達が自発的に動きたくなる環境構成とはどのようなものであるかを考えましょう。

## 《学生の到達目標》

- ①積極的に体を動かし、教育者にふさわしい体力を身につける。
- ②子どもたちの発育発達に沿った工夫された運動を習得する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 道具を使わない運動 (1) ストレッチ、体づくり
3. 道具を使わない運動 (2) じゃんけん等
4. 道具を使わない運動 (3) 歩・走・跳
5. リズムを使った運動 (1) 模倣
6. リズムを使った運動 (2) 自由表現
7. 用具を使った運動 (1) ホール
8. 用具を使った運動 (2) フープ
9. 器具を使った運動 (3) マット
10. 用具を使った運動 (4) 縄
11. 器具や用具を使用した運動：サーキット
12. 身近な素材を使った表現 (1) 布、ビニール袋、ペットボトル等
13. 身近な素材を使った表現 (2) 新聞紙
14. イメージを用いた身体表現
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み 60%  
小レポート 30%  
提出物(記録ノート等) 10%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

体調管理に努め、積極的に授業参加できるよう準備しておくこと。  
動きやすい恰好（運動靴を含む）で参加すること。

# 社会福祉

1年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 高木 さひろ

## 《授業の概要》

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。また、社会福祉の制度や実施体系について学ぶとともに、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、社会福祉の動向と課題について理解する。

## 《学生の到達目標》

- ①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
- ②社会福祉の制度や実施体系について理解する。
- ③社会福祉における相談援助について理解する。
- ④社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
- ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス、社会福祉の理念と概要
2. 子どもと家族の福祉①
3. 子どもと家族の福祉②（児童家庭福祉にかかわる施設、行政機関）
4. 子どもと家族の福祉③（子どもの権利と社会的養護の仕組み）
5. 社会保障及び関連制度の概要（年金制度・医療保険）
6. 障がい児・者福祉①（障がい児・者福祉の考え方）
7. 障がい児・者福祉②（障がいの種類、障がい児・者福祉の法律・制度）
8. 前半の振り返り
9. 地域福祉
10. ソーシャルワーク
11. 低所得者の福祉①（生活保護の仕組み）
12. 低所得者の福祉②（その他の低所得者福祉）
13. 高齢者福祉①（介護保険制度）
14. 高齢者福祉②（利用者保護）
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

定期試験70%、授業内課題（リアクションペーパーなど）15%、授業への取り組み（積極的な授業への参加、予習・復習、発表など）15%で総合評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・直島正樹・原田句哉「図解で学ぶ保育 社会福祉」萌文書林  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

【1単位につき、45時間の学修が必要】本教科科目は2単位であるので、講義、事前・事後学習合計90時間の学習時間が必要である。  
①毎回の授業で示すテーマについて、新聞記事、参考文献やWeb検索などを参照して理解を深めること。  
②次回授業への予習として、テキストの該当箇所を読み、自分自身の経験や知識を深めること。  
③①について、manabaを活用して課題管理をおこなうことがある。

# 子ども家庭福祉

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○  
担当 立花 直樹

## 《授業の概要》

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について学ぶとともに、子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。また、講義や演習（セルフワーク、グループワーク、ディスカッション等）を通じて、児童福祉の制度や実施体系、現状や課題を学び、子ども家庭福祉の動向と課題について理解を深める。

## 《学生の到達目標》

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子ども家庭福祉及び児童の人権を理解し、保育者としての具体的な支援に結びつける。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について知識を習得し、理解を深める。
4. 子ども家庭福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みを調べ、理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解・考察し、説明できる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、子ども家庭福祉の理念と概念
2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷
3. 現代社会と子ども家庭福祉と諸外国の動向
4. 児童の人権擁護と子ども家庭福祉
5. 子ども家庭福祉の制度と法体系
6. 子ども家庭福祉の行財政と実施機関
7. 児童福祉施設と専門職の役割
8. 児童福祉施設（アドミニストレーション、コンフリクト）
9. 次世代育成支援（少子化と子育て支援事業）
10. 家庭養育と社会的養護①：貧困家庭と外国籍の児童・家庭への対応
11. 家庭養育と社会的養護②：児童虐待とドメスティック・バイオレンスへの対応
12. 家庭養育と社会的養護③：非行問題、不登校（園）への対応
13. 家庭養育と社会的養護④：障害ある児童への対応
14. 児童の人権と生命倫理
15. 総括（児童家庭福祉の課題と展望）

## 《成績評価の基準・方法》

1. 各種演習シートの提出等：50%
  2. 小テスト（3回実施予定）：50%
    - 1) 加点：提出物の内容（記入量・整理力・丁寧さ）、授業運営の協力など、
    - 2) 減点：欠席・遅刻・早退、忘れ物・居眠り、おしゃべり、関係のない作業・携帯操作、記入漏れなど
- \*グループ演習時の居眠りや無発言・非協力的態度については厳しく減点する  
※演習シートは採点し後日返却する、小テストは授業内で解答・解説する

## 《授業で使用する教科書》

・立花直樹・渡邊慶一・鈴木晴子・中村明美「最新はじめて学ぶ社会福祉：児童・家庭福祉」ミネルヴァ書房 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：宿題として、事例を読み演習シートに意見を記入してくる  
事後学習：小テストに向けた学習（教科書、資料、シートなどの復習）

# 保育原理

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 阿部 和子

## 《授業の概要》

この授業では、保育に関わる基礎的な知識や理論を学ぶとともに、「望ましい保育のあり方」を考えたり、自らの保育実践を省察するための仕組みや手順を習得したりすることを目指す。具体的には、まず、保育の全体像を知るために、社会の中で保育を歴史的・社会的背景も含めて学習する。ついて、「保育の基本」として、保育の基本原則、発達理論や保育の内容・方法・形態・評価の在り方等について学習する。その上で、子育て支援や保幼少連携、課題を抱えた家庭への支援の在り方などについての理解を深める。

## 《学生の到達目標》

- ① 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領にそって、保育についての基礎的知識・理論を習得する。
- ② 保育に関する知識や理論を、自らの保育体験に引きつけて捉え直す視点や態度を形成する。

## 《授業計画》

1. 保育とは（保育の意義と目的）－ 子どもや保育を取り巻く現状と課題
2. 子どもの発達と子ども理解
3. 保育の思想と保育の歴史
4. これからの時代の保育
5. 保育の場 保育制度と子育て支援計画
6. 保育目標と内容① 幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領
7. 保育目標と内容② 保育所保育指針
8. 保育の方法① 環境による保育
9. 保育方法② 乳児期から幼児期へ
10. 保育の計画と評価
11. 子育て支援と連携、家庭・幼保小学校との連携
12. 子どもの安全と虐待、障がいへの対応
13. 諸外国の保育
14. まとめ 乳幼児教育・保育の重要性と独自性
15. まとめ 保育者の役割と専門性

## 《成績評価の基準・方法》

ミニレポート等の提出課題30%、授業内で行う小テスト30%、まとめのレポート40%によって総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・最新保育士養成講座総括編集委員会編執筆代表 阿部和子・北野幸子「最新保育士養成講座 第一巻 保育原理」全国社会福祉協議会

## 《参考書》

・「「保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 《事前・事後学習》

○シラバスに沿って、事前に教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後は、理解できなかったところを教科書で確認し、不明な点は担当教員に質問するように心がけること。  
○新聞等で、子どもや家庭、保育に関する記事に目を通して、授業と関連させて子どもの最善の利益を考える習慣をもつこと。

# 保育者論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★佐々本 清恵

## 《授業の概要》

一般に、乳幼児期の子どもの保育・教育を担当する人を「保育者」と言っている。授業では、「保育者の役割や倫理」「制度的な位置づけ」「専門性」「連携・協働」「資質の向上」「キャリア形成」等、保育者になるための総合的な学習をしながら「保育者とはなにか」を学び理解を深める。また、人の育ちにおける「乳幼児期の重要性」を知ること、学びへの意欲と保育への期待が持てる授業を目指す。

## 《学生の到達目標》

- ・「生涯に渡る人格形成の基となる乳幼児期」を子どもと共に過ごす保育者の役割の重要性を理解する。
- ・総合的な学習を通して「保育とは何か」を理解するとともに「保育者として大切にすべきこと」を学ぶ。
- ・修学への期待を持ち、自ら考え学ぶ姿勢を身につける。
- ・自ら考え、考えたことを言葉にすることの意義を理解する。

## 《授業計画》

1. 保育者とは 保育者を目指す学生へ大切な保育観— 乳児保育の専門性 授業の進め方
2. 保育とは何か 「保育所・幼稚園・こども園 それぞれの制度 役割と責務」
3. 保育者の役割（職務）と制度的な位置づけ
4. 保育倫理と子どもを尊重した関わり
5. 子どもや保護者にとっての保育者—保育者に必要なもの—
6. 保育者として 主体的・対話的で深い学び—理論と実践—
7. 養護と教育が一体的に行なわれる保育とは
8. 「生命の保持と情緒の安定」—危機管理—
9. 保育者の専門性「子どもの資質・能力」「小学校との接続」
10. 保育者の資質・能力「保育実践と評価・省察」「言葉の重要性」
11. 子どもの主体的な活動と保育計画「保育計画とは」「観察と記録」
12. 保育者の専門性「乳児保育」「インクルーシブ保育とは」
13. 保護者に寄り添う保護者支援「保護者への支援と連携」「地域の子育て支援」
14. 連携と協働「園・保育者の連携と協働」「地域や関係機関との連携・協働」
15. 保育者の資質の向上とキャリア形成 授業の振り返りと総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み  
毎時間ごとの小レポート  
レポート課題 を総合的に判断する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・名須川知子・大方美香監修 山下文一編著「保育者論」ミネルヴァ書房・汐見稔幸 大豆生田啓友編「保育者論」ミネルヴァ書房・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府文部科学省 厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

- ・「保育者の視点」で身の回りの生活を考える視点を持つ。
- ・授業後は、ノートを整理し、学修内容の振り返りを行うこと。

# 保育の心理学

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○  
担当 要 正子

## 《授業の概要》

生涯発達心理学の観点から乳幼児期からの心身の発達について学び、こどもへの理解を深める。保育・教育現場で必要とされる基礎的知識の習得、発達課題、乳幼児期の初期経験の重要性などについて、適宜グループワークを交えながら学んでいく。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知見をふまえ、発達を捉える視点について理解する。
2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

## 《授業計画》

1. 保育の心理学で学ぶことを理解する（オリエンテーション）
2. 発達とは（人間の発達を学ぶことの重要性を理解する）
3. 発達の理論を学ぶ（1）
4. 発達の理論を学ぶ（2）
5. こどもの発達過程（1）身体的機能と運動機能の発達
6. こどもの発達過程（2）認知の発達
7. こどもの発達過程（3）言語の発達
8. こどもの発達過程（4）社会情動的発達
9. 乳幼児期の学びに関わる理論
10. 乳幼児期の学びの過程と特性
11. 乳幼児期の学びを支える保育
12. コミュニケーションの力を育む（乳幼児期の親子の関わり的重要性について学ぶ）
13. コミュニケーションの力を育む（遊びと概念獲得について学ぶ）
14. 子育て支援の必要性と重要性について学ぶ
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験（60%）と授業への取り組み（40%）によって評価する。  
なお、授業への取り組みには、グループワークの成果等提出物も含む。

## 《授業で使用する教科書》

・青木紀久代編「保育の心理学【シリーズ知のゆりかご】」みらい

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ実習等で、こどもに興味をもち、周囲の大人の関わり方にも関心を寄せて観察する。  
事後学習：授業と観察したことや体験したことを連動させ、学びを深める。

# 幼児と健康

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★大脇 万起子

## 《授業の概要》

平成29年に告示された「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および「保育所保育指針」において示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭においた授業を行う。具体的には、幼児の身体・運動・精神の各機能発達、生活習慣の形成、幼児期の発達障害、疾病予防、安全管理および日常生活における身体活動に関する授業を行う。

## 《学生の到達目標》

健康に関する幼児の支援・指導のために必要な基礎知識を習得する。具体的には、幼児の身体・運動・精神の各機能発達、生活習慣の形成、幼児期の発達障害、疾病予防、安全管理および日常生活における身体活動に関する基礎知識を習得する。

## 《授業計画》

1. 乳幼児の健康
2. 乳幼児の身体機能の発達①
3. 乳幼児の身体機能の発達②
4. 乳幼児の生活習慣の形成①
5. 乳幼児の生活習慣の形成②
6. 乳幼児期の発達障害①
7. 乳幼児期の発達障害②
8. 乳幼児期の疾病と予防①
9. 乳幼児期の疾病と予防②
10. 乳幼児期の疾病と予防③
11. 乳幼児期の疾病と予防④
12. 乳幼児期の安全管理①
13. 乳幼児期の安全管理②
14. 乳幼児期の運動発達
15. 乳幼児の日常生活における身体活動

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の小テスト解答（45%）、授業への取り組み姿勢（15%）、定期テスト（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・小野次明・榎原洋一編著「幼児と健康 日常生活・運動発達・こころからの基礎知識」ジアース教育新社  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：教科書の当該範囲の予習  
事後学習：配布資料および小テストの復習

# 幼児と環境

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★神長 美津子

## 《授業の概要》

現代社会の乳幼児を取り巻く環境の現状の把握とともに、乳幼児期の発達の特性を踏まえて現代的課題を整理する。特に、乳幼児期・児童期の認知的発達の特徴をおさえた上で、乳幼児期の子どもの物との関わりを楽しむ体験、遊具や用具と関わる体験、自然に親しむ体験、数量や文字等と親しむ体験について具体的に学び、子どもが生活や遊びを通して発達していく姿を捉え、保育者として必要な知識や技術を習得する。

## 《学生の到達目標》

本授業では、以下の3点から授業の到達目標を考えている。  
第一は、子どもを取り巻く環境の諸側面（物的環境・人的環境・社会的環境、安全等）と乳幼児期の発達との関連を理解し、「幼児と環境」を学ぶことの意義を理解することである。  
第二は、乳幼児期の子どもの思考力・科学的概念の発達を理解することである。具体的には、子どもの物との関わりや動植物との関わりから、乳幼児期の子どもの発達の特徴を理解する。  
第三は、子どもはすでに情報社会の中で生きていて、その情報と関わり、それらを自分の世界に取り入れていることである。具体的には、数量や図形、標識・文字等、情報・施設とのかかわりと発達を理解できることである。

## 《授業計画》

1. 「幼児と環境」で学ぶこと
2. 現代社会の乳幼児を取り巻く環境と乳幼児期の発達
3. 乳幼児期・児童期の思考や科学的概念の発達の特徴
4. 幼児期と児童期の子どもの発達の姿
5. 子どもが身近な物とかかわりを楽しむ体験
6. 子どもが遊具や用具とのかかわりを楽しむ体験
7. 子どもが植物とかかわり親しむ体験
8. 子どもや虫や小動物とかかわり親しむ体験
9. 子どもが数量や図形とかかわり親しむ体験
10. 子どもが、文字とかかわり親しむ体験
11. 子どもが自然事象や社会生活（情報・施設）とかかわり親しむ体験
12. 子どもが環境とかかわる姿と保育者の役割
13. 園環境と子どもの生活や遊び
14. 幼児教育から小学校教育への円滑な接続
15. まとめ（課題の整理と展望）

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の授業後のコメントペーパー、レポートと課題  
簡単なテスト

## 《授業で使用する教科書》

・神長美津子/高柳恭子/桂木奈巳/青木康太郎「子どもと環境」光生館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・神長美津子「保育の基本と環境の構成」ひかりのくに 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

シラバスを見て、事前に学習内容を確認し、予備知識をもって授業に臨むようにすること。授業後は、ノートの整理をして学修した内容を確認しておくこと。

# 幼児と表現

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★有福 淑子, ★手良村 昭子

## 《授業の概要》

幼児の表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する発想・構想力を身につける。

## 《学生の到達目標》

- ・ 幼児の素朴な表現の姿やその発達、特徴を理解する。
- ・ 音楽、造形、身体、劇などの様々な表現媒体に関する基礎的な知識、技能を身につける
- ・ 幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する発想、構想力を身につける。
- ・ 幼児の表現を支えるための自己の感性を豊かにする。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（授業の概要と進め方について）
2. 幼児の表現とは何かを考える① 領域「表現」とのつながり
3. 幼児の表現とは何かを考える② 保育・教育現場における幼児の表現
4. 幼児の表現の手段 言葉だけではない感情の表現
5. 幼児の表現活動① 感性を豊かにする自然との対話
6. 幼児の表現活動② 自然との対話 見る・触れる・感じる
7. 幼児の表現活動③ 経験からの造形表現活動
8. 幼児の表現活動④ 経験からの身体（身ぶり）表現活動
9. 幼児の表現活動⑤ 他者との対話—コミュニケーションとしての表現
10. 幼児の表現活動⑥ 表現活動の発達過程
11. 幼児の表現活動⑦ 保育者の受けとめ・共感・促し
12. 幼児の表現活動⑧ ごっこあそび・劇あそび（おはなしから読み取る感情、情景）
13. 身ぶり表現によるグループでの劇づくり
14. 身ぶり表現によるグループでの劇づくり（発表）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

○授業への取り組み及び毎回の授業後に提出するレポート（40%） ○劇による発表と振り返り（30%） ○振り返りのまとめ（30%）

## 《授業で使用する教科書》

- ・ 「文部科学省「幼稚園教育要領解説」」フレーベル館

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前・事後学習としては授業内で学んだことから視野を広げ、経験したこと、興味・関心を持ったこと、わからなかったことについて自ら調べ知識、見識を深める。

# 環境領域指導法 I

1 年次  
1 単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 瀧川 光治, 古茂田 貴子

## 《授業の概要》

子どもは生まれてから自分自身を取り巻く環境の中で、経験を重ねながら心身を発達させていきます。その環境について、具体的な内容や、環境とどのように関わっているのかということや、その学びを通して保育の中でどのような環境を整えていけばよいのかについて、法令や実際の保育活動を学ぶことを通して考えます。

## 《学生の到達目標》

まず、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「環境」領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。  
次に、子どもにとっての重要な学びの場である「遊び」と「生活」についてその大切さと環境の必要性を学ぶ。最後に、保育者として保育現場でどのような工夫が必要かという視点を意識づける。

## 《授業計画》

1. イントロダクションー「保育・幼児教育とは？」
2. 幼児教育・保育における環境について
3. 根拠となる法令についてー幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領
4. 領域「環境」について（1）ー目標・ねらい
5. 領域「環境」について（2）ー内容・内容の取扱い
6. 保育の方法としての「遊び」とは一遊ぶ中で学ぶとはどういうことか？
7. 子どもの主体的な活動としての遊びと保育内容
8. 子どもを取り巻く環境（ICT機器とその活用を含む）
9. 教材研究 1 好奇心・探究心を育む保育
10. 教材研究 2 植物・動物と関わる保育
11. 教材研究 3 身近な社会の文化と関わる保育
12. 教材研究 4 数量や図形に関わる保育
13. 資質・能力の3つの柱と、1.0の姿
14. 保育者の専門性と子どもへのかかわり
15. 授業のまとめと振り返り

## 《成績評価の基準・方法》

- ① 毎回の授業の最後に提出する小レポート 56%
- ② 中間課題 20%
- ③ 振り返りのまとめ 24%

## 《授業で使用する教科書》

- ・ 瀧川光治、小栗正裕、宮地あゆみ編「保育の学び、ファーストステップ」青踏社・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《参考書》

- ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前にテキストを読み、学習内容を把握する。  
事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 環境領域指導法Ⅱ

1年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★大橋 喜美子

## 《授業の概要》

前期に学んだ「環境領域指導法Ⅰ」を踏まえて、さらに領域「環境」の理解を実践的に深めていく。領域「環境」は（周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていくとする力を養う）ための領域であり、好奇心・探究心の育成が重要である。そのため、子どもの発達に応じて、そのためのねらい・内容の理解を深めるとともに、指導・援助、教材研究の方法を実践的に学ぶ。

## 《学生の到達目標》

1.領域「環境」のねらい・内容、10の姿、資質・能力のつながりを理解する。2.乳幼児の発達や学びの過程を理解し、資質・能力および10の姿を育むための保育内容や指導・援助を理解する。3.幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した教材研究や環境構成を構想する方法を身につける。

## 《授業計画》

1. 領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いと資質・能力の育成
2. 乳幼児の発達の視点を踏まえた領域「環境」と10の姿のつながり
3. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（1）－実践事例から
4. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（2）－保育者の援助やかかわり
5. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（3）－情報機器・教材の工夫と活用
6. 思考力の芽生えを育む保育と教材研究（4）－指導計画の立案と模擬保育
7. 保育環境の様々な工夫（1）－領域「環境」のねらい・内容との関連
8. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（1）－実践事例から
9. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（2）－保育者の援助やかかわり
10. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（3）－情報機器・教材の工夫と活用
11. 自然とのかかわり・生命尊重を育む保育と教材研究（4）－指導計画の立案と模擬保育
12. 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚の育む保育環境（1）－実践事例から
13. 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚の育む保育環境（2）－教材の工夫
14. 保育環境の様々な工夫（2）－幼児期と小学校教育の連続性
15. 授業内容を振り返り、他の領域と関連づけながら保育の構想を考える

## 《成績評価の基準・方法》

- ① 毎回の授業の最後に提出する小レポート 40% ② 中間課題 30% ③ 振り返りのまとめ 30%

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《参考書》

・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・大橋喜美子/三宅茂夫「子ども環境から考える保育内容」北大路書房

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前にテキストを読み、学習内容を把握する。事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 社会的養護Ⅰ

1年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 柏木 邑太

## 《授業の概要》

現代社会の児童養護における社会的養護の果たす役割や必要性と、社会的養護の理念と概念及び歴史の変遷を学び、児童の権利擁護について周知する。社会的養護の各制度や実施体系的な学び、その中で、児童にとって生活の場となる入所施設養護のあり方について、その基本的原理と施設養護の実践を学び、また必要とされるソーシャルワークの内容を理解する。家庭養護（里親・ファミリーホーム）や、養子（特別養子・普通養子）縁組制度について理解し、施設養護、家庭的養護との違いを知る。施設の運営管理や施設内虐待の防止及び学校、地域等との連携など施設養護の現状と課題について知る。

## 《学生の到達目標》

①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護（社会的養育含む）の基本について理解する。③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。⑤社会的養護の現状と課題について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス、社会的養護の理念と概念
2. 社会的養護の歴史の変遷
3. 社会的養護の基本（1）子どもの人権擁護と社会的養護の基本原則
4. 社会的養護の基本（2）社会的養護における保育士等の倫理と責務
5. 社会的養護の制度と法体系
6. 社会的養護の仕組みと実施体系
7. 社会的養護の対象
8. 家庭養護と施設養護の共通点と違い
9. 家庭養護と施設養護における子どもの立場・視点
10. 社会的養護にかかわる専門職
11. 社会的養護に関する社会的状況
12. 社会的養護を必要とする子どもの権利擁護（措置児童虐待防止）
13. 社会的養護と地域福祉のネットワーク
14. 児童福祉施設の運営管理
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験70%  
授業態度、出席30%

## 《授業で使用する教科書》

・原田句哉・杉山宗尚「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ」萌文書林

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

【1単位につき、45時間の学修が必要】本教科科目は2単位であるので、講義、事前・事後学習合計90時間の学習時間が必要である。  
①毎回の授業で示すテーマについて、新聞記事、参考文献やWeb検索などを参照して理解を深めること。  
②次回授業への予習として、テキストの該当箇所を読み、自分自身の経験や知識を深めること。  
③①について、manabaを活用して課題管理をおこなうことがある。

# 保育実践学習Ⅰ

1年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 金重 利典,阿川 勇太,★新井 明子,伴 亜紀,★野上 千春,  
★鈴木 恵

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅰは、保育所や幼稚園、こども園等でのインターンシップ現場における実習体験を基盤とする。実習を通して、実践の場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務についての基礎的な理解を深めることを目指す。  
また、保育実践学習Ⅱへのつながりを意識し、実践を通して学ぶということを認識しながら、実習日誌を書くことによりその体験をより確かなものにする力を養う。  
この授業は、アクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育所やこども園・幼稚園等の職務への理解を深める。また、子どもと関わる職としての保育・教育者をしっかり観察し、自身の将来と照らし合わせる。また、保育・教育現場の諸課題について体感し、考える機会とする。

## 《授業計画》

1. インターンシップ実習に関する心得について
2. インターンシップ実習に関する諸手続き
3. 保育所・幼稚園・こども園についての基礎的知識（1）制度と施設
4. 保育所・幼稚園・こども園についての基礎的知識（2）保育内容
5. 子ども理解について
6. 発達障害の子どもへの対応について
7. 実習日誌の書き方について
8. 現場における対応事例について
9. インターンシップ現場における実践、観察、記録（1）1日の生活の流れ
10. インターンシップ現場における実践、観察、記録（2）子ども理解
11. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育者の援助
12. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育者の言葉かけ
13. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育環境
14. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：自分自身の援助・言葉かけ
15. 自己の課題の明確化および目標設定

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加態度および事前・事後授業への参加態度（60%）  
「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館・無藤隆監修・大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 0～2歳児編」中央法規出版・無藤隆監修、大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 3～5歳児編」中央法規出版

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・毎回のインターンシップ実習は、実習の目的、目標、観察の視点などを明確にして参加する。  
事後学習は、毎回のインターンシップ実習後に日誌や記録等の整理を通して振り返りを行う。  
また、観察内容に適した記録作成をする。  
・事前学習は、実習の振り返りから得た課題を明確にして、次のインターンシップ実習に臨めるように準備をすること。継続的にインターンシップ現場で扱われていた教材等の研究を行い、保育実践の実践力をつける。

# 保育実践学習Ⅱ

1年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 金重 利典,阿川 勇太,★新井 明子,伴 亜紀,★野上 千春,  
★鈴木 恵

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅱは、保育所や幼稚園、こども園等でのインターンシップ現場における実習体験を基盤とする。現場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務についての基礎的な理解を深めることを目指す。また、保育実践学習Ⅰでの学びの総論を活かし、引き続き、実践を通して学ぶということを常に認識しながら、実習日誌を書くことによりその体験をより確かなものにする力を養う。  
この授業は、アクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育士やこども園・幼稚園等の職務への理解を深める。また子どもと関わる職としての保育・教育者をしっかり観察し、自身の将来と照らし合わせる。また、保育・教育現場の諸課題について体感し、考える機会とする。

## 《授業計画》

1. 保育実践学習Ⅰ（前期）の振り返りと自己分析
2. インターンシップ実習に向けての目標設定
3. インターンシップ現場における実践、観察、記録（1）1日の生活の流れの視点
4. インターンシップ現場における実践、観察、記録（2）自分自身の動き方
5. インターンシップ現場における実践、観察、記録（3）保育者の援助・かかわり
6. インターンシップ現場における実践、観察、記録（4）保育者の言葉かけ
7. インターンシップ現場における実践、観察、記録（5）自分自身の援助・言葉かけ
8. インターンシップ現場における実践、観察、記録（6）保育環境と養護的な視点
9. インターンシップ現場における実践、観察、記録（7）保育環境と教育的な意図
10. インターンシップ現場における実践、観察、記録（8）園庭の保育環境
11. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：子どもの生活に関する事例
12. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：子どもの遊びに関する事例
13. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：個々の発達の異なりの事例
14. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育の援助と言葉かけの事例
15. インターンシップ実習の振り返りと自己の課題の明確化

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加態度および事前・事後授業への参加態度（60%）  
「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館・無藤隆監修・大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 0～2歳児編」中央法規出版・無藤隆監修、大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 3～5歳児編」中央法規出版

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・毎回のインターンシップ実習は、実習の目的、目標、観察の視点などを明確にして参加する。  
事後学習は、毎回のインターンシップ実習後に日誌や記録等の整理を通して振り返りを行う。  
また、観察内容に適した記録作成をする。  
・事前学習は、実習の振り返りから得た課題を明確にして、次のインターンシップ実習に臨めるように準備をすること。継続的にインターンシップ現場で扱われていた教材等の研究を行い、保育実践の実践力をつける。

# 教職論

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 ★岡本 京子

## 《授業の概要》

インターンシップ現地における教育者の姿や教育関連のニュース等に触れる中で、また授業を通じて、現代社会における教職の意義、教員の役割や職務内容等について理解する。

## 《学生の到達目標》

教育・保育の動向を踏まえ、教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について理解し、教職への意欲を高め、更に適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション 教職の意義「保育者とは」
2. 教員の役割「保育者とは」
3. 教員の役割「保育者になるために」
4. 教員の意義と役割「幼稚園教諭の仕事とその一日」
5. 教職の意義と役割「インターンシップ現地における視察、調査」
6. 教職の職務内容「子どもの内面や発達を理解する保育者」
7. 教員の職務内容「遊びを援助する保育者」
8. 教員の職務内容「家庭や地域との連携、支援する保育者」
9. 教員の職務内容「多様な子どもの理解と支援する保育者」
10. 教員の職務内容「教材、研修などを通じて学びを深める保育者」
11. 教員の職務内容「成長する保育者と同僚性」
12. 教員の職務内容「保育者の専門性」
13. 保育者の専門性「自身の目指す保育者像について発表準備」
14. 保育者の専門性「目指す保育者像について発表内容を完成させる」
15. 総括「各自の学びを発表する」

## 《成績評価の基準・方法》

- ・レポート、課題等（50%）
- ・小テスト（30%）
- ・授業等への取り組み(20%)

## 《授業で使用する教科書》

- ・大豆生田啓友 秋田喜代美 汐見稔幸「02保育者論」ミネルヴァ書房

## 《参考書》

- ・「幼稚園教育要領解説・小学校学習指導要領解説（ともに最新版）」

## 《事前・事後学習》

新聞等の教育関連のニュースに気を配り、どのように考えるかなど自分の考えを意識化しておくこと

# 国語

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 ★宮崎 大樹

## 《授業の概要》

国語科における確かで豊かな言語能力の育成は、幼児教育、小学校教育などの全教育活動の基礎であり、最も重要視される教員の資質・能力である。こうした問題意識のもと、国語科の教材分析や保育実践、授業実践に必要な「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する言語運用力及び言語感覚を身に付け、また、教材分析や保育実践・授業実践に必要な「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」に関する背景的な知識や技能を、保育場面を意識しながら身に付けることが重要である。「言葉の特徴や使い方」とは文法、語彙、表記、音読等で、「情報の扱い方」とは情報と情報の関係、情報の整理等で、「我が国の言語文化」とは、伝統的な言語文化、読書、書写等である。

## 《学生の到達目標》

- ・「言葉」の領域のねらいや内容に必要な「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する言語運用力及び言語感覚を身に付けている。
- ・「言葉」の領域のねらいや内容に必要な、言葉の働き、文法、語彙、表記、音読等に関する知識及び技能を身に付けている。
- ・「言葉」の領域のねらいや内容に必要な、情報と情報の関係、情報の整理などに関する知識及び技能を身に付けている。
- ・「言葉」の領域のねらいや内容に必要な、伝統的な言語文化、読書、書写等に関する知識及び技能を身に付けている。

## 《授業計画》

1. 小学校の「全国学力・学習状況調査」からみる言葉の伝え合い
2. 小学校の国語科につながる幼児期の言葉による伝え合い
3. 教材分析や保育実践に必要な音読に関する知識
4. 教材分析や保育実践に必要な音読に関する技能
5. 教材分析や保育実践に必要な書写に関する知識
6. 教材分析や保育実践に必要な書写に関する技能
7. 教材分析や保育実践に必要な「書くこと」に関する知識
8. 教材分析や保育実践に必要な「書くこと」に関する技能
9. 教材分析や保育実践に必要な「読むこと」に関する知識
10. 教材分析や保育実践に必要な「読むこと」に関する技能
11. 教材分析や保育実践に必要な「話す・聞く」に関する知識
12. 教材分析や保育実践に必要な「話す・聞く」に関する技能
13. 教材分析や保育実践に必要な読書に関する知識や技能
14. 教材分析や保育実践に必要な言語文化に関する知識
15. 教材分析や保育実践に必要な言語文化に関する技能

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験（50%）、レポート、発表、授業への取り組みなど(50%)

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習では、ビブリオバトル・ブックトーク・読み聞かせ用の本を選び、発表内容を考える。また、日常的に様々な文種に触れ、読んだり、聴いたりしたことをもとに人と交流する。事後学習では、書写の「平仮名」「片仮名」について正しく、美しく書く練習をする。

# 算数

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○  
担当 ★木村 憲太郎

## 《授業の概要》

保・幼・小の連携を意識して小学校における算数科の授業に必要な「数と計算」、「図形」、「測定（変化と関係）」、「データの活用」の実践的な数理運用力を、授業場面を意識しながら身に付ける。また、幼稚園、小学校、中学校の関連性を踏まえながら、小学校における算数科の授業に必要な背景的な知識を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

数とその表現や計算の意味と方法、図形の性質や図形の計量、量に着目して物事の特徴を的確に表現する、伴って変わる二つの数量の関係、目的に応じて統計的な問題解決するなどの力を身に付けている。また、小学校における算数科の学習内容に関わる数学に関する基本的な知識を身に付けている。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 数と計算に関する基本的な数理運用力の基礎
3. 数と計算に関する基本的な数理運用力（低学年）
4. 数と計算に関する基本的な数理運用力（中学年）
5. 数と計算に関する基本的な数理運用力（高学年）
6. 図形に関する基本的な数理運用力（下学年）
7. 図形に関する基本的な数理運用力（上学年）
8. 変化と対応に関する基本的な数理運用力（下学年）
9. 変化と対応に関する基本的な数理運用力（上学年）
10. データの活用に関する基本的な数理運用力（下学年）
11. データの活用に関する基本的な数理運用力（上学年）
12. 現実の世界の数学的探求
13. 数学の世界の数学的探求
14. 問題発見・解決・発展の過程としての数学
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

- ・最終課題（50%）
- ・レポート、ふり返り、課題等（40%）
- ・授業等への取り組み(10%)

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習は、授業で学習する場面に対応する教科書を読んでおき、授業に向かう。事後学習は、取り上げられたテーマについて、教科書に示されている課題を図書館で調べる。

# 音楽（器楽）

1 年次  
2 単位（演習）  
資格 幼○  
担当 深田 直子,大槻 知世,竹田 景子,本村 陽子,山口 雅敏,山本 恭仁子

## 《授業の概要》

各自の能力に応じて、個人指導を行う。幼稚園・保育園現場において生活や諸事に対応でき、また社会において音楽と豊かに関わることができるようなピアノ演奏技術の習得を目指す。

## 《学生の到達目標》

基礎技術を身につけることを重点に置き、音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語を理解し、演奏する曲に合った豊かな音楽的表現ができることをねらいとする。

## 《授業計画》

1. 全体及び個人別オリエンテーション
2. 楽譜の読み方及び個人レッスン①
3. 楽譜の読み方及び個人レッスン②
4. 楽譜の読み方及び個人レッスン③
5. 楽譜の読み方及び個人レッスン④
6. 楽譜の読み方及び個人レッスン⑤
7. 練習曲・リズム曲の個人レッスン①
8. 練習曲・リズム曲の個人レッスン②
9. 練習曲・リズム曲の個人レッスン③
10. 練習曲・リズム曲の個人レッスン④
11. 試験曲の指導①
12. 試験曲の指導②
13. 試験曲の指導③
14. 試験曲の指導④
15. 総括（前期到達度試験）
16. 弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン①
17. 弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン②
18. 弾き歌い曲（発表）
19. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン①
20. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン②
21. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン③
22. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン④
23. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン⑤
24. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン⑥
25. リズム曲・弾き歌い曲・練習曲の個人レッスン⑦
26. 試験曲の指導①
27. 試験曲の指導②
28. 試験曲の指導③
29. 試験曲の指導④
30. 総括（後期到達度試験）

## 《成績評価の基準・方法》

定期試験（80%） 授業への取り組み（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・小林 美実「こどものうた100」チャイルド本社・茂田 すすむ「保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集」全音楽譜出版社・「ハイエル・ブルグミュラー・ソナチネ他」能力に応じて選択

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

毎週、授業までの十分な練習が必要である。

# 基礎造形

1年次  
1単位（演習）  
資格 幼○  
担当 丁子 かおる

## 《授業の概要》

領域「表現」及び視点「身近なものに関わり感性が育つ」において、乳・幼児期の造形表現の指導及び環境構成など、保育をデザインするために必要な造形の基礎的な資質・能力を育成し、子どもにとっての造形表現の喜びと役割を理解する。

## 《学生の到達目標》

乳・幼児期の造形活動に関わる演習を通して、乳・幼児期の造形表現に必要な基礎的知識・技能を身に付ける。・乳・幼児期の造形活動に関わる演習を通して、乳・幼児期の造形表現に必要な基礎的考え方・判断力・表現力等を身に付ける。・乳・幼児期の造形活動に関わる演習を通して、表現の喜びを味わい、人間形成の基礎となる造形表現の役割を理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（乳・幼児期の造形の理解）
2. 感触遊びにおける造形的な見方・考え方の理解と造形的な知識・技能の習得
3. かく遊び（パスおよびペン）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
4. かく遊び（パスおよびペン）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
5. かく遊び（技法遊びから）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
6. 造形遊び（素材から）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
7. 鑑賞における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
8. つくる遊び（立体の基本）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
9. つくる遊び（構成遊び）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
10. つくる遊び（構成遊び）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
11. 造形遊び（かくとつくる）における造形的な見方・考え方の理解と知識・技能の習得
12. テーマを決めて制作及び発表（ICTの活用などによるグループワーク）
13. テーマを決めて制作及び発表（グループワーク）
14. テーマを決めて制作及び発表（グループワーク）
15. 学習の振り返り（子どもの造形展の鑑賞と評価）

## 《成績評価の基準・方法》

授業記録（10%）課題提出(60%)、課題発表の内容(30%)などから総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領（平成29年3月告示）」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針（平成29年3月告示）」フレーベル館・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示）」フレーベル館・中川香子・清原知二他「新時代の保育双書 保育内容 表現」みらい

## 《参考書》

・花篤寛・岡田けい吾「新造形表現 理論・実践編」三晃書房  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

指示された教科書の講読をすること。授業内容を各自で振り返り、必要に応じて各自及びグループで話しあっておくことなど。

# 健康教育

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 平野 俊一郎

## 《授業の概要》

生活習慣病の罹患率は、身体組成と密接な関係にある。アンバランスな栄養摂取と運動不足が重なることで肥満傾向は加速し、このことが生活習慣病としての要因を作り出すことになる。授業では、健康の科学的基礎についての知識を深め、生活習慣病の予防対策としての観点から行動および運動の重要性について説いていく。

## 《学生の到達目標》

生活習慣病の悪化とメタボリックシンドロームとの関係、加齢に伴う骨粗鬆症予防の運動療法に関する基礎的理論などを学習し、その他様々な症例における問題点を考え、解決する力を身につけることを目的とする。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、授業の進め方
2. 健康の意義について
3. 現代生活と健康
4. 健康の基礎としての体力
5. 運動不足の害
6. 運動の効果
7. 運動処方方の意義と実際
8. 運動処方方とその流れ
9. 運動処方方の内容
10. 運動処方方の原則
11. メディカルチェック
12. 体力診断
13. 運動処方方・プログラムの立て方（発表）
14. 生涯教育の課題（発表）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（80%）、授業への取り組み（20%）について評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

・「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 《参考書》

・宮下充正 他「体力を考えるーその定義・測定と応用ー」杏林書院・竹宮 隆 他「運動適応の科学ートレーニングの科学的アプローチー」杏林書院

## 《事前・事後学習》

現代、スポーツや健康科学に関して様々な情報が氾濫している。本講義では学生一人ひとりがそれらの氾濫する情報を自分自身で評価検討し、その中から信頼できる情報を取捨選択して、自分自身の知識の一つとして現場に応用できるようにする。

# 総合基礎演習 I

1 年次  
2 単位 (演習)  
資格 なし  
担当 平野 俊一朗, ★石丸 るみ

## 《授業の概要》

初年次教育という位置づけで、スタディスキルやアカデミックスキルの獲得を意識した展開を行う。また、保育士養成および教員養成として1700時間プログラムを実施している本学の学びの体制の全体像を把握することや、コミュニケーション能力を培う協働的な学びや思考方法を、遊びの実践を通して学ぶことを中心として行う。

## 《学生の到達目標》

大学で学ぶということについての基礎的な学習から、基本的な学習姿勢や態度を培い、保育士や幼稚園教諭の職務について必要となる知識や技能を包括的に獲得する。また、遊びの実践を通して、社会人基礎力や協働性などを身につける。

## 《授業計画》

1. 大学での「学び」について
2. 大学生生活、倫理感について
3. 実習の意義 (保育士・教員養成校として)
4. 文献検索の方法や図書館の活用・利用方法 (1)
5. 文献検索の方法や図書館の活用・利用方法 (2)
6. 文献検索の方法や図書館の活用・利用方法 (3)
7. 小論文およびレポート作成の方法 (1)
8. 小論文およびレポート作成の方法 (2)
9. 小論文およびレポート作成の方法 (3)
10. 文献・資料の講読 (1) 保育や教育専門の雑誌記事
11. 文献・資料の講読 (2) 文献リストの作成と要約
12. 文献・資料の講読 (3) 教材資料の保管と整理
13. 情報処理や通信における基礎技術
14. 音楽鑑賞を通じた感情や情緒の育み
15. 防犯教育に関する基礎知識
16. 遊びの提供と保育実践の計画 (1)
17. 遊びの提供と保育実践の計画 (2)
18. 遊びの提供と保育実践の計画 (3)
19. 遊びの提供と保育実践の観察 (1)
20. 遊びの提供と保育実践の観察 (2)
21. 遊びの提供と保育実践の観察 (3)
22. 遊びの提供と保育実践の振り返り (1)
23. 遊びの提供と保育実践の振り返り (2)
24. 遊びの提供と保育実践の振り返り (3)
25. 遊びの提供と保育実践の評価 (1)
26. 遊びの提供と保育実践の評価 (2)
27. 遊びの提供と保育実践の評価 (3)
28. 文献講読・ブックリポートの作成
29. 文献講読・ブックリポート作成と成果報告
30. 総括：初年次の学びについて目標達成度の確認と自己評価

## 《成績評価の基準・方法》

遊びの実践にかかわる取り組み (40%)、遊びの実践にかかわるレポート (20%)、文献検索の方法に関するレポート他、授業内で指定する提出物 (40%)

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・学習技術研究会 編著「知へのステップ 第5版  
大学生からのスタディ・スキルズ」くろしお出版・秋田喜代美  
監修／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター  
編著「保育学用語辞典」中央法規・渡辺弥生・平山祐一郎・藤枝静暁  
編著「保育系学生のための日本語表現トレーニング」三省堂

## 《事前・事後学習》

事前学習：授業時に指定される資料等を事前に読んで理解する。参考文献や資料は、授業中に適宜紹介する予定。事後学習：授業内容の要点を自分なりにノートにまとめるなどして、きちんと理解することが望まれる。その他、指定の課題には、グループワークや個人での資料収集、レポート作成など時間を要するものがあるので、主体的・計画的に取り組むとよい。個別の課題の詳細は授業内で説明する。

# 乳児保育研究法 I

1 年次  
1 単位 (演習)  
資格 なし  
担当 松山 由美子

## 《授業の概要》

乳児研究法のアプローチから、保育現場に必要な研究法を学ぶ。このため、インターンシップの機会などを利用して、乳児の研究法について学ぶ。乳児の研究、また保育の研究に必要な資料の作成方法や研究法として、ドキュメンテーション、エピソード記録、フォトカンファレンス、質的環境評価スケールなど多岐にわたる方法があるが、それぞれの特徴や手法について基本を学ぶことを目標とする。それを通して、乳児保育の実践や乳児の姿を観察し、記録したことをどのように考察し、理解するかの手がかりとして学ぶことを目標とする。乳児の観察手法として、どのような方法があるのか、何に視点をおいて観察すればよいのかなど研究方法について乳児保育の側面から学ぶ。

## 《学生の到達目標》

1. 保育における研究の意義を理解する
2. さまざまな研究法に触れ、乳児を理解するための方法を知る
3. 実際の観察を通して、手法を習得し、その後の実践に活かす力を身につける

## 《授業計画》

1. ガイダンス：保育における研究の意義
2. 保育における研究法 (観察・面接)
3. 乳児保育における観察の必要性
4. ドキュメンテーション・フォトカンファレンスについて
5. 事例検討の演習1：フォトカンファレンスの作成
6. 事例検討の演習2：ドキュメンテーションの作成
7. 事例検討の演習3：ドキュメンテーションを用いたカンファレンスの実施
8. 様々な観察の記録方法 (行動目録法・評定尺度法・行動描写法)
9. エピソード記述の基礎と演習
10. 質的評価スケールについて
11. 観察演習1 (観察の練習とテーマ設定)
12. エピソード記述の作成 (観察の記録)
13. エピソード記述 (観察の分析とまとめ)
14. 観察演習4 (観察結果の発表)
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業中の課題や授業での発表(50%)＋レポート課題(50%)で評価する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

授業で観察の方法やそのまとめ方を学ぶので、普段のインターンシップで保育や乳児の事例をよく観察しておくください。そして、授業中に学習した観察の方法を振り返り、それを取り入れて、インターンシップ先で3歳以下の子どもを観察してみましょう。

# 赤ちゃんの生活と保育

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 阿川 勇太

## 《授業の概要》

乳児の生活が子どもの成長の土台となることを学び、保育所保育指針第2章保育の内容では、1歳未満児を乳児保育（前期乳児とする）、1歳以上3歳未満（後期乳児とする）に区分していることを踏まえつつ、家庭養育における乳児の生活と保育所等集団保育における乳児の生活の連続性と相違について考え、学ぶ。

## 《学生の到達目標》

○家庭や保育施設で生活する乳児の実際について理解する。  
○家庭生活から保育施設へ接続のあり方について乳児の立場で検討する。  
○乳児の生活について総合的に理解し子育て支援の手立てについて考察できる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション：赤ちゃんの生活とイメージ
2. 胎児から新生児へ：産まれる～新しい世界と五感
3. 赤ちゃんの生活：ねる、目覚める～五感と生活リズム
4. 赤ちゃんの生活：ねる、目覚める～五感と生活リズム
5. 赤ちゃんの生活：飲む、食べる、排せつ～満たされる
6. 赤ちゃんの生活：遊ぶ～五感を通して遊ぶ、楽しいな
7. 家庭での保育：赤ちゃんのいる家と部屋、育ちを祝う行事や伝統
8. 家庭での赤ちゃんがいる生活調査【グループワークでの調査】
9. 家族との関係づくり：両親や兄弟などの身近な人との関係づくり～初めての大好き
10. 赤ちゃんがいる生活の実態【インタビュー】
11. 赤ちゃんがいる親への地域の子育て支援と企業の取り組み
12. 家庭から保育施設へ入園した生活の変化、親と保育者の関わりとの相違
13. 保育所保育での生活：1日の生活～先生との関わり
14. 保育所保育での生活：ひとり一人の育ちへの願いとねらい
15. 振り返りとまとめ：乳児の24時間の生活を保障する視点～生活の連続性

## 《成績評価の基準・方法》

授業中の課題や授業での発表(60%)、及びレポート課題(40%)で評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「保育所保育指針解説平成30年」・大方美香「一幼稚園、保育所、認定こども園対応ワークで学ぶ子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方―無藤隆監修―」中央法規出版他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

授業中に指定する

# 赤ちゃんの生活とデザイン

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 松山 由美子, 小宮 加容子

## 《授業の概要》

乳児の生活と保育のアプローチから、乳児の生活について学びながら、乳児のもの・こと・ひとの関係について環境や造形デザインの前点から考える。乳児の身体と乳母車や玩具、地域空間など環境との関係も考える。乳児は空間環境によってどのように身体を動かしたり、移動したりするのか、乳児の生活に欠かせない環境に子ども自身がどのように関与し、大人との共同活動に参加していくのかを学ぶ。

## 《学生の到達目標》

赤ちゃん（乳児）の生活と遊びについて、発達過程にあわせた環境構成と指導と援助について理解し、乳児保育、特に0歳児の保育環境及び保育内容をデザインする基礎的な資質・能力を実践をとおして習得する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（乳児保育のねらいと領域「健康」「表現」に関する基礎知識）
2. 乳児の生活と遊びの環境についての理解
3. 乳児の遊びと乳児の発達過程の理解
4. 優れた事例から保育環境を学ぶ
5. 保育環境についての基礎（室内環境）
6. 保育環境についての基礎（自然環境）
7. 乳児の遊びをデザインするための基礎知識
8. 乳児の遊びに適したおもちゃについて
9. 乳児の生活を支える道具について（ベビーカーなど）
10. 海外の保育現場の事例から学ぶ
11. 保育環境の調査と発表（園の環境・周辺など）
12. 手作りおもちゃの作成に必要な基礎知識
13. 手作りおもちゃの作成に関するレポート作成
14. レポート発表会（成果報告プレゼンテーション）
15. 学修の振り返りと総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業や課題への取組（30%）課題発表(30%)、レポート内容(40%)などから総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針（平成29年3月告示）」フレイベル館・内閣府「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月告示）」フレイベル館

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・インタビューなどを通して、赤ちゃんの生活環境や保育環境に興味をもって観察するようにしてください。  
・授業内容を各自で振り返ったり、各自及びグループで話しあったりして理解を深めたり、環境を観察する視点をもてるようにしてください。  
・レポート課題の作成や準備は必要に応じて授業時間外でも作業を進めてください。



# 乳児保育学科 2年次



# 人間論

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

本講義では、菅野仁『友だち幻想』を中心に読み進めながら現代社会に生きる人間同士の関係について一緒に考えていきたいと思います。  
この本は10代を主なターゲットに2008年に書かれたものですので、2022年の今を生きる大学生の皆さんにとっては既に通り過ぎた年代の話や時代遅れな内容もあり、完全に共感できないかもしれません。しかし、だからこそそその中で年代・時代を超えても普遍的なこととそうでないものを分けて考えてみたり、自分の中高生時代を振り返って当てはめてみたり、これから教育者、保育者、あるいは親となったときに次の世代の子どもや若者に接する際のヒントを探してみたり、単に読んで通り過ぎるだけの読書で終わるのではなく、本をきっかけに自ら考えて新しい学びを得る機会にして欲しいと思います。

## 《学生の到達目標》

- ・現代の若者が抱えがちな人間関係の悩みや問題などを認識・整理する
- ・自分が今抱える問題や過去の経験、身の回りで見聞きしたことと関連付けて考えをまとめる
- ・本を繰り返し読みながら、時には批判の目を持ち、自ら考えて学ぶことを経験する
- ・日ごろから読書をする習慣を身につける

## 《授業計画》

1. 授業の概要と進め方について、「はじめに」
2. 第1章 人は一人では生きられない？
3. 第2章その1 幸福のモメント
4. 第2章その2 他者=自分以外のすべての人間
5. 第3章その1 同調圧力
6. 第3章その2 同質性から並存性へ
7. 第3章寄り道 “ルサンチマン”
8. 第4章 「ルール関係」と「フィリング共有関係」
9. 双方向ワーク その1
10. 第5章 熱心さゆえの教育幻想
11. 第6章 家族との関係と、大人になること
12. 第7章 「傷つきやすい私」と友だち幻想
13. 第8章 言葉によって自分を作り変える
14. 双方向ワーク その2
15. 総括・読書案内

## 《成績評価の基準・方法》

各授業回に出す小課題の提出状況：40%  
各授業回に出す小課題の内容/理解度：40%  
双方向ワークへの参加状況：20%

## 《授業で使用する教科書》

・菅野仁「友だち幻想～人と人の<つながり>を考える～」ちくまプリマー新書

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：教科書の指定部分を事前に読み、不明点や興味関心のある点などをメモしておくこと  
事後学習：講義中に適宜、図書紹介を行うので興味のあるものを読むようにすること

# フランス語

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 永井 道子,杉本 里栄

## 《授業の概要》

EUの中核をなすフランス共和国の言語を学び、言葉を通じてフランスの文化、日常生活、社会事情を考察することにより異文化への理解を深める。フランスという国の多様な顔を知り、視野を広げ、近い将来フランス語の話者7億人時代にも対応できるよう、基礎日常会話の習得を目指す。

## 《学生の到達目標》

学生が語彙や知識を豊かにし、発音強化により日常のコミュニケーション力をつけることを目指す。言葉だけではなく、各自が興味を持って選択したテーマを絞り考察したことをまとめる。

## 《授業計画》

1. ヨーロッパの中のフランス共和国
2. フランス語とは；英語との比較を交えて
3. 基礎発音
4. 挨拶、自己紹介
5. 身分、職業、国籍の表現
6. 数字を学び、年齢を言う
7. カフェで注文
8. 家族を紹介する
9. マルシェで買い物
10. 時刻の表現
11. 季節、天候の表現
12. フランスの世界遺産
13. パリ散策；旅会話
14. 地方への旅；旅会話
15. 総括
16. 前期の復習
17. 日常会話、基本表現の質疑応答
18. フランスの子どものための歌を覚えて、振り付ける
19. モード用語とファッション
20. フランス映画にみる表現
21. 食文化；ワイン、チーズ
22. 食文化；フランス料理
23. 食文化；フランス菓子
24. バカンス；海へ、山へ
25. 伝統行事に関連する表現
26. 感情表現；ジェスチャーを交えて
27. フランスの人気スポーツ、ラグビー？サッカー？
28. ホームパーティーを楽しむ；日本紹介
29. 総復習
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

学期末試験、レポート、課題提出80%、小テスト20%

## 《授業で使用する教科書》

・小谷奈津子、藤井宏尚「キーフレーズで学ぶフランス語」三修社

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：普段からフランスに関するニュース、言葉に注目し、興味をもった事項は調べてみる。  
事後学習：授業で習った表現を、音声ダウンロードを聴きながら繰り返し一緒に発音してみる。

# 韓国語

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 韓 寧爛

## 《授業の概要》

今日、日本と韓国との交流は、政治・経済だけでなくとどまらず、多方面にわたって多様化している。また、交流の多様化に伴って、様々な方面から韓国語学習に対するニーズが高まっている。本得講義では、多様化した韓国語のニーズにこたえるべく、しっかりとした韓国語基礎の習得を目指す。単語の習得、文の組み立て能力に重点を置いて講義を進めていく。さらに挨拶表現の異同等を通して、隣国のコミュニケーションスタイル、発想方法等にも触れ、異言語を学ぶ楽しさとその言語学習を通じて異文化を理解できるグローバルな感覚を味わってほしいと願っている。

## 《学生の到達目標》

1. 簡単な文の「読み・書き」が出来る。
2. 初級（5級）レベルの限られた単語を使い簡単なコミュニケーションと自己紹介が出来るようになる。
3. 初級レベルの単語と表現や韓国文化紹介をもとにして、多様な韓国コンテンツの基本的な内容が理解できるようになる。

## 《授業計画》

1. ハングルの歴史と組み合わせと韓国語について/母音字 1
2. 子音字 1 - 平音 1 (初声) / 平音 1 (終声)
3. 母音字 2 / 母音字 3
4. 子音字 2 - 平音 2 (初声) / 激音 (初声)
5. 子音字 3 - 濃音 (初声) / 濃音 (終声)
6. パッチム (終声)
7. 発音規則
8. 日本語のハングル表記 / 分かち書き
9. 教室でよく使う表現 / 挨拶
10. 文字と発音のおさらい
11. 第1課-丁寧語尾 「-이에요/-예요 (一です)」
12. 第1課-助詞 「-은/-는 (一は)」
13. 第2課-これは何ですか？-指示詞 「이, 그, 저」
14. 第2課-助詞 「-이/-가 (一が)」 / 助詞 「-만 (だけ、のみ)」
15. おさらい①-ブチ会話
16. 韓国文化①-ハングルの日について
17. 第3課①-アメリカンコーヒーありますか-存在詞 「있어요, 없어요」
18. 第3課②-「습니다/-습니다 (一です/一ます)」-합니다体
19. 第4課-いくらですか-漢数詞
20. 第5課①-モツアレラチーズドッグを2つください-固有数詞
21. 第5課②-助数詞 / 助詞 「-을/-를 (を)」
22. 第6課①-私たち今日はどこに行きますか-「-아요/-어요」
23. 第6課②-順序、並列 「-고 (一して、一くて、一で)」
24. おさらい②-自己紹介をしてみましょう。
25. 第7課①-木曜日はスジさんに会いません-用言の否定形①②
26. 第7課②-年、月、曜日 / 「-네요 (一ますね、一ですね)」
27. 第8課①-どこで韓国語を学びましたか-過去形
28. 第8課②-原因、理由 「-아서/-어서」 / 「-으」不規則活用
29. 第9課-梨泰院に行きたいです-願望 「-고 싶어요 (一したいです)」
30. おさらい③-したいことについて話してみましょう。

## 《成績評価の基準・方法》

以下の項目により判断します。  
(1)小テスト (50%)  
(2)課題 (20%)  
(3)授業への取り組み (30%)

## 《授業で使用する教科書》

・朴 恩珠、森 類臣、権 世美「『쑹쑹 자라네(ぐんぐん伸びる)韓国語 初級』」白帝社

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

外国語習得という側面からすると、日頃韓国語と接しているということが望ましい。楽しい学習の観点から考えても、少なくともその日の学習項目や単語を自分のものにするという学習後の作業は求められる。

# 子育て支援

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 丸目 満弓

## 《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎を学びつつ、保育の専門性を背景とし、保護者に対する子育て支援の理論・意義・機能について理解する。それらをふまえた上で、保育士が行う子育て支援について、さまざまな場面や対象に即した行動見本の提示、相談助言、情報の提供など、保育相談支援の内容・方法、技術を中心に実践事例等を通して具体的に理解する。さらに事例分析を通して子育て支援に関する相談援助や個別支援計画についての理解を深める。

## 《学生の到達目標》

1. 保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）を行う際の基本的視点や姿勢を身につける
2. 保育相談支援を行う際に必要となる方法を身につける
3. 保育相談支援の具体的な支援がイメージできる
4. 保育士の専門性を活かした相談支援のあり方を考えることができる

## 《授業計画》

1. オリエンテーション 一人子どもの保育とともに行う保護者の支援とは
2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
4. 子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握
6. 支援の計画と環境の構成
7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8. 職員間の連携・協働および社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
9. 保育所等における支援
10. 地域の子育て家庭に対する支援
11. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
12. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
13. 子ども虐待の予防と対応・要保護児童等の家庭に対する支援
14. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

試験(40%)と小レポートなど授業への取り組み(60%)を総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・立花直樹・安田誠人監修、渡邊慶一・河野清志・丸目満弓・明柴聡史編「子ども・保護者に寄り添う「子育て支援」」晃洋書房

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

予習：次の授業に向けたキーワードやテーマを伝えるので、事前に調べたり考えをまとめておくこと 復習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次の授業までにまとめてくる。

# 子どもの保健

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 阿川 勇太

## 《授業の概要》

子どもの健全な育成には、単に子どもの身体と心の発達のみならず、子どもを取り巻く環境を理解することでも求められる。本講義では、これらの理解のために、身体の構造および諸機能の発達だけでなく、現代社会における子どもの健康への影響要因についても学習する。そのうえで、子どもの心身の健康状態とその把握や対応についての知識を身に付ける。また適宜、事例に基づくグループワークやICTを活用した双方向のやり取り、ディベートを実施し、理論と実践を融合させより深い学びを目指す。  
\*この授業では携帯もしくはタブレットを使用しますので、どちらかを持参してください。

## 《学生の到達目標》

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する

## 《授業計画》

1. オリエンテーションー子どもの心身の健康と保健の意義
2. 健康の概念と健康指標
3. 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
4. 地域における保健活動と子ども虐待防止一事例に基づくグループワーク含むー
5. 子どもの身体発育や運動機能の発達と保健一事例に基づくグループワーク含むー
6. 子どもの生理機能の発達と保健一事例に基づくグループワーク含むー
7. 子どもの生理機能の発達と保健一事例に基づくグループワークー
8. 子どもの心身の健康状態とその把握 (1) 健康状態の観察と心身の不調等の早期発見
9. 子どもの心身の健康状態とその把握 (2) 発育・発達の把握と健康診断
10. 子どもの心身の健康状態とその把握 (3) 保護者との情報共有ーロールプレイングー
11. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴
12. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応
13. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
14. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題ーディベートー
15. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題ー発表ー、授業総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業内の取り組み（ディスカッション、ディベートへの参加）(20%)、ディベートにおけるピア評価(20%)、ディベートの成果物(40%)、最終レポート(20%)によって総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：次回授業の内容について事前提示するので、各自用語等を調べておくこと。ディベートについては自分達が相手に対峙する際に必要となる資料を集めて考えを深めておくこと。  
事後学習：毎回の授業内で配布された資料を参考にしてその復習を行い、知識の定着を図ること。

# 子どもの食と栄養

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 伴 亜紀, 大杉 加菜子

## 《授業の概要》

人間の食は哺乳から始まる。食べることは栄養を補給し、生命を維持するうえで欠かせないものである。しかし、人間にとっての食は生命維持のための栄養補給だけでなく、コミュニケーションという大切な役割がある。子どもの食と栄養は一生の食と栄養を築き上げて体の基礎となるものである。保育者としての小児の発育と発達の特徴を踏まえた食と栄養を理解し、講義や実習を通して、より実践的で専門的な知識の獲得を図る。そして、哺乳から始まる子どもの食を理解し、成長・発達に合わせた食の提供、食育・栄養教育を総合的に実践できるように学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- \*子どもの健康と食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を習得する。  
\*子どもの発育・発達に応じた食と栄養について理解を深める。
- ①乳児期の口腔内・身体と食の発育・発達についての理解し、支援ができる。
  - ②幼児期の身体と食の発育・発達についての理解し、支援ができる
- \*養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育について実践できるよう理解する。  
\*食物アレルギーについて理解し安全な保育環境を学び、実践できるよう理解する。  
\*子どもの食に関するガイドラインやデータ等を踏まえた特別な配慮を要する子どもの食と栄養を理解する。

## 《授業計画》

1. 子どもの健康と食生活の意義 心身の健康と食生活
2. 子どもたちの食生活の現状と課題、発育・発達と栄養
3. 栄養に関する基礎知識 栄養素の種類と機能
4. 食・栄養に関する基礎知識 食事摂取基準と調理の基本・献立作成
5. 妊娠と授乳期の食生活
6. 乳児期の食生活 授乳・調乳
7. 乳児期の食生活 進め方の目安・口腔内の発達について
8. 保育所の食事 0歳から就学まで
9. 保育所の昼食（実習）
10. 保育所の補食について（実習）
11. 乳児期の食生活 ①離乳食について（実習）
12. 乳幼児の食生活 ②離乳食について（実習）
13. 乳幼児の食生活 ③離乳食について（実習）
14. 乳幼児の食生活 ④乳児食について（実習）
15. 前期まとめ
16. 幼児期の発育・発達と食生活
17. 乳幼児期の食・栄養について
18. 幼児期の食・栄養の問題（実習）
19. 学童期・思春期の発育・発達と食生活
20. 学校給食と栄養教育
21. 生涯発達と食生活
22. 食育の基本と内容
23. 保護者支援・地域支援
24. 食育計画・クッキング保育計画
25. クッキング保育（実習）
26. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養（実習）
27. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
28. アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養
29. アレルギーのある子もいない子もおいしい食事（実習）
30. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業内課題（小テスト・レポート等）60% 授業への取り組み40%

## 《授業で使用する教科書》

・太田百合子、堤ちはる「子どもの食と栄養第2版」羊土社・佐井かよ子、伴亜紀「ごちそうさま！また！つくってね！から生まれたレシピ集」他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前：教科書をよく読み、自分のわからないところを調べておく。  
調理実習前には、教科書及びレシピ集での予習をしておく。  
事後：授業の復習だけでなく、実際の保育現場での対応等を考える。

# 保育の計画と評価

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★青木 一永

## 《授業の概要》

保育における計画の意義と必要性を理解し、保育カリキュラムの構造や保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。また、保育の計画の編成、子ども理解の方法等について、具体的資料や事例等を通して理解する。

## 《学生の到達目標》

この講義では、子どもに即した保育の計画を立案するため、下記の3点について理解し、スキルを身につけることを目的とする。

- ①保育の計画の意義や作成方法についての基礎理解
- ②子ども理解や発達過程を踏まえた保育の計画作成の実践的理解
- ③計画・実践・評価・改善の過程の全体構造の理解と見直し

## 《授業計画》

1. オリエンテーション 保育の計画と評価の全体像
2. 保育所保育指針等の理解とカリキュラムの意義①
3. 保育所保育指針等の理解とカリキュラムの意義② アクティブラーニングを通して
4. 保育理念・方針・全体的な計画等の作成① アクティブラーニングを通して
5. 保育理念・方針・全体的な計画等の作成② アクティブラーニングを通して
6. 保育の実際に基づく保育の計画の総合的な理解
7. 保育の計画づくりのポイントと実践①
8. 保育の計画づくりのポイントと実践② アクティブラーニングを通して
9. 保育の計画づくりにつながる子ども理解 アクティブラーニングを通して
10. 保育現場における指導計画の実際
11. 保育実習に向けた指導計画の作成①
12. 保育実習に向けた指導計画の作成② アクティブラーニングを通して
13. さまざまな指導計画やの種類と実際（保育所児童保育要録含む）
14. 保育の評価とカリキュラムマネジメント
15. 振り返りとまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業毎のリアクションペーパーでの学びの参加状況（30%）  
授業を通じて作成する指導計画（40%）  
課題レポートにおける理解度（30%）を総合して評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針（平成29年告示）」

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

授業前、1時間程度前回の授業内での復習と授業で提示した箇所の予習。  
毎授業後、1時間程度学習内容や資料を見直しをしてまとめておくこと。  
また、指定のあった際に、指導計画を作成すること。

# 幼児と人間関係

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 金重 利典

## 《授業の概要》

現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。特に領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として、関係発達の視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

## 《学生の到達目標》

- ①幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
- ②幼児期の人間関係の発達について理解する。
- ③保育現場における関係発達の視点について理解する。

## 《授業計画》

1. 現代社会と幼児の人間関係
2. 人とのかかわりを培う保育の基本
3. 自立心を育む援助
4. 自他の気持ちに気づく援助のあり方
5. 自分の気持ちを自己調整する力を育む援助のあり方
6. きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助
7. ルールのある遊びと援助
8. 個と集団の育ちを考える
9. 共同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える
10. 保護者との関係づくりと地域との連携（1）課題を抱えた子どもとその保護者の理解と援助
11. 保護者との関係づくりと地域との連携（2）課題を抱えた保護者とその子どもの理解と援助
12. 保育者同士の人間関係
13. 多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり（1）幼小の交流活動を考える
14. 多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり（2）小学校以降の生活や学習で生かされ
15. 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業への積極的参加（50%、リアクションペーパーで判断）、最終課題（50%）

## 《授業で使用する教科書》

・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「保育所保育指針」  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

【事前】講義内容に関わる新聞記事やニュースなどを通して、問題意識を持つておく  
【事後】講義で用いた資料を基に、キーワードとなる知識を説明できるようにする

# 幼児と言葉

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○ 幼○  
担当 丁子 かおる

## 《授業の概要》

教科書や映像などを用いて、乳幼児の言葉の発達過程、発話、保育者の援助について理解し、絵本やペープサートなど言葉に関わる児童文化財や言葉遊びなどの教材理解と制作発表、保育の立案などの演習を通して乳幼児の言葉を育む豊かにする実践について理解を深める。

## 《学生の到達目標》

保育内容領域「言葉」における、乳幼児の言葉の発達過程、言葉の働きと役割などについての基礎知識を習得し、幼児が言葉で表現する楽しさ、聞く、話す、伝え合う喜び、語彙の獲得、言葉を豊かにする遊びの意味を理解する。また、言葉に対する感覚を豊かにする教材に親しみ、乳幼児の言葉を育て、言葉の感覚を豊かにする教材や実践について演習を通して理解と知識を身に付ける。

- ① 幼児にとっての言葉の機能や役割を理解する
- ② 幼児期の言葉の発達について理解する
- ③ 幼児の言葉を豊かにする教材や保育について理解し構想できる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション及び領域「言葉」の理解
2. 言葉の働きと役割についての理解
3. 乳幼児期の言語発達の特徴
4. 乳幼児期の言語発達とその課題
5. 言葉の指導と援助について
6. 言葉に対する感覚、感性を豊かにする保育の理解
7. 言葉と想像力を育む児童文化財の理解・紙芝居の指導と援助
8. 絵本の指導と援助
9. ペープサートについての実践的理解（グループワーク）
10. ペープサートの制作と発表（グループワーク）
11. 子ども同士の会話を広げる保育の理解
12. 想像を広げる保育（素話・言葉遊びなど）の立案と発表
13. 想像を広げる保育（素話・言葉遊びなど）の発表
14. 想像を広げる保育（素話・言葉遊びなど）の発表
15. 子どもの言葉を育む現代社会と環境の課題－メディア、国際化－

## 《成績評価の基準・方法》

授業記録・課題提出(30%)、課題発表の内容(40%)、最終レポート(30%)から、総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領 平成29年度告示」フレーベル館・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館・秋田喜代美・三宅茂夫「子どもの姿からはじめる領域・言葉」みらい

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前・事後学習については、毎時の授業時に指定する。その他、大学図書館や地域の図書館などで絵本や紙芝居などの教材に親しんでおくこと。

# 健康領域指導法 I

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 清田 岳臣

## 《授業の概要》

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導方法について身に付ける。以下の2点について理解し、身に付けることを目標とする：（1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいおよび内容を理解する。（2）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

本演習では、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導方法について、グループワークおよび模擬保育等を通じて身に付けることを目的とする。以下の2点について理解し、身に付けることを目指す：（1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいおよび内容を解説する。（2）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を模擬授業等を通じて身に付けさせる。

## 《授業計画》

1. 健康観と保育における健康①（グループワーク）
2. 健康観と保育における健康②（発表および相互評価）
3. 乳幼児の生活習慣の問題点（食事）①（グループワーク・課題設定）
4. 乳幼児の生活習慣の問題点（食事）②（模擬保育および相互評価）
5. 乳幼児の生活習慣の問題点（睡眠）①（グループワーク・課題設定）
6. 乳幼児の生活習慣の問題点（睡眠）②（模擬保育および相互評価）
7. 乳幼児の生活習慣の問題点（運動）①（グループワーク・課題設定）
8. 乳幼児の生活習慣の問題点（運動）②（模擬保育および相互評価）
9. 乳幼児への安全指導①（グループワーク・課題設定）
10. 乳幼児への安全指導②（模擬保育および相互評価）
11. 運動遊び指導の要点
12. 運動遊びの指導（実践：個人遊び・集団遊び）
13. 運動遊びの指導上の留意点（グループワーク・指導計画の立案）
14. 運動遊びの指導（模擬保育および相互評価）
15. 健康領域指導におけるICT化の現状～情報機器および教材の活用

## 《成績評価の基準・方法》

グループワークでの取り組み（20%）、指導計画の立案・模擬保育の実践（50%）、最終レポート（30%）

## 《授業で使用する教科書》

・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「保育所保育指針」

## 《参考書》

・平井タカネ・河本洋子「子どもの健康」三晃書房・吉田伊津美「保育と幼児期の運動遊び」萌文書林・前橋明「0-5歳児の運動遊び指導百科」ひかりのくに

## 《事前・事後学習》

事前学習として、前回の授業で指定された、授業内容のキーワードについて小レポートの提出を求めます。事後学習として、授業内のディスカッションやグループワーク内容に基づくレポートを課します。

# 人間関係領域指導法 I

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 末次 有加

## 《授業の概要》

この授業では、領域「人間関係」についての理解を実践的に深めていきます。領域「人間関係」は、①自分の力で行動し達成することの充実感を味わうこと、②人と関わることの楽しさや大切さを感じたり、あるいは協同的に人と関わることを通じてより豊かな経験に繋がることを実感すること、③ルールや決まりを守ろうとする態度を培うこと」を養う領域です。これらを日々の生活や遊びを通して育成することが重要です。授業内では、事例の検討や映像の視聴、実際の遊びの活動を通して、子どもの発達に応じたねらい・内容の理解を深めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための保育について具体的に構想し、実践する方法について考えます。

## 《学生の到達目標》

- ①領域「人間関係」のねらい・内容、内容の取扱いについて理解する。
- ②自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な幼児が経験し身に付けていくべき活動内容と指導上の留意点、評価の考え方について理解する。
- ③具体的な保育を想定した指導案を立案する。
- ④模擬保育の実践と相互評価、振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。

## 《授業計画》

1. 現代社会と子どもを取り巻く今日的課題
2. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」（ねらい・内容・内容の取扱いと資質・能力の育成）
3. 遊びを通じた子どもの育ち（グループワーク）
4. 遊びの中の仲間との関わり（グループワーク）
5. 遊びの中で仲間と楽しさやイメージを共有する（グループワーク）
6. 子どもの主体性を育む仲間づくり・集団づくり（1）実践事例から（ディスカッション）
7. 子どもの主体性を育む仲間づくり・集団づくり（2）保育者の援助やかわりについて
8. 遊びの指導と援助について（指導案の立案・作成）（グループワーク）
9. 仲間との遊びにおける指導と援助（1）模擬保育の実践（乳児の遊び）
10. 仲間との遊びの指導と援助（2）模擬保育の実践（1歳以上3歳未満児の遊び）
11. 集団遊びの指導と援助（1）模擬保育の実践（3歳以上児の遊び）
12. 集団遊びの指導と援助（2）模擬保育の実践（異年齢児の遊び）
13. 多様性を認め合う保育・幼児教育（1）多文化保育について（ICTを活用した実践）
14. 多様性を認め合う保育・幼児教育（2）性別・多様性について
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

各種課題（80%）＋最終レポート（20%）＝100%

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説〈平成30年3月〉」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉」フレーベル館・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉」フレーベル館

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をよく読んでおくこと。  
事後学習：毎週のインターンシップ等において、子どもの年齢・発達段階、家庭環境、生活経験など人とのかわり方の違いや特徴についてよく観察すること。集団保育の方法についてもよく観察し、不明点があれば、現場の保育者に質問してみることを。

# 言葉領域指導法 I

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★新井 明子, ★手良村 昭子

## 《授業の概要》

ことばは最も優れたコミュニケーションの道具の一つである。この講義では、ことばの大切さやことばの発達過程を学び、子どもたちが豊かな言葉を獲得するために保育者としてどのような援助や環境構成が必要かについて考える。

## 《学生の到達目標》

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「言葉」領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。  
子どものことばの発達過程を学び、ことばの面白さや大切さ、コミュニケーションの道具としての重要性に気づくことを通じて、子どものことばの発達をうながす環境構成や保育活動について考える力を養う。

## 《授業計画》

1. イントロダクション
2. 幼稚園教育要領 領域言葉について
3. 幼稚園教育要領 領域言葉（目標・ねらい）
4. 幼稚園教育要領 領域言葉（内容・内容の取り扱い）
5. ことばの発達（0歳）
6. ことばの発達（1～2歳）
7. ことばの発達（3～4歳）
8. ことばの発達（5～6歳）
9. 幼児語・幼児音・文化としてのことば
10. 一次のことば・二次のことば
11. 文字教育およびその教材について・言語相対性理論
12. 聞くことについて・ことばがけについて
13. 指導案作成
14. 模擬保育…児童文化財と教材としての活用について（情報機器とその活用を含む）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業の中で適宜提出する課題・小レポート（60%）、授業内での小テスト（40%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「保育所保育指針（最新版）」・古茂田貴子編「ことばと保育」久美株式会社 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

講義の学びを通して、ことばの豊かな発達を支える保育環境作りについて様々な興味や関心を高めて頂きたいと思います。そのために、前回の復習を必ず行った上で講義に臨むようにしてください。

# 表現領域指導法 I

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★手良村 昭子

## 《授業の概要》

乳幼児の発達の特徴を理解し、子どもにとって表現とは何か、保育の中ではどのような意味を持つのか、表現力を育てるとはどういうことなのかを基本に置き、実際の現場で行われている活動内容を実践しながら考察していく。それぞれのテーマで実践した内容は、ドキュメンテーションの形式でレポートにまとめ、また、このドキュメンテーションを振り返ることで、自己課題を見つめ実践力を身に付ける。

## 《学生の到達目標》

- ・乳幼児の表現について総合的な理解を深める。
- ・乳幼児の発達過程を理解し指導計画を組み立てる力を身に付ける。
- ・実践に必要な基礎知識と技術および指導方法を身に付ける。

## 《授業計画》

1. 領域「表現」のねらい及び内容の理解
2. 幼児の表現の発達の理解
3. 素材との対話1・素材の特性を活かして表現することを楽しむ
4. 素材との対話2・素材の特性を活かした保育活動
5. 自然物との対話・自然物に対して理解を深めその素材を通した表現遊びや表現方法を考える
6. 教材研究・視覚的教材の研究
7. 総合的な表現活動・指導案の作成
8. 総合的な表現活動①・音を聴いて、言葉を聞いて表現する
9. 総合的な表現活動②・言葉のイメージをもとに音を使い、造形遊びへとつなげていく
10. 総合的な表現活動③・身近な楽器を使って総合的な表現活動に取り組む
11. 総合的な表現活動④・児童文化を題材として総合的な表現活動に取り組む
12. 研究発表・グループワークで製作したものを発表し、お互いの表現について学び合う
13. 活動の振り返りと指導方法の見直し
14. 現場での表現活動の事例研究（表現活動における情報機器及び活用法）
15. 総括・保育現場における表現活動について考える

## 《成績評価の基準・方法》

ドキュメンテーション（50%）※全授業を通した学びの過程の記録  
小レポート（10%）、作品や発表内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・清原知二・中川香子「新時代の保育双書 保育内容表現 第2版」みらい出版・石上浩美「新・保育と表現」嵯峨野書院

## 《参考書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

指定された教科書及び参考書などは一度目を通しておくこと。

# 表現領域指導法 II

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★新井 明子

## 《授業の概要》

乳幼児の表現活動について保育者としての視点を持ちながら実践に取り組んでいく。インターンシップなどの経験を活かしながら、演習課題に取り組む中で、現場での表現の指導方法や保育環境作りについても理解を深めていく。また、遊びを通して行われていく側面を理解し、領域表現と他の領域の関係にも気づき、学びを深めながら幼児期の表現活動を支援するための知識や技能、表現力を総合的に身に付ける。

## 《学生の到達目標》

- ・保育内容表現について、乳幼児の発達過程を踏まえながら活動の内容や目的を理解する。
- ・乳幼児の表現活動について、基礎的な実技を繰り返すことで実践力を身に付ける。
- ・保育現場で行われている実践事例に取り組み、グループワークや模擬保育などで発表する中で自己の表現力や保育技術を身に付ける。

## 《授業計画》

1. 幼児教育の基本及び領域「表現」について・乳幼児の遊びと関連付けながら理解していく
2. 見立て遊びと表現・見立て遊びの意味を理解しながら実際に表現遊びを体験する
3. ごっこ遊びと表現活動①・身体を使って表現する
4. ごっこ遊びと表現活動②・身体を使っての総合的な表現遊び
5. ごっこ遊びと表現活動③・身体表現と造形表現
6. 発表と振り返り
7. ごっこ遊びと造形表現①・身近な素材を使って表現する
8. ごっこ遊びと造形表現②・様々な道具を使って表現する
9. ごっこ遊びと造形表現③・園行事とのつながりを考える
10. 作品の展示と鑑賞
11. 領域「環境」と表現活動・自然環境を利用した表現活動
12. 模擬保育の計画・指導案の作成および準備
13. 模擬保育の準備・模擬保育に必要な環境の準備
14. 模擬保育の実践および振り返り
15. 全体の総括および振り返りとこれからの展望

## 《成績評価の基準・方法》

ドキュメンテーション（50%）※全授業を通した学びの過程の記録  
小レポート（10%）、作品や発表内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・清原知二・中川香子「新時代の保育双書 保育内容表現 第2版」みらい出版・石上浩美「新・保育と表現」嵯峨野書院

## 《参考書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

講義の学びを通して、乳幼児の豊かな表現活動を支える保育環境作りについても、興味や関心を高めて頂きたいと思っております。表現領域指導法 I での学びを振り返り、教科書や参考書を読み返しておいてください。

# 乳児保育Ⅰ

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 ★高根 栄美

## 《授業の概要》

乳児保育（0歳児、1歳児、2歳児の保育）は、発達が進んでくる時期の子どもにとって、どのような環境を通して、どのように生活や遊びを豊かにしながら適切な援助をしていけばよいかについての理論的な学びを行う。  
また、その時期の子どもへの保育の営みを支える子ども理解に基づく計画とその評価などについて理解を深める中で、乳児保育の専門性について考える。

## 《学生の到達目標》

- (1) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。
- (2) 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
- (3) 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
- (4) 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス、乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
2. 乳児保育の役割と機能、乳児保育における養護及び教育
3. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
4. 保育所における乳児保育
5. 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
6. 家庭的保育等における乳児保育
7. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
8. 3歳未満児の生活と環境の実際
9. 3歳未満児の遊びと環境の実際
10. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
11. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
12. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育における配慮
13. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
14. 乳児保育における連携・協働・職員間、保護者、自治体や地域の関係機関等
15. 総括 乳児保育の諸課題と実践

## 《成績評価の基準・方法》

指定の課題・ワークの取り組み状況と提出物(50%)、レポート(50%)とする。

## 《授業で使用する教科書》

・志村聡子 編著「はじめて学ぶ乳児保育 第三版」同文書院

## 《参考書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

- (1) 履修に際し、1年次で学んだ乳幼児の発達の諸相を確認しておくことが望ましい。
- (2) 指定の課題や学習内容の整理・まとめに時間外の取り組みが必要となる。
- (3) 日頃から積極的に3歳未満児を観察したり、授業で得た知識や保育技術をもって関わるようにする。

# 乳児保育Ⅱ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★高根 栄美

## 《授業の概要》

「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。3歳未満児の保育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりについての基本的な考え方について理解し、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実際について具体的に学ぶ。また、乳児保育における計画の作成について理解する。  
乳児保育Ⅰで学んだことを、さらに具体的に、実践的に学ぶために演習形式で授業を実施する。とくに、援助や配慮といった子どもへのかかわりの面、乳児期の遊びや体験を通して学ぶことの意味、発達を保障するための保育の計画などの実際をグループワークやアクティブラーニングで学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- (1) 3歳未満児の保育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりについての基本的な考え方について理解する。
- (2) 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
- (3) 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
- (4) 上記(1)から(3)をふまえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。

## 《授業計画》

1. 乳児保育の基本 (1) 子どもと保育士等との関係の重要性
2. 乳児保育の基本 (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
3. 乳児保育の基本 (3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち
4. 乳児保育の基本 (4) 子どもの体験と学びの芽生え
5. 乳児保育における子どもの保育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
6. 子どもの1日の生活の流れと保育の環境
7. 子どもの生活や遊びを支える環境の構成
8. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた生活と援助の実際
9. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
10. 子ども同士の関わりとその援助の実際
11. 乳児保育における配慮 (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
12. 乳児保育における配慮 (2) 集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮
13. 乳児保育における計画の実際 (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画
14. 乳児保育における計画の実際 (2) 個別的な指導計画と集団の指導計画
15. 総括 子ども主体である融合の保育

## 《成績評価の基準・方法》

指定の課題・ワークの取り組み状況と提出物(50%)、レポート(50%)とする。

## 《授業で使用する教科書》

・志村聡子 編著「はじめて学ぶ乳児保育 第三版」同文書院

## 《参考書》

・茶々保育園グループあすみ福祉会 編「見る・考える・創り出す乳児保育1・2—養成校と保育室をつなぐ理論と実践」萌文書林・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

乳児保育に必要な知識や技術として、教材研究・作成、保育の計画・評価という流れを経験することで、実践的に理解する内容の科目である。よって、授業時間以外の学習（事前・事後学習）は、教材選定や実際の製作、練習、発表の準備などに時間を要する。個別の課題の詳細は授業内で示す。

# 社会的養護 II

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 柏木 邑太

## 《授業の概要》

現代社会において、さまざまな理由から社会的養護を必要とする家族が増加している。中には虐待であったり悲惨な結果を招く事にも繋がっており、事例検討などを通して要保護児童の現状を知り、背景に触れて理解すると共に、実際にどのような支援が必要なのか考察していく。また、本講義を通してその中で保育士としての知識や技術の獲得、職業倫理の確立に繋げていく。

## 《学生の到達目標》

1. 社会的養護の基本的な内容について理解する。
2. 社会的養護における保育士の役割を理解する。
3. 施設養護及び家庭養護の実践について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス等
2. 社会的養護の内容①社会的養護における子供の理解
3. 社会的養護の内容②日常生活支援
4. 社会的養護の内容③治療的支援
5. 社会的養護の内容④自立支援
6. 社会的養護の実践①施設養護の実践
7. 社会的養護の実践②施設養護で行われる支援
8. 社会的養護の実践③家庭養護の実践
9. 社会的養護の実践④家庭養護で行われる支援
10. 社会的養護における自立支援①アセスメントシートと自立支援計画書の作成
11. 社会的養護における自立支援②アセスメントシートと自立支援計画書の作成
12. 社会的養護に関わる専門的技術①穂菊の専門性に関わる知識・技術とその実践
13. 社会的養護に関わる専門的技術②社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践
14. 社会的養護に関わる際の職業倫理
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験 (70%)  
授業態度、出席(30%)

## 《授業で使用する教科書》

・安藤和彦、石田慎二、山崎宏和、編  
尾崎剛志、河野清志、坂野学、高市勢津子、箱田成司、細井宏俊、藪一裕 共著「社会的養護演習」建帛社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

特に指定せず。

# 子ども家庭支援の心理学

2年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 要 正子

## 《授業の概要》

この授業は、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見を踏まえて家族・家庭についての学びを深めるものである。また、親子関係や家族関係等について発達的な視点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。現代社会における保育者の役割は多様化し、家庭支援をめぐっても高度な専門性が求められている。そのために、この授業ではグループワークを通して人の生涯発達、家族・家庭の理解、子育て家庭の理解などを深める。

## 《学生の到達目標》

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 生涯発達 (1) 乳幼児期から学童前期にかけての発達
3. 生涯発達 (2) 学童期後期から青年期にかけての発達
4. 生涯発達 (3) 成人期・老年期における発達
5. 家族・家庭の理解 (1) 家族・家庭の意義と機能
6. 家族・家庭の理解 (2) 親子関係・家族関係の理解
7. 家族・家庭の理解 (3) 子育ての経験と親としての育ち
8. 子育て家庭に関する現状と課題 (1) 子育てを取り巻く社会的環境
9. 子育て家庭に関する現状と課題 (2) ライフコースと仕事・子育て
10. 子育て家庭に関する現状と課題 (3) 多様な家庭とその理解
11. 子育て家庭に関する現状と課題 (4) 特別な配慮を要する家庭
12. 子どもの精神保健とその課題 (1) 子どもの生活・生育環境とその影響
13. 子どもの精神保健とその課題 (2) 子どもの心の健康に関わる問題
14. 保育者として子どもと家庭を支援することの意義
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み (50%)、グループワークの成果、レポート等提出物 (50%) によって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・立花直樹 津田尚子監修「子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」」晃洋書房

## 《参考書》

・「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」

## 《事前・事後学習》

事前学習：保育や教育を中心とした社会の動きなど時事問題に関心をもつこと。  
事後学習：授業での学びと実践との繋がり意識し、自ら果たす役割について考えること。

# 保育実習Ⅰ

2年次  
4単位（実習）  
資格 保○  
担当 ★石丸 るみ, 中條 薫, ★大方 美香, 杉本 孝美, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

これまでの全ての教科の学びを基礎として、保育所（または、幼保連携型及び保育所型認定こども園）やその他の児童福祉施設の保育現場で、学外実習を行う。乳幼児・保育士（保育者）保育環境のことなどについて一人ひとりが体験を通して具体的に学ぶ。保育士（保育者）の児童福祉施設における養護と教育の一体性及び養護の実践である生活と遊びに参加し、乳幼児の実際を理解し、保育士（保育者）の責務や倫理を学び、求められる役割や機能を知る。

## 《学生の到達目標》

1. 保育所、児童福祉施設等の乳幼児と保育士（保育者）の一日の生活を理解することができる。  
2. 観察や乳幼児との関わりを通して子どもの発達や心情などの内面理解を深める。  
3. 保護者への支援や地域子育て支援など保育所、児童福祉施設等に求められている役割や機能について理解する。  
4. 保育の計画・実践・振り返り及び自己評価等について具体的に理解する。  
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

## 《授業計画》

1. 実習施設について理解する（施設）
2. 施設における支援の実際（1）受容し共感する養護的支援（子どもの生活と一日の流れ）
3. 施設における支援の実際（2）施設の役割と機能
4. 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録
5. 子どもの理解（2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解①
6. 子どもの理解（3）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解②
7. 施設における子どもの生活と環境（1）個別支援計画に基づく活動や援助
8. 施設における子どもの生活と環境（2）子どもの心身の状態に応じた生活と対応
9. 施設における子どもの生活と環境（3）子どもの健康と安全
10. 計画と記録（1）個別支援計画の理解と活用
11. 計画と記録（2）記録に基づく省察・自己評価
12. 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容
13. 専門職としての保育士の役割と倫理（2）多様な職員間の役割分担や連携
14. 保育士の役割と職業倫理
15. 保育士としての自己課題の明確化
16. 実習施設について理解する（保育所または幼保連携型及び保育所型認定こども園）
17. 保育所の役割と機能（1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
18. 保育所の役割と機能（2）保育所保育指針に基づく保育の展開
19. 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録による理解
20. 子どもの理解（2）子どもの発達過程の理解
21. 子どもの理解（3）子どもへの援助や関わり
22. 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容
23. 保育内容・保育環境（2）子どもの発達過程に応じた保育内容
24. 保育内容・保育環境（3）子どもの生活や遊びと保育環境
25. 保育内容・保育環境（4）子どもの健康と安全
26. 保育の計画・観察・記録（1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解
27. 保育の計画・観察・記録（2）記録に基づく省察・自己評価
28. 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容
29. 専門職としての保育士の役割と職業倫理（2）職員間の役割分担や連携・協働
30. 専門職としての保育士の役割と職業倫理（3）保育士の役割と職業倫理

## 《成績評価の基準・方法》

児童福祉施設等（保育所以外）における実習の評価50%、および保育所または、幼保連携型・保育所型認定こども園における実習の評価50%による総合評価。各実習の評価は、実習施設による実習評価60%、諸提出物（日誌等）20%、実習報告会及び振り返り20%とする。

## 《授業で使用する教科書》

・長島和代編「改訂2版」これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉（乳児保育学科のみ指定テキスト）わかほ社・厚生労働省「保育所保育指針保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国乳児福祉協議会「改訂新版 乳児院養育指針」・大阪府社会福祉協議会 児童施設部会「新版・児童福祉施設援助指針」・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

授業前に事前学習課題として（保育教材の作成や研究、実習課題の設定、保育記録、環境図や環境構成についての指導案立案等）に取り組む。その課題は授業時に発表または使用し提出する。また、必要に応じてテキストの確認や資料等を配布し、学習の指示を行う。事後学習として学びを振り返る報告会を実施する。報告会では必ず参加学生への質問や学びを投げかけることにより、実習で得た学びや課題を学年全体で共有し合い多角的な視野を持つ学びとして理解できるよう積極的に授業に参加する。

# 保育実習指導Ⅰ

2年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★石丸 るみ, ★阪本 好美, ★西岡 光代, 中條 薫, 杉本 孝美, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

本教科は保育所及びその他の児童福祉施設において行われる学外実習「保育実習Ⅰ」に向けた実習指導である。「乳幼児・保育士（保育者）保育環境のことなどについて一人ひとりが体験を通して具体的に学ぶ」「保育所やその他の児童福祉施設における養護と教育の一体性及び養護の実際である生活と遊びに参加し、乳幼児の実際を理解し、保育士（保育者）の責務や倫理を学び、求められる役割や機能を知る」などの保育実習Ⅰの事前事後指導である。前期は、施設実習（児童福祉施設等（保育所以外）における実習）について、後期は主に、保育所実習（または幼保連携型認定こども園での実習）についての指導を行う。本授業を通して保育実習の事前準備、実習の成果、事後課題や今後の学習を明確にする。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実習の意義、目的を理解する。  
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。  
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。  
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。  
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

## 《授業計画》

1. 実習とは
2. 実習の意義と目的 \*施設実習における提出資料の作成
3. 施設実習の目的と概要
4. 実習の内容と課題の明確化（1）ゲスト講師による講話 乳児院
5. 実習の内容と課題の明確化（2）ゲスト講師による講話 児童養護施設等
6. 実習の内容と課題の明確化（3）実習先について調べよう
7. 実習の内容と課題の明確化（4）実習課題を立てよう
8. 実習に際しての留意事項（1）子どもの人権と最善の利益の考慮
9. 実習に際しての留意事項（2）プライバシーの保護と守秘義務（倫理綱領）
10. 実習に際しての留意事項（3）実習生としての心構え、事前オリエンテーション
11. 実習の計画と記録（1）実習における計画と実践
12. 実習の計画と記録（2）実習における観察、記録及び評価
13. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（1）実習の総括と自己評価（評価面談）
14. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（2）全員参加による双方向的な実習報告会
15. 子どもの人権と最善の利益
16. 後期授業ガイダンスー保育所実習の事前・事後指導
17. \*保育所実習における提出資料の作成
18. 保育所実習の目的と概要指導案の書き方（グループによる細案の作成）・実践紹介
19. 指導案の書き方（グループによる細案の作成）・実践紹介
20. 指導案の書き方（グループ内での発表）・実践紹介
21. 指導案の計画立案\_グループで模擬保育挑戦 ・実践紹介
22. 指導案の計画立案\_グループで模擬保育挑戦 ・実践紹介
23. 模擬保育グループ発表\_全体セッション ・実践紹介
24. 模擬保育グループ発表\_全体セッション ・実践紹介
25. 実習生としての心構え \*実習書類作成日
26. 保育実習直前指導（1）実習の内容と自己課題を踏まえた目的
27. 保育実習直前指導（2）実習における計画と実践、プライバシーの保護と守秘義務
28. 保育実習直前指導（3）実習における子どもの発達、観察記録について
29. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（1）実習の総括と自己評価
30. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（2）課題の明確化（レポート作成）

## 《成績評価の基準・方法》

前期評価50%、および後期評価50%の総合評価とする。全ての回の出席を求める。学期毎の評価は、授業課題（60%）、および指定課題等の提出・達成状況（40%）により評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・長島和代編「改訂2版」これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉（乳児保育学科のみ指定テキスト）わかほ社・厚生労働省「保育所保育指針保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国乳児福祉協議会「改訂新版 乳児院養育指針」・大阪府社会福祉協議会 児童施設部会「新版・児童福祉施設援助指針」・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

授業前に事前学習課題として（保育教材の作成や研究、実習課題の設定、保育記録、環境図や環境構成についての指導案立案等）に取り組む。その課題は授業時に発表または使用し提出する。また、必要に応じてテキストの確認や資料等を配布し、学習の指示を行う。事後学習として学びを振り返る報告会を実施する。報告会では必ず参加学生への質問や学びを投げかけることにより、実習で得た学びや課題を学年全体で共有し合い多角的な視野を持つ学びとして理解できるよう積極的に授業に参加する。

# 保育実践学習Ⅲ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○

担当 谷口 康祐, 阿川 勇太, ★新井 明子, ★八重津 史子, ★大江 由香, ★野口 知英代

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅲは、保育所や幼稚園、こども園等でのインターンシップ現場における実習体験を基盤として、現場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務についての基礎的な理解を深めることを目指す。また、前年度の保育実践学習Ⅱをふまえ、実習日誌等の記録や自ら問題を意識をもつことの重要性を認識し、実践を通して学ぶ力を養う。この授業はアクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育士やこども園、幼稚園等の職務への理解を深める。また保育・教育現場の諸課題について体感し考えることにより、子どもと関わる職の重要性や必要性を認識するとともに、保育・教育者としての基盤を構築する。

## 《授業計画》

1. 2年次におけるインターンシップ実習に関する心得について
2. インターンシップ実習に関する諸手続き
3. 保育所・幼稚園・こども園についての基礎的知識（1）制度と施設
4. 保育所・幼稚園・こども園についての基礎的知識（2）保育内容、保育計画
5. 子ども理解について
6. 現場における対応事例①（保育者の動きをサポートする）
7. 現場における対応事例②（子どもへのかかわり・言葉かけ）
8. インターンシップ現場における実践、観察、記録（1）1日の生活の流れ
9. インターンシップ現場における実践、観察、記録（2）子ども理解
10. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育者の援助
11. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育者の言葉かけ
12. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育環境
13. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：自分自身の援助・言葉かけ
14. 自己の課題の明確化および目標設定
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加態度および事前・事後授業への参加態度（60%）  
「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館・無藤隆監修、大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 0～2歳児編」中央法規出版・無藤隆監修、大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 3～5歳児編」中央法規出版

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・毎回のインターンシップ実習は、実習の目的、目標、観察の視点などを明確にして参加する。  
事後学習は、毎回のインターンシップ実習後に日誌や記録等の整理を通して振り返りを行う。  
また、観察内容に適した記録作成をする。  
事前学習は、実習の振り返りから得た課題を明確にして、次のインターンシップ実習に臨めるように準備をすること。継続的にインターンシップ現場で扱われていた教材等の研究を行い、保育実践の実践力をつける。

# 保育実践学習Ⅳ

2年次  
1単位（演習）  
資格 保○

担当 谷口 康祐, 阿川 勇太, ★新井 明子, ★八重津 史子, ★大江 由香, ★野口 知英代

## 《授業の概要》

保育実践学習Ⅳは、保育所や幼稚園、こども園等でのインターンシップ現場における実習体験を基盤として、現場における様々な課題を理解し、保育・教育の職務についての基礎的理解を深めることを目指す。また保育実践学習Ⅲでの学びの経験を活かし、引き続き実践を通して学ぶということを常に意識しながら、実習日誌の記録等を通じてその体験をより確かなものにする力を養う。この授業はアクティブラーニング（実習、フィールドワーク）を含めて実施する。

## 《学生の到達目標》

インターンシップ実習における体験を通して、保育士やこども園、幼稚園等の職務の理解を深める。また保育・教育現場の諸課題について体感し考えることにより、子どもと関わる職の重要性や必要性を認識するとともに、保育・教育者としての基盤を構築する。

## 《授業計画》

1. 保育実践学習Ⅲ（前期）の振り返りと自己分析
2. インターンシップ実習に向けての目標設定
3. インターンシップ現場における実践、観察、記録（1）1日の生活の流れ
4. インターンシップ現場における実践、観察、記録（2）自分自身の動き方
5. インターンシップ現場における実践、観察、記録（3）保育者の援助とかかわり
6. インターンシップ現場における実践、観察、記録（4）保育者の言葉かけ
7. インターンシップ現場における実践、観察、記録（5）自分自身の援助・言葉かけ
8. インターンシップ現場における実践、観察、記録（6）保育環境と養護的な視点
9. インターンシップ現場における実践、観察、記録（7）保育環境と教育的な意図
10. インターンシップ現場における実践、観察、記録（8）園庭の保育環境
11. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：子どもの生活に関する事例
12. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：子どもの遊びに関する事例
13. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：個々の発達の変り方の事例
14. フィールドワークでの視察・調査および成果報告書の作成：保育者の援助や言葉かけの事例
15. 実習の振り返りと自己の課題の明確化

## 《成績評価の基準・方法》

「インターンシップ実習」参加態度および事前・事後授業への参加態度（60%）  
「インターンシップ実習」日誌の提出および内容（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館・無藤隆監修、大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 0～2歳児編」中央法規出版・無藤隆監修、大方美香 編著「ワークで学ぶ 子どもの「育ち」をとらえる保育記録の書き方 3～5歳児編」中央法規出版

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・毎回のインターンシップ実習は、実習の目的、目標、観察の視点などを明確にして参加する。  
事後学習は、毎回のインターンシップ実習後に日誌や記録等の整理を通して振り返りを行う。  
また、観察内容に適した記録作成をする。  
事前学習は、実習の振り返りから得た課題を明確にして、次のインターンシップ実習に臨めるように準備をすること。継続的にインターンシップ現場で扱われていた教材等の研究を行い、保育実践の実践力をつける。

# 特別支援教育総論

2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 末次 有加

## 《授業の概要》

保育現場や学校現場では、特別なニーズを有する幼児児童生徒への適切な支援や配慮が欠かせないものとなっている。この授業では、特別支援教育の基本的な考え方を理解するとともに、障害種別の特性や支援方法について基礎的な知識・スキルの習得をめざす。また、映像・テキスト資料等を通じて、障害のある人々が、健常者中心の社会の中でどのような生活を経験しているのかわかるとともに、自らの「障害」観を問い直すきっかけになればと思う。

## 《学生の到達目標》

1. 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性および心身の発達を理解する。
2. 特別な支援を必要とする幼児児童生徒に対する教育課程や支援方法を理解する。
3. 障害はないが、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上または生活上の困難とその対応について理解する。

## 《授業計画》

1. 日本における障害児教育の歴史①戦前期
2. 日本における障害児教育の歴史②戦後～1970年代
3. 日本における障害児教育の歴史③1980年代～2000年代
4. 特別支援教育の現状と課題—インクルーシブ教育の実現に向けて
5. 障害の理解と支援—発達障害①自閉症スペクトラム
6. 障害の理解と支援—発達障害②LD・ADHD
7. 障害の理解と支援—知的障害、「ちょっと気になる子」
8. 障害の理解と支援—視覚障害
9. 障害の理解と支援—聴覚障害、言語障害
10. 障害の理解と支援—肢体不自由
11. 障害の理解と支援—病弱、情緒障害
12. 障害の理解と支援—重度・重複障害
13. 教室における個別ニーズのある子どもへの対応①合理的配慮概念
14. 教室における個別ニーズのある子どもへの対応②外国ルーツの子どもと課題
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

各種レポート（60%）＋ミニテスト（40%）＝100%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成30年）」海文堂出版・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年）」開隆堂出版・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年）」開隆堂出版・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年）」開隆堂出版

## 《事前・事後学習》

事前学習：今回の授業で扱う事柄を確認し、テキストの該当箇所を読み、演習課題に取り組んでおくこと。  
事後学習：講義で紹介された概念や事例などをインターンシップや実習先、自身の日常生活の中で確認・実践して次の講義に臨んでほしい。

# 音楽演習Ⅰ

2年次  
1単位（演習）  
資格 幼○  
担当 川村 尚子, 鈴木 和代, 炭谷 恭子, 竹田 景子, 早川 藍香, 本村 陽子, 山本 恭仁子

## 《授業の概要》

各自の能力に応じて、個人指導で行う。演奏技術の向上に加えて、子どもを自然な音楽活動に導くための簡単な即興や、必要に応じた移調や編曲についても学習する。

## 《学生の到達目標》

ピアノ演奏の技術を習得し、保育・教育者としての表現力・音楽性を養うことを目的とする。コードによる弾き歌いや簡易伴奏で演奏するなど、自ら応用できる能力を養うことを目指す。

## 《授業計画》

1. 全体及び個人別オリエンテーション
2. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（楽譜の読み方復習）
3. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（読譜）
4. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（基礎）
5. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（応用）
6. 練習曲・リズム曲の個人レッスン（仕上げ・完成）
7. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（読譜）
8. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（基礎課題）
9. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（応用課題）
10. 練習曲・リズム曲・弾き歌い曲の個人レッスン（仕上げ・完成）
11. 試験曲の指導（読譜）
12. 試験曲の指導（基礎）
13. 試験曲の指導（応用）
14. 試験曲の指導（仕上げ・完成）
15. 総括（発表）

## 《成績評価の基準・方法》

定期試験（80%）授業への取り組み（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・小林 美実「こどものうた100」チャイルド本社・茂田 すずむ「保育のためのマーチ・スキップ・キャロップ・ワルツ・リズム曲集」全音楽譜出版社・「ハイエル・ブルグミュラー・ソナチネ他」能力に応じて選択

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

毎週、授業までの十分な練習が必要である。

# 総合基礎演習Ⅱ

2年次  
2単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★浅野 孝平, 清田 岳臣

## 《授業の概要》

大学生の学びやキャリア形成の基礎となる力を培うことを意識した展開を行う。1年次の「読む」活動を継続し、さらに「書く」活動に発展させ、大学生としての学習・研究活動につなげる。自ら課題を発見し、自分の意見をまとめ、他者の意見と比較することや伝えることを意識し、「個人研究」に取り組む。

## 《学生の到達目標》

総合基礎演習Ⅰでの学習を踏まえ、保育士、幼稚園教諭に必要な読み書きやコミュニケーションなどの基礎力を包括的に獲得する。また、「個人研究」の発表を通して、大学生の学習・研究活動の視点を身につける。

## 《授業計画》

1. 前期授業展開についての説明（オリエンテーション）
2. 大学生としての学びと研究活動
3. 大学生としてのキャリア形成
4. 全体交流会
5. 課題を見つける（1）
6. 課題を見つける（2）
7. 自分の意見を整理し伝える（1）
8. 自分の意見を整理し伝える（2）
9. 自分の意見と他者の意見を比較する（1）
10. 自分の意見と他者の意見を比較する（2）
11. 保育・教育に関する課題について各分野の視点から考える（1）
12. 保育・教育に関する課題について各分野の視点から考える（2）
13. 保育・教育に関する課題について各分野の視点から考える（3）
14. 保育・教育に関する課題について各分野の視点から考える（4）
15. 前期総括
16. 前期授業展開についての説明（オリエンテーション）
17. 全体交流会
18. 個人研究（1）
19. 個人研究（2）
20. 個人研究（3）
21. 個人研究（4）
22. 全体交流会
23. 個人研究（5）
24. 個人研究（6）
25. 個人研究（7）
26. 個人研究発表①
27. 個人研究発表②
28. 個人研究発表③
29. 全体交流会
30. 全体総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（30%）  
個人研究（40%）  
レポート等提出物（30%）

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：授業のふりかえりや予習を行う。  
事後学習：授業で示された課題を行う。

# 赤ちゃんの生理学

2年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 平野 俊一郎

## 《授業の概要》

ヒトのはじまりである赤ちゃんの生体の構造と動きを記述する生理学の基礎を学ぶ。乳児の生体の構造は乳児の活動の土台となっており、その機能についての知識は乳児期の成長理解を助け乳児の生活活動の理解につながる。赤ちゃんの発達を生理学的に学ぶ。「乳児を理解するにはどうすればよいのか」を主題として、乳児を科学する視点を学ぶ。乳児の発達生理学の潮流や動向は非認知的能力や社会情動的スキルを見直す方向を向いている。乳児が育つ過程の生理学を乳児保育の実践と結び付けながら学ぶ。

## 《学生の到達目標》

子どもの健全な成育の背景にある身体の構造と諸機能を理解し、組織・器官の基本的な機能を説明できる。また、乳幼児の生理的特徴について、保育実践とつなげて理解する。

## 《授業計画》

1. 生理学とは（恒常性と適応性）
2. 神経の興奮と伝達（神経の興奮とシナプス伝達）
3. 末梢神経系（体性神経系と自律神経系）
4. 感覚（体性感覚、視覚、聴覚、前庭感覚、味覚、嗅覚）
5. 中枢神経系（ヒトの脳の特徴、本能、情動、学習、記憶）
6. 運動と筋収縮（運動の調節と筋収縮の仕組み）
7. 血液（血液成分、血液細胞とその機能）
8. 循環（心臓と血管系の役割）
9. 呼吸（内呼吸と外呼吸）
10. 消化と吸収（栄養素の消化と吸収、消化管機能と消化液）
11. 尿の生成と排泄（腎臓の機能、尿の組成と排尿）
12. 代謝と体温（エネルギー代謝と体温調節）
13. 内分泌（ホルモンの作用と分泌）
14. 授業内テスト
15. テストの振り返りと解説

## 《成績評価の基準・方法》

筆記テスト（60%）、小レポート（30%）、授業への取り組み（10%）について評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・桑木共之、黒澤美枝子 他「トートラ 人体の構造と機能 第5版（原書15版）」丸善出版  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習として、前回の授業で指定された授業内容のキーワードについて小レポートの提出を求める。また授業内容に関するキーワードについて授業開始時に小テストを行うので、事後学習を励行すること。

# 赤ちゃんの発達心理学

2年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 金重 利典

## 《授業の概要》

乳児の発達心理学のアプローチから、赤ちゃんの身体や心の働き・行動の仕組みについて基礎的事項を学ぶ。乳児は部分ではなく、全体として一体的に育つことを理解する。また、身体を中心に、さらには言葉や表現の発達過程についても基本を理解する。

## 《学生の到達目標》

- ①3歳までの子どもの心身の発達についての基本的知識を理解する
- ②実際の子どもの姿を発達心理学の知識を結び付けて捉えられる
- ③子どもの心身の発達と環境がどのように関連しているか説明できる

## 《授業計画》

1. オリエンテーション：心理学の中での発達心理学の位置づけ
2. 記憶の基礎とその発達①成人における記憶
3. 記憶の基礎とその発達②子どもにおける記憶
4. 記憶の基礎とその発達③記憶と言葉
5. 知覚の基礎とその発達①成人における知覚
6. 知覚の基礎とその発達②子どもにおける知覚
7. 知覚の基礎とその発達③知覚と認知
8. 言語発達の基礎①1歳までの言語発達
9. 言語発達の基礎②3歳までの言語発達
10. 言語発達の基礎③言語発達にかかわる理論
11. 社会性の発達の基礎①関係性の発達
12. 社会性の発達の基礎②道徳性の発達
13. 感情の発達の基礎①感情とは
14. 感情の発達の基礎②3歳までの感情の発達
15. 総括：赤ちゃんを対象とした発達心理学の位置づけ

## 《成績評価の基準・方法》

授業内課題の積極的参加（50%）＋期末試験or課題（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

【事前】 各回の内容について、これまでに学習した内容を整理しておく  
【事後】 資料を基に、授業内で扱った知識の定着を図る

# 赤ちゃん学基礎理論

2年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 平野 俊一朗

## 《授業の概要》

赤ちゃん学は異分野研究を連携・融合させ、ヒトのはじまりである赤ちゃんの発達を科学的に解明しようとする新しい学問分野である。研究成果を赤ちゃんの育つ現場や、「人」の成り立ちを知る人々に還元することも目的のひとつである。生命体発生の仕組みやヒトのはじまりである赤ちゃんの運動・認知・感覚・言語および社会性とその障害とのメカニズムを読み解くことで、ヒトの身体発達の様子の解明から心の発達まで幅広い関心領域を対象とする。ヒトの発達という連続的变化を総合的かつ多面的な視点からとらえるため、多様な研究分野の知見を集学的に融合させて赤ちゃんを理解することを目標とする。

## 《学生の到達目標》

受精から始まった生命体が母体内でヒトとなっていく過程を説明する発生学、その背景となる生殖医学と遺伝学、母体と胎児および新生児の健康を担保する周産期医学、ヒトとして外界に順応しながら成長する乳児医学といった医学的側面を理解し、さらに産まれた直後には未発達な運動機能や感覚機能および言語を含めた脳高次機能の発達を述べる生理学的側面、赤ちゃん期から幼児期に向けて大きく進化する認知機能を読み解く認知神経科学的側面とそれらの障害によって発現する病態を理解し、説明できるようにする。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、授業の進め方
2. 妊孕現象の生理学
3. ヒトの発生と遺伝
4. 胎児の発達
5. 周産期医学と母体の心理的变化
6. 赤ちゃんの運動機能
7. 赤ちゃんの感覚機能
8. 赤ちゃんの脳の発達
9. 赤ちゃんと言語
10. 赤ちゃんの認知機能
11. 赤ちゃんの社会性と心理
12. 赤ちゃんの先天性疾患
13. 赤ちゃんの後天性疾患
14. 赤ちゃんから幼児への移行
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（30%）、授業への取り組み（10%）について評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・桑木共之、黒澤美枝子 他「トートラ 人体の構造と機能 第5版（原書15版）」丸善出版  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

情報化時代である現代では、妊娠・出産・育児から始まり子どもの成長やしつけに至るまであらゆる情報がネット上に氾濫している。しかしその中で信頼に足る正しい情報はほんの一部に過ぎない。本講義の受講にあたっては、シラバスを参照して当該目についての事前学習を行うことおよび受講後に生じた疑問を解決し、自己でネット情報の誤謬を指摘・訂正する事後学習を行うことを求める。

# 前期乳児の発達心理学

2年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 金重 利典

## 《授業の概要》

乳児の発達心理学のアプローチから、子ども理解の基礎として、「子どもの大脳生理学・神経生理学」としてのしくみを学ぶ。赤ちゃん学1期は、保育所保育指針の「保育の内容」に示される「乳児保育（1歳未満）」、その育ちや保育者の働きかけ、特に情動交流や愛着、非認知能力の保育所保育における必要性とその限界について学ぶ。特に、赤ちゃん（子ども）の発達に身体行動の成長を土台とし、乳児保育の基礎の一つとして理解することを目標とし、身体の仕組み及び「ヒト」としての生物学的理解とその関係性を学び（情動的生理学）乳児保育につなげる。

## 《学生の到達目標》

- ①発達心理学で用いられる、子どもの発達を評価する方法を知る
- ②1歳までの発達をどのように評価していくか理解し実践する
- ③子どもの発達についての知見を整理し、またデータから発達を理解する方法を身に付け、自身のことばで発表できる

## 《授業計画》

1. ガイダンス
2. 子どもの発達を捉える方法
3. アタッチメントの基礎とその測定①
4. アタッチメントの基礎とその測定②
5. 感情理解の基礎とその測定①
6. 感情理解の基礎とその測定②
7. 情動交流の基礎とその測定①
8. 情動交流の基礎とその測定②
9. 発表準備①：データの整理と表現
10. 発表準備②：発表に必要な要素
11. 発表準備③：口頭発表に求められる要素
12. 発表準備④：発表の練習とその評価
13. 発表日①
14. 発表日②
15. 総括（発表予備日）

## 《成績評価の基準・方法》

授業内課題（50%）＋発表の評価（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

自身でデータを収集し発表する時間を設ける。そのため、授業内のみならず、事前・事後学習の際に発表の準備を進めておくこと。

# 後期乳児の発達心理学

2年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 谷口 康祐

## 《授業の概要》

乳児の発達心理学のアプローチから、1歳以上3歳未満の「子どもの大脳生理学・神経生理学」の基礎を学ぶ。特に発達には、「身体的発達」、「心理的発達」、「社会的発達」の3つの視点が重要になる。この授業では、身体性の育ちと言語の働き、コミュニケーション能力の発達など、ヒト固有の発達過程を学ぶ。

## 《学生の到達目標》

子どもの発達過程を、「身体的発達」、「心理的発達」、「社会的発達」の観点から理解し、これらの関係性を説明できるようになる。「ヒト」としての発達過程を学び、乳児保育につなげる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 子どもの発達段階
3. 身体機能の発達1：身体の成長
4. 身体機能の発達2：感覚
5. 運動機能の発達1：運動の変化
6. 運動機能の発達2：運動感覚統合
7. 心的機能の発達1：知覚
8. 心的機能の発達2：言語
9. 心的機能の発達3：認知機能
10. 心的機能の発達4：自己概念
11. 社会性の発達1：愛着と人見知り
12. 社会性の発達2：子ども同士の関わり合い
13. 社会性の発達3：感情操作の表現と理解
14. 社会性の発達4：道徳心の発達
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

期末試験：60%  
課題の提出などの授業への取り組み：40%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンなどで、子どもの様々な発達の変化について意識する。  
事後学習：授業内容とインターンの経験から、子どもの発達の変化について考える。

# 日本の乳児保育

2年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★大橋 喜美子

## 《授業の概要》

日本の乳児保育の変遷や、保育と乳児の育ちの関係における愛着の視点から日本の乳児保育について学んでいきます。  
明治期の貧しさの中で生まれた口べらしのための墮胎や闇引き、戦前の戦時託児所と季節託児所などについて福祉の視点で学びを深めていきます。そして、地域の人たちが守ってきた子育ての意味と乳児の遊びについて歴史をたどり、現代の環境における子育てについて考察していきます。さらに、乳児保育の軌跡を振り返りつつ、著名な人物の理論についても考察していきます。また、近年では働く女性の増加と共に保育所や認定こども園の需要が求められています。そこでの保育所や認定こども園の役割や保育者の専門性とは何か、乳児の育ちに必要とされる保育と専門的な志向性とは何かについて、学生自身が多様な保育観を主体的に学ぶことを求めていきます。

## 《学生の到達目標》

第1に、最初に幼い命を守り育てることの意味をしっかりと考えていきましょう。次に誕生直後の乳児は自分の想いを体で表現していきます。そこで、養育者の関わりと愛着の形成によって育まれる人格をもつ一人の人としての育ちについて着目しましょう。  
第2に、乳児保育の成り立ちについて、その歴史的経緯から学びを深め、人々が築いてきた乳児の保育思想や保育内容について学び、現在の乳児が置かれた環境などの実態に即した乳児保育について考察していきます。

## 《授業計画》

1. 生涯教育の視点① 乳児保育と思春期の育ち
2. 生涯教育の視点② 3歳児神話と子どもの育ち
3. 乳児保育の歴史① 制度の整備により守られ育まれてきた乳児の命―産婆取締規則―
4. 乳児保育の歴史② 乳児保育所の開設―明治から大正期―慈恵救済事業のころ
5. 乳児保育の歴史③ 乳児保育所の開設―フランス人マルコ・マリ・ド・口神父の人間愛―
6. 乳児保育の歴史④ 戦時託児所と季節託児所/保育所/認定こども園
7. 先駆者から学ぶ① 倉橋惣三の誘導保育論と幼稚園教育と乳児の保育
8. 先駆者から学ぶ② 保育者と共に築いた城戸幡太郎の保育論
9. 発達研究と保育① 胎児の世界と謎・赤ちゃんは母親のお腹の中で何をしているのだろうか
10. 発達研究と保育② 乳児が愛されて育つということの意味(愛着理論を基盤として)
11. 発達研究と保育③ 愛されなかった乳児の叫びと人格形成
12. 発達研究と保育④ 近年の乳児の実際における発達課題と保育
13. 子育て支援① 近年の長時間保育と乳児の生活
14. 子育て支援② 地域で育つ乳児の保育と意義
15. まとめ：歴史からみる乳児保育と現代における乳児保育の比較検討

## 《成績評価の基準・方法》

- ① 毎回の授業の最後に提出する小レポート 40% ② 中間課題 30% ③ 振り返りのまとめ30%

## 《授業で使用する教科書》

・大橋喜美子 編著「新時代の保育双書 乳児保育」(株)みらい

## 《参考書》

・ヘネシー・澄子「子を愛せない母 母を拒否する子」学習研究社

## 《事前・事後学習》

命を守ることはどのようなことを意味するのか、社会の中で幸せに過ごすとはどのようなことなのかを真剣に考えていきましょう。そして、授業前後の学習課題は誠実に向き合ってください。すべては皆さんの真摯に授業を受ける気持ちと態度にかかっています。自分に責任を持って臨んでください。

# 乳児保育研究法II

2年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 谷口 康祐

## 《授業の概要》

乳児研究においてアンケート調査や実験などを行うためには、量的研究の手法や統計に関する知識が必要となる。この授業では、人間の行動、態度、考え方などの様々な事柄を数値として表す量的研究を実施する手法を説明し、そのために必要となる統計学に関する知識を、アンケート調査を実践しながら学ぶ。

## 《学生の到達目標》

量的研究の手法について説明できるようになる。  
量的研究に関する統計を活用できるようになる。  
量的研究の考え方を、乳児の観察に当てはめることができるようになる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 研究の種類と方法
3. 記述統計1：データのまとめ方
4. 記述統計2：代表値、散布度
5. 記述統計3：分布
6. 2変数の関係1：散布図
7. 2変数の関係2：相関係数
8. 推測統計1：標本から母集団を推測する
9. 推測統計2：統計的仮説検定
10. 推測統計3：t検定
11. 調査演習1：テーマの設定
12. 調査演習2：質問項目の作成
13. 調査演習3：調査の実施
14. 調査演習4：データ分析
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

最終レポート：60%  
授業への取り組み：40%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房

## 《事前・事後学習》

事前学習：統計の学習には平均値や指数、平方根といった数学の知識が必要になるので、復習しておくこと。  
事後学習：専門用語などが多く出てくるため、授業でわからないところがあった場合は次の授業までに復習し、意味を理解しておくこと。

# 乳児保育の計画

2年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 阿部 和子

## 《授業の概要》

乳児保育の実践論として、乳児保育の目的・内容・方法の基礎を実践的に学ぶことを目標とする。そのために、インターンシップなどの現場から生じた具体的問題を保育現場ではどのように解決しているのかを学び、さまざまなシミュレーション（計画）をつくりその適切性を検証する。乳児保育における生活適応活動と実践的遊び活動を軸とし、保育所保育指針の「保育の内容」での区分にもとづき、その育ちや保育者の働きかけ、特に情動交流や愛着、非認知的能力の保育所保育における必要性とその限界について学ぶ。また、乳児保育内容編成論（生活・遊びの援助）やおもちゃ（もの）の環境構成及び、全体的な計画について学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- ①乳児保育（3歳未満児）の保育現場の体験を通して、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の第2章保育の内容（乳児保育、1歳以上3歳未満児の保育）を実感を持って理解する。
- ②乳児保育（3歳未満児）の計画の特性を踏まえて、保育を計画の視点から理解する。
- ③3歳未満の子どもの姿を理解し、それをもとに指導計画を立案することができる。

## 《授業計画》

1. 生涯発達における乳（幼）児期の意義
2. 乳児保育の基本—保育所保育指針を中心に
3. 保育の全体の計画の中の乳児保育の計画
4. 指導計画の展開：計画—実践—振り返り（記録）—計画の修正・改善の往還
5. 保育の記録：子どもの内面も含めた記録の書き方
6. 計画と実践：総論
7. （1）0歳児の保育で大切にしたいこと（子どもの姿）と計画
8. （2）1歳児の保育で大切にしたいこと（子どもの姿）と計画
9. （3）2歳児の保育で大切にしたいこと（子どもの姿）と計画
10. 計画と実践：事例（1歳児の時々の子どもの姿からの立案）（1）4月から7月の指導計画
11. （2）8月から11月の指導計画
12. （3）12月から3月の指導計画
13. 保育の振り返り—自己評価①
14. 保育の振り返り—自己評価②
15. まとめ：乳児保育の質の向上を目指すということ

## 《成績評価の基準・方法》

授業内での課題の提出40%、授業内での小テスト30%、指導計画の提出30%

## 《授業で使用する教科書》

・阿部和子・山王堂恵子「保育の質が高まる！ 1歳児の指導計画—子ども理解と書き方のポイント」中央法規

## 《参考書》

・「保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

## 《事前・事後学習》

シラバスにそって、授業の前後に、教科書の該当箇所を熟読してください。不明の点は質問してください。  
また、大学でのインターンシップ以外にも、できるだけ、3歳未満の子どもの触れる体験をしてください。また、多方面から子どもを理解するために、新聞やテレビニュース等で、子どもの生活の実態の事例や、社会の動きの中の子どもの生活に注意を払ってください。

# 乳児の環境とデザイン

2年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 松山 由美子, 小宮 加容子

## 《授業の概要》

乳児保育の実践論として、乳児保育の環境の目的について基礎を学び理解することを目標とする。乳児の保育実践のアプローチから、乳児の生活について学びながら、乳児のもの・こと・ひとの関係について環境や造形デザインの視点から考える。乳児保育の環境構成、おもちゃや絵本の環境デザインなどについても学ぶ。特に子どもが作る、子どもと共に作る環境構成を調査分析しながら学ぶ。

## 《学生の到達目標》

乳児保育特に1歳以上3歳未満児における環境と乳児の遊びについて、発達過程にあわせた環境構成と指導と援助について理解し、乳児保育をデザインする基礎的な資質・能力を実践とおして習得する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（乳児保育のねらいに関する基礎知識）
2. 乳幼児の生活と遊びの環境についての理解
3. 乳幼児の遊び・玩具・絵本と乳幼児の発達過程の理解
4. 1歳児における保育環境の基本
5. 2歳児における保育環境の基本
6. 乳児のあそびの観察から環境を理解する（観察の説明）
7. 乳児のあそびの観察から環境を理解する（観察した結果のレポート作成）
8. 乳児のあそびの観察から環境を理解する（レポート発表会）
9. 乳児対象の雑誌と電子玩具
10. 乳児対象の玩具の調査
11. 乳児対象の玩具についての発表
12. 乳児の遊びのデザインの実践（子育て支援ひろばから学ぶ）
13. 乳児の遊びをデザインする（環境の構成）
14. 乳児の遊びをデザインする（あそびの計画）
15. 学修の振り返り（レポート発表）

## 《成績評価の基準・方法》

2回の課題発表(60%)、授業参加や課題への取組(40%)などから総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・内閣府「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月告示）」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

・インターンシップなどを通して、乳児の生活環境や保育環境に興味をもって観察するようにしてください。  
授業内容を各自で振り返ったり、各自及びグループで話しあったりして理解を深めたり、環境を観察する視点をもてるようにしてください。  
・レポート課題の作成や準備は必要に応じて授業時間外でも作業を進めてください。



# 乳児保育学科 3年次



# 倫理学

3年次  
2単位（講義）  
資格 保○  
担当 樋口 善郎

## 《授業の概要》

「倫」とは人々が手を繋ぎ輪になっている様子を、「理」とはそれが美しく整っているさまを表す。しかし、人は時として逸脱した振る舞いをし、その輪をかき乱してしまふことがある。それを防ぐためには人の振る舞いをコントロールするルールや規範が必要になってくる。この講義では、そうした規範を、東洋の倫理思想や『聖書』、そして、現代でも有力な倫理思想である徳の倫理・義務論・功利主義・自由主義などから学び取っていきたい。最後に、現代も活躍している功利主義の倫理学者ピーター・シンガーの思想を紹介する。学生諸君が、主体的かつ自律的にこの社会を生き抜くためには、こうした倫理的知識・知見を身につけることが不可欠であろう。グループワークを取り入れながら授業はおこなっていく。

## 《学生の到達目標》

学生は現代社会において将来、さまざまな場面に遭遇し、そこで倫理的態度決定を迫られることになるであろう。本講義の到達目標は、学生がそうした場面において、人間として成熟した倫理的判断を下せるような思想的な知識を身につけることにある。授業の中では、倫理的判断が試されるような問題を取り上げる。それを通して色々な倫理思想を実際にツールとして生かせるような技能（スキル）を身につけよう。

## 《授業計画》

1. 東洋の倫理思想 1：ブッダの思想について学ぶ
2. 東洋の倫理思想 2：孔子他の思想について学ぶ
3. 東洋の倫理思想 3：朱子他の思想について学ぶ
4. 『旧約聖書』の倫理思想：応報思想について学ぶ
5. 『新約聖書』の倫理思想：黄金律について学ぶ
6. 徳の倫理 1：ソクラテスについて学ぶ
7. 徳の倫理 2：プラトンについて学ぶ
8. 徳の倫理 3：アリストテレスについて学ぶ
9. 義務論 1：カントの普遍化可能性という考え方について学ぶ
10. 義務論 2：カントの自律の思想について学ぶ
11. 功利主義：ベンサムについて学ぶ
12. 自由主義 1：ミルの自由思想について学ぶ
13. 自由主義 2：リベラリズム・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムについて学ぶ
14. 生命倫理学：生命の尊厳について学ぶ
15. 環境倫理学：動物解放について学ぶ

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の授業における受講カードの提出10%。授業内で実施する小テスト（4回目・8回目・12回目の授業後半に実施予定）30%。学期末試験60%。これらを加算して評価とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前：授業内で必要に応じて資料を配付する。その資料の「家庭学習」に挙げられている課題に取り組んでおく。事後：小テスト及び学期末試験に向けて授業内で学んだことをしっかりと復習しておく。また、学んだ倫理思想を受講カードや実際の場面で生かす試みをして、実際にツールとして生かせるように習熟しよう。

# 子どもの理解と援助

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★岡本 京子

## 《授業の概要》

子ども理解は保育・幼児教育におけるあらゆる営みの基本となるものである。子どもの生活及び遊びの実態に即して、子どもの発達及び学び並びにその過程で生じるさまざまな学びに結び付くようになるための原理及び対応、そして援助に関わる方法等について、学生相互の学びに結び付くようグループワークやディスカッションを行いながら展開する。主に保育・幼児教育現場における具体的事例を取り扱いながら、より実践的に子ども理解と援助を考えていく機会とする。

## 《学生の到達目標》

子ども理解の意義を理解し、子ども理解から発達及び学びを促える原理を理解している。また、子ども理解からその援助に関わっての保育者のあり方や、基本的な態度や指導に関しての理解を深めて考えている。またその方法において、観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察方法などの基礎的な事柄を例示することや、個と集団の関係を捉える視点について理解している。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション 保育における子ども理解の意義
2. 子どもに対する共感的理解と保育
3. 子どもを理解する視点「子どもの生活と学び」
4. 子どもを理解する視点「集団での育ち」
5. 子どもを理解する視点「葛藤やつまずき」
6. 子ども理解する視点「保育の環境の理解と構成」
7. 子どもを理解する視点「環境の変化や移行」
8. 子どもを理解する方法「観察 記録」
9. 子どもを理解する視点「考察・評価の重要性」
10. 子どもを理解する視点「職員間の対話」
11. 子どもを理解する視点「保護者との情報共有」
12. 子ども理解に基づく発達援助「発達の課題に応じた援助と関わり」
13. 子ども理解に基づく発達援助「特別な配慮を要する子どもの理解と援助」
14. 子ども理解に基づく発達援助「発達の連続性と就学への支援」
15. 総括「全授業を振り返り自身が目指したい保育者像についてまとめる」

## 《成績評価の基準・方法》

- ・レポート、課題等（50%）
- ・小テスト（30%）
- ・授業等への取り組み(20%)

## 《授業で使用する教科書》

・松本峰幸監修  
伊藤雄一郎/小山朝子/佐藤信雄/濠谷美枝子/増南太志/村松良太「子どもの理解と援助演習ブック」ミネルワア書房 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレール館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレール館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレール館

## 《事前・事後学習》

事前学習：実習やボランティアで経験することもや保育者・教育者および保護者との関わりを日常的に意識する。  
事後学習：事前学習で得たものと授業での学びを関連づけ、自分なりの活かし方を考える。

# 子どもの健康と安全

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 中津 功一郎

## 《授業の概要》

本講義では、子どもの保健に関する科目で習得した知識をもとに、保育現場での「子供の健康支援」「安全管理」「事故防止」「災害への備え」に必要な知識を解説する。合わせて、子どもの体調不良や事故に対する適切な対応を学び、組織的取り組みの計画等について具体的に学ぶ。その際、種々のガイドラインを参照しつつ、アクティブラーニングで具体的に・実際的に対応できるように学ぶ。

## 《学生の到達目標》

子どもの健康と安全を考える際には、個人による様々な知識獲得や意識だけでなく、組織で守るという意識も必要である。本講義では、上述したことを意識した上で、以下の能力を獲得する事を目標とする。①保育現場における環境整備、衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理・災害対策を具体的に理解する。②子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。③子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みについて理解する。

## 《授業計画》

1. ガイダンス
2. 子どもの健康と保育の環境
3. 保育における「リスク」と「ハザード」
4. 保育における事故防止および安全対策①
5. 保育における事故防止および安全対策②事例研究
6. 保育における事故防止および安全対策③事例研究
7. 保育におけるリスクマネジメント
8. 健康及び安全の管理の実施体制①組織的取り組みについて
9. 健康及び安全の管理の実施体制②保健活動の計画および評価
10. 健康及び安全の管理の実施体制③自治体、家庭、専門機関との連携
11. 健康及び安全の管理の実施体制④マニュアルの意義について
12. 子どもの体調不良等に対する適切な対応①
13. 感染症対策：感染症の集団発生の予防と対応
14. 地震発生時の保育現場での行動（シミュレーション）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

グループワークによる評価（50%）、最終レポート（50%）とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：配布された資料を読み、理解しづらいところなどのチェックを行う。事後学習：毎回課される課題を個人、グループで取り組むこと、また、振り返り学習を行い、知識定着を目指す。

# 健康領域指導法Ⅱ

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 阿川 勇太

## 《授業の概要》

本演習では、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導方法について、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえた上で実践できる能力を養う。演習はグループワークを中心に進め、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を複数のグループで模擬授業等を通じて身に付けさせる。

## 《学生の到達目標》

1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容が理解できる。
2. 幼児の特徴や領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた上で、具体的な指導計画を作成することができる。
3. 幼稚園教育における領域「健康」の評価の考え方を理解している。

## 《授業計画》

1. オリエンテーションー領域「健康」の意義についてふりかえる
2. 子どもへの健康支援ー健康教育の手法と指導計画の作成方法
3. 子どもへの健康支援ーテーマの検討と健康教育案の作成
4. 子どもへの健康支援ー健康教育の教材開発1
5. 子どもへの健康支援ー健康教育の教材開発2
6. 子どもへの健康支援ー健康教育の実践1
7. 子どもへの健康支援ー健康教育の実践2
8. 子どもへの健康と運動発達支援ー運動遊び実践（ボールやロープ等を活用した遊び）
9. 子どもへの健康と運動発達支援ー運動遊び実践（サーキット遊びの組み立て）
10. 子どもへの健康と運動発達支援ーテーマの検討と指導計画の作成
11. 子どもへの健康と運動発達支援ーデモンストレーションと指導計画の修正
12. 子どもへの健康と運動発達支援ー指導実践1
13. 子どもへの健康と運動発達支援ー指導実践2
14. 指導計画の評価方法と評価（グループワーク）
15. 指導計画の評価（発表）とまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み状況（10%）、取り組みに関するピア評価（20%）、指導実践におけるピア評価（20%）、指導計画の内容及び評価（20%）、最終レポート（30%）で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

講義内で指示する。

# 人間関係領域指導法 II

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 ★三輪 よし子

## 《授業の概要》

現代社会の様々な状況を踏まえ、領域「人間関係」において子どもたちにどのような力や視点を身に付けさせることが望ましいのかを、具体的な事例の検討や映像視聴等を通して考える。幼児の発達にふさわしい「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。子どもたちの人間関係づくりをすすめるにあたって、子ども理解や保育場面での関わり方等、様々な実践事例から学ぶ機会をもち、グループでのディスカッションなどを通して、違った考え方や様々な価値観に出会い、学ぶ。

## 《学生の到達目標》

この授業では、指針・要領に示された領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容」の全体構造を理解するとともに、幼児教育・保育において育みたい資質・能力について理解を深める。そして、幼児の発達に即した主体的で対話的深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。

【到達目標】①指針・要領における領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容」並びに全体構造について理解する。②領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容」を踏まえて、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点、評価の考え方を理解する。③具体的な保育を想定した指導案を作成する。④模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。

## 《授業計画》

1. 乳幼児期の育ちと領域「人間関係」
2. 幼児教育の効果と社会情動的スキルの指導の検討
3. 自己調整力を育む保育実践 (1) 挑戦・試行する姿 (3歳児～4歳児前半)
4. 自己調整力を育む保育実践 (2) 自発性・主体性・能動性の育成 (3歳児後半～5歳児前半)
5. 自己調整力を育む保育実践 (3) 葛藤・共有・挑戦・目的・粘り強さ (5歳児後半)
6. 育ち合う人間関係 (1) 子ども同士の関係
7. 育ち合う人間関係 (1) 子ども同士の関係
8. 育ち合う人間関係 (3) 保育者と保護者の関係
9. 小学校との連携・接続 (1) 幼小の交流活動
10. 小学校との連携・接続 (2) 生活科における共同的な学習活動
11. 地域における子育て支援の取り組み (1) 多文化共生保育・教育
12. 地域における子育て支援の取り組み (2) 地域の人とのかかわり
13. 幼児教育の現代的課題 (1) 少子化、核家族、待機児童、多様な保育ニーズ
14. 幼児教育の現代的課題 (2) 社会情動的スキルの重要性、格差、求められる保育者の専門性
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業時に行う課題・レポート等提出物 (80%) + 最終レポート (20%) = 100%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省・内閣府・厚生労働省「幼稚園教育要領解説、幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前学習：「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」をよく読んでおくこと  
事後学習：インターンシップ、実習等において、子どもの年齢・発達段階、家庭環境、生活経験などの違いによる人とのかかわり方の違いや特徴についてよく観察すること。また、一人一人を大切に保育の状況や集団保育の方法についてよく観察し、不明点があれば、現場の保育者に質問してみると

# 言葉領域指導法 II

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○ 幼○  
担当 杉本 孝美, ★手良村 昭子, 古茂田 貴子

## 《授業の概要》

子どものことばを豊かにする具体的な保育について学ぶ。また、「言葉領域指導法 I」で学んだことを活かしながら、保育現場を想定して自身の感性を磨き実践的に学ぶ。

## 《学生の到達目標》

子どものことばを豊かにし、感性を磨いていく環境として、どのようなことばがけが有効であるのかを常に考える習慣をつくる。また、様々な児童文化財について幅広く知り、場面ごとに保育素材を選択する力を養う。そして、実際の保育に活用していく力を身につける。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（授業の進行方法と学習課題、学習内容の復習）
2. 子どもの発達とことば、ことばの役割
3. コミュニケーションを育むための働きかけ
4. 話す力を育てる保育者の援助
5. 書き言葉を支える保育者の役割
6. 言葉に関する諸問題について考える
7. 指導計画について
8. 保育教材選びと指導案作成 1
9. 保育教材選びと指導案作成 2
10. 保育教材選びと指導案作成 3
11. 模擬保育 1
12. 模擬保育 2
13. 模擬保育 3
14. 子どもを取り巻く言語環境について
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業内での課題、発表 (40%)、自作教材等提出物 (60%)

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

子どものことばを豊かにするための保育教材について体験的に学ぶために、積極的に教材づくり等に取り組んでください。毎時間の振り返りを通して復習を常に行い、ことばについて常に意識できる習慣をつけてください。

# 障害児保育

3年次  
2単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★樋口 幸

## 《授業の概要》

障害児保育とは何か、そのかわりと内容について考察し、指導の方法について考える。障害児保育は、家庭や保育所・幼稚園など、関係諸機関の連携のもとに、子ども一人一人を理解する姿勢を大切にし、保育を展開させることが大切である。本授業では、様々な障害について学ぶことにより、障害児保育を行う基礎を培っていく。授業の中では、調べたことをプレゼンテーションしたり、グループでディスカッションしたりする時間もとり入れて、すすめていく。

## 《学生の到達目標》

乳幼児期に起こりうる障害や問題について一つ一つ学ぶ。障害や症状の理解を深める。その上で、子ども一人一人に合った接し方を学ぶ。また、症状ごとに対応の仕方をしっかり学ぶ。そして、障害児保育の中で、障害がある子どもだけでなく、障害がない子どもについても配慮することを学ぶ。さらに、家庭や相談機関との連携などについても理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 障害をどのようにとらえるか「障害」ということばについて
3. 障害について（ドラマやアニメから学ぶ）
4. 発達について ※この回から記事の発表を行う
5. 障害児保育の理念
6. 障害児保育の歴史
7. 障害児保育の現状と制度について
8. 子どもの理解と発達の援助①肢体不自由のある子ども
9. 子どもの理解と発達の援助②知的障害のある子ども
10. 子どもの理解と発達の援助③言語障害のある子ども
11. 子どもの理解と発達の援助④視覚・聴覚障害のある子ども
12. 子どもの理解と発達の援助⑤発達障害のある子ども～自閉スペクトラム～
13. 子どもの理解と発達の援助⑥発達障害のある子ども～注意欠如・多動症、学習障害～
14. 子どもの理解と発達の援助 まとめ
15. 前期最終課題
16. 後期のオリエンテーション・前期の復習
17. 実習で出会った子どもについて話し合う
18. 障害児保育の実際1（ビデオの場面から学ぶ）※この回から絵本や遊びを発表
19. 障害児保育の実際2（ビデオの場面から学ぶ）
20. 一日の保育の流れ
21. 指導計画の作成・発達検査の利用
22. 記録及び評価について
23. 集団生活・生活習慣の援助～個に応じた保育支援～
24. 遊び・音楽・絵本・ことばについて（1）
25. 遊び・音楽・絵本・ことばについて（2）
26. 保護者・家庭への支援
27. 保育者としての倫理・ヒヤリハットについて
28. 関連機関との連携～専門機関とのよりよい連携～
29. 障害がある子どもの保育にかかわる今後の課題
30. 後期最終課題

## 《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み（20%）  
授業内レポート（60%）  
最終課題（20%）などを総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

新聞やニュースなどの障害についての記事を常にチェックしておくこと。  
インタビューや実習で出会った子どもたちの記録を見直し、振り返ること。  
障害児保育に関する本を読むこと。  
自分の住む地域での子ども支援事業に興味をもって調べておくこと。

# 保育実習Ⅱ

3年次  
2単位（実習）  
資格 保○  
担当 ★石丸 るみ, 杉本 孝美, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

これまでの全ての教科の学びを基礎として、保育所または、幼保連携型及び保育所型認定こども園における保育現場での、具体的な実践を通しての理解を深める。乳幼児・保育士（保育者）保護育成環境のことなどについて、保育実習Ⅰの経験を踏まえて一人ひとりが保育を計画し、実践、記録し振り返りの実際を体験する。保育所（または、幼保連携型及び保育所型認定こども園）での養護と教育の一体的な実践を通して保育に参加し、保育士（保育者）に求められる責務や倫理、統一的学び、求められる役割や機能を理解し、身につける。

## 《学生の到達目標》

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

## 《授業計画》

1. 保育実習Ⅰの経験を踏まえた自己課題を設定し、具体的、実践的に学ぶ
2. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育
3. 保育所の役割や機能の具体的展開 (2) 保育所の社会的役割と責任
4. 観察に基づく保育の理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
5. 観察に基づく保育の理解 (2) 保育士等の援助や関わり
6. 観察に基づく保育の理解 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
7. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
8. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
9. 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
10. 関係機関や地域社会との連携・協働
11. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
12. 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
13. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務と職業倫理
14. 保育士の業務と職業倫理 (2) 自己課題の明確化
15. 双方向的実習報告会への参加

## 《成績評価の基準・方法》

保育所または幼保連携型または保育所型認定こども園における実習の評価50%による総合評価。  
各実習の評価は、実習施設による実習評価60%、諸提出物（日誌等）20%、実習報告会及び振り返り20%とする。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

今までの学びを振り返り、総合的にまとめることにより、子どもの観察や関わりの視点を明確にする。また保育所の役割や機能、業務倫理、保育士の業務内容についてや保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について整理し、自己の課題を明確化する。

# 保育実習指導Ⅱ

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 ★石丸 るみ、★阪本 好美、★西岡 光代、杉本 孝美、稲垣 由香里

## 《授業の概要》

これまでの全ての教科の学びの内容と実践への関連性を踏まえ、保育実習の意義と目的を総合的に学ぶ。保育実習Ⅰによる保育現場での具体的な体験を振り返り、整理することにより、保育実習Ⅱに向け、個々の課題を明確にし、計画の立案と計画に基づいた実践、評価、改善を学ぶ。保育所の役割と機能、保育士の職業倫理、業務について深く理解を促す。事後には実習を振り返り、自己評価と報告会を行い、全ての学びを振り返り今後の課題を明確にする。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

## 《授業計画》

1. 実習の総括と自己評価（実習における学びのサイクル） ・ 双方向性のある実習報告会
2. 子どもに応じた適切な関わりとは ・ 双方向性のある実習報告会
3. 実習Ⅰの振り返りを基にした実習課題の作成・環境図、環境構成を考える
4. 実習記録から指導案を立案 ・ 個々で立案
5. 実習記録から指導案を立案 ・ 指導案を見せ合い、良い点や工夫を話し合う
6. 教材研究
7. 指導案の立案
8. 模擬保育発表 保育の知識・技術を活かした保育実践
9. 模擬保育発表 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
10. 直前指導 ・ 実習での接遇とマナー
11. 直前指導 ・ 実習日誌の考察の書き方
12. 保育実習Ⅱの振り返りと自己課題の明確化 ・ 双方向性のある実習報告会
13. 保育実習Ⅱの振り返りと自己課題の明確化 ・ 双方向性のある実習報告会
14. 事後指導における実習の総括と評価
15. 実習を振り返り、自己評価とともに学びを整理し今後の課題を明確化する

## 《成績評価の基準・方法》

前期評価50%、および後期評価50%の総合評価とする。全ての回の出席を求める。学期毎の評価は、授業課題（60%）、および実習報告などへの取り組み姿勢・達成状況（40%）により評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

授業前に事前学習課題として（保育教材の作成や研究、実習課題の設定、保育記録、環境図や環境構成について、指導案立案等）に取り組む。その課題は授業時に発表または使用し提出する。また、必要に応じてテキストの確認や資料等を配布し、学習の指示を行う。事後学習として学びを振り返る報告会を実施する。報告会では必ず参加学生への質問や学びを投げかけることにより、実習で得た悩みや課題を学年全体で共有し合い多角的な視野を持つ学びとして理解できるよう積極的に授業に参加する。

# 保育実習Ⅲ

3年次  
2単位（実習）  
資格 保○  
担当 末次 有加、中條 薫、稲垣 由香里

## 《授業の概要》

保育士資格・選択科目である。児童福祉施設等（保育所・園以外）における実習を10日間から12日間実施する。実習施設は原則として、本人の希望を考慮したうえで、大学が各施設と調整して該当する。保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱの内容を深め、より専門的な支援と援助の実践を学ぶこと、施設保育士についての理解を深めることが目的である。実習時期を心得て履修すること。

## 《学生の到達目標》

1. 既習の教科目や保育実習の経緯を踏まえ、児童福祉施設（保育所・園以外）の役割や機能について、実践を通して理解する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を修得する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。
4. 入所児童（利用者）への自立支援の実践と、自立支援計画に触れ、理解する。
5. 実習における自己課題を明確化する。

## 《授業計画》

1. 児童福祉施設等（保育所・園以外）の役割と機能（1）実習施設の状況
2. 児童福祉施設等（保育所・園以外）の役割と機能（2）実習施設の事業
3. 施設における支援の実践（1）受容する
4. 施設における支援の実践（2）共感する態度
5. 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解（1）
6. 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解（2）
7. 個別支援計画の作成と実践（1）
8. 個別支援計画の作成と実践（2）
9. 子ども（利用者）の家族への支援と対応
10. 各施設における多様な専門職との連携・協働
11. 地域社会との連携・協働
12. 実習中間報告
13. 保育士の多様な業務と職業倫理（1）施設保育士の役割
14. 保育士の多様な業務と職業倫理（2）業務理解と専門性
15. 保育士としての自己課題の明確化

## 《成績評価の基準・方法》

実習施設による実習評価60%、提出物（日誌等）20%、実習評価面談20%とする。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ実習、保育実習Ⅰ・Ⅱなどの経験から導出された自己課題を明確にする。事後学習：実習自己評価を行い、次の実習に向けて、あるいは、保育士資格取得までの自己課題を明確にする。実習中には、学科専任教員による訪問指導を受け、実習内容や実習課題の達成状況を報告する。

# 保育実習指導III

3年次  
1単位（演習）  
資格 保○  
担当 末次 有加, 中條 薫, 稲垣 由香里

## 《授業の概要》

保育実習IIIの事前事後指導であり、集中講義として開講する予定である。社会福祉施設での実習（保育所以外の社会福祉施設）についての指導を行う。保育実習IIIと連動していること、また、保育実習Iにおける施設実習の内容を深め、より高度な支援や援助の実際を学ぶ実習のための授業内容となることを心得て、履修することが望ましい。

## 《学生の到達目標》

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

## 《授業計画》

1. 授業ガイダンス、実習に必要な提出資料の作成
2. 保育実習I（社会福祉施設）の振り返り（1）自己評価（評価面談）
3. 保育実習I（社会福祉施設）の振り返り（2）実習の総括と実習報告（グループ討議）
4. 保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
5. 保育実習による総合的な学び（2）子ども（利用者）への支援と保護者支援
6. 保育の実践力の育成（1）子ども（利用者）の状態に応じた適切なかわり方
7. 保育の実践力の育成（2）保育の知識・技術を活かした保育実践
8. 計画と観察、記録、自己評価（1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
9. 計画と観察、記録、自己評価（2）保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
10. 実習内容と実習計画（1）自立支援の実際
11. 実習内容と実習計画（2）自立支援の実際
12. 保育士の専門性と職業倫理（1）
13. 保育士の専門性と職業倫理（2）
14. 事後指導における実習の総括と評価（1）実習の総括と自己評価（評価面談）
15. 事後指導における実習の総括と評価（2）自己課題の明確化（レポート作成）

## 《成績評価の基準・方法》

授業課題（60%）、および指定課題等の提出・達成状況（40%）により評価する。課題内容の詳細は授業時に提示する。授業日程は、履修者と調整のうえ決定する。原則として全ての回の出席を求める。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

学生の到達目標を参照。実習施設での事前オリエンテーションを受ける（本授業時間外、日程等は別途指定）。

# 教育相談

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 要 正子

## 《授業の概要》

近年、子どもを取り巻く状況は急激に変化しており、保育・教育現場における教育相談の重要性は高まっている。教育相談の基本的な考え方やとなるカウンセリングの理論や方法の概説を加えながら、保育・教育現場における教育相談の役割とその実際について概説し、グループワークを適宜実施しながら様々な問題に対する理解と対応を検討する。

## 《学生の到達目標》

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。

## 《授業計画》

1. 教育相談とは（学校園における教育相談の概要を理解する）
2. 教育相談の基礎①（教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する）
3. 教育相談の基礎②（カウンセリングに関する基礎的な事柄を理解する）
4. カウンセリングマインドの必要性を理解する
5. こどものSOSに気づく方法を学ぶ
6. こどもの不適応や問題行動の意味を理解する
7. こどもの気になる行動への対応を理解する
8. こども・親子関係の見立ての重要性を理解する
9. 保護者対応のポイントを理解する
10. チーム支援（学校園内外の支援体制）の必要性を理解する
11. 関係機関との連携の意義や必要性を理解する
12. 予防教育の重要性を理解する（集団に適応する力を育む）
13. 対人援助におけるコミュニケーション力の重要性を理解する（1）
14. 対人援助におけるコミュニケーション力の重要性を理解する（2）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（50%）、授業後のふりかえり（20%）、総括ふりかえり（30%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「生徒指導提要（最新版）」

## 《事前・事後学習》

事前学習：インターンシップ等、実習での経験をふりかえり、今日の教育現場における課題に関心をもち、こと。  
事後学習：教育相談の役割を認識し、自らが果たす役割について考えること。

# 教育方法・技術論

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 松山 由美子, 小宮 加容子

## 《授業の概要》

未来を担う子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な、教育方法・教育技術・ICT活用技術・学びの質に関する基礎知識や技能を獲得する。具体的には、現在の教育がめざしている方向性、保育・教育におけるICT活用に対する考え方、高度情報通信社会におけるモラルの育成について学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- (1) 他者との学びあいを通じて学びを深める。
- (2) 教育方法・教育技術についての理解を深める中で、実践力の向上に繋げる。
- (3) 従来の教員とともに、有効なICT活用による授業をデザインする能力の向上をはかる。
- (4) 説明技術、発問技術の向上をはかる。
- (5) 思考スキルの向上をはかる。
- (6) 教育・学習評価に対する考えを深める。
- (7) 情報モラル指導を含む子どもたちの情報活用能力育成を、各教科指導の中で実施するための基礎的な知識・技術獲得をはかる。

## 《授業計画》

1. 授業計画ならびに授業の進め方についての説明
2. 教室での学び・ICT活用教育とは
3. 今日の教育課題と幼稚園教育要領
4. 保育者に求められる「話す」「聴く」「伝える」「寄り添う」スキル
5. 「主体的・対話的で深い学び」とは
6. 教育における評価（ポートフォリオを含む）
7. 実物投影機を活用した教育
8. デジタル教材を活用した教育
9. タブレット端末を活用した教育
10. 情報活用能力を育てる
11. 情報モラル教育の重要性
12. ICTを活用した教育の指導案の作成
13. ICTを活用した教育の指導案の検討
14. 子どもたちの言語発達を支える
15. 自己学習調整者を育てる・自ら学び続ける先生を目指して

## 《成績評価の基準・方法》

授業内でのミニレポート(50%)と課題(50%)で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館・文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社・文部科学省「教育の情報化に関する手引き」・文部科学省「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」

## 《事前・事後学習》

・新しい時代の学び方や教え方について興味や関心をもち、今まで学んだことや学外実習での学びを整理し、振り返りながら授業で学んだ内容の理解に努めてください。  
・保幼小連携を踏まえて、学んだ内容を学外実習やインターンシップ、さらに実際に保育者になった際に実践できるよう理解を深めてください。

# 教育心理学

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 谷口 康祐

## 《授業の概要》

保育、教育現場では、心理学的視点を持って子どもと関わることで、的確な子ども理解や適切な指導・支援につながることも多い。心理学的視点をもった保育者、教育者になるために求められる子どもの心身の発達、学習の過程に関する基礎的な知識について学ぶ。

## 《学生の到達目標》

乳幼児期から青年期の各時期における心身の発達の過程および特徴に関する代表的理論を学び、発達概念および教育における発達理解の意義を理解する。学習に関する基礎知識として様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的理論、動機づけ、集団づくり、学習評価のあり方について学び、発達の特徴と関連づけた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 意識・注意
3. 学習①
4. 学習②
5. 記憶①
6. 記憶②
7. 思考
8. 動機づけ①
9. 動機づけ②
10. 知能①
11. 知能②
12. 発達課題と発達障害
13. 学級集団
14. 教育評価
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

期末試験：60%  
授業内で実施する課題：40%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・藤原和弘・谷口弘一「学校現場で役立つ教育心理学 教師をめざす人のために」北大路書房

## 《事前・事後学習》

事前学習：参考書などで該当する箇所を予習する。  
事後学習：授業で触れたキーワードを理解する。また、授業で説明した内容が自身の身近なところや、実習での体験との関係を考える。

# 教育課程論

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 ★神長 美津子, ★ト田 真一郎

## 《授業の概要》

学校教育における教育課程の意義や変遷、基本的な考え方、カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。学校教育体系の中での幼児教育の位置づけを明確にした上で、幼稚園における教育課程の意義や変遷、保育所・認定こども園における全体的な計画の意義や変遷を学ぶ。さらに、教育課程と指導計画との関係や指導計画の種類、その他指導計画作成に関する基礎知識を学ぶ。その上で、よりよい実践を生み出すための評価の在り方と保育記録についての理解を深める。

## 《学生の到達目標》

学校教育のはじまりである幼児教育のカリキュラムについての理解を深めることを目標としている。具体的には、以下の通りである。

- ・学校教育における教育課程の意義や編成の基本的な考え方について理解を深める。
- ・幼稚園の教育課程、保育所や認定こども園の全体的な計画の意義や編成の基本的な考え方についての理解を深める。
- ・指導計画の種類や作成のための基礎知識についての理解を深める。
- ・幼児理解に基づく評価の考え方と保育記録についての理解を深める。
- ・幼児教育の質を高めるカリキュラム・マネジメントについての理解を深める。

## 《授業計画》

1. 教育課程論で学ぶこと
2. 学校教育における教育課程の意義
3. 幼児教育における保育内容の変遷
4. 幼児教育の基本とカリキュラムの考え方
5. 現行幼稚園教育要領の改訂内容とその背景
6. 現行保育所保育指針の改定内容とその背景
7. 現行幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂内容とその背景
8. 教育課程・全体的な計画の編成の手順と実際
9. 長期の指導計画と短期の指導計画
10. 幼児理解に基づく評価と保育記録
11. 幼児教育と小学校教育との連携の経緯と課題
12. 幼児教育から小学校教育への円滑な接続と架け橋プログラム
13. 幼児教育の質とカリキュラム・マネジメント
14. カリキュラム・マネジメントの実際
15. まとめ（課題の整理）

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の振り返り（コメントペーパー）（50%）と、簡単なテスト（50%）

## 《授業で使用する教科書》

・神長美津子/津金美智子/河合優子/塩谷香「教育課程論」光生館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・小田豊/神長美津子「指導計画法」北大路書房

## 《事前・事後学習》

事前には、予め授業の内容について、教科書の該当のページを読んでおく。事後は、教科書と配布資料をもとに、ノートの整理をして、理解を深める。

# 教育制度

3年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 佐伯 知子

## 《授業の概要》

この授業では、受講生が日本の教育制度について身近な事象と結びつけて理解できるよう、さまざまな事例・資料をふまえて講義する。また、制度の意義や課題について理解を深められるよう、受講生同士の意見交流の機会も積極的に設ける。

## 《学生の到達目標》

・教育制度の成り立ちや仕組みについて基礎的な知識を身につける。  
・教育制度への理解をふまえ、今日の教育が抱える諸問題やその解決の方途について、自分の考えを述べる事ができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 教育に関する社会的事項（1）子どもの生活の変化
3. 教育に関する社会的事項（2）学校をめぐる状況の変化
4. 教育に関する社会的事項（3）教育政策の動向
5. 教育に関する制度的事項（1）教育関係法規①
6. 教育に関する制度的事項（2）教育関係法規②
7. 教育に関する制度的事項（3）教育関係法規③
8. 小括 小テスト
9. 教育に関する制度的事項（4）教育行政①
10. 教育に関する制度的事項（5）教育行政②
11. 学校安全への対応（1）生活安全・交通安全
12. 学校安全への対応（2）災害安全
13. 学校と地域との連携・協働
14. 諸外国の事例
15. 総括 小テスト

## 《成績評価の基準・方法》

授業に取り組む姿勢（50%）、レポート等の提出物（30%）、小テスト（20%）。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・日ごろから新聞を読むなどして世の中の動きを意識すること。  
・授業内容とその都度復習すること。興味をもったテーマについては積極的に本を読んだり調べたりすることで、学びを深めること。

# 音楽演習 II

3年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 深田 直子

## 《授業の概要》

幼稚園・保育園または小学校で歌われる曲や、リズム表現活動に使用する曲を数多く習得する。毎回一人ずつ演奏することで、正確なメロディー・リズム・ハーモニーで伴奏し、美しい声でよく聞こえるように弾き歌いすることを学習する。また、楽譜に記載されているコードネームから、自分で伴奏付けができる技術を身につける。

## 《学生の到達目標》

保育・教育現場において、子どもたちと歌ったり、子どもたちが楽しく歌えるような伴奏ができることを目指す。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション コードネームの説明
2. 園生活のうた
3. 春のうた
4. 春のうた
5. あそびのうた・リズム表現活動の曲（マーチ）
6. 夏のうた
7. 夏のうた
8. 秋のうた
9. 秋のうた
10. 行事のうた・リズム表現活動の曲（ラン）
11. いろいろなうた・リズム表現活動の曲（スキップ・ギャロップ）
12. 冬のうた
13. 冬のうた
14. 新しいうた・リズム表現活動の曲（ワルツ・いろいろな表現）
15. 振り返り・まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

毎週授業時に、一人ずつの伴奏付けや弾き歌いを行い毎週評価するため、定期試験及び再試験は行わない。

## 《授業で使用する教科書》

・小林 美実「こどものうた100」チャイルド本社・茂田  
すすむ「保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集」全音楽譜出版社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

保育には弾き歌いが不可欠であるため、毎週授業までの十分な練習が必要である。

# 教育実習（幼）

3年次  
5単位（実習）  
資格 幼〇  
担当 ★三輪 よし子, ★赤井 美由紀, ★宮崎 大樹

## 《授業の概要》

幼児教育者としての心構えを養い、愛情と使命感を深め、将来教育者・保育者になる上での能力や個性を考慮し、課題を自覚する機会として、学外実習や学級担任の役割及び職務内容について、実地体験を通して理解する。今まで大学で学んだ理論や技術に加え、様々な活動場面で適切に幼児と関わる体験を模索しながら自身の子ども観や教育観を深めていく。実習前の事前指導においては、指導案作成などを行い、実習後の事後指導においては、実習の反省として成果と課題を意識して振り返りを行う。この授業では、アクティブラーニング（保育現場における実習、グループディスカッション、模擬保育など）を含めて実施する。なお、実習は幼稚園において原則20日間行う。

## 《学生の到達目標》

幼稚園の教育実習に参画するにあたって、実習生として遵守すべき義務等の理解、心構えや姿勢準備など基本的なことを理解している。また、教育実習に臨む際、その目的や内容、方法などを幼稚園教育の特質を实际的に理解することができ、幼児の実態等を踏まえた適切な指導案をグループディスカッションなどを通して作成し保育実践へとつなげていくことができる。実習の振り返りにおいては、得られた成果と課題等を省察するとともに、自己の保育・教育観の形成に役立たせる力を確認する。なお、事後学習における振り返りに際してはICTを活用した資料の作成を行い、その発表を通してプレゼンテーション技能等を磨くことや、他者の実習に関する情報を得ることで、今後の自身に必要な基本的技術の確認や保育観の再構成などを意識することができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 実習指導についての概要の理解と実習生の態度
3. 実習の目的（内容の理解や実習への自覚と責任について）
4. 実習の方法（子どもの姿の予想や事前準備等について）
5. 幼稚園の理解（幼稚園教育要領の基本的理解）
6. 幼稚園の理解（子どもの発達のと姿と保育内容について）
7. 実習目標の明確化と模擬保育に向けた指導案の作成
8. 模擬保育の実施1（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
9. 模擬保育の実施2（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
10. 模擬保育の実施3（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
11. 模擬保育の実施4（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
12. 模擬保育の実施5（実習における保育指導のシミュレーションと課題の明確化）
13. 実習園における具体的な計画と見通しと指導案の再作成
14. 実習園に対する理解（実習園の一日の流れ等について）
15. 実習への心構え（課題を深めることや目標の共有等について）
16. 実習先へのお礼状作成方法
17. 実習の振り返りと他学生との実習交流
18. 幼稚園実習報告会1（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
19. 幼稚園実習報告会2（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
20. 幼稚園実習報告会3（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
21. 幼稚園実習報告会4（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
22. 幼稚園実習報告会5（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
23. 幼稚園実習報告会6（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
24. 幼稚園実習報告会7（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
25. 幼稚園実習報告会8（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
26. 幼稚園実習報告会9（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
27. 幼稚園実習報告会10（情報機器を活用したプレゼンテーション及び個人面談）
28. 幼稚園実習における自己評価と他者評価（実習や発表を振り返って）
29. 幼稚園実習についてのまとめ（成果と課題について）
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

実習先からの評価及び実習日誌（60%）  
指導案やお礼状、プレゼンテーション等の事前・事後授業における提出物（40%）

## 《授業で使用する教科書》

・監修：玉置哲彦・島田ミチコ  
編集：大方美奈・瀧川光治・中橋美穂・ト田真一郎・手良村昭子  
「幼稚園教育実習」建帛社

## 《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前:実習園について調べておくなど、実習における課題や目標を明確にしておく  
事後:授業での学習の振り返りや、他学生と反省や課題などの情報交換を行い、自身の学びを深める

# 卒業論文 I

3年次  
2単位（演習）

資格 なし

担当 平野 俊一朗, 松山 由美子, ★石丸 るみ, ★浅野 孝平,  
★高根 栄美, 清田 岳臣, 金重 利典, 谷口 康祐

## 《授業の概要》

この授業では、受講生が多様な関心の中から自分にとって最も関心のあるものを卒業論文のテーマとして設定し、それを探究するにふさわしい方法論を身に付けることをめざす。

## 《学生の到達目標》

- ・自分にとって最も意味のある関心に絞り込み、卒業論文のテーマを決めることができる。
- ・自分の卒業論文のテーマを探究するのにふさわしい方法論を見つけることができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 卒業論文を書くということ
3. 発表・討議の仕方について概説（1）
4. 発表・討議の仕方について概説（2）
5. 受講生の関心を出し合い、討議のテーマを選ぶ
6. 発表と討議（1）
7. 発表と討議（2）
8. 発表と討議（3）
9. 発表と討議（4）
10. 発表と討議（5）
11. 発表と討議（6）
12. 発表と討議（7）
13. 発表と討議（8）
14. 発表と討議（9）
15. 総括
16. 卒業論文を書くということー再説
17. 卒業論文のテーマの発表と討議（1）
18. 卒業論文のテーマの発表と討議（2）
19. 卒業論文のテーマの発表と討議（3）
20. 卒業論文のテーマの発表と討議（4）
21. 卒業論文のテーマの発表と討議（5）
22. 卒業論文のテーマの発表と討議（6）
23. 卒業論文のテーマの発表と討議（7）
24. 卒業論文のテーマの発表と討議（8）
25. 卒業論文のテーマの発表と討議（9）
26. 卒業論文のテーマの発表と討議（10）
27. 卒業論文構想発表の準備（1）
28. 卒業論文構想発表の準備（2）
29. 卒業論文構想発表の準備（3）
30. 総括・構想発表会

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み（授業内発表含む）（40%）、構想の内容（40%）、構想発表会（20%）。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

ゼミ内での発表・討議を繰り返す中で、自己の卒業論文のテーマについて考察を深めていくこと。

# 赤ちゃんの人体としくみ

3年次  
2単位（講義）

資格 なし

担当 清田 岳臣

## 《授業の概要》

乳幼児期は運動発達が顕著に進む時期である。本授業では、乳幼児の運動発達を中心に以下の事項について学習する。1) はいはい、歩行などの空間移動や姿勢保持などの粗大運動の育ちが生じるのか、2) ものを掴む・つまむ・引っ張るなどとはどのような微細運動の育ちが生じているのか、3) その中でどのように認知能力・操作能力を発展させ、4) さまざまな生活する力・遊びの力が育っていきのか、など。この知見は保育所保育指針のいう「自ら健康で安全な生活をつくり出す力」の基礎的な学びとなる。

## 《学生の到達目標》

運動発達に背景にある諸要因について理解する。また発育・発達における遊びの意義を深く理解する。

## 《授業計画》

1. 子どもの年齢発達、遊び、および環境（オリエンテーション）
2. 神経系の構造と発達①
3. 神経系の構造と発達②
4. 神経系の構造と発達③（グループワーク）
5. 神経系（反射）
6. 神経系（随意運動）
7. 運動発達（粗大運動）
8. 運動発達（姿勢反射とバランス制御）
9. 運動発達（微細運動）
10. 感覚・知覚系の発達①
11. 感覚・知覚系の発達②
12. 乳幼児期における運動遊びと環境①（遊びと文化）
13. 乳幼児期における運動遊びと環境②（事故と予防）
14. 授業内テスト
15. テスト振り返り

## 《成績評価の基準・方法》

小テスト（小レポート）30%、テスト60%、授業内の取り組み20%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前：授業開始時に前回の授業に関する小テストや小レポートを要求することがあるため、準備しておくこと。  
事後：授業内容のキーワードを整理しておくこと。

# 赤ちゃんの看護

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 後藤 淑子, ★木野 稔

## 《授業の概要》

赤ちゃん：新生児期～乳児期の成長発達と健康増進のための子どもと家族への看護ケアについて学ぶ  
①成長発達の原則と影響因子  
②新生児・乳児の成長発達と看護  
③発達評価について  
④栄養管理  
⑤事故防止と安全教育  
⑥予防接種

## 《学生の到達目標》

1. 赤ちゃんを科学的に理解する
2. 養育形成を高める
3. 看護ケア方法を学ぶ

## 《授業計画》

1. 小児看護とは
2. 赤ちゃんの成長発達と看護
3. バイタルサインの見方
4. 赤ちゃんの発達・心理的側面
5. 病気の時におこる症状とケア
6. 病気の時におこる症状とケア
7. グループワークを通して学びの確認
8. 赤ちゃんの栄養
9. 小児看護に必要な技術
10. 小児看護に必要な技術
11. 病気の時の遊びⅠ
12. 病気の時の遊びⅡ
13. 事故防止と安全教育
14. 救急時の関わり
15. 予防接種について

## 《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み、レポートにより総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・奈良間美保「小児看護学概論」医学書院・日本医療保育学会「医療保育セミナー」建帛社

## 《事前・事後学習》

1年次に配布したこともよくある事故についての資料を授業で使用するため、事前に確認すること。

# 乳児の身体と生理学

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 平野 俊一朗

## 《授業の概要》

生理学のアプローチから「乳児の身体的・運動学的特性」を読み解き、「ヒト」としての人体のしくみや乳児の身体に結び付いた生理学を学ぶ。特に、赤ちゃん（子ども）の行動学は精神的な成長を含めて身体行動の成長を理解する土台となっている。子どもの行動学は、「ヒト」としての行動のシステム・生物学、人体の仕組みを踏まえ、年齢固有の身体変化（年齢ごとの赤ちゃんの行動学）や身体機能の理解と結びつく。本科目では身体の仕組み及び「ヒト」として育つ生理学的理解とその運動を学び、乳児保育につなげる。

## 《学生の到達目標》

胎児から新生児・乳児の正常な成長は健康が担保されてはじめて成立する。成長過程のヒトとしての身体医学や生理学を代表とする乳児科学的側面を理解し、運動機能と感覚機能を統合する神経生理学とその裏付けとなる小児解剖学の両者の知見を統合する。赤ちゃん期から幼児期に向けて大きく進化する心身の発達とそれらの障害によって発現する病態を理解し、それを生理学的側面から説明できるようにする。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション、授業の進め方
2. 胎児の身体の発達
3. 胎児の身体の特徴
4. 周産期の赤ちゃんの発達
5. 赤ちゃんの身体と運動機能
6. 赤ちゃんの身体と感覚機能
7. 赤ちゃんの身体と神経機能
8. 赤ちゃんの身体と循環機能
9. 赤ちゃんの身体と呼吸機能
10. 赤ちゃんの身体と排泄機能
11. 赤ちゃんの身体と内分泌機能
12. 赤ちゃんの身体と消化機能
13. 赤ちゃんの身体と言語発達
14. 赤ちゃんから幼児への身体的・生理学的発達
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（30%）、授業への取り組み（10%）について評価を行う。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・桑木共之、黒澤美枝子 他「トートラ 人体の構造と機能 第5版（原書15版）」丸善出版

## 《事前・事後学習》

情報化時代である現代では、子どもの解剖・生理・成長などあらゆる情報がネット上に氾濫している。しかしその中で信頼に足る正しい情報はほんの一部に過ぎない。本講義の受講にあたっては、シラバスを参照して当該項目についての事前学習を行うことおよび受講後に生じた疑問を解決し、自己でネット情報の誤謬を指摘・訂正する事後学習を行うことを求める。

# 乳児の情動と生理学

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 金重 利典

## 《授業の概要》

発達生理学のアプローチから、乳児の情動を生理学視点から学ぶ。情動の豊かな交流によって乳児の関係行動力が発展し、認知・表現・行動の発展の土台となる。ヒトのはじまりである乳児の大人との情動交流が必要である。ヒトのはじまりである乳児理解は、社会に適応する行動にある認知、運動能力や自己の発達と共に快の情動に基礎をおき、また、大人とのやり取りから学び、乳児保育の実践や子育てや育児支援につなげながら学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- ①乳児期の他者との交流において、なぜ情動が必要かを理解し説明できる
- ②情動を含む感情の発生についての理論を理解し説明できる
- ③情動に関わる脳内の神経システム・ネットワークについて理解する

## 《授業計画》

1. オリエンテーション：感情心理学の射程
2. 情動とは
3. 情動発生の機序①：中枢か末端か
4. 情動発生の機序②：知覚か認知か
5. 情動に関わる神経ネットワークシステム
6. 情動の理論①：基本感情理論・前半
7. 情動の理論②：基本感情理論・後半
8. 情動の理論③：次元論（円環論、コアアフェクト理論）
9. 情動の理論④：コンポーネント・プロセス・モデル（認知的評価理論を含む）
10. 情動と認知・行動①：記憶、注意
11. 情動と認知・行動②：思考、感情制御
12. 情動と認知・行動③：対人関係、適応
13. ポジティブな情動（感情）
14. ネガティブな情動（感情）
15. 総括：情動が対人的交流になす役割

## 《成績評価の基準・方法》

授業への積極的参加（50%、リアクションペーパーによる）、授業内or期末テスト（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

・日々の中で、感情に関わる経験についてのエピソードを記憶・記録する。またその感情がなぜ生じたか、その結果どのようなことが自身にもたらされたかを振り返る。  
・授業内で用いた用語をふり返り、説明できるようにしておく。  
・実習などの子どもの観察から、子どもの感情がどのように表現されているかを知り、理論的背景と結びつけて理解する

# 乳児の脳生理学

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★浅野 孝平

## 《授業の概要》

脳の発達の観点から乳児の成長を理解するため、乳児期の脳生理学・認知神経科学の基礎を学ぶ授業である。自ら行動し考え成長する力を既に持っているという有能な乳児期がある。一方神経科学では、新生児の脳は基本構造は既に出来上がっているものの、脳内の領域間の機能的なネットワークはまだ十分にできておらず、このネットワーク化は外部刺激により乳児期に大きく進行することが明らかになっている。これらのことは、乳児期が発達において非常に大切な時期であること、乳児保育の重要性を表している。本授業では、脳生理学や認知神経科学の観点から乳児期における知覚、運動、記憶、言語、社会性、感情、知能の発達の諸側面について学ぶとともに、それらを総合して乳児保育の諸課題に科学的根拠を持ってアプローチする素地を培う。

## 《学生の到達目標》

乳児の知覚、運動、記憶、言語、知能などの発達のしくみに関する脳生理学・認知神経科学の基礎を理解することができる。乳児保育の諸課題を、脳生理学・認知神経科学の知見を総合的に関連付けて考え、脳生理学・認知神経科学の観点から課題解決にアプローチしようとすることができる。

## 《授業計画》

1. 脳の成り立ちと発達
2. 出生前の脳に与える様々な影響
3. 視覚の発達
4. 聴覚の発達
5. 嗅覚の発達
6. 味覚の発達
7. 触覚の発達
8. 平衡感覚・運動感覚
9. 運動発達
10. 社会性・情動の発達
11. 記憶の発達
12. 学習
13. 言語の発達
14. 知能の発達
15. 乳児保育の諸課題と乳児期の脳

## 《成績評価の基準・方法》

成績評価は、以下の3つの方法と配分で行う。  
① 授業への取り組み・出席 30%  
② 各講義に関する小テスト 30%  
③ 講義全体の振り返りレポート 40%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、配布資料を読み、受講内容を把握する。事後学習としては、学んだ内容を資料やノートで振り返り、理解を確実にするとともに、乳児保育に関する自己の疑問や課題を追究し、視野を広げたり深めたりする。

# 世界の乳児保育

3年次  
2単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

乳児（3歳未満児）保育は3歳以上の幼児保育とは異なる特質をもつ。就労する親に代わっての乳児の監護・ケアの主流が、親族の世話や個人的な託児から集団保育の場へと移っていったのは、比較的新しい歴史といえる。乳児の集団保育について日本の水準の高さや特徴について認識し、女性の就労保障、子ども自身の発達保障、諸科学の知見の活用について海外の動向を示しつつ、今後の日本の乳児保育の課題をさぐる。

## 《学生の到達目標》

国際的・歴史的な視点をもち日本の乳児保育を見る・考えるようになる。乳児保育の具体的なあり方を『新・保育環境評価スケール②0・1・2歳』の枠組みをもって考え、少しでも実践に移せるようにする。

## 《授業計画》

1. 「乳児保育」について現在どのように捉えているかについて改めて考える。
2. 日本の乳児保育について一保育所保育指針等みる
3. 『新・保育環境評価スケール②0・1・2歳』導入
4. 乳児保育の現場・ゲストスピーカーによる講話 ※時期については調整あり
5. 乳児保育をめぐる国際的動向①
6. 乳児保育をめぐる国際的動向②
7. 保育の原点：フレーベルを知る
8. レッジョ・エミリア・アプローチ①
9. レッジョ・エミリア・アプローチ②
10. モンテッソーリメソッド①
11. モンテッソーリメソッド②
12. アメリカ「発達にふさわしい実践」
13. アメリカ「ハイ・スコープ」
14. イギリス「EYFS（乳幼児期ナショナルカリキュラム）」
15. まとめ・学びの振り返り

## 《成績評価の基準・方法》

授業への参画度（発表、発言、課題への取り組み）80%、まとめのレポート20%。

## 《授業で使用する教科書》

・テルマ・ハームス他 「新・保育環境評価スケール②0・1・2歳」法律文化社・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

自分の生育歴や実習経験を振り返り、日常的に乳児の状況に注目し（メディア、身の回りの乳児）、乳児保育についての自分なりの考えをまとめておく。指定された動画を視聴する。

# 前期乳児の生活と保育

3年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★石丸 るみ

## 《授業の概要》

「前期乳児の生活と保育」本授業では乳児前期（0歳から概ね2歳を範囲とし乳児保育では0歳児クラスと1歳児クラスを対象とする）を乳児（家庭など）及び乳児保育の乳児（保育所など）の日常の事象から子どもの育ちの過程を具体的に理解する。教材内容は「前期乳児の保育実践」で実施する観察により集められる記録や写真など。または、既出の成長記録など。調査者として取り組む学生の観察や視聴による視点での、実感や理解を基盤に考察する。

## 《学生の到達目標》

乳児前期の乳児の日常生活をできるだけ消極的に参与観察することで、客観的に目撃、我が事のこととして（保育士資格取得希望者としても）乳児の成長の経過に関心や気づきを持つ。ドキュメンテーションなど質的にまとめていくことで、家庭と乳児保育での乳児前期について場の特性や在り方、特徴など個々の学生がグループでの話し合いの中から学び合う。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 乳児前期についての調査
3. 成長記録の視聴①質的な方法による分析
4. 観察（消極的な参与）の実施\_乳児保育①（予定）
5. ドキュメンテーションによる話し合いと考察
6. 成長記録の視聴質的な方法による分析
7. 観察（消極的な参与）の実施\_乳児保育②（予定）
8. ドキュメンテーションによる話し合いと考察
9. 成長記録の視聴質的な方法による分析
10. 観察（消極的な参与）の実施\_乳児保育③（予定）
11. ドキュメンテーションによる話し合いと考察
12. 成長記録の視聴④成長記録の視聴\_家庭①ゲストティーチャーによる家庭での乳児
13. 一次発表 観察（乳児保育④）（予定）
14. 発表報告
15. 二次発表

## 《成績評価の基準・方法》

個人に作成された調査記録50%、グループによるドキュメンテーション30%、協働的報告会・及び発表20%

## 《授業で使用する教科書》

・阿部和子「子どもの心の育ち0歳から3歳自己がかたちづくられるまで改訂版」萌文書林

## 《参考書》

・無藤隆監修大方美香編著「0～2歳ワークで学ぶ子どもの育ちをとらえる保育記録の書き方」中央法規・宮里暁美編著「思いをつなぐ保育の環境構成0,1歳児」中央法規 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

調査園、調査対象の乳児、担当保育者と事前事後と調査中の経過も、まとめていく完成物を共有し協働的な取り組みを体験する。

# 後期乳児の生活と保育

3年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 阿部 和子

## 《授業の概要》

乳児の生活が子どもの成長の土台となることを学び、保育所保育指針第2章保育の内容では、1歳未満児を乳児保育（前期乳児とする）、1歳以上3歳未満（後期乳児とする）に区分していることを踏まえつつ、本授業では、後期乳児の家庭養育における乳児の生活と保育所等集団保育における乳児の生活の連続性と相違について考え、学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- 家庭や保育施設で生活する後期乳児の実際についてより深く理解する。
- 家庭生活から保育施設へ接続のあり方について後期乳児の乳児の視点から検討する。
- 後期乳児の生活について総合的に理解し子育て支援の手立てについて考察できる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション：乳児の主体性の視点、生活の場の視点から保育を考える
2. 発達連続性（愛着理論に着目して）：前期乳児から後期乳児の生活と保育へ連続性
3. 集団の場における愛着形成と発達経験（保育所）
4. 集団の場における愛着形成の課題とそれへの対応を考える（保育所）
5. 集団の場における愛着形成と発達経験（乳児院）
6. 集団の場における愛着形成の課題とそれへの対応を考える（乳児院）
7. 家庭における愛着形成と発達経験
8. 家庭における愛着形成の課題とそれへの対応を考える（家庭での子育てを支援する意義）
9. 乳児の主体性について考えるー1, 2歳児の具体的な姿を通して（グループワーク）
10. 1, 2歳児を対象とした玩具の市場調査し、リストを作成する（グループでの調査）
11. 1, 2歳児を対象とした生活用品の市場調査し、リストを作成する（グループでの調査）
12. リストされた玩具・生活用品を、子どもの主体性との関係で考察する（グループワーク）
13. 9,10,11,12回のグループ調査とその考察のまとめをクラスで発表する①
14. 9,10,11,12回のグループ調査とその考察のまとめをクラスで発表する②
15. まとめ個別レポート作成(授業内で提示する)

## 《成績評価の基準・方法》

以下の通りに評価する。  
・グループレポート（第12回目のもの、グループメンバー全員で1部作製したもの）25%  
・第13回目、14回目のクラス発表の資料と発表（いずれかの日の一回）25%  
・まとめレポート（個人）20%  
・授業内小テスト（個人）30%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「保育所保育指針解説平成30年」・阿部和子・大方美香  
編著「乳児保育の理論と実践」光生館・最新保育士養成講座総括編纂委員会編執筆代表  
阿部和子・北野幸子「最新保育士養成講座第一巻 保育原理」全国社会福祉協議会

## 《事前・事後学習》

授業中に指定する

# 前期乳児の保育実践

3年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★石丸 るみ

## 《授業の概要》

「前期乳児の保育実践」では学生の関心や気づきによる観察により乳児前期（0歳から概ね2歳を範囲とし乳児保育では0歳児クラスと1歳児クラスを対象とする）の記録や写真を取集するための調査を行う。また、既出の成長記録なども利用し「前期乳児の生活と保育」の時間を活用しドキュメンテーションとして整理し、観察と記録にとらえられる【家庭内の乳児】と【乳児保育の場での乳児】の成長記録の作成に取り組むことにより乳児前期の実際を経過の姿から学ぶ。

## 《学生の到達目標》

乳児前期の乳児の日常生活をできるだけ積極的に参与観察への調査を行うことで、客観的に目撃、我が事のこととして（保育士資格取得希望者としても）乳児の成長の経過に関心や気づきを持つ。ドキュメンテーションなど質的にまとめていくことで、理解が深められ、新たな視点で家庭と乳児保育での乳児前期の乳児の成長過程も実際について調査の関心が広がる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 調査する場所について（予備調査）
3. 成長記録の視聴①（今、この時についてを考える）
4. 観察（消極的な参与）の実施\_乳児保育①（予定）
5. ドキュメンテーションによる整理
6. 成長記録の視聴②（今、この時についてを考える）
7. 観察（消極的な参与）の実施\_乳児保育②（予定）
8. ドキュメンテーションによる整理
9. 成長記録の視聴③（今、この時についてを考える）
10. 観察（消極的な参与）の実施\_乳児保育③（予定）
11. ドキュメンテーションによる整理
12. 成長記録の視聴④（今、この時についてを考える）
13. 観察（消極的な参与）の実施\_乳児保育④（予定）
14. ドキュメンテーションによる整理
15. まとめと報告会

## 《成績評価の基準・方法》

個々に作成された調査記録50%、グループによるドキュメンテーション30%、協働的報告会・及び発表20%

## 《授業で使用する教科書》

・阿部和子「子どもの心の育ち0歳から3歳自己がかたちづくられるまで改訂版」萌文書林

## 《参考書》

・無藤隆監修大方美香編著「0～2歳ワークで学ぶ子どもの育ちをとらえる保育記録の書き方」中央法規・宮里暁美編著「思いをつなぐ保育の環境構成0,1歳児」中央法規

## 《事前・事後学習》

調査園、調査対象の乳児、担当保育者と事前事後と調査中の経過も、まとめていく完成物を共有し協働的な取り組みを体験する。

# 後期乳児の保育実践

3年次

1単位（演習）

資格 なし

担当 ★佐々本 清恵

## 《授業の概要》

乳児後期（1歳以上3歳未満）について、保育の目的、内容、方法を「事例」を基に学ぶ。特に生活適応活動と遊び活動を軸として、乳児後期の育ちや保育者の働きかけ、環境構成について、演習をしながら実践論を学ぶ。おもちゃ等の「もの」を中心とした、周りの環境に関わりながら思考し探求するには、保育者の働きかけが重要であることを理解する。具体的な記録と1歳児2歳児の保育の計画及び評価についての基礎事項を理解する。

## 《学生の到達目標》

- ・1歳以上3歳未満児の育ちと保育者の関わりを学び、乳児保育の重要性を理解する。
- ・事例を通して保育者の関わりを考察し、自ら考えたり、考えたことを言葉にして伝えたりする力を養う。
- ・保育所指針を基に、1歳以上3歳未満の保育の目的・内容・方法について理解し、具体的な実践方法を学ぶ。
- ・1歳以上3歳未満の保育の計画及び評価についての基礎事項を理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション 後期乳児保育の専門性と授業の進め方
2. 1日を心地よく過ごすための保育実践
3. 一人一人が主体として尊重されるための保育実践
4. 1・2歳児の食事と保育者の関わり
5. 1・2歳児の睡眠と保育者の関わり
6. 1・2歳児の排泄と保育者の関わり
7. 1・2歳児の着脱と保育者の関わり
8. 「泣く」「笑う」等の感情の表出と保育者の関わり
9. 主体的な遊びを援助する環境と保育者の関わり
10. 「もの」との関わりー発達と保育者の援助ー
11. 保育者の関わり「怒ると叱る」「褒めると認める」
12. 愛着の形成と人との関わり
13. 自我の育ちと他者との関わり
14. 保育計画「記録と省察」「保育者の連携とクラス運営」
15. 保護者支援ー保育を伝える意義と方法ー 授業の振り返り 総括

## 《成績評価の基準・方法》

- ・授業への取り組み
- ・毎時間ごとの小レポート
- ・レポート課題 を総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

## 《参考書》

- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」フレーベル館
- ・今井和子編著「0・1・2歳児の世界」光陽メティア・阿部和子編「乳児保育の基本」萌文書林

## 《事前・事後学習》

- ・「保育者の視点」で身のまわりの生活を考える時間を持つ。
- ・授業後は、ノートを整理し、学習内容の振り返りを行うこと。



大学院 博士前期課程 1 年次



# 教育学特論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

教育学は哲学や歴史学、心理学、社会学など他領域が複雑に入り組んだ学問であるために、その全体像を捉えることは難しい。教育学は全体としてどのような知であると考えたらよいのだろうか。そして、教育学を学んだり研究したりすることは、現実の教育をよりよく理解するためにどのような貢献をなすのだろうか。本講義では、修士（教育学）の修得を目指す者として、教育とは何か、教育学とは何か、教育学を学ぶことにはどのような意義があるのかといった点について理解を深めていく。と同時に、学術的なテキストを通読したり、要約して他者へプレゼンテーションをしたり、またその内容について受講生同士で議論したりといった演習を通して、専門書の読み方についても学んでいく。

## 《学生の到達目標》

教育学の成り立ちや教育学を学ぶことの意義について、これまで教育をめぐる積み重ねられてきた思想や実践を手がかりとして理解する。また、一連の学習を通して今日の教育課題解決への視野を広げる。

## 《授業計画》

1. 授業の概要と進め方について
2. 教育学と保育学
3. 文献購読の実践
4. 教育学とは①（教育の定義）
5. 教育学とは②（教育学の成立）
6. なぜ教育学を学ぶのか①（実践的教育学）
7. なぜ教育学を学ぶのか②（教育科学）
8. 教育学は社会の役に立つのか①（教育の不確実性）
9. 教育学は社会の役に立つのか②（教育可能性に向けたテクノロジー）
10. 教育学の未来①（ポストモダン論）
11. 教育学の未来②（教育目的の迷走）
12. 教育学の未来③（教育目的再構築論）
13. 受講生からの話題提供①
14. 受講生からの話題提供②
15. 全体の総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への参画50%、レポート課題50%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・広田照幸「ヒューマニティーズ 教育学」岩波書店

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前に指定したテキストの該当箇所を熟読し、疑問点等を明確にしてから授業に臨むこと。授業内で適宜読書案内を行うので、積極的に読むことが望ましい。

# 保育学特論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○  
担当 阿部 和子

## 《授業の概要》

人として生きていくための最初の土台を作り上げる乳幼児期の重要性に関しては、様々なエピソードを持って語れるようになってきている。本科目では、人として生きていく上での土台とは何か、それはどのように獲得されていくのかという点を検討する。方法は子どもの事実(観察されたエピソード)にこだわらず、その事実を子どもの主体性の視点から読み取り、一人一人の子どもの発達過程を理解することを基本とする保育のあり方を考える。

## 《学生の到達目標》

○子どもの事実(保育実践)から、一人一人の子どもの理解することを追求できるようになる。  
○保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとにして、子どもの発達や保育に対する知識や理論を深く学び、今後の乳幼児期の保育のあり方を追求する力を養う。

## 《授業計画》

1. 保育の意義－「他者と共に生きる」子どもの主体的な生活や遊びを支える
2. 生涯発達における乳幼児保育の重要性－特に3歳未満児保育の質が重要であるという根拠
3. 乳幼児期の教育の独自性－乳幼児期の保育の方法
4. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳未満）－学びの芽生えの時期の生活や遊びの質の探求1
5. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳未満）－学びの芽生えの時期の生活や遊びの質の探求2
6. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳未満）－学びの芽生えの時期の遊びの質の探求3
7. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳未満）－育みたい資質・能力を意識した乳児教育の実践
8. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳以上）－学びの芽生えの時期の幼児教育
9. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳以上）－学びの芽生えの時期の生活や遊びの質の探求
10. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳以上）－0歳から就学前までの発達の連続性と内容の連続
11. 乳幼児の発達に応じた保育（3歳以上）－育みたい資質・能力を意識した幼児教育の実践
12. 乳幼児保育の環境（3歳未満）－乳幼児期にふさわしい体験・経験が蓄積される環境の創造
13. 乳幼児保育の環境（3歳以上）－乳幼児期にふさわしい体験・経験が蓄積される環境の創造
14. まとめ－乳児保育の質の向上に関する課題（各自のテーマの追求）
15. まとめ－幼児保育の質の向上に関する課題（各自のテーマの追求）

## 《成績評価の基準・方法》

1から13回のテーマに関する学びの小レポートの提出60%、14回と15回のレポート各20%をもとに総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

本科目の内容と自らの論文テーマと関連づけて考えるようにする。乳幼児期の発達や保育についての文献を広く深く読む努力をする。

# 幼児教育学特論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★大方 美香

## 《授業の概要》

幼児教育の質の改善が求められ久しいが、子どもと向き合っている保育現場から発信されているとはいえない面がある。特に、国の基準である保育所保育指針及び幼稚園教育要領にどう近づくかは議論されても保育現場から要領や指針を豊かにし具体化する発信は極めて少なく、極端な場合には指導計画の編成は行政用に作られているケースもあり指導案もまた同様である。本講義では保育の基礎概念、教育と発達の関係、指導と援助の関係、ひいては、経験主義と系統主義の関係を対立的に議論。すなわち、どちらがよいかではなく融合の方向を提示して長期指導計画を例にして検討する。

## 《学生の到達目標》

1) 長期指導計画の編成の展望を持つ。2) 現代の幼児教育の主要な言説を知り、評価する専門的な力を持つ。3) 以上を通して自分の保育実践のありかたを振り返る専門性を持つ。

## 《授業計画》

1. 現代の幼児教育の課題—保育の捉え方を明確に—
2. 幼児教育学が避けて通れない課題（保育か教育か、指導か援助か、子ども中心か系統性か）
3. 幼稚園教育要領をどう読むか
4. 保育所保育指針をどう読むか
5. 要領・指針のが立脚している経験主義・子ども中心主義の考え方 1—J.Dewey
6. 要領・指針のが立脚している系統主義の保育の考え方 2 ヴィゴツキー・コスチューク論文
7. 討論
8. 指導計画編成論を通して保育学を確立する
9. 年間指導計画の事例検討 1
10. 年間指導計画の事例検討 2
11. 討論 年間指導計画の編成をどう進めるか
12. 期別指導計画の事例検討 1
13. 期別指導計画の事例検討 2
14. 討論 期別指導計画の編成をどう進めるか
15. 幼児教育の方向性について

## 《成績評価の基準・方法》

日常点50%とレポート50%で評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

3回の討論が重要なのでテーマについて自分の考察を考えていただきたい。

# 発達心理学特論

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 小椋 たみ子

## 《授業の概要》

特に乳幼児期の子どもの発達について言語発達を中心に概説する。本講義では言語発達過程の概観、言語獲得の基礎となる音声知覚の発達、認知発達、社会性の発達、運動発達や書きことばの発達、言語と思考の関係などについて概説する。人格発達や発達心理学の基礎となる環境整備が重要かについて、児童や保育者がどのように子どもにかかわり、どのような環境整備が重要かについての基礎知識を提供する。また、保育所保育指針解説書に記載された事項についての検討も併せて行う。

## 《学生の到達目標》

人間が生まれながらにもつ生得的能力と環境との相互作用により人間は発達していくこと、また、環境からの働きかけがいかに重要であるかについて言語の発達を通して学ぶ。子どものゆたかな発達を育むための保育、幼児教育の基礎となる知識を習得する。

## 《授業計画》

1. 言語発達の基礎：言語の役割、言語獲得における生得性と環境の役割について概説する。
2. 言語発達の生物学的・神経学的基盤について概説する。
3. 言語獲得を可能にする乳児の優れた能力について概説する。
4. 音声知覚、音韻の発達について概説する。
5. 言語獲得の社会的基礎：社会的認知能力とコミュニケーション能力の発達を概説する。
6. 言語獲得の認知的基礎：物理的世界の認知能力、運動能力について概説する。
7. 言語発達の概観：言葉の獲得について概説する。
8. 言語発達の概観：文法発達について概説する。
9. 言語発達の概観：語用の発達について概説する。
10. 言語発達の個人差とその要因について概説する。
11. 言語発達の社会文化的要因：養育者の言語入力と言語発達について概説する。
12. 書き言葉の発達、言語と思考の関係について概説する。
13. 言語発達の教育的側面：保育の質が言語発達へ及ぼす影響について概説する。
14. 言語発達評価の方法と支援の視点について概説する。
15. 言葉にかかわる現代社会の課題について概説する。

## 《成績評価の基準・方法》

各授業への参画20%、各講義後に提出する授業に関するレポート20%、全講義後に提出するレポート60%で評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・小椋たみ子・小山正・水野久美「乳幼児期のことばの発達とその遅れ：保育・発達を学ぶ人のための基礎知識」ミネルヴァ書房・小椋たみ子・遠藤利彦・乙部貴華「言葉・非認知的な心・学ぶ力」中央法規 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・岩立志津夫・小椋たみ子「よくわかる言語発達改訂新版」ミネルヴァ書房。他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

テキストを熟読し、引用文献にあたる。子どもの言語発達とその基盤の能力について実際に子どもとかわり、観察し、理解する。

# 小児医学特論 I

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 鈴木 裕子

## 《授業の概要》

少子化が進行する現在日本の人口動態や国民衛生の動向には常に関心を持つ。子どもの身体的・生理的特性を各年齢区分に応じて理解し、その上で子どもが病気になる時に示す様々な症状・徴候を速やかに把握、的確に評価する。子どもが罹患しやすい代表的な疾患を学習して、保育能力の向上に努める。身体的な面からだけでなく、子どもの心のケアにも対応できるように努める。予防接種を中心とした予防医学の現状を把握し、その積極的な推進方法、相談技法が培えるよう学修する。

## 《学生の到達目標》

日常よく見る子どもの様々な症状の的確な把握と評価、適切な初期対応、医療機関との連携など子どもの健康を第一線で担うという自覚と高度な保育能力の涵養に努力する。また子ども理解を含め、現在社会で問題になっている様々な保健・医療問題が理解できるように基礎知識の充実を図ることを目的とする。

## 《授業計画》

1. 人口動態、小児期の区分、身体の特徴
2. 子どもの成長
3. 子どもの発達
4. 子どもの口腔衛生
5. 事故防止
6. 喫煙の害、受動喫煙
7. 子どもの病気の主要症状1
8. 子どもの病気の主要症状2
9. 子どもの病気（呼吸器疾患1）
10. 子どもの病気（呼吸器疾患2）
11. 子どもの病気（消化器疾患）
12. 子どもの病気（学校感染症）
13. 子どもの病気（アレルギー）
14. 予防接種
15. 教科のまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

課題レポート30%、授業への取り組み70%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

こどもに関するさまざまな話題に敏感に感じていること、こどもが健やかに成長できるように必要な知識を学修する。

# 子ども心身医療特論 I

1 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 村上 佳津美

## 《授業の概要》

幼保育・学校の場では自然に子どもの発育・発達をみているが、改めて心身医学の視点から「身体」「精神」を等分に見ると共に、改めて両者の関係をしっかりとみる目を養うようにする。日常生活からみえてくる子どもの姿の中で、学問的に学ぶ身体と精神の発達に捉われない「生きた知識」を学問的に捉える目を養ってもらう。

## 《学生の到達目標》

基本的な心身医学・心身症の知識を習得する。身近な心身症以外にも、子どもの病気を心身症として捉える目を育てる。

## 《授業計画》

1. 身体と心の関係
2. 感覚の重要性
3. 感覚の発達を、阻害する現代社会
4. 乳幼児期の心身症
5. 学童の心身症
6. 思春期の心身症と成人の心身症
7. 虐待
8. いじめ
9. 思春期の反社会的行動を予防する幼児期の対応
10. 子どもの神経症と精神病
11. 発達症を心身医学的に考察する（1）
12. 発達症を心身医学的に考察する（2）
13. 親の問題を適切に捉え、どのように対応するのか
14. 心身医学の考えを自分の日常に活かす生活を考える
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%） 関心度（20%） 発表（20%）で評価する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

大学や職場でのあらゆる経験を整理しておく。子どもが病気を持つ、持たないに関わらず、心身医学の視点から子どもの問題をみるように心がける。知らないことは些細なことでも担当者へ尋ね、知識を深めていく積極性をもって欲しい。

# 保育研究調査法Ⅰ

1年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 金重 利典

## 《授業の概要》

保育・教育研究には、質問紙等を通して得られた数値化したデータを統計的に分析する量的研究と、観察・面接を通して得られた記述データを分析する質的研究がある。この科目では、量的研究を行うために必要な理論と統計手法を学び、実際に関連性（相関係数、 $\Phi$ 係数、カイ二乗検定）・群の比較（t検定、分散分析）の分析についての実習をSPSSを用いて行う。

## 《学生の到達目標》

1. 量的研究に触れ、量的研究の論文の書き方を理解する
2. 統計的分析の種類を理解し、実際の統計ソフトを用いた分析方法を身に付ける
3. 自身の研究計画を立案し、それに即したデータ収集法・分析方法を選択するためのスキルを身に付ける

## 《授業計画》

1. ガイダンス
2. 研究の種類と方法
3. 論文の構成とアカデミックライティング
4. 論文の構成と書き方
5. 論文の構成と研究計画（量的研究）
6. 質問紙の作成と調査の実習①：質問紙に必要な要素
7. 質問紙の作成と調査の実習②：質問紙作成
8. 統計的仮説検定、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定
9. エクセル・SPSSを用いた分析方法の基礎
10. 関係性を分析する①：パラメトリック検定（ピアソンの積率相関係数）
11. 関係性を分析する②：ノンパラメトリック検定（カイ二乗検定、 $\Phi$ 係数）
12. 群の比較①：研究計画と分析（対応のある・なし、被験者間・内）
13. 群の比較②：t検定
14. 群の比較③：1要因分散分析・多重比較
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業内の発表（30%）＋授業内課題（70%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・南風原 朝和・下山 晴彦・市川 伸一「心理学研究法入門―調査・実験から実践まで」東京大学出版会・小塩 真司「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」東京図書

## 《事前・事後学習》

各回の授業において、振り返りのための資料と、次回に向けての事前資料等を配布するので、授業前後でそれらの資料を読んでおく。

# 保育研究調査法Ⅱ

1年次  
1単位（演習）  
資格 なし  
担当 谷口 康祐

## 《授業の概要》

保育・教育研究には、質問紙等を通して得られた数値化したデータを統計的に分析する量的研究と、観察・面接を通して得られた記述データを分析する質的研究がある。この科目では、質的研究の手法を学び、実際に観察・面接を行うことで、データ収集の方法やその分析方法についての理解を深める。

## 《学生の到達目標》

1. 質的研究に触れ、質的研究の論文の書き方を理解する。
2. 観察法・面接法に必要な知識を理解し、質的データの収集法・分析法を習得する。
3. 自身の研究計画を立案し、それに即したデータ収集法・分析方法を選択するためのスキルを身に付ける

## 《授業計画》

1. ガイダンス
2. 研究の種類と方法
3. 論文の構成と研究デザイン
4. 質的研究のデザイン
5. 面接法①：手法の理解と計画
6. 面接法②：データ収集
7. 面接法③：データ分析
8. 観察法①：手法の理解と計画
9. 観察法②：データ収集
10. 観察法③：データ分析
11. 文献講読①
12. 文献講読②
13. 文献講読③
14. 文献講読④
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

平常点：30%  
授業内課題：70%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・ウヴェ・フリック著 小田博志監訳「新版 質的研究入門 ―<人間の科学>のための方法論」春秋社・大谷尚「質的研究の考え方 ―研究方法論からSCATによる分析まで」名古屋大学出版会

## 《事前・事後学習》

事前学習：自身の研究内容について整理しておく。  
事後学習：各回の授業において振り返りのための資料を配布するので、授業前後でそれらの資料を読んでおく。

# 国語科教育特論

1年次→2年次

2単位（講義）

資格 小○

担当 棚橋 尚子

## 《授業の概要》

保幼小連携の立場から、初等科国語の目標や内容を概観し、小学校国語科の授業で何が求められどのような実践が展開されているか考えていく。なお、その際、講義以外に、以下の手法を活用する。

- ① 初等科国語の課題に対するディスカッションやプレゼンテーション
- ② 言葉に親しめるかるた作品の実作と発表

また、授業展開時の社会情勢によっては、zoom等を活用した双方向型授業、課題作成を行うための自主学習となる場合もある。

## 《学生の到達目標》

本授業の到達目標は以下のとおりである。

- 【知識・理解】初等科国語で扱う言葉の知識や運用について説明することができる。
- 【思考・判断】初等科国語の教材について、児童の学力に鑑み適否を考えることができる。
- 【技能・表現】課題に対して、資料を活用しながら発表することができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（受講者の経験から幼児や児童の言葉を考える）
2. 保幼小連携からみた言語的な問題点を考える
3. 小学校で求められる国語の力とは（1）PISA調査と日本
4. 小学校で求められる国語の力とは（2）学習指導要領について学ぶ
5. 日本語の特徴と指導 漢字指導を考える（1）
6. 日本語の特徴と指導 漢字指導を考える（2）
7. 「読むこと」の指導
8. 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導
9. 「読書指導」を考えるー読み聞かせ、ブックトークー
10. 入門期の国語科の指導について
11. 入門期の教科書を検討する
12. かるたと言葉の指導
13. 言葉に関するかるたの実作
14. かるたの発表と実践
15. 講義のまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

- 毎回提出するミニレポート（60%）
- かるたの実作とプレゼンテーション（20%）
- 抗議を振り返っての最終レポート（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」東洋館出版社・「くこーじ かざぐるま」光村図書  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

毎回次時の授業について内容の予告をしますので、関係する資料などに目を通しておいてください。事後学習としては、毎回のレポートで授業内容を考察していただきます。

# 社会科教育特論

1年次→2年次

2単位（講義）

資格 小○

担当 ★武部 浩和

## 《授業の概要》

スクールリーダー養成をめざす社会科教育実践論の講義・演習である。フィールドマイニングによる自校園区の教材開発、カリキュラム・マネジメントによる自校園の強みの探究、保育・幼児教育と小学校教育の「接続」、子ども理解と授業改善のための学習評価、教育改革としての社会科教育などについて相互の実践研究を共有していきたい。

## 《学生の到達目標》

- 社会科教育の魅力や強み、可能性を理解している。
- フィールドマイニングによる教材開発のスキルを修得している。
- カリキュラム・マネジメントの基礎理論を理解している。
- 保育・幼児教育と小学校教育の「接続」について省察・改善しようとしている。
- 教育DXとシティズンシップ教育の可能性について理解している。
- 「OECD EDUCATION 2030」や「令和の日本型学校教育」などについて理解している。

## 《授業計画》

1. 社会科教育の魅力や強み
2. フィールドマイニングと地域教材の開発
3. カリキュラム・マネジメントによる自校園の理解
4. 教職員エージェンシーの省察
5. ソーシャルキャピタルの省察
6. スタートカリキュラムの省察
7. 保育・幼児教育と生活科実践
8. 保育・幼児教育と社会科実践
9. 保育・幼児教育と総合的な学習の時間の実践
10. 子ども理解と授業改善のための学習評価
11. シティズンシップ教育としての社会科教育
12. 教育DXとシティズンシップ教育
13. 「OECD EDUCATION 2030」の読み方と使い方
14. 「令和の日本型学校教育」の使い方
15. 総括「保育・幼児教育と小学校教育が往還する社会科教育とは」

## 《成績評価の基準・方法》

出席30%・提出物30%・レポート40%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

教育改革・コロナ禍等の真只中に生きる実践者・研究者の研究意欲に期待しています。日々の子どもの理解、実践等を本講義・演習に持ち込んでください。事前・事後の研究等については、その都度、提案します。

# 音楽科教育特論

1年次→2年次  
2単位（講義）  
資格 小○  
担当 峯 恭子

## 《授業の概要》

・音楽教育学や音楽教育研究、また今日の社会における音楽的事象に関する基礎的文献を講読したり、映像資料を視聴したりして、音楽教育分野の現代的な学問の潮流を理解する。  
・音楽教育の学問領域で注目される研究テーマを取り上げ、ディスカッションを行ったり、音楽教育の諸理論の検討を通して、音楽科教育における現代的諸課題を概観し、音楽科教育の課題と展望について考察する。  
・自己の音楽科教育の問題意識を深め、学校教育における音楽科全体を俯瞰する力を獲得する。

## 《学生の到達目標》

・音楽教育研究の様々な領域と、音楽科教育の理論と方法に関する知識の習得とその理解を踏まえて、自分なりの考えをまとめることができる。  
・音楽教育の歴史の変遷と特色ある音楽教育システムの検討を通して、音楽科教育の理念、内容、方法の課題について説明できる。  
・学校教育における音楽科教育の課題や現状について説明できる。

## 《授業計画》

1. イントロダクションー本講義の目的、概要ー
2. 音楽教育の歴史①：世界の音楽教育史
3. 音楽教育の歴史②：日本の音楽教育史
4. ベスタロッチ主義唱歌教授法、ソルミゼーションの発展
5. 音楽教育の諸理論①：特色ある音楽教育システムーダルクローズの音楽教育
6. 音楽教育の諸理論②：特色ある音楽教育システムーオルフの音楽教育
7. 音楽教育の諸理論③：特色ある音楽教育システムーコダーイの音楽教育
8. 音楽教育の諸理論④：特色ある音楽教育システムーシュタイナーの音楽教育
9. 音楽教育の諸理論⑤：特色ある音楽教育システムーサウンドエデュケーション
10. 音楽教育の諸理論⑥：特色ある音楽教育システムー創造的音楽学習
11. 授業研究における実践報告のレビュー
12. 質的研究法量に基づく先行研究のレビュー
13. 量的研究法に基づく先行研究のレビュー
14. 音楽教育学研究のテーマに関するディスカッション
15. 総括ー音楽科教育の現状と課題

## 《成績評価の基準・方法》

授業内課題50%、授業内ディスカッション50%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

提示された課題や授業内で扱う論文等については事前に要約する等の準備を行なってください。

# 教育方法学特殊講義 I

1年次→2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 常盤 豊

## 《授業の概要》

幼児教育から大学教育、社会人教育に至るまで、言語力の育成や学習意欲の向上は基本的な課題である。児童生徒の学力や学校の教育力を向上させるために、学習評価、カリキュラム・マネジメント、学校評価、教員研修などの仕組みが設けられており、それらの相互関係や教育と評価の関係について、講義・討論・演習を通じて学ぶ。

## 《学生の到達目標》

講義を踏まえて、言語力の育成や学習意欲の向上、教育と評価との関係に関するいくつかの課題について理解したうえで、その内容について分かりやすく説明できることをめざしましょう。

## 《授業計画》

1. 言語活動と言語力の育成
2. 国際学力調査と読解力
3. 討論・演習
4. 体験活動と学習意欲
5. 討論・演習
6. 学習評価
7. 討論・演習
8. 教員の指導力
9. カリキュラム・マネジメント
10. 討論・演習
11. 学校評価と校内研究
12. 討論・演習
13. 開かれた学校・教育課程
14. 討論・演習
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

レポート70%、授業参画30%で総合的に評価する。  
授業に積極的に参加し、講義内容を理解し、分かりやすく説明することが期待される。学びに取り組む態度や伸びも期待される。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

幼稚園教育要領又は小・中学校の学習指導要領の総則を読むとともに、適宜配布するプリントの興味のある箇所を精読する。

# こども学特殊講義

1年次→2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★木野 稔

## 《授業の概要》

「子どもは生物学的な存在として生まれ、社会的な存在として育つ」といわれる。つまり、医学・生物学的な立場から見た子どもだけでなく、社会的文化的立場から見た子どもについて考えなければならぬ。子ども・子育て、保育・幼児教育や小学校教育にかかわる事象について多様な視点から検討を深め、さらには子ども・子育てをめぐる課題について探求していく。

## 《学生の到達目標》

子どもおよびそこに関わる事象について理解する。こども学は医学・保健学分野のみならず心理学、保育学など学際的であり、子どもの発育（成長、発達）を包括的にとらえることができるようにする。一つの課題に対して多面的に事象を理解する。加えて親子関係や価値意識・倫理観形成などについても、社会状況を通して現代的課題の解決方法について探求する。

## 《授業計画》

1. 当該授業についてのガイダンス
2. こども・子育てにかかわる研究についての基礎的理解
3. 生物的存在としての子ども理解 ① 成長とは
4. 生物的存在としての子ども理解 ② 発達とは
5. 生物的存在としての子ども理解 ③ 免疫とは
6. 生物的存在としての子ども理解 ④ 栄養とは
7. 社会的存在としての子ども理解 ① 育児の原点
8. 社会的存在としての子ども理解 ② 成長発達の課題
9. 社会的存在としての子ども理解 ③ 母子相互作用について
10. 社会的存在としての子ども理解 ④ ストレスとレジリエンス
11. 子ども・子育てに関する課題 ① 少子化時代の子育て観
12. 子ども・子育てに関する課題 ② 情報化社会の子育て観
13. 子ども・子育てに関する課題 ③ 子ども子育て支援新制度
14. 子ども・子育てに関する課題 ④ これからの保育・教育を考える
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

本授業では各課題や事象について、学際的理解度を評価する。自身の保育観や体験から積極的に発言して、多様な視点から検討する姿勢を求める。そのため、評価は授業における参加姿勢を40%、そして提出するレポートでの検討内容を60%として総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回学習内容を把握し発言できるように準備する。事後学習としては、レポート提出のための資料をまとめておく。

# 教育内容研究

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★神長 美津子

## 《授業の概要》

明治9年に我が国に幼稚園教育が導入されてからすでに140年以上が経過した。その展開経過を振り返ると明治30年代には託児所（保育所）が成立し、第二次世界大戦後は子どもの急増に伴い保育所と幼稚園の二元制度として拡充されてきたが、近年は少子化の影響が強く、幼児教育の波が押し寄せている。この授業では、こうした我が国の保育制度の展開過程の中で、保育実践がどのように模索され確立してきたかを概観してみる。新しい幼稚園教育要領及び保育所保育指針、教育・保育要領についてをふまえ、今後の乳幼児教育について考える。

## 《学生の到達目標》

1. 保育所や幼稚園などにおける保育実践について具体的に理解する。2. それぞれの時代の保育実践の背景にある子ども観、発達観、教育観などについて理解する。3. 関心のある保育実践のテーマの歴史を振り返り、そこに含まれている保育内容や方法が、どのような経過により取り入れられてきたかを、資料の読み取り方を学んでいく。

## 《授業計画》

1. 明治期・大正期の幼稚園教育
2. 保育要領の刊行とその背景
3. 幼稚園教育要領の変遷とその背景
4. 保育所保育要領の変遷とその背景
5. 幼児教育のカリキュラムの考え方
6. 幼児に適した保育環境や保育実践
7. 養護と教育の一体の考え方
8. 現行の幼稚園教育要領とその背景
9. 現行の保育所保育指針とその背景
10. 現行の幼保連携型認定こども園教育・保育要領とその背景
11. 長時間保育の現状と課題
12. 乳児教育から幼児教育への連続性の確保
13. こども園のカリキュラムと課題
14. 幼児教育と小学校教育との架け橋プログラム
15. まとめと考察

## 《成績評価の基準・方法》

本授業では資料を基にして保育内容がどう形成されてきたかについて、自分の保育体験と絡めながら積極的に話し合いに参加し、多様な視点から検討する姿勢を求めている。そのため評価は授業における参加姿勢を50%、そして提出していただく報告書での検討内容を50%として、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

各自、提出資料をまとめておくこと。

# 教育実践研究Ⅰ

1年次  
1単位（演習）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★松岡 宏明

## 《授業の概要》

幼児造形教育、小学校図画工作科教育に関する先行研究・実践に触れ、その目標や内容、展開、評価の実際とあり方を検討することを通して、受講者が自らの研究の進展につながる新たな視点を発見する。授業形態として、常にディスカッション形式を取り入れるとともに、個人やペアでのプレゼンテーションの機会等を度々設ける。

## 《学生の到達目標》

幼児造形教育、小学校図画工作科教育に関する先行研究・実践を分析し、その意義や現状・課題を把握する。また、受講生がそれらを自らの研究課題に照射し、援用できる視点を発見し、具体的に生かしていく視座を得る。

## 《授業計画》

1. 幼児教育と造形教育
2. 領域「表現」と造形
3. 初等教育と図画工作
4. 学習指導要領と図画工作
5. 幼児造形教育の現状と課題
6. 小学校図画工作科の現状と課題
7. 幼児造形の範囲と図画工作科の内容
8. 「造形遊び」の指導についての先行研究・実践の分析
9. 「造形表現（絵や立体、工作）」の指導についての先行研究・実践の分析
10. 「鑑賞」の指導についての先行研究・実践の分析
11. 受講生が収集した先行研究についての発表
12. 受講生が収集した先行研究についての議論
13. 受講生が収集した先行研究についての議論を踏まえた自己課題の発見
14. 受講生が収集した先行研究についての議論を踏まえた自己課題の交流
15. 美術（造形、図画工作）教育の視点の生かし方、まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

討論・演習40%、レポート60%を基本としながら、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・松岡宏明「子供の世界 子供の造形」三元社、授業内で購入可

## 《参考書》

・大橋功、松岡宏明他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版・神林恒道他監修、松岡宏明他編著「美術教育ハンドブック」三元社・新聞伸也、松岡宏明編著「ルーブリックで変わる美術鑑賞学習」三元社

## 《事前・事後学習》

各回における参考資料（前の回で紹介）を熟読しておくこと。また授業内で紹介する文献を自ら収集し、目を通すこと。さらに、指定回以降に、レポートの構想づくり、執筆に入る。レポートは返却された後、修正を施し、保存の上、その後の研究に生かすこと。

# 教育実践研究Ⅱ

1年次  
1単位（演習）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★神長 美津子

## 《授業の概要》

子どもの教育・保育は、いかなる学習環境のもとでどのような指導をなすべきかという根本的な課題に対して、理論的基礎に依りながらも実践的な内容や方法を基とする能力の習得を目指す必要がある。このため、本授業においては、文献資料の読解を主とする。本授業では、幼児期から児童期にかけての発達過程に焦点を当て、その教育実践を考える。

## 《学生の到達目標》

よりよい教育・保育の実践を目指し、教育・保育実践にかかわる文献資料、学会誌等により、研究の動向を把握する。特に、幼児期から児童期への発達過程を捉えた教育実践のビデオから、その教育実践の解釈、討議に基づき、幼児期と、及び幼児期から児童期にかけての教育実践の課題を整理する。これらに基づき、幼児教育から小学校教育への円滑な接続の課題を整理する。

## 《授業計画》

1. 授業の趣旨・目標と演習の進行について説明
2. 学会誌等から、幼児期の遊びに対する研究動向を把握
3. 学会誌等から、遊びの中での学びについての研究動向を把握
4. 教育実践ビデオの解析・討議（環境と活動）
5. 教育実践ビデオの解析・討議（教師の援助）
6. 教育実践ビデオの解析・討議（子ども同士の関係）
7. 遊びを通しての総合的な指導の実践の解析
8. 一人一人に応じた指導の実践の解析
9. 主体的・対話的で深い学びの実践の解析
10. 幼児理解に基づいた評価と保育記録の実際の理解
11. 幼児教育と小学校教育との比較的理解
12. スタート・カリキュラムの考え方の理解
13. 幼児教育と小学校教育との架け橋プログラムの理解
14. 幼児教育から小学校教育への円滑な接続についての討論
15. まとめ（課題の整理）

## 《成績評価の基準・方法》

研究成果のレポート（60%）  
毎回授業の討論への参加の態度（40%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・永井聖二/神長美津子「幼児教育の世界」学文社・小田豊/榎沢良彦「新しい時代の幼児教育」有斐閣アルマ・神長美津子/津金美智子/河合優子/塩谷香「教育課程論」光生館  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、指定する資料を読み、予め学習内容を把握しておく。事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために、講義後は、ノートを整理し、授業内容を振り返る。また、適宜、参考書を読み、学習内容に対する理解を深めてほしい。

# 子どもと表現研究

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★松岡 宏明

## 《授業の概要》

本授業では、特に幼児の造形表現について、先行研究を分析しながら考察を深めるとともに、幼児の造形活動や作品を鑑賞・分析することを通してその世界観を理解する。また、未分化な幼児の表現を引き出す方法について議論を深める。授業形態として、常にディスカッション形式を取り入れるとともに、ペアでのプレゼンテーションの機会等を度々設ける。

## 《学生の到達目標》

幼児の造形の研究には、発達の、特徴的、美的・造形的、心理的の四つの側面からアプローチできることを理解するとともに、それぞれについての先行研究を批判的に検討する。また、幼児の造形活動や作品を鑑賞・分析することを通して、その世界観が「未分化性」に集約されることを認識する。そして、未分化な幼児の表現を引き出す方法について自分なりの幼児造形表現指導観を構築する。

## 《授業計画》

1. 子供の表現とその世界観①（子供と大人の違い）
2. 子供の表現とその世界観②（子供と造形活動の親和性）
3. 子供の造形への発達のアプローチ①（なぐり描き期～図式期）
4. 子供の造形への発達のアプローチ②（前写実期～芸術的復活期）
5. 子供の造形への特徴的アプローチ①（頭足人、アニミズム、基底線等）
6. 子供の造形への特徴的アプローチ②（積み上げ遠近法、集中構図、展開図描法等）
7. 子供の造形への美的・造形的アプローチ①（子供と芸術家の作品の比較鑑賞）
8. 子供の造形への美的・造形的アプローチ②（芸術的発達のU字カーブ）
9. 子供の造形への心理的アプローチ①（形と構図）
10. 子供の造形への心理的アプローチ②（色）
11. 領域「表現」と「造形」
12. 園における造形活動の範囲及び未分化な子供の造形表現の引き出し方
13. 発達と特徴に応じた造形表現指導の展開
14. 発達と特徴に応じた題材設定の方法
15. 造形表現を豊かに育む環境

## 《成績評価の基準・方法》

討論・演習40%、レポート60%を基本としながら、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・松岡宏明「子供の世界 子供の造形」三元社、授業内で購入可

## 《参考書》

・大橋功、松岡宏明他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版

## 《事前・事後学習》

各回における教科書の該当ページを熟読しておくこと。また授業内で紹介する文献を収集し、目を通すこと。さらに、指定回以降にレポートの構想づくり、執筆に入ること。レポートは返却された後、修正を施し、保存の上、その後の研究に生かすこと。

# 生涯教育学研究

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 咲間 まり子

## 《授業の概要》

授業の前半は多文化共生社会について、諸外国や日本の現状をふまえて、外国につながる子どもや保護者への支援の実践を学び、多文化保育・教育のあり方について議論を概観する。さらに、各分野についての新しい知見が身に付けられるように議論を深める。授業の後半では、乳幼児の諸問題から可能性や限界性を検討し、生涯教育的観点から議論を深めていく。

## 《学生の到達目標》

- ①少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を備えることができる。
- ②日常生活の話題を取り上げながら、文化によって異なる多様な価値観について、母語と外国語の視点からコミュニケーションを通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーションや他者理解の基礎を培うことができる。
- ③言語の違いを超えた相互理解のために、どのような工夫ができるのかを探索することができるようになる。
- ④生涯教育・学習との接点について検討し、知見を広げていく。

## 《授業計画》

1. アイスブレイク—まずはお互いを知らしましょう—
2. 多文化主義と同化主義について
3. 在日外国人の動向と福祉ニーズ
4. 行政の多文化共生への取り組み
5. 受講者による話題提供①自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について
6. 受講者による話題提供②自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について
7. 受講者による話題提供 - 自分の住んでいる地域 - について学修者間でディスカッション
8. 日本の多文化共生に関わる具体的政策課題を解決するには
9. 生涯教育・学習との接点について
10. 社会参加への準備としての基礎教育
11. 社会生活を営みながら行う成人教育
12. 受講者による話題提供①—各国における生涯教育
13. 受講者による話題提供②—各国における生涯教育
14. 受講者による話題提供 - 各国における生涯教育について - 修者間でディスカッション
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業に取り組む姿勢/発表を含む（70%）、課題（30%）によって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・咲間まり子「保育者のための外国人保護者支援の本」（株）かもがわ出版・咲間まり子「多文化教育・教育論」（株）みらい

## 《事前・事後学習》

・乳幼児期教育や青年期教育の研究を国際的な視野を踏まえて比較研究ができるように、日ごろから新聞や関連書籍を読むなどとして、自分の考えを明確にするよう努めること。

# 教育心理学特論

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 谷口 康祐

## 《授業の概要》

教育場面における子どもの学びに関わる概念として、知能、認知能力がある。WISCなどの知能検査は、教育心理学や認知心理学の研究知見を取り入れつつ改訂が進められてきた。この科目では、認知心理学に関する知見を学び、知能の測定についての理解を深める。それによって、個々の子どもの特性に応じた教育の方法、内容、環境、支援について検討するための視座を提供する。

## 《学生の到達目標》

・認知心理学の基礎的内容の内容から、知能検査（WISC-IVなど）によって測定される能力を理解する。  
・子どもの認知能力の発達の見点から、より効率的な教育や支援に考える視点を獲得する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 認知：感覚・知覚
3. 認知：注意・意識
4. 認知：学習①
5. 認知：学習②
6. 認知：記憶①
7. 認知：記憶②
8. 認知：思考
9. 認知：動機づけ
10. 知能とは
11. 知能の構造
12. 知能の測定
13. 発達障害
14. 教育方法
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

課題発表・討論への参加などの授業への取り組み：50%  
レポート：50%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・藤原和弘・谷口弘一「学校現場で役立つ教育心理学 教師をめざす人のために」北大路書房

## 《事前・事後学習》

事前学習として、配布資料や関連文献を読み、予習を行う。事後学習として、認知能力の見点から保育・教育現場における子どもの姿や支援のあり方について考察する。

# 教育心理学特殊講義

1年次→2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 遠藤 利彦

## 《授業の概要》

主に幼児期・児童期を対象とする教育心理学の代表的な理論とそれに基づく実証研究および実践応用に関して概説を行う。

## 《学生の到達目標》

主に幼児期・児童期を対象とする教育心理学の代表的な理論の基礎を習得し、それに基づく実証研究や実践応用を立案・遂行し得る能力とスキルを獲得する。

## 《授業計画》

1. 現代教育心理学序論1
2. 現代教育心理学序論2
3. 幼児期における発達と教育1
4. 幼児期における発達と教育2
5. 幼児期における発達と教育3
6. 幼児期における発達と教育4
7. 児童期における発達と教育1
8. 児童期における発達と教育2
9. 児童期における発達と教育3
10. 児童期における発達と教育4
11. 養護と教育の表裏一体性1
12. 養護と教育の表裏一体性2
13. 非認知能力の発達と教育1
14. 非認知能力の発達と教育2
15. 総括と展望

## 《成績評価の基準・方法》

出席状況（50%）+レポート成績（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

初回に指示を行う。

# 臨床発達心理学

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 小椋 たみ子

## 《授業の概要》

発達・適応上の諸問題を理解、支援するためには、臨床心理学、発達心理学、特別支援教育などの広い視点から生起している問題について理解し、支援方法を考えることが重要である。本講義では、乳幼児期、児童期の障害をはじめとする臨床的問題をとりあげ、その理解の方法と支援の方法を考える。観察、検査実習や文献の講読や受講生がかかわった事例についての発表（アクティブラーニング）を講義後半で行い、理解を深める。

## 《学生の到達目標》

1. 発達・適応上の諸問題とその発生機序について理解する。
2. アセスメントの方法としての観察法、検査法、面接法について学ぶ。
3. 発達・適応上の問題をもつ事例に対する支援の方法を学ぶ。

## 《授業計画》

1. 臨床発達心理学、人を理解するための専門性について概説する。
2. 発達支援を必要としている人々（発達・適応上の問題とその理解）について概説する。
3. 乳幼児期の発達の課題と日本の健診制度について概説する。
4. 発達支援が必要な子どもの療育、教育、保育の歴史と制度について概説する。
5. 発達の障害：知的障害とその支援について概説する。
6. 発達障害とその支援（自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害）について概説する。
7. その他の障害とその支援について概説する。
8. 対象理解のための査定・検査・評価の方法について概説する。
9. 対象理解のための査定・検査・評価の方法について実習する。
10. 子どもの発達支援技法、家族支援について概説する。
11. 子どもの臨床発達の支援について文献を通して学ぶ。
12. 保育現場、臨床現場での子どもの査定と支援について受講生の事例発表を通して学ぶ。
13. 保育現場、臨床現場での子どもの査定と支援について受講生の事例発表を通して学ぶ。
14. 保育現場、臨床現場での子どもの査定と支援について受講生の事例発表を通して学ぶ。
15. 幼稚園、保育園などでの支援体制づくりと関連諸機関との連携について概説する。

## 《成績評価の基準・方法》

各授業への参画10%、各講義後に提出する授業に関するレポート20%、発表30%、全講義後に提出するレポート40%で評価する。

## 《授業で使用する教科書》

- ・尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子「よくわかる障害児保育(第2版)」ミネルヴァ書房。
- ・日本臨床発達心理士会 「臨床発達心理学実践研究」 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

- ・日本臨床発達心理士認定運営機構(監)「講座・臨床発達心理学①～⑤」ミネルヴァ書房・尾崎康子・三宅篤子「乳幼児期における発達障害の理解と支援①知っておきたい発達障害のアセスメント」ミネルヴァ書房・尾崎康子・三宅篤子「乳幼児期における発達障害の理解と支援②知っておきたい発達障害の療育」ミネルヴァ書房 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

発達支援の必要な子どもへの参与観察の記録、査定を行い、支援計画を作成し、実施する。

# 小児医学特論Ⅱ

1年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 儀間 裕貴

## 《授業の概要》

本教科の基本は、日頃遭遇する子どもの病気の講義であるが、院生には各種幼保施設で保育に直接従事しているスタッフ、保育責任者、施設経営者が多く、日頃現場で様々な問題に直面している。本講義では、その問題点を順次紹介してもらい、全員で討論するともに、講義担当者から適宜補足し、解説講義を行う。また各種関連学会に参加、発表する院生もいるので、講義時に伝達講習をしてもらい、保育分野で問題になっている事柄について共通認識を深めるよう全員参加型の講義を計画している。

## 《学生の到達目標》

小児医学特論Ⅰの学習事項を基礎として、日頃遭遇することが多い子どもの疾患を理解し、症状、治療方針に関して学習する。学会発表の伝達講習により専門分野の話題と進歩を学修する。各施設の問題点およびその解決方法を学修し、自園での保育、運営に役立てる。

## 《授業計画》

1. 子どもの熱中症の治療、初期療法
2. 保育現場の問題の提起および討論
3. 乳幼児の心肺蘇生
4. 関連学会での発表報告と討論
5. 子どものアレルギー疾患
6. 保育現場の問題の提起および討論
7. 病児を支える人たち
8. 関連学会での発表報告と討論
9. 子どもの病気（救急疾患）
10. 保育現場の問題の提起および討論
11. 乳幼児突然死症候群
12. 関連学会での発表報告と討論
13. コロナウイルス感染症について
14. 保育現場の問題の提起および討論
15. 教科のまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

課題レポート30%、授業への取り組み70%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前に資料等を熟読し、学習内容を把握しておく。事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 研究指導

1年次→2年次

0単位（演習）

資格 なし

担当 瀧川 光治, 小椋 たみ子, ★松岡 宏明, 渡辺 俊太郎, ★大方  
美香, ★埋橋 玲子, 平野 俊一朗, ★浅野 孝平, 佐伯 知子,  
★高根 栄美, 末次 有加, 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

各教員の専門性を生かし、修士論文の作成について個別ないしゼミ形式で丁寧に指導する。院生各自が自らの問題意識と適切な研究方法論に基づいて修士論文の構想を確立できるように指導・助言する。後期終了時には、修士論文中間発表会を開催し、全教員からの指導を受ける。

## 《学生の到達目標》

院生各自の多様な問題関心の中から自分にとって最も関心のあるテーマを選び、修士論文の構想を確立する。テーマに即した適切な研究方法論を習得する。

## 《授業計画》

1. 院生各自の問題関心と研究計画の把握
2. 院生各自の関心のあるテーマについての研究状況の紹介
3. 先行研究の検索・収集・整理
4. 修士論文の書き方について具体的な指導
5. 各自の関心のあるテーマでの発表と討論(1)
6. 各自の関心のあるテーマでの発表と討論(2)
7. 各自の関心のあるテーマでの発表と討論(3)
8. 各自の関心のあるテーマでの発表と討論(4)
9. 各自の関心のあるテーマでの発表と討論(5)
10. 各自の修士論文の構想発表(1)
11. 各自の修士論文の構想発表(2)
12. 各自の修士論文の構想発表(3)
13. 各自の修士論文の構想発表(4)
14. 各自の修士論文の構想発表(5)
15. 中間総括
16. 各自の修士論文の構想発表(6)
17. 各自の修士論文の構想発表(7)
18. 各自の修士論文の構想発表(8)
19. 各自の修士論文の構想発表(9)
20. 各自の修士論文構想の再検討(1)
21. 各自の修士論文構想の再検討(2)
22. 各自の修士論文構想の再検討(3)
23. 各自の修士論文構想の再検討(4)
24. 各自の修士論文構想の再検討(5)
25. 各自の修士論文構想の再検討(6)
26. 各自の修士論文構想の再検討(7)
27. 各自の修士論文構想の再検討(8)
28. 各自の修士論文構想の再検討(9)
29. 修士論文第1回中間発表会(2月下旬)
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

研究課題への取り組み状況 50% / 修士論文構想発表 20% / 修士論文中間発表会 30%を踏まえ、総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

修士論文の構想を確立するために、日頃から先行研究の収集・把握や研究理論や方法論の習得に励むこと。その過程で生じた疑問点等については、教員に相談できるようその都度明確にしておくこと。また、教員から受けた指導・助言の内容をよく吟味し、その後の研究に反映できるよう努めること。詳細については各教員の指示に従うこと。

大学院 博士前期課程 2年次



# 国語科教育特論

1 年次→**2 年次**  
2 単位（講義）  
資格 小○  
担当 棚橋 尚子

## 《授業の概要》

保幼小連携の立場から、初等科国語の目標や内容を概観し、小学校国語科の授業で何が求められどのような実践が展開されているか考えていく。なお、その際、講義以外に、以下の手法を活用する。

- ① 初等科国語の課題に対するディスカッションやプレゼンテーション
- ② 言葉に親しめるかるた作品の実作と発表

また、授業展開時の社会情勢によっては、zoom等を活用した双方向型授業、課題作成を行うための自主学習となる場合もある。

## 《学生の到達目標》

本授業の到達目標は以下のとおりである。

- 【知識・理解】初等科国語で扱う言葉の知識や運用について説明することができる。
- 【思考・判断】初等科国語の教材について、児童の学力に鑑み適否を考慮することができる。
- 【技能・表現】課題に対して、資料を活用しながら発表することができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（受講者の経験から幼児や児童の言葉を考える）
2. 保幼小連携からみた言語的な問題点を考える
3. 小学校で求められる国語の力とは（1）PISA調査と日本
4. 小学校で求められる国語の力とは（2）学習指導要領について学ぶ
5. 日本語の特徴と指導 漢字指導を考える（1）
6. 日本語の特徴と指導 漢字指導を考える（2）
7. 「読むこと」の指導
8. 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導
9. 「読書指導」を考えるー読み聞かせ、ブックトークー
10. 入門期の国語科の指導について
11. 入門期の教科書を検討する
12. かるたと言葉の指導
13. 言葉に関するかるたの実作
14. かるたの実作と実践
15. 講義のまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

- 毎回提出するミニレポート（60%）
- かるたの実作とプレゼンテーション（20%）
- 抗議を振り返っての最終レポート（20%）

## 《授業で使用する教科書》

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」東洋館出版社・「くこー上 かざぐるま」光村図書  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

毎回次時の授業について内容の予告をしますので、関係する資料などに目を通しておいてください。事後学習としては、毎回のレポートで授業内容を考察していただきます。

# 社会科教育特論

1 年次→**2 年次**  
2 単位（講義）  
資格 小○  
担当 ★武部 浩和

## 《授業の概要》

スクールリーダー養成をめざす社会科教育実践論の講義・演習である。フィールドマイニングによる自校園区の教材開発、カリキュラム・マネジメントによる自校園の強みの探究、保育・幼児教育と小学校教育の「接続」、子ども理解と授業改善のための学習評価、教育改革としての社会科教育などについて相互の実践研究を共有していきたい。

## 《学生の到達目標》

- 社会科教育の魅力や強み、可能性を理解している。
- フィールドマイニングによる教材開発のスキルを修得している。
- カリキュラム・マネジメントの基礎理論を理解している。
- 保育・幼児教育と小学校教育の「接続」について省察・改善しようとしている。
- 教育DXとシティズンシップ教育の可能性について理解している。
- 「OECD EDUCATION 2030」や「令和の日本型学校教育」などについて理解している。

## 《授業計画》

1. 社会科教育の魅力と強み
2. フィールドマイニングと地域教材の開発
3. カリキュラム・マネジメントによる自校園の理解
4. 教職員エージェンシーの省察
5. ソーシャルキャピタルの省察
6. スタートカリキュラムの省察
7. 保育・幼児教育と生活科実践
8. 保育・幼児教育と社会科実践
9. 保育・幼児教育と総合的な学習の時間の実践
10. 子ども理解と授業改善のための学習評価
11. シティズンシップ教育としての社会科教育
12. 教育DXとシティズンシップ教育
13. 「OECD EDUCATION 2030」の読み方と使い方
14. 「令和の日本型学校教育」の使い方
15. 総括「保育・幼児教育と小学校教育が往還する社会科教育とは」

## 《成績評価の基準・方法》

出席30%・提出物30%・レポート40%

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

教育改革・コロナ禍等の真只中に生きる実践者・研究者の研究意欲に期待しています。日々の子どもの理解、実践等を本講義・演習に持ち込んでください。事前・事後の研究等については、その都度、提案します。

# 音楽科教育特論

1 年次→**2 年次**  
2 単位（講義）  
資格 小○  
担当 峯 恭子

## 《授業の概要》

・音楽教育学や音楽教育研究、また今日の社会における音楽的事象に関する基礎的文献を講読したり、映像資料を視聴したりして、音楽教育分野の現代的な学問の潮流を理解する。  
・音楽教育の学問領域で注目される研究テーマを取り上げ、ディスカッションを行ったり、音楽教育の諸理論の検討を通して、音楽科教育における現代的諸課題を概観し、音楽科教育の課題と展望について考察する。  
・自己の音楽科教育の問題意識を深め、学校教育における音楽科全体を俯瞰する力を獲得する。

## 《学生の到達目標》

・音楽教育研究の様々な領域と、音楽科教育の理論と方法に関する知識の習得とその理解を踏まえて、自分なりの考えをまとめることができる。  
・音楽教育の歴史の変遷と特色ある音楽教育システムの検討を通して、音楽科教育の理念、内容、方法の課題について説明できる。  
・学校教育における音楽科教育の課題や現状について説明できる。

## 《授業計画》

1. イントロダクションー本講義の目的、概要ー
2. 音楽教育の歴史①：世界の音楽教育史
3. 音楽教育の歴史②：日本の音楽教育史
4. ベスタロッチ主義唱歌教授法、ソルミゼーションの発展
5. 音楽教育の諸理論①：特色ある音楽教育システムーダルクローズの音楽教育
6. 音楽教育の諸理論②：特色ある音楽教育システムーオルフの音楽教育
7. 音楽教育の諸理論③：特色ある音楽教育システムーコダーイの音楽教育
8. 音楽教育の諸理論④：特色ある音楽教育システムーシュタイナーの音楽教育
9. 音楽教育の諸理論⑤：特色ある音楽教育システムーサウンドエデュケーション
10. 音楽教育の諸理論⑥：特色ある音楽教育システムー創造的音楽学習
11. 授業研究における実践報告のレビュー
12. 質的研究法量に基づく先行研究のレビュー
13. 量的研究法に基づく先行研究のレビュー
14. 音楽教育学研究のテーマに関するディスカッション
15. 総括ー音楽科教育の現状と課題

## 《成績評価の基準・方法》

授業内課題50%、授業内ディスカッション50%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

提示された課題や授業内で扱う論文等については事前に要約する等の準備を行なってください。

# 教育方法特論

2 年次  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

保育指導法の研究は保育指導の根幹をなすものであり、本授業においては指導法の実践を軸に指導法の改善のための手法と考え方を検討し、保育現場での公開保育の分析の手続きや理念を検討する。特に、子どもの中心主義・系統主義の保育プロセスの双方のやり方を検討し、保育現場での保育の質を見える化する実践力を持つ。

## 《学生の到達目標》

- 1) 保育の質を高めるため保育のプロセスをどう作り出すかに関心を持つ。
- 2) 保育の多様な理念（遊び・ワーク・設定保育）ごとに指導プロセスと方法が異なることを理解する。
- 3) 公開保育など保育指導のプロセスを分析・提案する力を身につける。

## 《授業計画》

1. 今日の保育における質の問題の中核としての指導法研究
2. 幼稚園教育要領指導法
3. 保育所保育指針の指導法
4. 指導法の歩みー保育要領ー
5. 指導法の歩みー64年幼稚園要領
6. 討論 保育現場での指導法の課題
7. 指導のプロセスの枠組みをどう考えるか（活動内容から）
8. 指導のプロセスの枠組みをどう考えるか（関係性から）
9. 指導案づくりと指導法1
10. 指導案づくりと指導法2
11. 保育見学ー記録を取る1ー
12. 保育見学ー記録を取る2ー
13. 保育指導法の評価1
14. 保育指導法の評価2
15. 指導法研究を現場でどう生かすか（討論）

## 《成績評価の基準・方法》

授業の参加・平常点を60%、レポート40%

## 《授業で使用する教科書》

・T.ハームス他著、埋橋玲子訳「新・保育環境評価スケール①3歳以上」法律文化社

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

可能であれば、指導法についての自分の課題を整理されていることが望ましい。

# 教育方法学特殊講義 I

1 年次→**2 年次**  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 常盤 豊

## 《授業の概要》

幼児教育から大学教育、社会人教育に至るまで、言語力の育成や学習意欲の向上は基本的な課題である。授業生徒の学力、学校の教育力を向上させるために、学習評価、カリキュラム・マネジメント、学校評価、教員研修などの仕組みが設けられており、それらの相互関係や教育と評価の関係について、講義、討論・演習を通じて学ぶ。

## 《学生の到達目標》

講義を踏まえて、言語力の育成や学習意欲の向上、教育と評価との関係に関するいくつかの課題について理解したうえで、その内容について分かりやすく説明できることをめざしましょう。

## 《授業計画》

1. 言語活動と言語力の育成
2. 国際学力調査と読解力
3. 討論・演習
4. 体験活動と学習意欲
5. 討論・演習
6. 学習評価
7. 討論・演習
8. 教員の指導力
9. カリキュラム・マネジメント
10. 討論・演習
11. 学校評価と校内研究
12. 討論・演習
13. 開かれた学校・教育課程
14. 討論・演習
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

レポート70%、授業参画30%で総合的に評価する。授業に積極的に参加し、講義内容を理解し、分かりやすく説明することが期待される。学びに取組む態度や伸びも期待される。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

幼稚園教育要領又は小・中学校の学習指導要領の総則を読むとともに、適宜配布するプリントの興味のある箇所を精読する。

# こども学特殊講義

1 年次→**2 年次**  
2 単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★木野 稔

## 《授業の概要》

「子どもは生物学的な存在として生まれ、社会的な存在として育つ」といわれる。つまり、医学・生物学的な立場から見た子どもだけでなく、社会的立場から見た子どもについて考えなければならぬ。子ども・子育て、保育・幼児教育や小学校教育にかかわる事象について多様な視点から検討を深め、さらには子ども・子育てをめぐる課題について探求していく。

## 《学生の到達目標》

子どもおよびそこに関わる事象について理解する。こども学は医学・保健学分野のみならず心理学、保育学など学際的であり、子どもの発育（成長、発達）を包括的にとらえることができるようにする。一つの課題に対して多面的に事象を理解する。加えて親子関係や価値意識・倫理観形成などについても、社会状況を通して現代的課題の解決方法について探求する。

## 《授業計画》

1. 当該授業についてのガイダンス
2. こども・子育てにかかわる研究についての基礎的理解
3. 生物的存在としての子ども理解 ① 成長とは
4. 生物的存在としての子ども理解 ② 発達とは
5. 生物的存在としての子ども理解 ③ 免疫とは
6. 生物的存在としての子ども理解 ④ 栄養とは
7. 社会的存在としての子ども理解 ① 育児の原点
8. 社会的存在としての子ども理解 ② 成長発達の課題
9. 社会的存在としての子ども理解 ③ 母子相互作用について
10. 社会的存在としての子ども理解 ④ ストレスとレジリエンス
11. 子ども・子育てに関する課題 ① 少子化時代の子育て観
12. 子ども・子育てに関する課題 ② 情報化社会の子育て観
13. 子ども・子育てに関する課題 ③ 子ども子育て支援新制度
14. 子ども・子育てに関する課題 ④ これからの保育・教育を考える
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

本授業では各課題や事象について、学際的理解度を評価する。自身の保育観や体験から積極的に発言して、多様な視点から検討する姿勢を求める。そのため、評価は授業における参加姿勢を40%、そして提出するレポートでの検討内容を60%として総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回学習内容を把握し発言できるように準備する。事後学習としては、レポート提出のための資料をまとめておく。

# 幼児教育思想史研究

2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」が国連で採択されてから30年以上が経った。しかし、子どもの権利保障をめぐっては今日にあっても様々な課題が山積している。そうした現状をよりよく理解するための手立てとして、本講義では「子どもの権利」をキーワードに20世紀を中心とした西洋及び日本の幼児教育思想史をたどる。保育・幼児教育や子どもの権利保障の歴史について、現在のつながりをふまえながら検討することを通して、私たちが今日の保育や教育の問題に対峙する上で学ぶべき点は何なのか、共に考えを深めたい。

## 《学生の到達目標》

子どもの権利をめぐる近現代の西洋及び日本の教育思想史について、その大まかな流れや代表的な思想について理解する。また、一連の学習から得た知見を自らの研究や実践に活かす視点を身につける。

## 《授業計画》

1. 授業の概要と進め方について
2. 子どもの権利保障についての現状と課題（ディスカッション）
3. 20世紀史のなかの子ども①（心性の歴史）
4. 20世紀史のなかの子ども①（科学主義の台頭）
5. 20世紀史のなかの子ども②（子ども市場の拡大）
6. 子どもの権利をめぐる教育思想史①（西洋近現代幼児教育思想の源流と系譜）
7. 子どもの権利をめぐる教育思想史②（戦争と子ども）
8. 子どもの権利をめぐる教育思想史③（子どもの権利条約成立までの経緯）
9. 映画鑑賞（「コルチャック先生」）と受講生同士の意見交換①
10. 映画鑑賞（「コルチャック先生」）と受講生同士の意見交換②
11. 子ども観の質的転換と子どもの権利保障政策
12. 日本における子ども観の質的転換についての事例検討①（幼児とメディア）
13. 日本における子ども観の質的転換についての事例検討②（受講生からの話題提供）
14. 日本における子ども観の質的転換についての事例検討③（受講生からの話題提供）
15. 全体の総括—歴史から何を学ぶのか

## 《成績評価の基準・方法》

授業への参画50%、レポート課題50%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前に配布したテキストを熟読し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むこと。授業内で適宜読書案内を行うので、興味を持ったものは積極的に読むこと。

# 保育内容研究

2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○  
担当 瀧川 光治, 森口 佑介

## 《授業の概要》

保育内容に関連した基礎・基本となる事項、今求められている保育内容や方法の動向、海外保育の動向などについて理解を研究的な視点から深める。また、修士論文作成・学会発表を想定して、関連文献・基本文献の押さえ方を保育内容の研究に即して学ぶ。

## 《学生の到達目標》

- (1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育の内容・方法」について、研究的視点で理解を深める。
- (2) 保育内容に関する動向や海外保育の動向を調査し、まとめる。

## 《授業計画》

1. トピックA 要領・指針の基本的事項について①—資質・能力とは？
2. トピックA 要領・指針の基本的事項について②—1.0の姿とは？
3. トピックB いま求められている保育とは①—改訂の背景
4. トピックB いま求められている保育とは②—小学校との連携・接続の視点
5. トピックC 保育現場の実践的課題①—遊びの捉え方
6. トピックC 保育現場の実践的課題②—保育者の援助、環境構成
7. トピックD 海外保育の動向
8. トピックAについての調査報告①—プレゼン
9. トピックAについての調査報告②—研修スタイルのグループワーク
10. トピックBについての調査報告①—プレゼン
11. トピックBについての調査報告②—研修スタイルのグループワーク
12. トピックC・Dについての調査報告①—プレゼン
13. トピックC・Dについての調査報告②—研修スタイルのグループワーク
14. 人材育成のための園内研修のあり方
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

「調査報告資料作成」80%および「調査報告の発表」20%を総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・那須信樹他「手がるに園内研修メイキング  
みんなてつくる保育の力」わかば社・那須信樹他「気がするに園内研修スタートアップ  
みんなが生きる研修テーマの選び方」わかば社・安達譲他「子どもに至る  
保育者主導保育からのビフォー&アフターと同僚性」ひとりなる書房・瀧川光治「0~5歳児  
春夏秋冬 環境づくりすぐに使える378のアイデア」ひかりのくに

## 《事前・事後学習》

事前学習・事後学習として、参考書を活用して学びを広げていく。授業内で、適宜、その旨の指示を行う。

# 保育実践研究Ⅰ

2年次  
1単位（演習）  
資格 幼○  
担当 ★宮里 暁美

## 《授業の概要》

保育とは何か？という問いは根源的な問いである。生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児保育において、保育者はどのような願いをもち、どのように援助しているのだろうか。乳幼児が自ら関わり輝々に感じ取る体験を生み出す環境とは、どのようなものか。環境・援助・職員間の連携など、保育を構築しているものは多岐にわたっています。この授業では「保育とは何か？」という問いを抱き、各自が探求するテーマを定め、文献研究やフィールド研究、DVD視聴等を通して学びを深めていく。授業での学びを通して、保育実践における各自の問題意識及び解決能力を身につける。

## 《学生の到達目標》

高度な保育・教育を目指し、Ⅰでは、各自の身近にある公園等でのフィールド研究を活用することにより子ども理解を深め、観察力とはなにかを討議し、問題解決意識や自発的解決能力を身につけることを目的とする。また保育実践において「問い」を抱き研究方法を習得することを目的とする。

## 《授業計画》

1. 保育実践研究Ⅰとは（講義・協議）
2. 保育を見る視点①（カリキュラムと保育の構造）
3. 保育を見る視点②（子どもの遊びや活動から観察する視点）
4. 子どもの世界の探究（DVD視聴・協議）
5. 保育実践の研究方法①（テーマ設定について討議－問題意識）
6. 自己課題の設定・研究（フィールド研究①子どもの観察・調査研究）
7. 保育実践の研究方法②（各自のテーマ設定を発表）
8. 保育実践を研究する（フィールド研究②子どもの遊びから）
9. 保育実践を研究する（フィールド研究③子どもの生活から）
10. 保育実践を研究する（フィールド研究④子ども同士の関わり）
11. 保育実践の研究方法①（研究方法について討議－文献）
12. 保育実践の研究方法②（研究方法について討議－文献）
13. 保育実践の研究方法③（研究のまとめ方について討議）
14. 保育実践の研究方法④（研究のまとめ方について発表）
15. 研究報告

## 《成績評価の基準・方法》

実践研究経過とレポート（30%）、最終プレゼンテーション（50%）及び、授業参画姿勢（20%）を総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・文部科学省「『幼稚園教育要領』解説書」フレーベル館・宮里暁美「耳をすまして目をこらす～色とりどりの子どものきもち～」赤ちゃんとママ社・レイチエル・カーソン著  
上遠恵子訳「センス・オブ・ワンダー」新潮社

## 《事前・事後学習》

事前学習：保育実践研究における先行研究を調べて動向を探る。事後学習：保育実践研究の課題を整理し、各自の論文作成や研究に生かす。

# 保育実践研究Ⅱ

2年次  
1単位（演習）  
資格 幼○  
担当 ★高根 栄美, ★宮里 暁美

## 《授業の概要》

この授業では、受講者それぞれのフィールドにおける観察や調査を生かしながら、保育実践の理解や子ども理解が可能となる討議や演習を行う。特に子どもの遊びや保育活動などの実践に注目し、どのように環境を設定するのか、どのように保育者が関わるか、どのように子どもを理解するのかなど、具体的な事例から保育指導や保育計画について研究する。  
また、保育実践を向上するための研修内容についても検討する。

## 《学生の到達目標》

受講者が各々のフィールドで、子どもの視点に立った保育実践が組み立てられるような視点を習得する。また学園の幼稚園や協力保育園等、フィールド研究を活用することによって、保育実践における子ども理解を行い、観察力とはなにかを討議し、問題解決意識や自発的解決能力を身につけることを目的とする。

## 《授業計画》

1. 授業ガイダンス、保育実践研究とは
2. 子ども理解の方法論
3. エピソード記述
4. 子ども理解の方法としてのエスノグラフィー
5. 子ども理解の方法としてのドキュメンテーション
6. 子どもの経験から振り返る保育プロセス
7. 写真評価法
8. ワールドカフェ：グループワークと討議の手法
9. テーマごとの保育実践研究（フィールド研究・子どもと保育者）
10. テーマごとの保育実践研究（フィールド研究・子どもと言葉）
11. テーマごとの保育実践研究（フィールド研究・子どもと表現）
12. 保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト
13. 保育を高める実践研究とカリキュラムマネジメント
14. 保育の計画と評価 乳児保育の方法と観察
15. 発表プレゼンテーションと討議

## 《成績評価の基準・方法》

実践研究経過と報告レポート30%、最終発表プレゼンテーション50%、および授業参画状況20%による総合評価とする。

## 《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館  
・文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館

## 《参考書》

・一般社団法人日本保育学会 倫理綱領ガイドブック編集委員会編「改訂 保育学研究倫理ガイドブック 子どもの幸せを願うすべての保育者と研究者のために」フレーベル館・文部科学省「幼児理解に基づいた評価 平成31年3月」チャイルド本社

## 《事前・事後学習》

・事前学習：各自のテーマに基づく実践研究の資料収集とレポート作成。  
・事後学習：授業時の各履修者によるレポートやプレゼンテーションの考察メモを整理し、実践上の課題を論述できるようにする。  
・時間外に、フィールドワークを予定している。  
・個別の課題の詳細は授業内で示すが、履修者の興味・関心によって調整する。保育実践研究を扱うものは資料が大変多く、その他文献を含め授業内で適宜紹介する。

# 教育心理学特殊講義

1年次→**2年次**  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 遠藤 利彦

## 《授業の概要》

主に幼児期・児童期を対象とする教育心理学の代表的な理論とそれに基づく実証研究および実践応用に関して概説を行う。

## 《学生の到達目標》

主に幼児期・児童期を対象とする教育心理学の代表的な理論の基礎を習得し、それに基づく実証研究や実践応用を立案・遂行し得る能力とスキルを獲得する。

## 《授業計画》

1. 現代教育心理学序論 1
2. 現代教育心理学序論 2
3. 幼児期における発達と教育 1
4. 幼児期における発達と教育 2
5. 幼児期における発達と教育 3
6. 幼児期における発達と教育 4
7. 児童期における発達と教育 1
8. 児童期における発達と教育 2
9. 児童期における発達と教育 3
10. 児童期における発達と教育 4
11. 養護と教育の表裏一体性 1
12. 養護と教育の表裏一体性 2
13. 非認知能力の発達と教育 1
14. 非認知能力の発達と教育 2
15. 総括と展望

## 《成績評価の基準・方法》

出席状況（50%）＋レポート成績（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

初回に指示を行う。

# 幼児心理学特論

2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 遠藤 利彦

## 《授業の概要》

幼児心理学の代表的な理論と実証研究の成果について概説を行う。

## 《学生の到達目標》

幼児心理学の代表的な理論を把握し、それに基づいて実証研究を立案・遂行できる能力を獲得する。

## 《授業計画》

1. 幼児心理学序論 1
2. 幼児心理学序論 2
3. 胎児期の発達心理学 1
4. 胎児期の発達心理学 2
5. 乳児期の発達心理学 1
6. 乳児期の発達心理学 2
7. 乳児期の発達心理学 3
8. 幼児期の発達心理学 1
9. 幼児期の発達心理学 2
10. 幼児期の発達心理学 3
11. 親子関係・家族関係と発達 1
12. 親子関係・家族関係と発達 2
13. 保育と発達 1
14. 保育と発達 2
15. 総括と展望

## 《成績評価の基準・方法》

出席状況（50%）＋レポート成績（50%）

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

初回に指示を行う。

# 子どもと健康特殊講義

2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 ★大脇 万起子

## 《授業の概要》

保育・教育の専門家として備えることが望ましい、子どもの発達や健康に関する様々な知識を深める。また、得られた知識を生かし、保育・教育現場で、保育・教育の専門家として、どのような貢献ができるかを検討する。

## 《学生の到達目標》

- 1) 子どもによく観られる発達・心理・身体の変容にエビデンスをもって気づける。
- 2) 保育・教育の専門家としての適切な処置・対応や各種機関との連携ができる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション：個々の目標設定と講義内容の調整（受講者のニーズにより内容調整）
2. 感染対策（Covid19 ほか）
3. 生活習慣（保清・食事・排泄ほか）
4. 生活リズム（睡眠ほか）
5. 情緒発達と障害
6. 言語発達と障害
7. 身体発達と障害
8. 知的発達と障害
9. 防災教育
10. 保護者への関わり（虐待ケース）
11. 保護者への関わり（心身に病障害をもつ保護者）
12. 特性のある子どもへの関わり（個人・集団）
13. 子どもの健康に関する事例検討①
14. 子どもの健康に関する事例検討②
15. 子どもの健康に関する事例検討③

## 《成績評価の基準・方法》

毎回の課題資料提出（30%）、毎回のレスポンスペーパーのweb提出（30%）、発表・ディスカッション（40%）とする。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習：毎回の事前配布資料の自習  
事後学習：毎回のレスポンスペーパーの提出

# 子ども心身医療特論Ⅱ

2年次  
2単位（講義）  
資格 幼○ 小○  
担当 石崎 優子, ★樋口 隆弘

## 《授業の概要》

子どもが健全な身体と心をもって成育するのを支援できる専門職者を目指すために、子どもの身体と心理社会的発達段階を理解し、各年齢群別の課題と成長・発達の特徴を学習する。小児科、児童精神科、心身医学、発達心理学、社会心理学等の国内外の研究を学び、広い視野から見た全般的な知識を獲得する。さらに臨床事例の検討を通じて、獲得した知識を現場で役立てることが可能なように保護者への具体的な指導法を企画立案し、知識を実践する能力を高める。内容は一旦下記(授業計画)とするが、初回の講義で大学院生と教員との相談により、大学院生の希望する内容に重点を置く。またなるべく実際に心理検査物品など実物に触れ、子どもの評価がどのようになされるのかを知って頂きたい。下記の項目は教員が対応可能な内容と考えて頂き、大学院生が学びたいことを積極的に申し出て頂きたい。

## 《学生の到達目標》

幼保施設における子どもの安全に関する基本的事項として、発達特性を理解した支援、心身の健康を増進する積極的な活動を企画立案し、実行し評価できるよう保護者に指導を行えることを目的として自学自習に努める。特に現場での対応に苦慮されることが多い発達障害児への取り組みについて、臨床で用いる検査を実際に使用したり、教員と学生との双方向性のある討論を行ったりすることにより、現場で実践できる力を培う。種々の場合に、園児を心身医学的視点でみる目を養う。また地域の各種機関と連携するスキルを身に付ける。

## 《授業計画》

1. 子どもと環境概論①（子どもの成長への環境要因の関与）
2. 子どもと環境概論②（子どもと環境に関する国内外の研究）
3. 子どもと環境概論③（子どもの健やかな育ちへの介入）
4. 子どもを取り巻く危険とその予防①（乳幼児期の危険要因）
5. 子どもを取り巻く危険とその予防②（学童以降の危険要因）
6. 養育環境と子ども①（社会経済的問題と子どもの成長発達）
7. 養育環境と子ども②（養育不全と子どもの発達）
8. 子どもの身体的・心理社会的発達①（乳幼児期の子ども）
9. 子どもの身体的・心理社会的発達②（学童・思春期の子ども）
10. 子どもの自立とセルフコントロール①（乳幼児期の関わり）
11. 子どもの自立とセルフコントロール②（思春期の関わり）
12. 特殊な要因を持つ子どもと家族①（慢性疾患の子ども）
13. 特殊な要因を持つ子どもと家族②（児童虐待と子ども）
14. 特殊な要因を持つ子どもと家族③（複雑な家族関係）
15. 特殊な要因を持つ子どもと家族④（子どもの包括的健康）

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験 30%、授業参画 70% で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

大学院生が各自の立場で深めたいことをテーマとして、積極的に質問してください。教員も資料提供したいと考えています。

# 臨床心理学研究Ⅰ

2年次  
1単位（演習）  
資格 幼○ 小○  
担当 渡辺 俊太郎

## 《授業の概要》

臨床心理学は、心理臨床を実践する際の基盤となる心理学である。その知見には、現代の子ども・保護者が抱える問題に対する支援に活用できる内容も多い。この科目では、認知行動療法の基本となる「感情・認知・行動」の枠組みについて学ぶことを通じて、子ども・保護者が抱える問題の心理学的理解、子どもの健全な心の発達を促す大人の関わり、保育・教育現場で必要とされる心理教育的援助サービスについて理解を深める。さらに、その内容に関する討議を通して、保育・教育現場で求められる子どもや保護者に対する支援について、その内容や方法、実践につながる研究のあり方を検討する。

## 《学生の到達目標》

認知行動療法の基本となる「感情・認知・行動」の枠組みを理解する。現代の子どもや保護者が抱える問題、健全な子どもの心の育ちを促す関わり、保育・教育現場で必要とされる心理教育的援助サービスに関する理論・研究について学び考察することを通して、リーダーとしての広い視野を持ち、より効果的な子ども・保護者支援を実践する力を身につける。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 感情の役割・発達に関する理論を学ぶ
3. 現代の子ども・保護者が抱える問題を、感情面から理解する
4. 感情に関する援助の理論・システムについて学ぶ
5. 子どもの感情を育てるための親子支援について考える
6. 行動変容とその意味に関する理論を学ぶ
7. 現代の子ども・保護者が抱える問題を行動面から理解する
8. 行動に関する援助の理論・システムについて学ぶ
9. 適応につなげる行動面からの支援について考える
10. 認知（スキーマ、ピリーフ）に関する理論を学ぶ
11. 現代の子ども・保護者が抱える問題を認知面から理解する
12. 認知に関する援助の理論・システムについて学ぶ
13. 事例研究を通して、認知行動療法の実践を理解する
14. 感情・認知・行動の枠組みを支援に生かすアイデアについて討議する
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

課題発表・討論への参加などの授業への取り組み50%、およびレポートから授業内容の理解度や考察内容について50%、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・坂野雄二「認知行動療法」日本評論社・下山晴彦・神村栄一「認知行動療法」放送大学教育振興会

## 《事前・事後学習》

事前学習として、配布資料や関連文献を読み、予習を行う。事後学習として、「感情・認知・行動」の枠組みから保育・教育現場における子ども・保護者の姿や支援のあり方について考察する。

# 臨床心理学研究Ⅱ

2年次  
1単位（演習）  
資格 幼○ 小○  
担当 渡辺 俊太郎

## 《授業の概要》

保育・教育・子育て支援の現場では、心理臨床における援助のアプローチが有用となる場面がある。この科目では、援助理論や実際の援助方法について学びつつ、ロールプレイや参加型講義・実践演習などの実践に直結した授業内容を通して、臨床心理学の視座に基づいた、保育・教育現場における望ましい援助のあり方について考察する。具体的には、心理臨床における集団援助の技法のひとつである構成的グループ・エンカウンターについて学ぶことを通じて、保育・教育現場で求められる子どもや保護者に対する支援について新たな視座を提供し、その内容や方法、実践につながる研究のあり方を検討する。

## 《学生の到達目標》

構成的グループ・エンカウンターの理論や実際の援助方法について理解を深めるとともに、効果的な集団援助を行うためのスキルを習得し、保育・教育・子育て支援の実践力を身につける。また、保育・教育や子育て支援の実践を分析・検討するための新たな視点をも身につけ、保育・教育現場において指導・助言を行うリーダーとしての資質を向上させる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 構成的グループ・エンカウンター体験（コミュニケーション力の向上）
3. 構成的グループ・エンカウンター概要を理解する
4. 構成することの意義について学ぶ
5. 的確なインストラクションについて学ぶ
6. エクササイズ選択や構成について理解する
7. 効果的なシェアリングについて学ぶ
8. 実施後のケアについて理解する
9. 構成的グループ・エンカウンター体験（人間関係をふりかえる）
10. 構成的グループ・エンカウンターの実施案について学ぶ
11. 構成的グループ・エンカウンターの実施準備のポイントを理解する
12. 構成的グループ・エンカウンターの実施案を作成する
13. 構成的グループ・エンカウンター演習を行う
14. 実施した構成的グループ・エンカウンターについてふりかえりを行う
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

実践発表・討論への参加などの授業への取り組み50%、およびレポートから授業内容の理解度や考察内容について50%、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・國分康孝・國分久子「構成的グループエンカウンター事典」図書文化社・岡田弘「エンカウンターで学級が変わる 小学校編」図書文化社・片野智治・加東田修士・國分久子・岡田弘・吉田隆江「エンカウンターで学級が変わる 高等学校編」図書文化社

## 《事前・事後学習》

事前学習として、配布資料や関連文献を読み、予習を行う。事後学習として、構成的グループ・エンカウンター枠組みから保育・教育現場における子ども・保護者の支援のあり方について考察する。

# 研究指導

1 年次→2 年次

0 単位（演習）

資格 なし

担当 瀧川 光治, 小椋 たみ子, ★松岡 宏明, 渡辺 俊太郎, ★大方  
美香, ★埋橋 玲子, 平野 俊一朗, ★浅野 孝平, 佐伯 知子,  
★高根 栄美, 末次 有加, 井岡 瑞日

## 《授業の概要》

各教員の専門性を生かし、修士論文の作成について個別ないしゼミ形式で丁寧に指導する。担当教員の指導の下に、各自の設定するテーマに基づいて修士論文をふさわしい形式でまとめ、所定の期日までに提出できるようにする。前期の終了時には、修士論文中間発表会を開催し、全教員からの助言・指導を受ける。後期には、修士論文の完成へと導くよう、指導する。

## 《学生の到達目標》

修士論文を完成し、提出すること。修士論文の口頭諮問を受け、修士の学位が認定されるようにすること。

## 《授業計画》

1. 研究指導の進め方ーオリエンテーション
2. 修士論文の構想発表(1)
3. 修士論文の構想発表(2)
4. 修士論文の構想発表(3)
5. 修士論文の構想発表(4)
6. 修士論文のテーマの最終確認と草稿の提出
7. 修士論文の草稿の検討(1)
8. 修士論文の草稿の検討(2)
9. 修士論文の草稿の検討(3)
10. 修士論文の草稿の検討(4)
11. 修士論文の草稿の検討(5)
12. 修士論文の草稿の検討(6)
13. 修士論文の草稿の再提出
14. 修士論文第 2 回中間発表会（7月中旬）
15. 中間総括
16. 修士論文の草稿の再検討(1)
17. 修士論文の草稿の再検討(2)
18. 修士論文の草稿の再検討(3)
19. 修士論文の草稿の再検討(4)
20. 修士論文の草稿の再検討(5)
21. 修士論文の草稿の再検討(6)
22. 修士論文提出の許可判定
23. 修士論文の草稿の最終検討(1)
24. 修士論文の草稿の最終検討(2)
25. 修士論文の草稿の最終検討(3)
26. 修士論文の草稿の最終検討(4)
27. 修士論文の草稿の最終検討(5)
28. 修士論文の提出（12月下旬～1月初旬）
29. 口頭諮問（1月下旬）
30. 総括ー修士論文最終発表会（2月下旬）

## 《成績評価の基準・方法》

修士論文の評価 50% および口頭試問の評価 50% を勘案して総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

修士論文の提出に向けて、各教員の指導・助言を受けながら構想の精査と論文の執筆に取り組むこと。その過程で生じた疑問点等については、教員に相談できるようその都度明確にしておくこと。また、教員から受けた指導・助言の内容をよく吟味し、その後の研究に反映できるよう努めること。詳細については各教員の指示に従うこと。



大学院 博士後期課程 1 年次



# 教育学特講

1 年次（後期）  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 常盤 豊

## 《授業の概要》

教育は、先人の文化を継承し発展させる営みであり、社会的な性格をも有している。社会との関係を抜きに教育の在り様を考へることはできない。これまでも社会の変化や学力観の変遷は教育や教育政策に大きな影響を与えてきた。最近では、学力の国際通用性、教育費負担の増大、AI時代の教育がどう進むのかなどの社会的関心が高い教育課題もある。教育と社会との良好な関係について、講義・討論・演習を通じて学ぶ。

## 《学生の到達目標》

・講義を踏まえて、教育と社会との関係に関するいくつかの課題について理解したうえで、分かりやすく説明できることをめざしましょう。

## 《授業計画》

1. 学力と学習指導要領
2. 生きる力とゆとり教育
3. 討論・演習
4. 海外の教育政策
5. 討論・演習
6. 我が国の教育政策
7. 討論・演習
8. 教育行政
9. 教育振興基本計画
10. 討論・演習
11. 教育財政と教育費負担
12. 討論・演習
13. これからの時代の教育
14. 討論・演習
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

レポート70%、授業参画30%で総合的に評価する。  
授業に積極的に参加し、講義内容を理解し、分かりやすく説明することが期待される。学びに取組む態度や伸びも期待される。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

幼稚園教育要領又は小・中学校の学習指導要領の総則を読むとともに、適宜配布するプリントの興味のある箇所を精読する。

# 幼児教育学特講

1 年次（後期）  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

本授業では、幼児教育における教育課程編成にかかわる理論的展望を踏まえて保育現場における教育課程の診断及び教育課程の編成方法の視点を獲得することを目的とする。このため、前半でカリキュラム編成における4つの立場、経験主義的カリキュラム、認知論的カリキュラム、精神分析学的カリキュラム、活動理論的カリキュラムの理論と事例を取り出しその特徴を学び、現行の要領の立場を整理する。後半では、4つの立場からのカリキュラム編成論を具体的な事例を含めて検討し、もって、高度な保育実践者・実践的研究者としての資質を形成する。

## 《学生の到達目標》

1. 文献検索・調査法を多様に使い、適切な課題と幼児教育学の研究方法論を獲得する。
2. 幼児教育の研究にふさわしい現場と切り結ぶ態度を修得する。
3. 課題と方法論との関係を理解し、研究者としての力量を養成する。

## 《授業計画》

1. 教育課程論研究の課題—4つの立場の歴史と課題—
2. 経験主義のカリキュラムの視点と課題
3. 日米の実践事例（報告と討論）
4. 認知論のカリキュラムの視点と課題
5. 日米の実践事例（報告と討論）
6. 精神分析学的カリキュラムの視点と課題
7. 日米の実践事例（報告と討論）
8. 活動理論のカリキュラムの視点と課題
9. 日米の実践事例（報告と討論）
10. 4つのカリキュラムについての評価（討論）
11. 統合的カリキュラム編成の考え方
12. 統合的カリキュラム編成からの長期指導計画の方向
13. 私のカリキュラム編成からの短期指導計画の方向
14. カリキュラム編成と保育実践1（まとめ）
15. カリキュラム編成と保育実践2（まとめ）

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、授業参画20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

幼稚園教育要領・保育所保育指針を読み、自分の実践がどうであったかを随時発表する用意をすること。

# 保育学特講

1 年次（前期）  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 ★大方 美香

## 《授業の概要》

乳幼児期は人との交流を通して、生涯にわたる人格形成の基礎となる人との関係をつくる大切な時期である。具体的な保育の計画の編成を学び、現代社会の課題を含めて保育の構造を学ぶ。ここでは乳幼児期の保育における生活と遊びという体験の多様性、関連性をめざした保育の実践理論を学び、高度な保育・教育力のある人材とは何かを考える。また、子育ての支援（幼稚園・こども園・保育所・子育て支援センター・在宅保育・小規模保育所）や保育者の役割について、理論と実践の両面から論じる。

## 《学生の到達目標》

保育学を研究するとは何か、乳幼児保育及び子育てに関わる視点から、子どもや保育、子育てについての課題意識を持てるようにする。乳幼児保育における調査・研究の先行研究の紹介を通して、方法論の基礎を培う。

## 《授業計画》

1. 乳幼児保育を研究するとは（保育の構造）
2. 乳幼児保育を研究するとは（保育と子育て支援）
3. 乳幼児期の保育（生活の研究）
4. 乳幼児期の保育（遊びの研究）
5. 保育の計画（乳児期の研究）
6. 保育の計画（幼児期の研究）
7. 保育の計画及び評価（子どもの生活から考える）
8. 保育の計画及び評価（子どもの遊びから考える）
9. 子育ての支援（幼稚園・こども園・保育所における内容と課題）
10. 子育ての支援（子育て支援センターにおける内容と課題）
11. 多様な子育てと保育（在宅保育の内容と課題）
12. 多様な子育てと保育（小規模保育所の内容と課題）
13. 保育者に求められること（専門性からの研究）
14. 保育者に求められること（人としての研究）
15. 総括（研究内容をプレゼンテーションする）

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、授業参画発表20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・無藤 隆「『幼児教育の原則—保育内容を徹底的に考える』2009」ミネルヴァ書房・乳児保育プロジェクト（代表大方美香）「乳児保育計画論～2つのタイプの事例を比較して～（2014）」ぶくろう出版・秋田喜代美・能智正博・藤江康彦「はじめての質的研究法—教育・学習編」

## 《事前・事後学習》

保育学とは何か、先行研究を調べておく。各自の論文テーマや内容と本講義の関係を事前に確認する。事後学習：保育の諸問題について関心を持ち、自分なりに整理し、まとめる。

# 小児医学特講

1 年次（後期）  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 渡部 基信, 儀間 裕貴

## 《授業の概要》

本授業は学生参加型で実施する。まず、小児科医が子どもたちをみる視点、子どもたちの視点について、実際の現場からの報告・研究データに基づいて講義する。子どもたちの視点から生活習慣、睡眠、その他の日常生活についての問題点を挙げて、まず、実際に遭遇させる。考えられるテーマを、最初は授業担当者が提議し、その後は全員で討論し、問題点を深化させる。ついで各学生が調査・研究し、その成果を逐次立場を代えて教師役となり、プレゼンテーションする。その発表に基づき議論を展開し、相互に評価する手法を採用する。

## 《学生の到達目標》

小児医学についての基本的な認識をもたせるとともに、現代の子どもの生活習慣上の諸問題を把握し、かつその対策を考える力を身につけさせる。

## 《授業計画》

1. 小児科医の視点
2. 乳幼児の視点
3. 子どもを見守るために必要なこと
4. 全般的討議
5. 子どもの睡眠の基礎知識
6. 子どもの睡眠に関する問題点の提起
7. 子どもの睡眠行動の問題点の抽出
8. 家族の睡眠に関する討議
9. 子どもの睡眠と他の生活習慣との関連
10. 子どもの日常生活に関する問題点の提起
11. 子どもの事故の現状把握
12. 子どもの事故への対応策
13. 子どもの事故防止教育の実践方法
14. まとめの討議
15. 総括（試験を含む）

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験30%、授業参画70%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前に資料等を熟読し、学習内容を把握しておく。事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 子ども心身医療特講

1 年次（前期）  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 村上 佳津美

## 《授業の概要》

幼保育・学校の間では自然に子どもの発育・発達をみているが、改めて心身医学の視点から「身体」「精神」を等分に見ると共に、改めて両者の関係をしっかりとみる目を養うようにする。日常生活からみえてくる子どもの姿の中で、学問的に学ぶ身体と精神の発達に捉われない「生きた知識」を学問的に捉える目を養ってもらう。

## 《学生の到達目標》

基本的な心身医学・心身症の知識を習得する。身近な心身症以外にも、子どもの病気を心身症として捉える目を育てる。

## 《授業計画》

1. 身体と心の関係
2. 感覚の重要性
3. 触覚の発達を、阻害する現代社会
4. 乳幼児期の心身症
5. 学童の心身症
6. 思春期の心身症と成人の心身症
7. 虐待
8. いじめ
9. 思春期の反社会的行動を予防する幼児期の対応
10. 子どもの神経症と精神病
11. 発達症を心身医学的に考察する（1）
12. 発達症を心身医学的に考察する（2）
13. 親の問題を適切に捉え、どのように対応するのか
14. 心身医学の考えを自分の日常に活かす生活を考える
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物（60%） 関心度（20%） 発表（20%）で評価する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

大学や職場でのあらゆる経験を整理しておく。子どもが病気を持つ、持たないに関わらず、心身医学の視点から子どもの問題をみるように心がける。知らないことは些細なことでも担当者に尋ね、知識を深めていく積極性をもって欲しい。

# 発達心理学特講

1 年次（前期）  
2 単位（講義）  
資格 なし  
担当 小椋 たみ子

## 《授業の概要》

本講義は二本立てで行います。第一は、言語・コミュニケーションの発達、つまづき、支援を中心とした発達心理学、発達科学の発達障害論の基礎知識と最新の研究成果を学ぶ（博士前期課程発達心理学特論を聴講する）。第二は、国内外の先行研究論文を講読し（アクティブラーニング）、問題設定から結論をだすまでの方法論を学び、各受講生の研究の理論的基盤と方法論を確立する。

## 《学生の到達目標》

1. 発達心理学、発達科学の先行研究と方法論を理解する。
2. 発達心理学、発達科学の知見から学んだことを自分の研究に生かす。
3. 各自の研究の理論的基盤と方法論を確立する。
4. 論文作成のための基礎能力を培う。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 発達心理学、発達科学の基礎知識、方法論と研究成果を学ぶ。
3. 発達心理学、発達科学の基礎知識、方法論と研究成果を学ぶ。
4. 発達心理学、発達科学の基礎知識、方法論と研究成果を学ぶ。
5. 発達心理学、発達科学の基礎知識、方法論と研究成果を学ぶ。
6. 発達心理学、発達科学の基礎知識、方法論と研究成果を学ぶ。
7. 発達心理学、発達科学の基礎知識、方法論と研究成果を学ぶ。
8. 発達心理学、発達科学の基礎知識、方法論と研究成果を学ぶ。
9. 各自の関心テーマの理論的基盤と方法論を先行研究から学ぶ。
10. 各自の関心テーマの理論的基盤と方法論を先行研究から学ぶ。
11. 各自の関心テーマの理論的基盤と方法論を先行研究から学ぶ。
12. 各自の関心テーマの理論的基盤と方法論を先行研究から学ぶ。
13. 各自の関心テーマの理論的基盤と方法論を先行研究から学ぶ。
14. 各自の関心テーマの理論的基盤と方法論を先行研究から学ぶ。
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

授業内での担当部分レポート提出・発表60%、授業参画40%

## 《授業で使用する教科書》

・小椋たみ子・小山西・水野久美「乳幼児期のことばの発達とその遅れ：保育・発達を学ぶ人のための基礎知識」ミネルヴァ書房・小椋たみ子・遠藤利彦・乙部貴幸「言葉・非認知的な心・学ぶ力」中央法規 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「発達心理学研究、教育心理学研究、保育学研究、乳幼児教育学研究、チャイルド・サイエンス、特殊教育学研究、Child Development, Developmental Psychology, Developmental Science, Developmental Reviewなどの国内外の雑誌論文」・アメリカ心理学会「APA論文作成マニュアル」医学書院・日本心理学会「日本心理学会 執筆・投稿の手びき」・岩立志津夫・小椋たみ子「よくわかる言語発達改訂新版」ミネルヴァ書房 他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

講義で紹介された文献を読む。先行研究のレビューを行い、自分の研究の問題、目的を明確にし、それを立証するための方法を学ぶ。論文作成において、論理的な思考を行い、論理的な文章をかけるように研鑽する。

# 教育学演習

1年次（前期）→2年次（前期）→3年次（後期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

2年次では、受講生の研究課題に応じて国内外の最新の研究動向や成果、関連領域の文献について詳しいレビューを行い、それに基づき演習参加者全員で様々な角度から検討・討論する。それを通じて、演習参加者が各自の研究水準をより一層高め、かつ関連領域についての幅広い理解をもてるようにする。

## 《学生の到達目標》

国内外の最新の主要な先行研究の収集・分析・検討を通して、受講者独自の立場・見解を形成するとともに、研究方法を確立すること。

## 《授業計画》

1. この課題演習の進め方ーオリエンテーション
2. 日本の主要な先行研究について発表（院生1）と討論
3. 日本の主要な先行研究について発表（院生2）と討論
4. 日本の主要な先行研究について発表（院生3）と討論
5. 日本の主要な先行研究について再発表（院生1）と討論
6. 日本の主要な先行研究について再発表（院生2）と討論
7. 日本の主要な先行研究について再発表（院生3）と討論
8. 外国の主要な先行研究について発表（院生1）と討論
9. 外国の主要な先行研究について発表（院生2）と討論
10. 外国の主要な先行研究について発表（院生3）と討論
11. 自己の研究課題に即した論文の発表（院生1）と討論
12. 自己の研究課題に即した論文の発表（院生2）と討論
13. 自己の研究課題に即した論文の発表（院生3）と討論
14. 各自の博士学位申請論文の進捗状況について発表（院生1～3）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

主要な先行研究を精読し、レビューするとともに、演習終了後必ず振り返りを行い、次につなげること。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

主要な先行研究を精読し、レビューするとともに、演習終了後必ず振り返りを行い、次につなげること。

# 教育方法学演習

1年次（前期）→2年次（後期）→3年次（前期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

環境の重要性は多くの人々が認識しているが、人的環境の重要性が強調されがちである。だが子どもは物と存分に関わることで周囲の世界を認識し、思考する経験を得て、自分を形作ってゆく。子どもを物と出会わせるのは人（保育者）の重要な役割である。どのようにしてどのような物と出会わせるか、その出会いにどのように関与するかについて、一定の枠組みをもつことが必要である。本講では、その枠組みとしてアメリカの保育の質測定尺度のECERS-3を提示し、邦訳の『新・保育環境評価スケール①3歳以上』をテキストとして用いる。

## 《学生の到達目標》

『新・保育環境評価スケール①3歳以上』を用いての評価観察が自分なりにできるようになる。幼稚園教育要領、保育所保育指針等を参照し保育実践と関係づけながら項目や指標の意味を理解する。

## 《授業計画》

1. 授業の趣旨・目標と演習の進行についての説明
2. 主要な保育の質測定スケールの概観
3. 保育の構造・過程・成果について
4. 『新・保育環境評価スケール①3歳以上』の構成について
5. 評価実習① \*時期については調整
6. 評価実習② \*時期については調整
7. 評価実習③ \*時期については調整
8. 評価実習④ \*時期については調整
9. 評価項目の検討、要領・指針との対照①
10. 評価項目の検討、要領・指針との対照②
11. 評価項目の検討、要領・指針との対照③
12. 評価項目の検討、要領・指針との対照④
13. 事例紹介①
14. 事例紹介②
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への参加度（発言、発表や課題の達成度など）70%、まとめのレポート30%として評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・テルマ・ハムス他『新・保育環境評価スケール①3歳以上』法律文化社・「幼稚園教育要領（平成29年告示）」・「保育所保育指針（平成29年告示）」

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

スケールを読み込み、実際の保育場面に照らし合わせて理解する。指定された動画などを視聴し、自分の考えをまとめておく。

# 幼児教育学演習

1年次（前期）→2年次（前期）→3年次（後期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 瀧川 光治

## 《授業の概要》

1年次では、わが国における多様な幼児教育の状況についての理解を行い、自分の知見・視野を広げ、パラダイムを自己形成する力を養成する。

## 《学生の到達目標》

1. 中央教育審議会等の国の政策の動向や、現在の幼児教育の動向やトレンドについての概略を説明できる
2. 1に関連する知見などについて調査し、自分の考えを深めることができる
3. 幼児教育の関する歴史を概観的に把握する

## 《授業計画》

1. 幼児教育・保育とはどのような「教育」か？（1） 幼稚園教育要領の検討
2. 幼児教育・保育とはどのような「教育」か？（2） 保育所保育指針の検討
3. 幼児教育の基本概念（1）一資質・能力の育成
4. 幼児教育の基本概念（2）一幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
5. 幼児教育の基本概念（3）一評価と改善のサイクル
6. 幼児教育の基本概念（4）一カリキュラムマネジメント
7. 幼児教育の基本概念（5）一環境を通して行う保育の意義
8. 幼児期の教育と小学校教育との接続
9. 中央教育審議会答申（1）一2017年の改訂の背景
10. 中央教育審議会答申（2）一令和の日本型学校教育
11. 個別最適化の学びと協働的な学び（1）一個別最適化の学び
12. 個別最適化の学びと協働的な学び（2）一協働的な学び
13. 幼児教育の歴史（1）一明治期以降の概略
14. 幼児教育の歴史（2）一幼児教育思想に焦点を当てて
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

2回の中間レポート(50%)と、授業内グループワークの参加・達成状況(50%)を総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

授業内で指定する関連資料の理解を深め、事前動画を閲覧する。

# 保育実践研究演習

1年次（後期）→2年次（後期）→3年次（前期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★大方 美香

## 《授業の概要》

保育実践に関するフィールド研究及び発表に関して3年間にわたり、演習を行う。1年次は第一設備として、理論と実践が結びつくように研究の意義を理解し、保育実践の理解力を培い、課題意識が明確となる討議を行う。先行研究について討議検討し、文献資料の読解及びフィールド研究により、テーマの収集、観察を行いながら自己の研究主題を確定するように導く。さらに、研究テーマが定まり、研究に着手すれば中間発表を行い、研究方針に修正を加える。

## 《学生の到達目標》

1. 研究の展開手法、成果のまとめ方および原稿（口頭、投稿）作成方法を習得する。2. 自分の研究成果を広く社会に還元できるよう努力する。

## 《授業計画》

1. 保育実践演習の進め方とオリエンテーション（フィールド研究と研究）
2. 保育実践演習の意義と目的に関する討議（カリキュラムと保育の構造）
3. 研究主題の決め方に関する意見交換（子どもの遊びや活動から観察する視点）
4. 先行研究の探索方法（フィールド研究位置テーマの確認と視点の確認）
5. 代表的な先行研究の紹介と討議（テーマ設定について討議－問題意識）
6. 代表的な先行研究の手法と論旨の展開方法（フィールド研究に子どもの観察・調査研究）
7. その他の先行研究に関する検討（各自のテーマ設定を発表）
8. 各自の研究手法の紹介と研究手法の討議（フィールド研究産出子どもの遊びから・調査研究）
9. 各自の研究の展開方法の検討（フィールド研究し子どもの生活から・調査研究）
10. 各自の研究の展開方法の検討（フィールド研究し子どもの生活から・調査研究）
11. 関連学会の出席、先行研究者との意見交換（研究方法について討議－文献、観察研究）
12. 学会聴講演題に関する討議（各自の研究手法について発表）
13. 各自の主題の再検討（研究の纏め方について討議）
14. 研究の中間発表に関する討議、検討（研究の纏め方について発表）
15. 研究の中間発表のまとめ

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、授業参画発表20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・文部科学省「『幼稚園教育要領』解説書」フレーベル館・厚生労働省「『保育所保育指針』解説書」フレーベル館・秋田喜代美「『保育者のライフステージと危機－ステージモデルから読み解く専門性、発達、83』」・「Shantz,D.W.,&Hobart,C.J.『Social conflict and development:Peers and siblings. In T.J. Bernet & G.W.Ladd(Eds.), Peer relationships in child development (pp.71-94) New York:A Wiley-Interscience Publication.」・「Vander ven,K.『Pathways to professional effectiveness for early childhood educators. In B.Spoodek,O. n. Sarácho & D.Peters(Eds.)』 Professionalism and the early childhood practitioner. Teachers College Press.」

## 《事前・事後学習》

事前学習：各自の論文テーマと研究方法について先行研究を調べておく事後学習：各自の研究方法に基づいて、学内外等で発表する。

# 保育内容研究演習

1年次（前期）→2年次（前期）→3年次（前期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 瀧川 光治

## 《授業の概要》

1年次では、保育内容を研究するにあたっての研究方法を学ぶとともに、保育内容の研究動向を学ぶ。学会口頭発表に向けての原稿の作成方法を習得する。具体的には、先行研究のリサーチ、文献調査・観察研究・インタビュー調査・質問紙調査の研究手法と結果の整理方法について系統的に学ぶことを通じて、自立的に研究を行っていけるよう方向づける。とくに、受講生の研究課題に応じて、国内外の最新の研究動向や成果、関連領域の文献について、詳しいレビューを行う。参加者全員で討議し、各自の研究水準をより高めるように配慮する。

## 《学生の到達目標》

1. 博士（教育学）の学位に値する論文が備えていなければならない諸条件を理解する。
2. 研究の展開手法、成果のまとめ方および原稿（口頭、投稿）作成方法を習得する。
3. 自分の研究成果を広く社会に還元できるよう努力する。

## 《授業計画》

1. 保育内容についての研究動向
2. 保育内容についての研究方法を学ぶ①—学会誌・研究紀要の論文の構造について
3. 保育内容についての研究方法を学ぶ②—問題意識の醸成と先行研究のリサーチ方法
4. 先行研究のリサーチの実際とその整理
5. 先行研究のリサーチの発表と討議①（院生1）
6. 先行研究のリサーチの発表と討議②（院生2）
7. 先行研究のリサーチの発表と討議③（院生3）
8. 保育内容についての研究方法を学ぶ④—文献研究の研究手法と結果の整理方法
9. 保育内容についての研究方法を学ぶ⑤—観察研究の研究手法と結果の整理方法
10. 保育内容についての研究方法を学ぶ⑥—質問紙調査による研究方法と結果の整理方法
11. 保育内容についての研究方法を学ぶ⑦—面接調査による研究方法と結果の整理方法
12. 保育内容に関する研究計画書の発表と討議①（院生1）
13. 保育内容に関する研究計画書の発表と討議②（院生2）
14. 保育内容に関する研究計画書の発表と討議③（院生3）
15. 学会発表、紀要論文に向けて

## 《成績評価の基準・方法》

レポート課題50%、発表と討議50%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習・事後学習として、自分の研究テーマに関する関連文献を読み、レビュー論文を書くための学びを広げていく。授業内で、適宜、その旨の指示を行う。

# 小児医学演習

1年次（後期）→2年次（前期）→3年次（後期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 清田 岳臣

## 《授業の概要》

小児の発育発達に関する仕組みを、主に生理学的、バイオメカニクスの観点から理解することを旨とする。1年次では、研究を進めていく上で必要な国内外の文献研究、精読に努め、理論化・分析能力の向上を図る。また、予備実験をもとに記録・分析法を修得する。

## 《学生の到達目標》

1. 発育発達における生理学的、バイオメカニクスの研究の方法と成果について学ぶ。
2. 生理学的、バイオメカニクスの分野での各受講生の関心のあるテーマについての先行研究をまとめ、研究方法、論文作成方法を修得する。
3. 文献講読の基本的スキルと理解力を向上させる。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 発育発達における生理学的・バイオメカニクスの研究動向の紹介①
3. 発育発達における生理学的・バイオメカニクスの研究動向の紹介②
4. 受講生の研究テーマに関する先行研究の文献報告・討議①
5. 受講生の研究テーマに関する先行研究の文献報告・討議②
6. 受講生の研究テーマに関する先行研究の文献報告・討議③
7. 受講生の研究テーマに関する先行研究の文献報告・討議④
8. 生理学的・バイオメカニクスの研究方法論の習得（実験計画）
9. 生理学的・バイオメカニクスの研究方法論の習得（データ記録）
10. 生理学的・バイオメカニクスの研究方法論の習得（データ分析）
11. 研究課題Ⅰの予備実験①
12. 研究課題Ⅰの予備実験結果の報告・討議①
13. 研究課題Ⅰの予備実験②
14. 研究課題Ⅰの予備実験結果の報告・討議②
15. 研究課題Ⅰの研究計画の確定

## 《成績評価の基準・方法》

講義内での発表30%、レポート50%、授業参画20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

主要な先行研究の文献を精読し、自分の研究テーマに関する最新知見を常に収集するよう心がける。また、研究テーマに関するデータの収集・分析方法について学習する。

# 子ども心身医療演習

1年次（後期）→2年次（後期）→3年次（前期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 村上 佳津美

## 《授業の概要》

子どもの心身医療の現場に出席し演習を行うことで、生きた学習を習得してもらう。主にこども心身医療研究所の新患カンファレンスに出席することで、医療の場を持ち込まれる問題を通して、幼保現場と学校で出会う子どもの問題を考えようとする。日常生活からみえてくる困った子どもをどのように心身医療の視点で診ているのかから幼保現場で活用する思考を育てる。

## 《学生の到達目標》

医療モデルと教育モデルの違いを通して、子どもを多角的に捉えていく能力を育てる基本的な心身医学の知識を習得する。身近な心身症以外にも、子どもの一般的な病気を心身医学的に捉える目を育てる。

## 《授業計画》

1. 心身医学の基本を復習
2. 問題のある親子への基本的対応
3. 新患カンファレンスに出席
4. 新患カンファレンスに出席
5. 新患カンファレンスに出席
6. 3回のカンファレンス出席で得られた症例（概ね25例）のその後を学習
7. 新患カンファレンスに出席
8. 新患カンファレンスに出席
9. 新患カンファレンスに出席
10. 新患カンファレンスに出席
11. 後半の4回のカンファレンス出席で得られた症例（概ね30例）のその後を学習
12. 約50例から選び、3例のレポートを作成する
13. レポート指導
14. レポート指導
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物で評価

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

大学や職場でのあらゆる経験を整理しておく。子どもが病気を持つ、持たないに関わらず、心身医学の視点からみるように心がける。気に付いたことで習わなかったことは担当者に尋ねる積極性をもって欲しい。

# 発達心理学演習Ⅰ（発達支援）

1年次（後期）→2年次（前期）→3年次（後期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 小椋 たみ子

## 《授業の概要》

1年次では、発達心理学における理論的、実証的な意義的的確な認識を図り、当該及び関連専門領域の研究成果、諸課題へ研究者としてのアプローチを試み、実証的研究に向けての基礎構築のための指導を行う。1年次では、各自の関心をもつ課題に関する国内、国外の文献を発表、検討・討議し、各課題の理論的背景や先行研究の文献レビューを行う。

## 《学生の到達目標》

1. 言語発達心理学研究の方法と成果について学ぶ。
2. 発達心理学の分野での各受講生の関心のあるテーマについての先行研究をまとめ、研究方法、論文作成方法を修得する。
3. 文献講読の基本的スキルと理解力を向上させる。

## 《授業計画》

1. 論文の書き方についての説明
2. 発達心理学、特に言語発達についての研究動向の紹介
3. 発達心理学、特に言語発達についての研究方法の紹介
4. 発達心理学、特に言語発達についての研究成果の紹介
5. 発達心理学、特に言語発達支援についての研究成果の紹介
6. 受講生の関心テーマに関する先行研究の文献報告・討議
7. 受講生の関心テーマに関する先行研究の文献報告・討議
8. 受講生の関心テーマに関する先行研究の文献報告・討議
9. 受講生の関心テーマに関する先行研究の文献報告・討議
10. 受講生の関心テーマに関する先行研究の文献報告・討議
11. 受講生の関心テーマに関する先行研究の文献報告・討議
12. 受講生の関心テーマに関する先行研究の文献報告・討議
13. 発達心理学に関する研究Ⅰの研究計画の報告と討議
14. 発達心理学に関する研究Ⅰの研究計画の報告と討議
15. 発達心理学に関する研究Ⅰの研究計画の報告と討議

## 《成績評価の基準・方法》

講義内での発表40%、レポート50%、授業参画10%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「発達心理学研究、教育心理学研究、保育学研究、乳幼児教育学研究、特殊教育研究、チャイルド・サイエンス、Child Development, Developmental Psychology, Developmental Science, Developmental Reviewなどの国内外の雑誌論文」・日本心理学会「日本心理学会 執筆・投稿の手びき」・日本発達心理学会「発達科学ハンドブックシリーズ」新曜社・岩立志津夫・小椋たみ子「よくわかる言語発達改訂新版」ミネルヴァ書房  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

発達心理学およびその関連分野の文献を精読し、自分の研究についての問題設定、研究計画を立案する。データの分析方法を学ぶ。論理的思考と論理的文章を書くことをこころがける。

# 発達心理学演習Ⅱ（発達臨床）

1年次（前期）→2年次（後期）→3年次（前期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 森口 佑介

## 《授業の概要》

1年次では、発達心理学における発達臨床についての理論的、実証的な意義の的確な認識を図り、当該及び関連専門領域の研究成果、諸課題へ研究者としてのアプローチを試み、実証的研究に向けての基礎構築のための指導を行う。本演習においては、研究方法（実証的研究の方法、要因計画（資料分析など）についても検討論議を合わせて行う。総括において、発達期における心理臨床に関する文献検索・研究成果の報告、研究課題をめぐり今後の演習を展望する。

## 《学生の到達目標》

1. 発達臨床及び関連分野に関する先行文献、研究論文を可能な限り探索する。2. 1.の探索作業を広汎に行い、従来の研究成果、課題を明らかにするとともに研究方法論を修得する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 情動的発達臨床の論文検索と研究成果の報告・討議 1
3. 情動的発達臨床の論文検索と研究成果の報告・討議 2
4. 情動的発達の心理臨床に関する研究課題について論議
5. 知的発達臨床の論文検索と研究成果の報告・討議 1
6. 知的発達臨床の論文検索と研究成果の報告・討議 2
7. 知的発達の心理臨床に関する研究課題について論議
8. 社会的発達臨床の論文検索と研究成果の報告・討議 1
9. 社会的発達臨床の論文検索と研究成果の報告・討議 2
10. 社会的発達の心理臨床に関する研究課題について論議
11. 家庭環境臨床の論文検索と研究成果の報告・討議
12. 家庭環境の心理臨床に関する研究課題について論議
13. 教育・地域環境臨床の論文検索と研究成果の報告・討議
14. 教育・地域環境の心理臨床に関する研究課題と論議
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、授業参加20% で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前に資料等を熟読し、学習内容を把握しておく。事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 臨床心理学演習

1年次（後期）→2年次（後期）→3年次（後期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 渡辺 俊太郎

## 《授業の概要》

臨床心理学の理論に基づく援助の方法、さらに研究や研究成果の公開を行うために必要な知識および技能の修得を目指し、3年間の演習を行う。1年次では、フィールド研究を通して臨床心理面接（個人対象・集団対象）、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助の演習を行い、援助の実際について学ぶ。また、その内容に関する先行研究の精読を行って研究方法や論文作成方法を理解するとともに、臨床心理学およびその関連分野における最新の研究知見を学ぶ。さらに、文献を精読した後の議論を通して自身の研究主題に関する問題意識の明確化を行い、博士学位請求論文の構想に活用する。

## 《学生の到達目標》

臨床心理学における援助方法、研究方法および論文作成方法を修得する。また、臨床心理学および関連分野における最新の研究知見を理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（演習の目的と進め方）
2. 臨床心理面接（個人対象）に関する先行研究検索とその成果について報告・討議を行う
3. 個人を対象とした臨床心理面接の事例報告および検討を行う①（フィールド研究）
4. 臨床心理アセスメント（発達・性格検査）に関する先行研究について報告・討議を行う
5. 臨床心理アセスメント（面接）に関する先行研究について報告・討議を行う
6. 発達検査、性格検査による臨床心理アセスメントの演習を行う（フィールド研究）
7. 面接による臨床心理アセスメントの演習を行う（フィールド研究）
8. 臨床心理アセスメントの事例報告および検討を行う（フィールド研究）
9. 個人を対象とした臨床心理面接の事例報告および検討を行う②（フィールド研究）
10. 臨床心理面接（集団対象）に関する先行研究検索とその成果について報告・討議を行う
11. 集団を対象とした臨床心理面接の演習を行う（フィールド研究）
12. 臨床心理地域援助に関する先行研究検索とその成果について報告・討議を行う
13. 臨床心理地域援助の事例報告および検討を行う（フィールド研究）
14. 個人を対象とした臨床心理面接の事例報告および検討を行う③（フィールド研究）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、討論・演習20%を基本としながら、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・中沢潤他「心理学マニュアル1～4」北大路書房・海保博之他「シリーズ・心理学の技法」福村出版・氏原寛他「臨床心理学①～③」培風館・土居健郎「新訂 方法としての面接」医学書院・M.ハーセン・V.B.ヴァン・ハッセル「臨床面接のすすめ方」日本評論社・I.B.Weiner「Principles of Psychotherapy」Wiley・日本心理学会「心理学研究」・日本健康心理学会「健康心理学研究」・日本心理臨床学会「心理臨床学研究」・日本カウンセリング学会「カウンセリング研究」・「関連分野の和洋学会誌、文献」

## 《事前・事後学習》

臨床心理学およびその関連分野の文献を精読するとともに、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助の実践を通して得た知見をもとに、博士学位請求論文の構想について検討する。

# 研究指導

1年次→2年次→3年次

0単位（演習）

資格 なし

担当 瀧川 光治, 小椋 たみ子, 渡辺 俊太郎, ★大方 美香, ★埋橋 玲子, 清田 岳臣

## 《授業の概要》

修士論文の提出に向けて、各教員の指導・助言を受けながら構想の精査と論文の執筆に取り組むこと。その過程で生じた疑問点等については、教員に相談できるようその都度明確にしておくこと。また、教員から受けた指導・助言の内容をよく吟味し、その後の研究に反映できるよう努めること。詳細については各教員の指示に従うこと。

## 《学生の到達目標》

院生各自が自らの問題関心と適切な研究方法論に基づき、標準修業年限内で、博士学位請求論文を執筆・提出できるようにする。

## 《授業計画》

1. 研究指導の進め方-院生各自の問題関心と研究計画の把握
2. 院生各自の関心のあるテーマについての研究状況の紹介
3. 先行研究の検索・収集・整理
4. 博士学位請求論文のテーマの決め方
5. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生1）
6. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生2）
7. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生3）
8. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生1）
9. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生2）
10. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生3）
11. 各種学会口頭発表予定者の発表（院生1）と討論
12. 各種学会口頭発表予定者の発表（院生2）と討論
13. 各種学会口頭発表予定者の発表（院生3）と討論
14. 各種学会口頭発表予定者の再発表（院生1）と討論
15. 各種学会口頭発表予定者の再発表（院生2）と討論
16. 各種学会口頭発表予定者の再発表（院生3）と討論
17. 各種学会紀要執筆予定者の発表（院生1）と討論
18. 各種学会紀要執筆予定者の発表（院生2）と討論
19. 各種学会紀要執筆予定者の発表（院生3）と討論
20. 各種学会紀要執筆予定者の再発表（院生1）と討論
21. 各種学会紀要執筆予定者の再発表（院生2）と討論
22. 各種学会紀要執筆予定者の再発表（院生3）と討論
23. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生1）
24. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生2）
25. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生3）
26. ゼミ内中間研究発表会への準備（院生1）
27. ゼミ内中間研究発表会への準備（院生2）
28. ゼミ内中間研究発表会への準備（院生3）
29. ゼミ内中間研究発表会
30. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

研究課題への取り組み状況 80% ゼミ内中間発表会 20%を踏まえ、総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

先行研究の検索・収集・整理や、各種学会の口頭発表・紀要執筆を進め、博士学位請求論文の構想について検討する。  
1年次において査読付きの論文を1本、学会誌や大阪総合保育大学紀要に掲載されるように、研究指導を受けながら準備を行うことが望ましい。



大学院 博士後期課程 2年次



# 教育学演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→3 年次（後期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

2年次では、受講者の研究課題に応じて国内外の最新の研究動向や成果、関連領域の文献について詳しいレビューを行い、それに基づき演習参加者全員で様々な角度から検討・討論する。それを通じて、演習参加者が各自の研究水準をより一層高め、かつ関連領域について広汎な理解をもてるように配慮する。

## 《学生の到達目標》

国内外の最新の主要な先行研究の分析・検討を通じて、受講者独自の立場・見解を形成するとともに、研究方法を確立すること。

## 《授業計画》

1. この課題演習の進め方ーオリエンテーション
2. 日本の主要な先行研究について発表（院生1）と討論
3. 日本の主要な先行研究について発表（院生2）と討論
4. 日本の主要な先行研究について発表（院生3）と討論
5. 日本の主要な先行研究について再発表（院生1）と討論
6. 日本の主要な先行研究について再発表（院生2）と討論
7. 日本の主要な先行研究について再発表（院生3）と討論
8. 外国の主要な先行研究について発表（院生1）と討論
9. 外国の主要な先行研究について発表（院生2）と討論
10. 外国の主要な先行研究について発表（院生3）と討論
11. 自己の研究課題に即した論文の発表（院生1）と討論
12. 自己の研究課題に即した論文の発表（院生2）と討論
13. 自己の研究課題に即した論文の発表（院生3）と討論
14. 博士学位申請論文の進捗状況について発表（院生1～3）
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

発表の評価80%と授業参画度20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

主要な先行研究を精読し、レビューするとともに、演習終了後必ず振り返りを行い、次につなげること。

# 教育方法学演習

1 年次（前期）→2 年次（後期）→3 年次（前期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

環境の重要性は多くの人々が認識しているが、人的環境の重要性が強調されがちである。だが子どもは物と存分に関わることで周囲の世界を認識し、思考する経験を得て、自分を形作ってゆく。子どもを物と出会わせるのは人（保育者）の重要な役割である。どのようにしてどのような物と出会うかを、その出会いにどのように関与するかについて、一定の枠組みをもつことが必要である。本講では、その枠組みとしてアメリカの保育の質測定尺度のECERS-3を提示し、邦訳の『新・保育環境評価スケール①3歳以上』をテキストとして用いる。

## 《学生の到達目標》

『新・保育環境評価スケール①3歳以上』を用いての評価観察が自分なりにできるようになる。幼稚園教育要領、保育所保育指針等を参照し保育実践と関係づけながら項目や指標の意味を理解する。

## 《授業計画》

1. 授業の趣旨・目標と演習の進行についての説明
2. 主要な保育の質測定スケールの概観
3. 保育の構造・過程・成果について
4. 『新・保育環境評価スケール①3歳以上』の構成について
5. 評価実習① \*時期については調整
6. 評価実習② \*時期については調整
7. 評価実習③ \*時期については調整
8. 評価実習④ \*時期については調整
9. 評価項目の検討、要領・指針との対照①
10. 評価項目の検討、要領・指針との対照②
11. 評価項目の検討、要領・指針との対照③
12. 評価項目の検討、要領・指針との対照④
13. 事例紹介①
14. 事例紹介②
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への参加度(発言、発表や課題の達成度など)70%、まとめのレポート30%として評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・テルマ・ハームス他「新・保育環境評価スケール①3歳以上」法律文化社・「幼稚園教育要領（平成29年告示）」・「保育所保育指針（平成29年告示）」

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

スケールを読み込み、実際の保育場面に照らし合わせて理解する。指定された動画などを視聴し、自分の考えをまとめておく。

# 幼児教育学演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→3 年次（後期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 瀧川 光治

## 《授業の概要》

2 年次では、わが国における多様な研究成果を評価し、自分のパラダイムを自己形成する力を養成する。すなわち、わが国の幼児教育の理論的成果を整理するために、参考文献を論究・比較し、これまでの幼児教育学の立場性を理解させるとともに、自分のパラダイムがその理論と保育実践の両面からどこに位置づくのかを意識できる力を獲得させる。

## 《学生の到達目標》

1. 今日の幼児教育学における理論的枠組み・成果について臨牀的・実証的視点を持って適切に評価する能力を涵養する。  
2. 自分のパラダイムを自分の狭い関心からではなく、幼児教育学全体のパラダイムに位置づけることができる力を育てる。『授業計画』について授業回数ごとに記載してください。

## 《授業計画》

1. 幼児教育学におけるパラダイムと保育実践（講義）
2. 幼稚園教育要領の編成と幼児教育学のパラダイム（講義）
3. 幼児教育実践と幼児教育学 1 一倉橋惣三を中心にー（報告と討議）
4. 幼児教育実践と幼児教育学 2 山下俊郎を中心にー（報告と討議）
5. 幼児教育実践と幼児教育学 1 宮内孝を中心にー（報告と討議）
6. 幼児教育実践と幼児教育理論の関係についてのプレゼンテーション（まとめ 1）
7. 幼児教育実践と幼児教育理論の関係についてのプレゼンテーション（まとめ 2）
8. 現代の幼児教育学の知見の検討 1
9. 現代の幼児教育学の知見の検討 2
10. 現代の幼児教育学の知見の検討 3（報告と討議）
11. 現代の幼児教育学の知見の検討 4（報告と討議）
12. 幼児教育カリキュラムをめぐる現代におけるいろいろな立場の対立と融合
13. 保育内容領域を巡る現代におけるいろいろな立場の対立と融合（プレゼンテーション）
14. 保育方法をめぐる現代におけるいろいろな立場の対立と融合（プレゼンテーション）
15. 幼児教育学全体をめぐる現代におけるいろいろな立場の対立と融合

## 《成績評価の基準・方法》

レポート 50%、授業参画 50% で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

検討課題を授業の進行に合わせて出すのでプレゼンテーションの手がかりとし準備すること

# 保育実践研究演習

1 年次（後期）→2 年次（後期）→3 年次（前期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★大方 美香

## 《授業の概要》

2 年次では、1 年次の演習や他の演習科目との間で再考した結果により、研究主題・手法に再検討の必要があれば、研究の軌道修正を行う。研究主題・手法が決定すれば各自の研究を全力で推進し、同時に口頭発表の準備を整えることを演習によって行う。関連文献収集と専攻書の講読、フィールド研究の実施、データの収集と観察のまとめ方について展開方法を学習する。また、口頭発表に向けてのプレゼンテーションの仕方について演習を行う。

## 《学生の到達目標》

1. 研究の展開手法、成果のまとめ方および原稿（口頭、投稿）作成方法を習得する。2. 自分の研究成果を広く社会に還元できるよう努力する。

## 《授業計画》

1. 研究主題の修正、手法の再検討及び軌道修正（フィールド研究と研究）
2. 先行研究論文の収集と検討（子どもの遊びや活動から観察する視点）
3. 研究の実践に関する検討（フィールド研究①テーマの確認と視点の確認）
4. 研究の実践に関する検討（フィールド研究②子どもの観察・調査研究）
5. 研究の実践に関する検討（フィールド研究③子どもの遊びから・調査研究）
6. 研究結果のまとめの検討（テーマ設定について討議－問題意識）
7. 研究内容の考察、結論の導き方の検討（各自のテーマ設定を発表）
8. 研究に基づく考察の展開方法、意見交換（各自のテーマ設定を発表）
9. 各種関連学会の調査、発表学会の検討
10. 学会発表予定者との討論
11. 学内談話会での発表練習（研究方法について討議－文献、観察研究）
12. 学内談話会での発表、討議、意見交換（各自の研究手法について発表）
13. 発表原稿の再検討（研究のまとめ方について討議）
14. 発表原稿の再検討（研究のまとめ方について討議）
15. 口頭発表の再検討

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験 80%、授業参画発表 20% で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

・文部科学省「「幼稚園教育要領」解説書」フレーベル館

## 《事前・事後学習》

事前：各自の論文における研究方法について先行研究に基づき具体化する。事後：各自の研究を学内・学外等で発表する。

# 保育内容研究演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→3 年次（前期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 瀧川 光治

## 《授業の概要》

2 年次では、保育内容の研究を10のテーマに分類し、そのテーマについての日本と諸外国の研究動向を学びながら、学会口頭発表・学会誌論文投稿に向けての準備をする。具体的には、あるテーマ（たとえば「こっこ遊び」）について、日本と諸外国の研究動向・先行研究について、知見を整理し、同じテーマでも様々な切り口や研究方法があり、そこの現状と課題の把握を行う。とくに、受講生の研究課題に応じて、国内外の最新の研究動向や成果、関連領域の文献について、詳しいレビューを行う。参加者全員で討議し、各自の研究水準をより高めるように配慮する。

## 《学生の到達目標》

1. 博士（教育学）の学位に値する論文が備えていなければならない諸条件を理解する。
2. 研究の展開手法、成果のまとめ方および原稿（口頭、投稿）作成方法を習得する。
3. 自分の研究成果を広く社会に還元できるよう努力する。

## 《授業計画》

1. この課題演習の進め方ーオリエンテーション
2. 保育内容に関する研究について日本の研究動向についての発表と討議（院生1）
3. 保育内容に関する研究について日本の研究動向についての発表と討議（院生2）
4. 保育内容に関する研究について日本の研究動向についての発表と討議（院生3）
5. 保育内容に関する研究について日本の研究動向についての再発表と討議（院生1）
6. 保育内容に関する研究について日本の研究動向についての再発表と討議（院生2）
7. 保育内容に関する研究について日本の研究動向についての再発表と討議（院生3）
8. 保育内容に関する研究について海外の研究動向についての発表と討議（院生1）
9. 保育内容に関する研究について海外の研究動向についての発表と討議（院生2）
10. 保育内容に関する研究について海外の研究動向についての発表と討議（院生3）
11. 先行研究のまとめ方、レビュー論文の書き方①ー文献検索
12. 先行研究のまとめ方、レビュー論文の書き方②ー資料整理
13. 先行研究のまとめ方、レビュー論文の書き方③ーまとめ方
14. 学会発表、紀要論文に向けて
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

レポート課題50%、発表と討議50%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習・事後学習として、自分の研究テーマに関する関連文献を読み、レビュー論文を書くための学びを広げていく。授業内で、適宜、その旨の指示を行う。

# 小児医学演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→3 年次（後期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 清田 岳臣

## 《授業の概要》

小児の発育発達に関する仕組みを、主に生理学的、バイオメカニクスの観点から理解することを目指す。2 年次では、各受講生の小児医学演習1で設定した研究課題を継続・発展させる。研究方法の決定、データ収集、分析を行い、論文を執筆する。

## 《学生の到達目標》

1. 研究課題1の研究計画を決定し、データ収集・分析を行い、結果をまとめ、論文を執筆し、投稿する。
2. 研究課題1の課題点を踏まえて、研究課題2に発展させる。

## 《授業計画》

1. 研究課題1の実験計画の討議、データ収集方法の確認
2. 研究課題1のデータ収集①
3. 研究課題1のデータ収集②
4. 研究課題1の収集したデータに基づくデータ分析方法の討議
5. 研究課題1のデータ分析①
6. 研究課題1のデータ分析②
7. 研究課題1の結果の発表・討議①
8. 研究課題1の結果の発表・討議②
9. 研究課題1の追加実験または論文へのまとめ①
10. 研究課題1の追加実験または論文へのまとめ②
11. 研究課題1の追加実験または論文へのまとめ③
12. 研究課題1の課題を踏まえた研究課題2への発展
13. 研究課題2の文献研究と討議①
14. 研究課題2の文献研究と討議②
15. 研究課題2の実験計画の発表

## 《成績評価の基準・方法》

講義内での発表40%、レポート（論文）50%、授業参画10%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

主要な先行研究の文献を精読し、自分の研究テーマに関する最新知見を常に収集するよう心がける。また、研究テーマに関するデータの収集・分析方法について学習する。

# 子ども心身医療演習

1 年次（後期）→2 年次（後期）→3 年次（前期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 村上 佳津美

## 《授業の概要》

小児科医と心理士による新患のインテーク面接に陪席し、具体的に現場からの学習を行う。子どもの心身医療の最前線を直接体感することで、更に生きた学習を習得してもらう。具体的な症例は、様々な問題を提供してくれるので、そこから小児科医と心理士がどのように関わり、問題解決に向かうのかを学ぶ。

## 《学生の到達目標》

ここでは心身医療の知識だけでなく離婚裁判、養育権の問題など、社会的問題にまで広がるので、あらゆる問題から学ぶ姿勢をもつようにする

## 《授業計画》

1. 社会問題として子どもを考える
2. 問題のある親子への基本的対応
3. 新患の陪席を行う
4. 新患の陪席を行う
5. 新患の陪席を行う
6. 3 回の陪席で見た症例（概ね 3～5 例）のその後を学習
7. 新患の陪席を行う
8. 新患の陪席を行う
9. 新患の陪席を行う
10. 新患の陪席を行う
11. 後半の 4 回の陪席で得られたれた症例（概ね 3～5 例）のその後を学習
12. 陪席症例から 2 例を選びレポートを作成する
13. レポート指導
14. レポート指導
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物で評価

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

大学や職場でのあらゆる経験、自分がかつて受診した医療現場との違いを改めて整理する。困った子どもに出会った時、陪席で得た知識や対応を、保育師・教師の立場でいかに関わるかを常に考え、心身医学の視点からみるように心がける。

# 発達心理学演習Ⅰ（発達支援）

1 年次（後期）→2 年次（前期）→3 年次（後期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 小椋 たみ子

## 《授業の概要》

2 年次では、各受講生の発達心理学演習Ⅰで設定した研究課題を継続・発展させる。研究Ⅰの方法の決定、データ収集、分析を行い、論文を執筆する。受講生の発表に基づき、文献を紹介し、コメントを行う。

## 《学生の到達目標》

研究Ⅰの課題の研究計画を決定し、データ収集、データ分析を行い、結果をまとめ、論文を執筆し、投稿する。

## 《授業計画》

1. 発達心理学に関する研究Ⅰの方法を討議する。
2. 発達心理学に関する研究Ⅰのデータを収集する。
3. 発達心理学に関する研究Ⅰのデータ分析の方法を討議する。
4. 発達心理学に関する研究Ⅰの結果の分析を行う。
5. 発達心理学に関する研究Ⅰの結果の分析を行う。
6. 発達心理学に関する研究Ⅰの結果の分析を行う。
7. 発達心理学に関する研究Ⅰの結果から考察を行う。
8. 発達心理学に関する研究Ⅰの結果から考察を行う。
9. 発達心理学に関する研究Ⅰを論文にまとめる。
10. 発達心理学に関する研究Ⅰを論文にまとめる。
11. 発達心理学に関する研究Ⅰを論文にまとめる。
12. 発達心理学に関する研究Ⅰの課題を明確にし、研究Ⅱへ発展させる。
13. 研究Ⅱの先行研究をまとめ、研究計画についての討議を行う。
14. 研究Ⅱの先行研究をまとめ、研究計画についての討議を行う。
15. 研究Ⅱの研究計画を決定する。

## 《成績評価の基準・方法》

講義内での発表 40%、レポート（論文） 50%、授業参画 10% で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「発達心理学研究、教育心理学研究、保育学研究、乳幼児教育学研究、チャイルド・サイエンス、特殊教育学研究、Child Development, Developmental Psychology, Developmental Science, Developmental Review などの国内外の雑誌論」・アメリカ心理学会「APA 論文作成マニュアル」医学書院・日本心理学会「日本心理学会 執筆・投稿の手びき」他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

発達心理学およびその関連分野の文献を精読し、自分の研究についての問題設定、研究計画を立案する。データの分析方法を学ぶ。論理的思考と論理的文章を書くことをこころがける。

# 発達心理学演習Ⅱ（発達臨床）

1年次（前期）→2年次（後期）→3年次（前期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 森口 佑介

## 《授業の概要》

2年次では、発達心理学演習Ⅱ（発達臨床）を継続・発展させ、博士学位請求論文のテーマの焦点化を図るため、討議を深めるとともに、テーマに妥当な実証的研究の具体的な方法についても探索・検討を重ねる。

## 《学生の到達目標》

1. 学位論文のテーマを確定し、そのテーマを実証的に展開するために妥当な研究方法（研究対象、研究材料、研究手続、資料の処理など）を決定する。2. 研究成果を学会、学会誌、紀要等で発表し、研究業績を蓄積する。

## 《授業計画》

1. 先行研究について検討（関連論文検索・検討も併行）
2. 先行研究について議論（関連論文検索・検討も併行）
3. 先行研究について論究（関連論文検索・検討も併行）
4. 先行研究について決定（関連論文検索・検討も併行）
5. 先行研究テーマによる研究計画の探索と検討
6. 先行研究テーマによる研究計画についての討議
7. 先行研究テーマによる研究計画の論究と決定
8. 予備研究の実施と結果の分析・検討（方法の妥当性）
9. 予備研究の実施と結果の分析・検討（分析手法の妥当性）
10. 予備研究による調整研究計画立案と検討及び決定
11. 本研究実施と経過報告・検討（関連論文検索・検討も併行）
12. 本研究実施と経過報告・討議（関連論文検索・検討も併行）
13. 関連研究の研究計画立案と検討・討議及び決定
14. 関連研究実施と結果の報告及び検討・討議
15. 関連研究の論文文化と検討・討議・論究及び演習全般の総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、授業参加20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前に資料等を熟読し、学習内容を把握しておく。事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 臨床心理学演習

1年次（後期）→2年次（後期）→3年次（後期）  
3単位（演習）  
資格 なし  
担当 渡辺 俊太郎

## 《授業の概要》

臨床心理学の理論に基づく援助の方法、さらに研究や研究成果の公開を行うために必要な知識および技能の修得を目指し、3年間の演習を行う。2年次では、臨床心理学に関する文献研究、調査研究、実験研究、事例研究論文の精読を行い、研究方法や論文作成方法の理解を深めるとともに、臨床心理学およびその関連分野における最新の研究知見を学ぶ。さらに、文献を精読した後の議論を通して自身の研究計画に関する検討を行い、博士学位請求論文の作成を進める。

## 《学生の到達目標》

臨床心理学における援助方法、研究方法および論文作成方法を修得する。また、臨床心理学および関連分野における最新の研究知見を理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（演習の目的と進め方）
2. 文献研究の論文検索とその成果の報告・討議を行う
3. 調査研究（質問紙研究）の論文検索とその成果の報告・討議を行う
4. 調査研究（面接・観察研究）の論文検索とその成果の報告・討議を行う
5. 心理指標を用いた実験研究の論文検索とその成果の報告・討議を行う
6. 生理指標を用いた実験研究の論文検索とその成果の報告・討議を行う
7. 事例研究の論文検索とその成果の報告・討議を行う
8. 学位論文の研究主題について再検討を行う
9. 研究主題と研究方法の関連について討議を行う
10. 投稿論文の作成に関する研修を行う
11. 研究主題に関連した先行研究の論文検索とその成果の報告・討議を行う①
12. 研究主題に関連した先行研究の論文検索とその成果の報告・討議を行う②
13. 研究主題に関連した先行研究の論文検索とその成果の報告・討議を行う③
14. 学位論文の研究構成について討議を行う
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、討論・演習20%を基本としながら、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・中沢潤他「心理学マニュアル1～4」北大路書房・海保博之他「シリーズ・心理学の技法」福村出版・氏原寛他「臨床心理学①～③」培風館・河合隼雄（河合俊雄編）「心理療法コレクションⅡ カウンセリングの実践」岩波現代文庫・河合隼雄（河合俊雄編）「心理療法コレクションⅣ 心理療法序説」岩波現代文庫・American Psychological Association「Publication Manual of the American Psychological Association」・日本心理学会「執筆・投稿の手びき」・日本心理学会「心理学研究」・日本健康心理学会「健康心理学研究」・日本心理臨床学会「心理臨床学研究」・日本カウンセリング学会「カウンセリング研究」・「関連分野の和洋学会誌、文献」

## 《事前・事後学習》

臨床心理学およびその関連分野の文献を精読し、そこで得られた研究方法や論文作成方法に関する知見をもとに、研究主題に適した博士学位請求論文の研究計画について検討する。

# 研究指導

1 年次→**2 年次**→3 年次  
0 単位（演習）  
資格 なし  
担当 瀧川 光治, 小椋 たみ子, 渡辺 俊太郎, ★大方 美香, ★埋橋 玲子, 清田 岳臣

## 《授業の概要》

博士後期課程における研究指導は、主たる指導教員が1人で、または副指導教員と合同で、院生の個性と問題意識をかしなから、個人面接を中心に研究の進行に関する助言を与え、博士学位請求論文の執筆・提出までできる細かく行う。すなわち、研究課題の設定の仕方、先行研究の収集・分析・解釈・報告の仕方、博士学位請求論文の書き方等を院生の問題関心・研究課題に応じて指導する。また、指導院生が複数いる場合、院生一人ひとりが関心のあるテーマから博士学位請求論文の構想並びに草稿について発表し、それを基に討論を行う。さらに、各種学会・研究会への参加、各種学会紀要への投稿を勧め、研究者としての自立への支援を行う。

## 《学生の到達目標》

1. 院生各自が自らの問題関心と適切な研究方法論に基づき、標準修業年限内で、博士学位請求論文を執筆・提出できるようにする。  
2. そのために、博士後期課程2年次12月に実施される「博士論文執筆計画発表会」において、合格することをめざす。

## 《授業計画》

1. 研究指導の進め方-院生各自の問題関心と研究計画の把握
2. 最新の先行研究のレビュー（院生1）
3. 最新の先行研究のレビュー（院生2）
4. 最新の先行研究のレビュー（院生3）
5. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生1）
6. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生2）
7. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生3）
8. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生1）
9. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生2）
10. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生3）
11. ゼミ内中間研究発表会への準備（院生1）
12. ゼミ内中間研究発表会への準備（院生2）
13. ゼミ内中間研究発表会への準備（院生3）
14. ゼミ内中間研究発表会
15. 中間総括
16. 各自の博士学位請求論文草稿の検討（院生1）
17. 各自の博士学位請求論文草稿の検討（院生2）
18. 各自の博士学位請求論文草稿の検討（院生3）
19. 各自の博士学位請求論文草稿の再検討（院生1）
20. 各自の博士学位請求論文草稿の再検討（院生2）
21. 各自の博士学位請求論文草稿の再検討（院生3）
22. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討（院生1）
23. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討（院生2）
24. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討（院生3）
25. 博士学位請求論文の執筆計画書の検討（院生1）
26. 博士学位請求論文の執筆計画書の検討（院生2）
27. 博士学位請求論文の執筆計画書の検討（院生3）
28. 博士学位請求論文の執筆計画発表会（12月中旬）
29. 博士学位請求論文の執筆計画書の提出（1月下旬）
30. 総括-博士学位請求論文提出許可の判定

## 《成績評価の基準・方法》

研究課題への取り組み状況 80% ゼミ内中間発表会 20%を踏まえ、総合的に判断する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

先行研究の検索・収集・整理や、各種学会の口頭発表・紀要執筆を進め、博士学位請求論文の構想について検討する。  
2年次において少なくとも査読付きの論文を1本、学会誌や大阪総合保育大学紀要に掲載されるように、研究指導を受けながら準備を行うこと。

大学院 博士後期課程 3年次



# 教育学演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→**3 年次（後期）**  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

3年次では、受講者の研究課題に応じて、国内外の最新の研究動向や成果、関連領域の文献についてより詳しいレビューを行い、それに基づき演習参加者全員で様々な角度から検討・討論する。それを通じて、演習参加者が各自の研究水準のより一層の高度化を図り、かつ関連領域についてのより広範な理解をもてるように配慮する。

## 《学生の到達目標》

国内外の最新の主要な先行研究の分析・検討を通じて、受講者独自の立場・見解を形成するとともに、研究方法を確立すること。博士学位申請論文が備えるべき基本的条件とは何かについて理解すること。

## 《授業計画》

1. この課題演習の進め方ーオリエンテーション
2. 日本の最新の先行研究について発表(院生1)と討論
3. 日本の最新の先行研究について発表(院生2)と討論
4. 日本の最新の先行研究について発表(院生3)と討論
5. 外国の最新の先行研究について発表(院生1)と討論
6. 外国の最新の先行研究について発表(院生2)と討論
7. 外国の最新の先行研究について発表(院生3)と討論
8. 自己の博士学位申請論文について発表(院生1)と討論
9. 自己の博士学位申請論文について発表(院生2)と討論
10. 自己の博士学位申請論文について発表(院生3)と討論
11. 自己の博士学位申請論文について再発表(院生1)と討論
12. 自己の博士学位申請論文について再発表(院生2)と討論
13. 自己の博士学位申請論文について再発表(院生3)と討論
14. 今後の研究課題の発表(院生1~3)
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

発表の評価80%と授業参画20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

演習で発表するために、自己の博士学位申請論文(章ないし節)を執筆するとともに、発表後の修正・加筆を励行すること。

# 教育方法学演習

1 年次（前期）→2 年次（後期）→**3 年次（前期）**  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★埋橋 玲子

## 《授業の概要》

環境の重要性は多くの人々が認識しているが、人的環境の重要性が強調されがちである。だが子どもは物と存分に関わることで周囲の世界を認識し、思考する経験を得て、自分を形作ってゆく。子どもを物と出会わせるのは人（保育者）の重要な役割である。どのようにしてどのような物と出会うか、その出会いにどのように関与するかについて、一定の枠組みをもつことが必要である。本講では、その枠組みとしてアメリカの保育の質測定尺度のECERS-3を提示し、邦訳の『新・保育環境評価スケール①3歳以上』をテキストとして用いる。

## 《学生の到達目標》

『新・保育環境評価スケール①3歳以上』を用いての評価観察が自分なりにできるようになる。幼稚園教育要領、保育所保育指針等を参照し保育実践と関係づけながら項目や指標の意味を理解する。

## 《授業計画》

1. 授業の趣旨・目標と演習の進行についての説明
2. 主要な保育の質測定スケールの概観
3. 保育の構造・過程・成果について
4. 『新・保育環境評価スケール①3歳以上』の構成について
5. 評価実習① \*時期については調整
6. 評価実習② \*時期については調整
7. 評価実習③ \*時期については調整
8. 評価実習④ \*時期については調整
9. 評価項目の検討、要領・指針との対照①
10. 評価項目の検討、要領・指針との対照②
11. 評価項目の検討、要領・指針との対照③
12. 評価項目の検討、要領・指針との対照④
13. 事例紹介①
14. 事例紹介②
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

授業への参加度（発言、発表や課題の達成度など）70%、まとめのレポート30%として評価する。

## 《授業で使用する教科書》

・テルマ・ハームス他「新・保育環境評価スケール①3歳以上」法律文化社・「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

スケールを読み込み、実際の保育場面に照らし合わせて理解する。指定された動画などを視聴し、自分の考えをまとめておく。

# 幼児教育学演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→3 年次（後期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 瀧川 光治

## 《授業の概要》

3 年次では、2 年次までの研究を踏まえて、本授業では、各自の研究テーマと研究の方法論を持って研究発表に取り組みつつ、幼児教育学のパラダイムを理解し、その基本的な知見を拡大し、保育現場における諸問題の理論的かつ実践的解決能力を持つことを目指す。このため、論文作成についての詳細な検討を行う。前半では、テーマ設定と方法の関係を中心とし、後半では、実証的・臨床的な幼児教育学の方法論を使って各自の論文作成に焦点を当てる。

## 《学生の到達目標》

1. 先行研究の検討及び臨床的・実証的な研究方法を踏まえた研究遂行能力・研究方法論を獲得する。
2. 幼児教育学の知見、研究の方法論の多様性を学び、論文作成に必要な力量を育てる。
3. 保育現場における諸問題の理論的かつ実践的解決能力を養う。

## 《授業計画》

1. テーマ先行研究構成案（基本的枠組）報告と検討・討議
2. テーマ先行研究に関連する先行論文の報告と討議・論究
3. テーマ先行研究の検証パラダイムの報告と討議
4. テーマ先行研究の検証パラダイムの報告と論究
5. 本研究による資料分析の報告と討議・論究
6. 本研究による結果の内容についての報告と検討・討議
7. 本研究による結果の内容についての報告と論究
8. 本研究による結果の考察・結論についての検討・討議
9. 本研究による結果の考察・結論についての論究
10. 関連研究の研究計画の立案と検討・討議及び決定
11. 関連研究の実施と結果の報告及び討議・論究
12. 学位論文の草稿作成と報告及び検討
13. 学位論文の草稿の報告と討議及び調整
14. 学位論文の草稿に関する論究と提出論文作成への展開
15. 学位論文の完成と提出及び演習の省察と総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート課題50%、発表と討議50%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「日本保育学会論文集」・「日本乳幼児教育学会大会発表論文集」・日本乳幼児教育学会「乳幼児教育学研究」・日本保育学会「保育学研究」・NAEYC「Young Children」

## 《事前・事後学習》

検討課題を授業の進行に合わせて出すのでプレゼンテーションに手がかりとし準備すること

# 保育実践研究演習

1 年次（後期）→2 年次（後期）→3 年次（前期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 ★大方 美香

## 《授業の概要》

3 年次では、受講生の研究課題に応じて、国内外の最新の研究動向や成果、関連領域の文献について、詳しいレビューを行う。参加者全員で討議し、各自の研究水準をより高めるように配慮する。

## 《学生の到達目標》

博士（教育学）の学位に値する論文が備えていなければならない諸条件を理解する。2. 研究の展開手法、成果のまとめ方および原稿（口頭、投稿）作成方法を習得する。3. 自分の研究成果を広く社会に還元できるよう努力する。

## 《授業計画》

1. この課題演習の進め方ーオリエンテーション
2. 日本の最新の先行研究について発表（院生1）と討論
3. 日本の最新の先行研究について発表（院生2）と討論
4. 日本の最新の先行研究について発表（院生3）と討論
5. 日本の最新の先行研究について再発表（院生1）と討論
6. 日本の最新の先行研究について再発表（院生2）と討論
7. 日本の最新の先行研究について再発表（院生3）と討論
8. 外国の最新の先行研究について発表（院生1）と討論
9. 外国の最新の先行研究について発表（院生2）と討論
10. 外国の最新の先行研究について発表（院生3）と討論
11. 外国の最新の先行研究について再発表（院生1）と討論
12. 外国の最新の先行研究について再発表（院生1）と討論
13. 外国の最新の先行研究について再発表（院生3）と討論
14. 博士後期課題における研究の進捗状況と今後の課題①
15. 博士後期課題における研究の進捗状況と今後の課題②

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、授業参画発表20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習：先行研究及び各自の研究論文の要旨準備（指導教官と相談の上）を行う。事後学習：発表内容について議論したことを整理し、各自の研究に生かす。

# 保育内容研究演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→**3 年次（前期）**  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 瀧川 光治

## 《授業の概要》

3 年次では、受講生の研究課題に応じて、国内外の最新の研究動向や成果、関連領域の文献について、詳しいレビューを行う。参加者全員で討議し、各自の研究水準をより高めるように配慮する。

## 《学生の到達目標》

1. 博士（教育学）の学位に値する論文が備えていなければならない諸条件を理解する。
2. 研究の展開手法、成果のまとめ方および原稿（口頭、投稿）作成方法を習得する。
3. 自分の研究成果を広く社会に還元できるように努力する。

## 《授業計画》

1. この課題演習の進め方—オリエンテーション
2. 日本の最新の先行研究について発表（院生 1）と討議
3. 日本の最新の先行研究について発表（院生 2）と討議
4. 日本の最新の先行研究について発表（院生 3）と討議
5. 日本の最新の先行研究について再発表（院生 1）と討議
6. 日本の最新の先行研究について再発表（院生 2）と討議
7. 日本の最新の先行研究について再発表（院生 3）と討議
8. 外国の最新の先行研究について発表（院生 1）と討議
9. 外国の最新の先行研究について発表（院生 2）と討議
10. 外国の最新の先行研究について発表（院生 3）と討議
11. 外国の最新の先行研究について再発表（院生 1）と討議
12. 外国の最新の先行研究について再発表（院生 2）と討議
13. 外国の最新の先行研究について再発表（院生 3）と討議
14. 博士後期課題における研究の進捗状況と今後の課題
15. まとめ

## 《成績評価の基準・方法》

レポート課題 50%、発表と討議 50% で総合的に評価する

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

事前学習・事後学習として、自分の研究テーマに関する関連文献を読み、レビュー論文を書くための字ひを広げていく。授業内で、適宜、その旨の指示を行う。

# 小児医学演習

1 年次（前期）→2 年次（前期）→**3 年次（後期）**  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 清田 岳臣

## 《授業の概要》

小児の発育発達に関する仕組みを、主に生理学的、バイオメカニクスの観点から理解することを旨とする。3 年次では、各受講生の小児医学演習 II で設定した研究課題を継続・発展させる。研究方法の決定、データ収集、分析を行い、論文を執筆する。博士論文執筆にむけて討議を行う。

## 《学生の到達目標》

1. 研究課題 II をまとめ、論文を執筆し、投稿する。
2. 博士学位請求論文を執筆する。
3. 今後の研究の展望を明確にする。

## 《授業計画》

1. 研究課題 II の実験計画の討議、データ収集方法の確認
2. 研究課題 II のデータ収集①
3. 研究課題 II のデータ収集②
4. 研究課題 II のデータ分析①
5. 研究課題 II のデータ分析②
6. 研究課題 II の結果の発表・討議①
7. 研究課題 II の結果の発表・討議②
8. 研究課題 II の論文へのまとめ①
9. 研究課題 II の論文へのまとめ②
10. 研究課題 II の論文へのまとめ③
11. 博士論文の各章の執筆と討議①
12. 博士論文の各章の執筆と討議②
13. 博士論文の各章の執筆と討議③
14. 博士学位請求論文の完成
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

講義内での発表 30%、レポート（論文） 60%、授業参画 10% で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

主要な先行研究の文献を精読し、自分の研究テーマに関する最新知見を常に収集するよう心がける。授業内の発表内容を学位請求論文に適宜反映させること。

# 子ども心身医療演習

1 年次（後期）→2 年次（後期）→3 年次（前期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 村上 佳津美

## 《授業の概要》

こども心身医療研究所に来ている「不登校児」「発達障児」の集団治療に参加し、これまで実習してきたカンファレンスと臨床で培った知識を活用し、彼らの生活に寄り添い、同時に彼らと個人的に関わっている担当小児科医や心理士の見解を参考にしながら、集団内での彼らの理解を深めるようにする。

## 《学生の到達目標》

問題を抱えた子どもへの幅広い知識を得て、総合的に現代を生きる子どもの集団での言動と個人的な問題を相互的に理解できるようにする。

## 《授業計画》

1. 不登校の現状を知る
2. 集団力動への理解を深める
3. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
4. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
5. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
6. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
7. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
8. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
9. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
10. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
11. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
12. 決まった日（曜日）に集団治療（午前9時半～3時）に参加し、子どもと生活をしていき、
13. 社会が作る「対人関係」の拙さを、種々の面から理解したことを論文作成にしてい
14. 論文完成
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポートや提出物で評価

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

幼保育園・学校の実習で学んだことを思い返し実習に臨む。  
健全な幼保育園・学校集団と、何らかの問題をもった集団の違いをしっかりと見つけ、現代の子どもの抱える問題に積極的に関わる姿勢をもつようにする。

# 発達心理学演習Ⅰ（発達支援）

1 年次（後期）→2 年次（前期）→3 年次（後期）  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 小椋 たみ子

## 《授業の概要》

発達心理学演習Ⅱで各受講生が設定した研究課題を継続・発展させる。研究Ⅱのデータ収集、分析を行い、論文を執筆する。

## 《学生の到達目標》

1. 研究Ⅱの課題の研究計画を決定し、データ収集、データ分析を行い、結果をまとめ、論文を執筆し、投稿する。2. 今後の自分の研究の展望を明確にする。

## 《授業計画》

1. 研究Ⅱの課題の研究計画を決定し、データ収集を行う。
2. 研究Ⅱの課題のデータ収集を行う。
3. 研究Ⅱの課題のデータ収集を行う。
4. 研究Ⅱの課題のデータ分析を行う。
5. 研究Ⅱの課題のデータ分析を行う。
6. 研究Ⅱの課題のデータ分析を行う。
7. 研究Ⅱの課題のデータ分析を行う。
8. 研究Ⅱの課題の結果をまとめる
9. 研究Ⅱの課題の結果をまとめる
10. 研究Ⅱの課題の結果をまとめる
11. 研究Ⅱの結果から考察を行う。
12. 研究Ⅱの結果から考察を行う。
13. 研究Ⅱの論文を執筆する
14. 研究Ⅱの論文の執筆を行う
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

講義内での発表30%、レポート（論文）60%、授業参画10%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・「発達心理学研究、教育心理学研究、保育学研究、乳幼児教育学研究、チャイルド・サイエンス、特殊教育研究、Child Development, Developmental Psychology, Developmental Science, Developmental Reviewなどの国内外の雑誌論文」・日本心理学会「日本心理学会「執筆・投稿の手びき」」・アメリカ心理学会「APA論文作成マニュアル」医学書院  
他、適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

自分の研究テーマの先行文献を精読し、研究計画をたて、データ収集し、データ分析方法を学び、論文執筆を行う。また、研究成果を発信し、今後の研究、実践に活かす。

# 発達心理学演習Ⅱ（発達臨床）

1 年次（前期）→2 年次（後期）→**3 年次（前期）**  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 森口 佑介

## 《授業の概要》

3 年次では、発達心理学演習Ⅱ（発達臨床）に続き、博士学位請求論文のための実証的研究について経過報告を行い、得られた研究資料の分析、結果の整理・内容及び考察について、論文の草稿をもとに討議・論究を重ね、論文完成に向けての指導を行う。あわせて関連研究の報告を求め検討・討議・論究を行う。

## 《学生の到達目標》

1. 学位申請論文のために実施した実証的研究による論文作成上の諸側面についての研究討議・論究により、学問的業績にふさわしい論文にまとめ、論文を完成する。2. 1. の討議・論究の過程で、研究者・教育者としての資質を向上させる。3. 研究成果を学会、学会誌、紀要で発表し、研究業績を蓄積する。

## 《授業計画》

1. テーマ先行研究構成案（基本的枠組）報告と検討・討議
2. テーマ先行研究に関連する先行論文の報告と討議・論究
3. テーマ先行研究の検証パラダイムの報告と討議
4. テーマ先行研究の検証パラダイムの報告と論究
5. 本研究による資料分析の報告と討議・論究
6. 本研究による結果の内容についての報告と検討・討議
7. 本研究による結果の内容についての報告と論究
8. 本研究による結果の考察・結論についての検討・討議
9. 本研究による結果の考察・結論についての論究
10. 関連研究の研究計画の立案と検討・討議及び決定
11. 関連研究の実施と結果の報告及び討議・論究
12. 学位論文の草稿作成と報告及び検討
13. 学位論文の草稿の報告と討議及び調整
14. 学位論文の草稿に関する論究と提出論文作成への展開
15. 学位論文の完成と提出及び演習の省察と総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、授業参加20%で総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

指定なし

## 《参考書》

指定なし

## 《事前・事後学習》

事前学習としては、毎回、授業前に資料等を熟読し、学習内容を把握しておく。事後学習としては、学んだことから視野を広げたり、深めたりするために振り返り内容について指示をする。

# 臨床心理学演習

1 年次（後期）→2 年次（後期）→**3 年次（後期）**  
3 単位（演習）  
資格 なし  
担当 渡辺 俊太郎

## 《授業の概要》

臨床心理学の理論に基づく援助の方法、さらに研究や研究成果の公開を行うために必要な知識および技能の修得を目指し、3 年間の演習を行う。3 年次では、博士学位請求論文のための実証的・臨床的研究について経過報告を行い、得られた研究資料の分析、結果の整理・内容及び考察について、論文の草稿をもとに討議・論究を重ね、論文完成に向けての指導を行う。また、研究成果に関する学会、学会誌、紀要での発表について検討を行う。

## 《学生の到達目標》

臨床心理学における援助方法、研究方法および論文作成方法を修得する。また、臨床心理学および関連分野における最新の研究知見を理解する。

## 《授業計画》

1. オリエンテーション（演習の目的と進め方）
2. 研究主題に関連した先行研究の概観とその結果についての討議を行う
3. 各研究の学会、学会誌、紀要での発表計画に関する検討を行う
4. 展望論文作成の報告とその内容に関する討議を行う
5. 研究主題に関連した研究の計画立案および検討を行う
6. 研究主題に関連した研究の実施準備と方法論の論究を行う
7. 研究主題に関連した研究の実施報告と結果の検討を行う
8. 研究主題に関連した研究の考察・結論についての検討を行う
9. 学会での発表内容に関する討議を行う
10. 学位論文の草稿作成と報告および検討を行う
11. 学位論文の草稿の報告と討議および調整を行う
12. 学位論文の草稿に関する論究を行う
13. 学位論文の完成と今後の研究の展開に関する討議を行う
14. 投稿論文の作成と報告および検討を行う
15. 総括

## 《成績評価の基準・方法》

レポート試験80%、討論・演習20%を基本としながら、総合的に評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

・中沢潤他「心理学マニュアル1~4」北大路書房・海保博之他「シリーズ・心理学の技法」福村出版・氏原寛他「臨床心理学①~③」培風館・河合隼雄（河合俊雄編）「心理療法コレクションⅡ カウンセリングの実践」岩波現代文庫・河合隼雄（河合俊雄編）「心理療法コレクションⅣ 心理療法序説」岩波現代文庫・American Psychological Association「Publication Manual of the American Psychological Association」・日本心理学会「執筆・投稿の手びき」・日本心理学会「心理学研究」・日本健康心理学会「健康心理学研究」・日本心理臨床学会「心理臨床学研究」・日本カウンセリング学会「カウンセリング研究」・「関連分野の和洋学会誌、文献」

## 《事前・事後学習》

臨床心理学およびその関連分野の文献の講読や臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助の実践を通して得た知見をもとに、研究内容や研究結果に関する検討を重ね、博士学位請求論文の執筆に活かす。

# 研究指導

1年次→2年次→**3年次**

0単位（演習）

資格 なし

担当 瀧川 光治, 小椋 たみ子, 渡辺 俊太郎, ★大方 美香, ★埋橋 玲子, 清田 岳臣

## 《授業の概要》

博士後期課程における研究指導は、主たる指導教員が1人で、または副指導教員と合同で、院生の個性と問題意識を失わずに、個人面接を中心に研究の進行に関する助言を与え、博士学位請求論文の執筆・提出まできめ細かく行う。すなわち、研究課題の設定の仕方、先行研究の収集・分析・解釈・報告の仕方、博士学位請求論文の書き方等を院生の問題関心・研究課題に応じて指導する。また、指導院生が複数いる場合、院生一人ひとりが関心のあるテーマから博士学位請求論文の構想並びに草稿について発表し、それを基に討論を行う。さらに、各種学会・研究会への参加、各種学会紀要への投稿を勧め、研究者としての自立への支援を行う。

## 《学生の到達目標》

1. 院生各自が自らの問題関心と適切な研究方法論に基づき、標準修業年限内で、博士学位請求論文を執筆・提出できるようにする。
2. 2年次12月の「博士論文執筆計画発表会」に合格していない院生は、引き続きそれに合格できるように、研究を進める。
3. 3年次9月に実施される「博士論文中間発表会」に合格し、博士学位請求論文が12月に提出できるように、研究及び執筆を進める。

## 《授業計画》

1. 研究指導の進め方-院生各自の問題関心と研究計画の把握
2. 院生各自の関心のあるテーマについての研究状況の紹介
3. 最新の先行研究の集中的レビュー
4. 博士学位請求論文の書き方
5. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生1）
6. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生2）
7. 各自の博士学位請求論文の構想発表（院生3）
8. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生1）
9. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生2）
10. 各自の博士学位請求論文の構想の再発表（院生3）
11. 各自の博士学位請求論文草稿の発表（院生1）
12. 各自の博士学位請求論文草稿の発表（院生2）
13. 各自の博士学位請求論文草稿の発表（院生3）
14. 博士学位請求論文中間発表会（9月中旬）
15. 中間総括-博士学位請求論文提出の許可判定
16. 各自の博士学位請求論文草稿の再検討（院生1）
17. 各自の博士学位請求論文草稿の再検討（院生2）
18. 各自の博士学位請求論文草稿の再検討（院生3）
19. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅰ（院生1）
20. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅰ（院生2）
21. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅰ（院生3）
22. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅱ（院生1）
23. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅱ（院生2）
24. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅱ（院生3）
25. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅲ（院生1）
26. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅲ（院生2）
27. 各自の博士学位請求論文草稿の最終検討Ⅲ（院生3）
28. 博士学位請求論文の提出（12月中旬）
29. 公開審査会（1月下旬）
30. 総括-博士学位請求論文についての修正

## 《成績評価の基準・方法》

博士学位請求論文および公開審査会（口頭試問）の成果をもって評価する。

## 《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

## 《事前・事後学習》

博士学位請求論文の草稿作成を進め、博士学位請求論文中間発表会や公開審査会の準備を行う。

# 乳児保育学科

## 乳児保育士関連科目 概要

授業科目の名称	講義等の内容
赤ちゃんの人体としくみ	<p>乳児は身体と運動の力が著しい時期で反射的活動から随意的な活動を通して人間の行動様式などを獲得していく時期である。1) 匍匐・歩行などの空間移動や姿勢保持などをとおして大筋肉はどのような育ちが生じるのか、2) ものを掴む・つまむ・引っ張るなどはどのような小筋肉の育ちが生じているのか、3) その中でどのように認知能力・操作能力を發展させ、4) さまざまな生活する力・遊びの力が育っていくのか、など人間の行動様式を獲得する筋道を学ぶ。この知見は保育所保育指針のいう「自ら健康で安全な生活をつくり出す力」の基礎的な学びとなる。</p>
赤ちゃんの神経学	<p>乳児の健康・医学・生理学のアプローチから、脳科学的視点をもち乳児の神経学を学ぶ。子どもは生まれて一年と少しの月数で歩き、意味と結び付けた言葉を話す。ここでは、1) 神経学から赤ちゃんを理解し、2) 神経系の発生・發展について理解する。特に3) 脳科学からみた神経の成長への基本的な知見を学び、4) どのような活動が子どもにとって適切であるかの知見を知る。さらに、5) その知見は、赤ちゃんに接する人の関わり方的確性によって発達異なることを学ぶ。大人の声かけや身体への接触を行うという外部刺激が発達の原動力になることは、乳児保育の基礎的な学びとなる。</p>
赤ちゃんの看護	<p>乳児の健康・医学・生理学のアプローチから、乳児の保健を学ぶ。看護やお世話の視点を持ち、乳児の健康状態や発育、発達を把握することは、乳児の心身の状態に適切な関わりや配慮を行うには必要な学びである。集団保育における乳児保育を行うにあたり、乳児の疾病や予防、検診などについて基礎的な事項を学ぶ。またうつぶせ寝などの事故や安全配慮、不適切な養育への気づきについても学ぶ。乳幼児突然死症候群、感染症、食事や環境への衛生管理など乳児保育の命題につなげる。</p>
赤ちゃんの災害救急	<p>乳児の健康・医学・生理学のアプローチから、安全への対応として、家庭や地域との連携・支援の視点より、災害対策について学ぶ。地震時における乳児保育のあり方や連絡の仕方、日常生活における保育者の役割などを学びながら、乳児の空間概念や空間環境を分析し、人体の仕組みから乳児のもの・こと・ひとの関係について災害対策の視点から日常的に何をしていくのか学ぶ。乳児の人体と乳母車や玩具、地域空間など環境との関係も考える。乳児はどのように身体を動かしたり、移動したりするのか。調査分析しながら学び、乳児保育の命題につなげる。</p>
赤ちゃんの生理学	<p>ヒトのはじまりである赤ちゃんの生体の構造と生体の働きの生理学の基礎を学ぶ。乳児の生体の構造は乳児の活動の土台となっており、乳児期の成長理解を助け乳児の生活活動の理解につながる。ヒトのはじまりである赤ちゃんの発達を生理学的に学び、乳児を解明するにはどうすればよいのか、乳児を理解する視点を学ぶ。乳児の発達生理学の潮流や動向は非認知的能力や社会情動的スキルが見直されている。乳児が育つ乳児保育の実践と結び付けながら学ぶ。</p>
乳児の身体と生理学	<p>生理学のアプローチから「乳児の運動・身体学」としてのしくみや乳児の身体生理学を学ぶ。特に、赤ちゃん（子ども）の身体行動学は精神的な成長を含めて身体行動の成長を理解する土台となっている。身体行動学は、「ヒト」としての行動のシステム・生物学、人間の体の仕組みを踏まえ、年齢固有の身体変化（年齢ごとの赤ちゃんの行動学）や身体機能の理解と結びつき身体の仕組み及び「ヒト」として育つ生理学的理解とその運動を学び（身体的生理学）乳児保育につなげる。</p>
乳児の情動と生理学	<p>発達生理学のアプローチから、乳児の情動を生理学視点から学ぶ。情動の豊かな交流によって乳児の関係行動力が發展し、認知・表現・行動の發展の土台となる。ヒトのはじまりである乳児の大人との情動交流が必要である。ヒトのはじまりである乳児理解は、社会に適應する行動にある認知、運動能力や自己の発達と共に快の情動に基礎をおき、また、大人とのやり取りから学び、乳児保育の実践や子育てや育児支援につなげながら学ぶ。</p>
乳児の大脳生理学	<p>生理学のアプローチから、子ども理解成長の基礎として、乳児の大脳生理学・神経生理学としてのしくみを学ぶ。特に、赤ちゃん学からみえてきた乳児の姿は、自ら行動し、考え、成長する力をすでに備え、持っているということである。新生児は成人と同じ1, 000億個の脳細胞を持っているが、細胞どうしがネットワーク化できていない。このネットワーク化は、外部刺激から三歳頃までに確立する。良い刺激の中で育てば、脳細胞は活性化しネットワークが複雑かつ広範囲に結ばれることを学び、乳児保育の命題につなげる。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
赤ちゃんの発達心理学	乳児の発達心理学のアプローチから、赤ちゃんの身体や心の働き・行動の仕組みについて基礎的事項を学ぶ。乳児は部分ではなく、全体として一体的に育つことを理解する。また、身体を中心から末端に向けて発達していくことも学ぶ。これを通じて、乳児の身体、乳児の情動、乳児の脳、さらには言葉や表現の発達過程についても基本を理解する。
赤ちゃん学基礎理論	赤ちゃん学は異分野研究を連携、融合させ、ヒトのはじまりである赤ちゃんの発達を科学的に解明しようとする新しい学問分野である。研究成果を赤ちゃんの育つ現場や、「人」の成り立ちを知ろうとする人々に還元することも活動の目的としている。ヒトのはじまりである赤ちゃんの運動・認知・感覚・言語および社会性の発達とその障害のメカニズムの解明からヒトの心の発達までを対象とする学問であり、発達という連続する変化を総合的に、そして多面的な視点からとらえるため、多様な研究分野との融合を学びつつ赤ちゃんを理解することを目標とする。
前期乳児の発達心理学	乳児の発達心理学のアプローチから、子ども理解の基礎として、「子どもの大脳生理学・神経生理学」としてのしくみを学ぶ。赤ちゃん学Ⅰ期は、保育所保育指針の「保育の内容」に示される「乳児保育（1歳未満）」、その育ちや保育者の働きかけ、特に情動交流や愛着、非認知的能力の保育所保育における必要性とその限界について学ぶ。特に、赤ちゃん（子ども）の発達は身体行動の成長を土台とし、乳児保育の基礎の一つとして理解することを目標とし、身体の仕組み及び「ヒト」としての生物学的理解とその関係性を学び（情動的生理学）乳児保育につなげる。
後期乳児の発達心理学	乳児の発達心理学のアプローチから、子ども理解の基礎として、「子どもの大脳生理学・神経生理学」としてのしくみを学ぶ。赤ちゃん学Ⅱ期（1歳以上3歳未満）は、保育所保育指針の「保育の内容」に示される「1歳以上3歳未満」、その育ちや保育者の働きかけ、特に身体性の育ちと言語の働きなど、ヒトとして固有の発達過程がある。赤ちゃん（子ども）の発達は身体行動の成長を土台とし、乳児保育の基礎の一つとして理解することを目標とし、身体の仕組み及び「ヒト」としての生物学的理解とその運動を学び（身体的生理学）乳児保育につなげる。
日本の乳児保育	乳児保育学のアプローチから、日本の乳児保育の変遷や考え方について学ぶ。託児や子守的な日本の乳児保育、福祉としての乳児保育、愛着の視点から語られた乳児保育、基本的な生活習慣やしつけ論から考えた乳児保育、健康・安全性といった医療的側面から考えた乳児保育、遊び中心の乳児保育など様々な歴史をたどっている。軌跡を振り返りながら、著名な人物について考察しながら検討する。
世界の乳児保育	世界の乳児保育のアプローチから、世界の優れた幼児教育と日本の幼児教育を紹介しながら学ぶ。共通点や相違点を考察しながら、日本の乳児保育の課題や展望、環境構成や保育者の役割などについて学ぶことを目標にする。自然を取り入れた遊びを重視することや乳児保育の独自性を尊重することなど、日本の乳児保育の長所や日本の文化に愛着や誇りをもつことの重要性、いわゆる側隠の情を尊ぶ伝統的な保育を見直すことも知る。世界の乳児保育との比較を通じた日本の乳児保育への示唆も学ぶ。
乳児保育研究法Ⅰ	乳児研究法のアプローチから、保育現場で必要な研究法を学ぶ。このため、インターンシップの機会などを利用して、乳児の研究手法について学ぶ。乳児研究法として、ドキュメンテーション、エピソード記録、フォトカンファレンス、質的環境評価スケールなど多岐にわたる方法があるが、それぞれの特徴や手法について基本を学ぶことを目標とする。それを通して、乳児保育の実践や乳児の姿を観察し、記録したことをどのように考察し、理解するかの手がかりとして学ぶことを目標とする。乳児の観察手法として、どのような方法があるのか、何に視点を置いて観察すればよいのかなど研究方法について乳児保育の側面から学ぶ。
乳児保育研究法Ⅱ	乳児研究において統計法のアプローチから、乳児保育のエビデンスを語るには、調査研究における統計法の学びは不可欠である。乳児保育の実践や乳児の姿を観察し、記録したことをどのように考察し、理解するかの手がかりとして学ぶことを目標とする。統計とは何か、量的調査法を主に学ぶ。また乳児の観察手法として、どのような方法があるのか、何に視点を置いて観察すればよいのかなど研究方法についても心理的側面から学ぶ。特に、情報機器の操作の仕方や視聴覚教材の使い方も含めて学ぶ。

授業科目の名称	講義等の内容
病児保育	健康・医学・生理学のアプローチから、乳児の病児保育を学ぶ。看護やお世話の視点を持ち、乳児の病児保育について学ぶ。医療、看護、保育が融合した病児保育の需要は高まっている。小児科病院内のタイプや保育所内のタイプなど多様なタイプを学ぶ。乳幼児突然死症候群、感染症、食事や環境への衛生管理など乳児の病児保育における対応や生活、遊びのあり方などについても学ぶ。病児保育の意義や課題についても考察する。
赤ちゃんの生活と保育	乳児の生活が子どもの成長の土台となることを学び、保育所保育指針第2章保育の内容では、1歳未満児を乳児保育（前期乳児とする）、1歳以上3歳未満（後期乳児とする）に区分していることを踏まえつつ、家庭養育における乳児の生活と保育所等集団保育における乳児の生活の連続性と相違について考え、学ぶ。
赤ちゃんの生活とデザイン	乳児の生活と保育のアプローチから、乳児の生活について学びながら、乳児のもの・こと・ひとの関係について環境や造形デザインの視点から考える。乳児の人体と乳母車や玩具、地域空間など環境との関係も考える。乳児は空間環境によってどのように身体を動かしたり、移動したりするのか、乳児の生活に欠かせない環境に子ども自身がどのように関与し、大人との共同活動に参加していくのかを学ぶ。
前期乳児の生活と保育	乳児理解のアプローチから、子ども理解の基礎として、前期乳児の発達過程を軸としながら、「身近なものに関わり感性が育つ」にはどのような玩具や絵本が適切かについて学ぶ。前期乳児とは、保育所保育指針の「保育の内容」に示される「乳児保育（1歳未満）」の時期である。前期乳児が「見る、触れる、探索する」など、身近な環境に自ら関わり、身体の諸感覚による認識が豊かになるには保育者の働きかけが重要であることを学ぶ。前期乳児の発達は、身体行動の成長を土台とする。身体の仕組み及び「ヒト」としての生物学的理解とその関係性を学び（情動的生理学）乳児保育につなげる。
後期乳児の生活と保育	乳児理解のアプローチから、子ども理解の基礎として、後期乳児のこの時期の発達過程を軸としながら、「様々な物にかかわるなかで、発見を楽しんだり、考えたりしようとする」にはどのような玩具や絵本が適切かについて学ぶ。後期乳児とは、保育所保育指針の「保育の内容」に示される「1歳以上3歳未満」の時期である。後期乳児が「玩具・絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ生活とは何か」、「形・色・大きさ・量など」ものの性質や仕組みに気付いたり、区別したり、場所など環境を捉える感覚が豊かになるには保育者の働きかけが重要であることを学ぶ。
乳児保育の計画	乳児保育の実践論として、乳児保育の目的・内容・方法の基礎を実践的に学ぶことを目標とする。すなわち、インターンシップなどの現場から生じた具体的問題を保育現場ではどのように解決しているのかを学び、さまざまなシミュレーション（計画）をつくりその適切性を検証する。乳児保育における生活適応活動と実践的遊び活動を軸とし、保育所保育指針の「保育の内容」での区分にもとづき、その育ちや保育者の働きかけ、特に情動交流や愛着、非認知的能力の保育所保育における必要性とその限界について学ぶ。また、乳児保育内容編成論（生活・遊びの援助）やおもちゃ（もの）の環境構成及び、全体的な計画について学ぶ。
乳児の環境とデザイン	乳児保育の実践論として、乳児保育の環境の目的について基礎を学び理解することを目標とする。乳児の保育実践のアプローチから、乳児の生活について学びながら、乳児のもの・こと・ひとの関係について環境や造形デザインの視点から考える。乳児保育の環境構成、おもちゃや絵本の環境デザインなどについても学ぶ。特に子どもが作る、子どもと共に作る環境構成を調査分析しながら学ぶ。
前期乳児の保育実践	乳児保育の前期（乳児期）について、乳児保育の目的・内容・方法について基礎を学び理解することを目標とする。乳児保育における生活適応活動と遊び活動を軸として学ぶ。前期乳児とは、保育所保育指針の「保育の内容」に示される「乳児保育（1歳未満）」の時期である。前期の育ちや保育者の働きかけ、環境構成等特にについて演習をしながら学ぶ。特におもちゃなど「もの」の環境について、気づいたりしながら探求するには保育者の働きかけが重要であることを学ぶ。具体的な記録を付けながら、保育所における前期乳児保育の計画及び評価について基礎的事項を学ぶ。
後期乳児の保育実践	乳児保育の後期（1歳以上3歳未満）について、1歳児、2歳児の保育の目的・内容・方法について基礎を学び理解することを目標とする。乳児保育における生活適応活動と遊び活動を軸として学ぶ。後期乳児とは、保育所保育指針の「保育の内容」に示される「1歳以上3歳未満」の時期である。後期の育ちや保育者の働きかけ、環境構成等について演習をしながら実践論を学ぶ。特におもちゃなど「もの」の環境について判断し、思考しながら探求するには保育者の働きかけが重要であることを学ぶ。具体的な記録を付けながら、保育所における1歳児、2歳児の保育の計画及び評価について基礎的事項を理解する。